

府中市福祉計画
(地域福祉・福祉のまちづくり推進)
調査報告書

令和2年●月

府 中 市

目次

第1部 調査の概要	1
第1章 調査の概要.....	3
1-1 調査概要.....	3
1-2 分析にあたって	5
第2部 調査結果の概要.....	7
第1章 一般市民調査.....	9
1-1 調査結果の概要	9
(1) 基本属性について	9
(2) 近所づきあいについて	19
(3) 支え合いに関する意識について	26
(4) 地域活動・ボランティア活動について.....	30
(5) 日ごろの悩みと相談について	40
(6) 福祉のまちづくりについて	58
(7) 災害時の支え合いについて	67
(8) 福祉に対する考え方について	74
(9) 府中市の福祉施策について	85
1-2 調査結果からみた課題.....	98
(1) 地域における支え合いの促進	98
(2) 地域活動やボランティア活動への参加促進	98
(3) 利用しやすい相談体制の整備	99
(4) 福祉に関する情報提供の充実	99
(5) 地域の防災体制の強化.....	100
(6) 福祉のまちづくりの推進.....	100
第2章 他分野調査との共通設問の結果概要	102
(1) 近所づきあいの現状について	102
(2) 近隣で手助けできること、地域で頼まれたらできることについて	103
(3) 近隣で手助けしてほしいこと、地域で頼みたいことについて.....	104
(4) 悩みや困りごとを相談できる人の有無について.....	106
(5) 認知症に対するイメージについて.....	106
資料編	107

第1部 調査の概要

第1章 調査の概要

1-1 調査概要

(1) 調査目的

地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画の策定にあたって、市民の近所づきあいや地域での生活・活動状況、日ごろの悩みと相談状況を把握するとともに、市の地域福祉及び福祉のまちづくりに関する意見、要望等を把握する。

(2) 調査対象

令和元年10月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民3,000人

(3) 調査方法

郵送による配布及び回収（督促礼状1回送付）

(4) 調査時期

令和元年10月25日から11月11日まで

(5) 回収率

配布数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
3,000	1,383 (46.1%)	1,380 (46.0%)

(6) 調査項目

調査項目	問番号	設問	高齢・障害者福祉分野との共通設問
A 基本属性	F 1	性別	
	F 2	年齢	
	F 3	職業	
	F 3-1	従業地	
	F 4	世帯人数	
	F 4-1	世帯構成	
	F 5	世帯の特徴	
	F 6	居住地	
	F 7	居住歴	
	F 8	住居形態	
	F 9	自治会・町会等の有無	
	F 9-1	自治会・町会等への加入状況	
	F 9-2	自治会・町会等に加入していない理由	
B 近所づきあい	問1	近所づきあいの必要性	
	問2	近所づきあいの現状	○
	問2-1	近所づきあいのない理由	
	問3	今後の近所づきあいについて	
C 支え合いに関する意識	問4	近隣で手助けできること・していること(したこと)・してほしいこと	○
D 地域活動・ボランティア活動	問5	地域活動・ボランティア活動の取組状況(活動内容)	
	問5-1	地域活動・ボランティア活動の取組状況(活動頻度)	
	問5-2	地域活動・ボランティア活動をしていない理由	
	問6	ボランティア活動等に参加しやすい条件	
	問7	身近な活動拠点の利用状況	
	問8	地域における支え合いをより充実するために必要なこと	
E 日ごろの悩みと相談	問9	日常生活における悩みや不安の内容	
	問10	相談できる人の有無	○
	問10-1	相談相手	
	問11	地域における課題を抱えた世帯の把握状況	
	問12(ア)	相談窓口の認知度	
	問12(イ)	相談窓口を利用する上での課題	
	問13	相談したいと思う形態(来所、訪問、電話、SNS等)	
	問14	地域包括支援センターの役割や機能の認知度	
	問15	権利擁護センターふちゅうの役割や機能の認知度	
F 福祉のまちづくり	問16(ア)	市の福祉に関する情報の入手先	
	問16(イ)	情報を入手する際に困っていること	
	問17	福祉のまちづくり(建築物、インフラ、情報案内)の状況	
	問18	外出先での手助けの経験	
G 災害時の支え合い	問19	心のバリアフリーを実現するために必要なこと	
	問20	福祉のまちづくりのために優先的に取り組むこと	
	問21	災害時の不安や心配ごと	
	問22	普段から災害時に備えていること	
H 福祉に対する考え方	問23	災害に備えて地域で取り組むとよいと思うもの	
	問24	災害時に手助けが必要な方にできること	
	問25	福祉に係る用語の認知度	
I 府中市の福祉施策	問26	認知症に対するイメージ	○
	問27	福祉に関する考え方	
	問28	居住地域の満足度	
	問29	優先的に取り組むべき福祉施策	
	問30	地域福祉及び福祉のまちづくりに対する意見・要望(自由記述)	

1-2 分析にあたって

- 図・表中の「n」、「回答者数」は、基数となる実数のことである。
- 図・表中の「-」は回答者が皆無のものである。
- 回答はn、回答者数を100%として百分率で算出してある。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。
- 複数回答ができる設問では、回答比率の合計が100%を超える。
- 年齢別、性・年代別など調査対象者の基本属性等によるクロス集計結果については、基本属性等に「無回答」があるため、全体結果の示す数値と一致しない。
- 図・表において、回答の選択肢表記を簡略化している場合がある。
- 市内を次の11又は6つの地域に分類し、集計・分析を行う。

◆文化センター圏域 ※本調査では、各文化センター圏域を基本に、次の11の地域に分類した。

地域区分	該当地域
中央文化センター圏域	天神町(1・2丁目)、幸町(1・2丁目)、府中町、緑町、宮町、八幡町、日吉町、宮西町(1丁目)、寿町(1～3丁目)、晴見町(1・2丁目)
白糸台文化センター圏域	白糸台、小柳町(1・3丁目)、若松町(1・2丁目)、清水が丘(3丁目)
西府文化センター圏域	東芝町、本宿町、日新町(1～4丁目)、西府町、美好町(3丁目)
武蔵台文化センター圏域	武蔵台、北山町、西原町
新町文化センター圏域	浅間町、天神町(3・4丁目)、新町、幸町(3丁目)、晴見町(3・4丁目)、栄町
住吉文化センター圏域	南町、分梅町(2～5丁目)、住吉町
是政文化センター圏域	小柳町(2・4～6丁目)、清水が丘(1・2丁目)、是政
紅葉丘文化センター圏域	多磨町、朝日町、紅葉丘、若松町(3～5丁目)
押立文化センター圏域	押立町
四谷文化センター圏域	四谷、日新町(5丁目)
片町文化センター圏域	矢崎町、本町、片町、宮西町(2～5丁目)、分梅町(1丁目)、日鋼町、美好町(1・2丁目)

◆現行の福祉エリア(日常生活圏域)

地域区分	該当地域
第一地区	多磨町、朝日町、紅葉丘、白糸台(1～3丁目)、若松町、浅間町、緑町
第二地区	白糸台(4～6丁目)、押立町、小柳町、八幡町、清水が丘、是政
第三地区	天神町、幸町、府中町、寿町、晴見町、栄町、新町
第四地区	宮町、日吉町、矢崎町、南町、本町、宮西町、片町
第五地区	日鋼町、武蔵台、北山町、西原町、美好町(1・2丁目)、本宿町(3・4丁目)、西府町(3～4丁目)、東芝町
第六地区	美好町(3丁目)、分梅町、住吉町、四谷、日新町、本宿町(1・2丁目)、西府町(1・2、5丁目)

第2部 調査結果の概要

第1章 一般市民調査

1-1 調査結果の概要

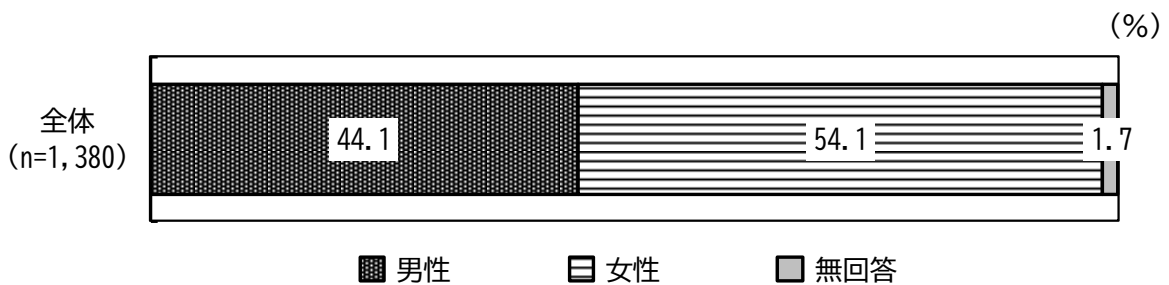
(1) 基本属性について

F1 あなたの性別は次のうちどれですか。(1つに○)

*戸籍上の区別とは別にご自身の主観によりご記入ください。

- ・「男性」が44.1%、「女性」が54.1%となっている。

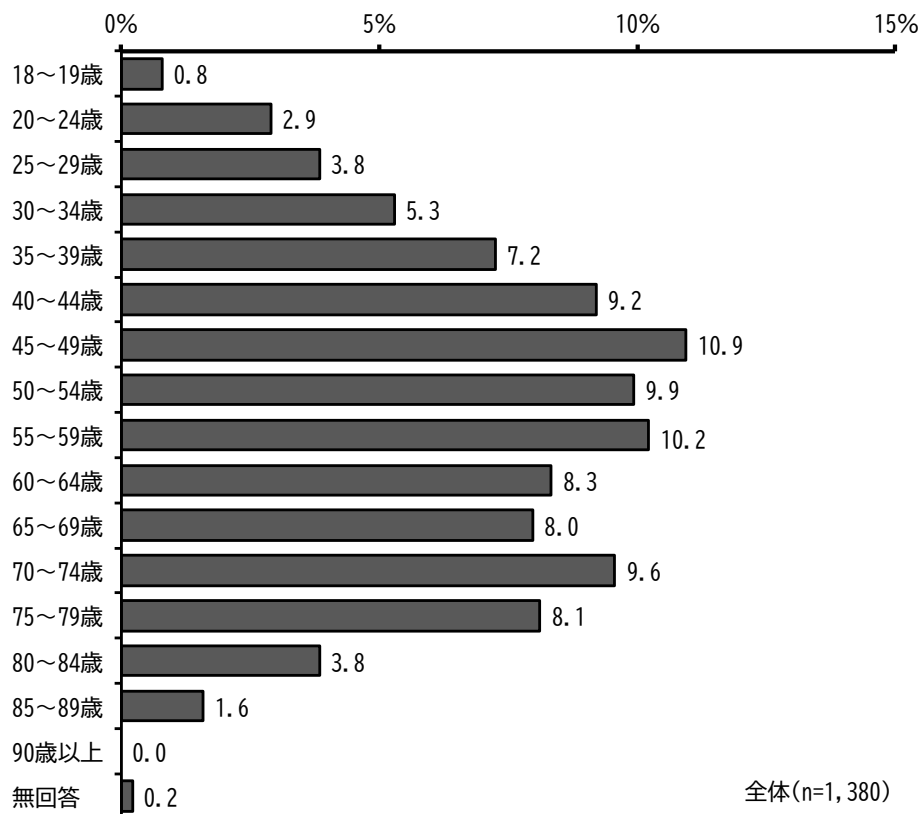
図表 性別 (全体)



F2 あなたの年齢は次のうちどれですか。(1つに○)

- ・「45～49歳」(10.9%)が最も多く、次いで、「55～59歳」(10.2%)、「50～54歳」(9.9%)と続いている。

図表 年齢 (全体)

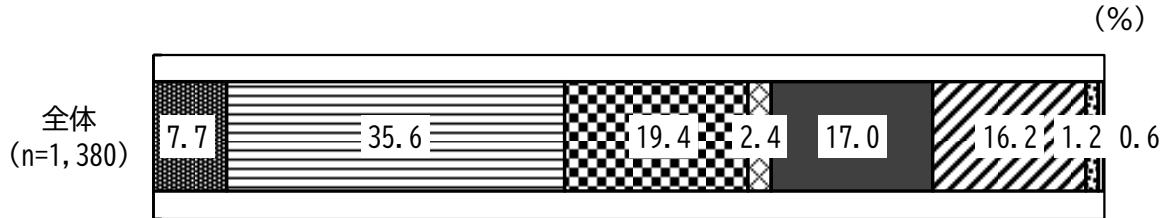


全体(n=1,380)

F3 あなたのご職業は次のうちどれですか。(1つに○)

・「正規の社員・職員・役員など」(35.6%)が最も多く、次いで「非正規の社員・職員(契約社員・派遣・パート・アルバイト等)」(19.4%)、「家事専業」(17.0%)と続いている。

図表 職業(全体)



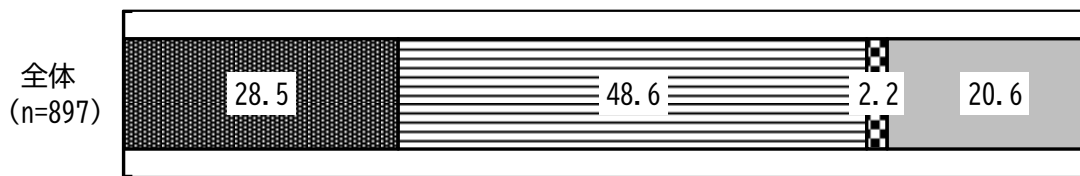
- 自営業(家族従業の場合含む)・自由業
- ▨ 正規の社員・職員・役員など
- ▩ 非正規の社員・職員(契約社員・派遣・パート・アルバイト等)
- ▧ 学生
- 家事専業
- ▨ 無職
- ▩ その他
- 無回答

F3-1 F3で「1. 自営業(家族従業の場合含む)・自由業」～「4. 学生」と答えた方におたずねします。あなたの主な通勤、通学先はどちらですか。(1つに○)

・「府中市内」が28.5%、「府中市外」が48.6%となっている。

図表 従業地(全体)

＜「自営業(家族従業の場合含む)・自由業」、「正規の社員・職員・役員など」、「非正規の社員・職員(契約社員・派遣・パート・アルバイト等)」、「学生」と答えた方＞



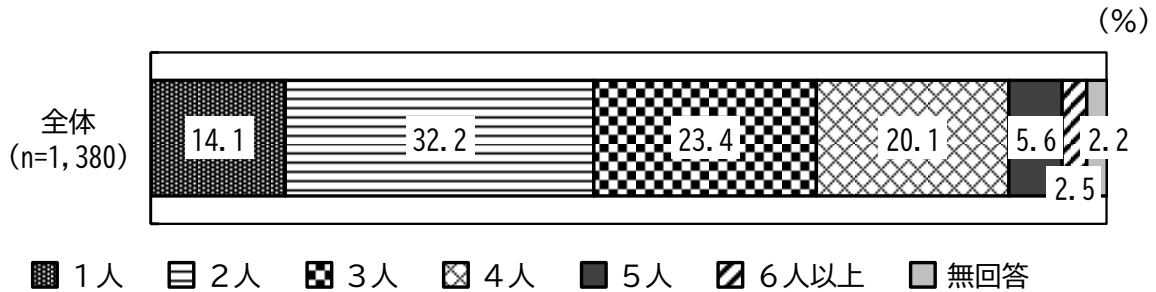
- 府中市内
- ▨ 府中市外
- ▩ 定まっていない
- 無回答

F4 世帯についておたずねします。世帯の人数はあなたを含めて何人ですか。（1つに○）

*** 2世帯住宅は同居としてお答えください。* 配偶者の親族を含めてお答えください。**

・「2人」(32.2%)が最も多く、次いで「3人」(23.4%)、「4人」(20.1%)と続いている。

図表 世帯人数（全体）



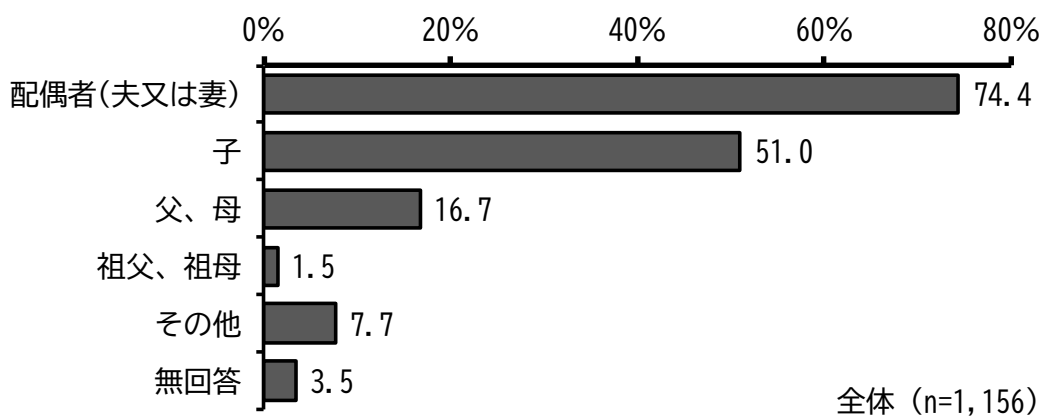
F4-1 F4で「2. 2人」～「6. 6人以上」と答えた方におたずねします。

あなたと同居している方はどなたですか。（いくつでも○）

・「配偶者（夫又は妻）」(74.4%)が最も多く、次いで「子」(51.0%)、「父、母」(16.7%)と続いている。

図表 世帯構成（全体：複数回答）

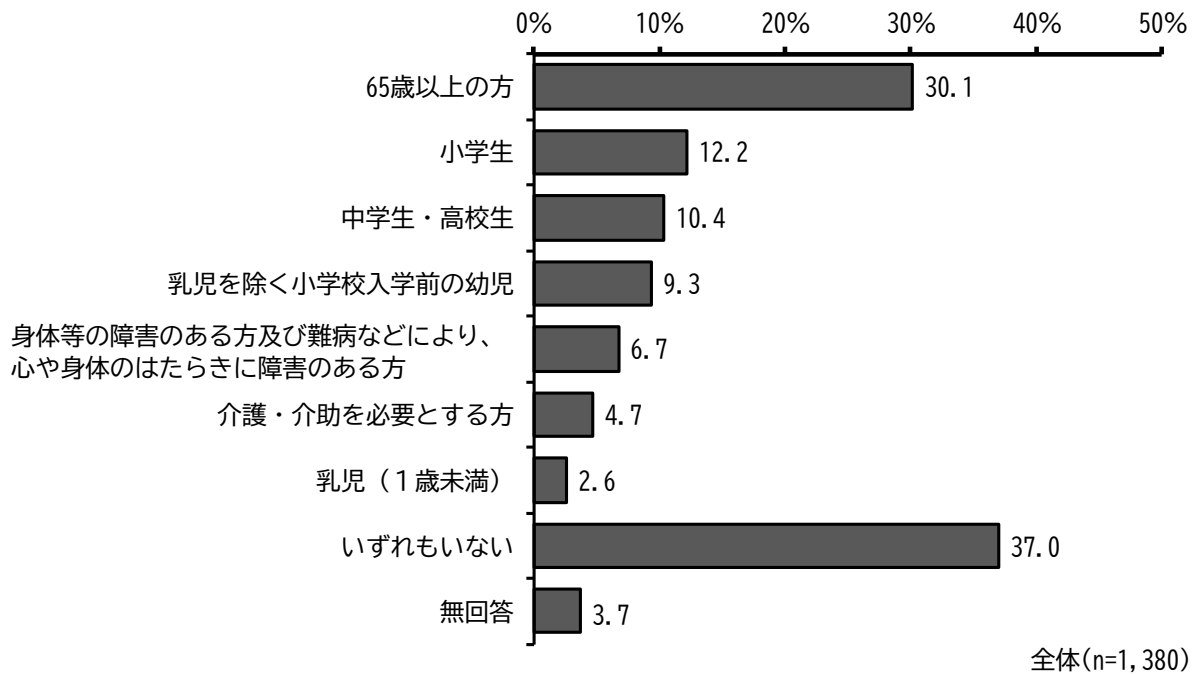
＜世帯人数が「2人」、「3人」、「4人」、「5人」、「6人以上」と答えた方＞



F5 現在、あなた自身、もしくは同居している方の中に、次のような方はいますか。(いくつでも○)

・「65歳以上の方」(30.1%)が最も多く、次いで「小学生」(12.2%)、「中学生・高校生」(10.4%)と続いている。

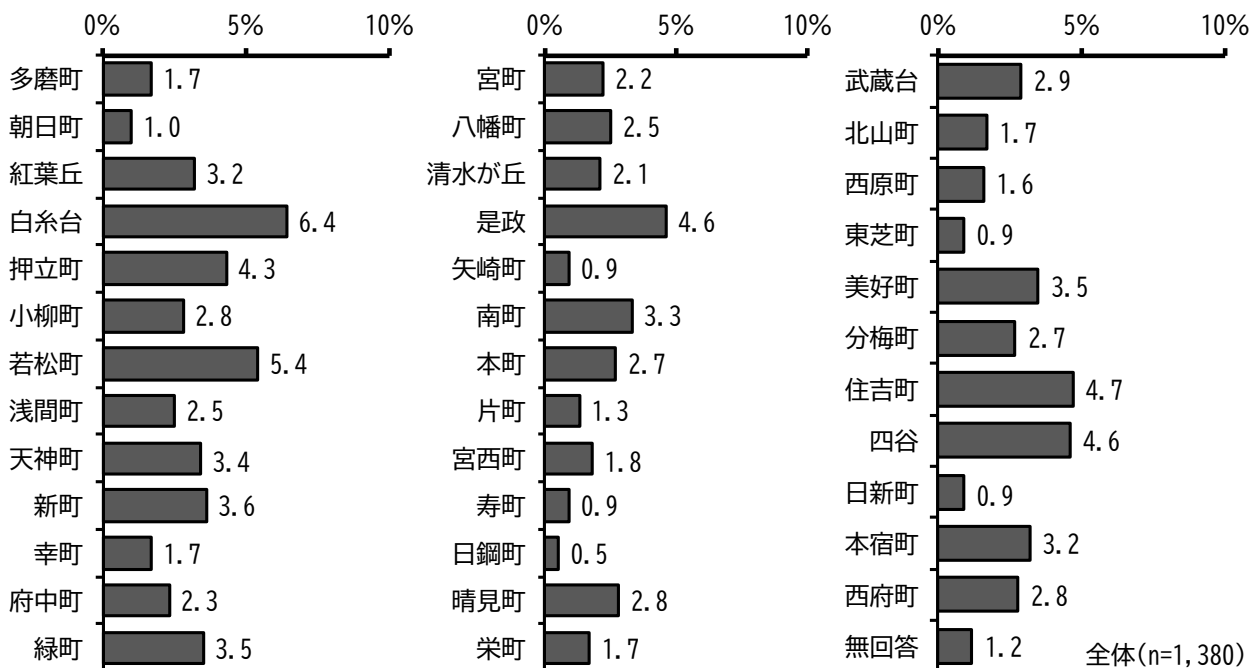
図表 世帯の特徴(全体：複数回答)



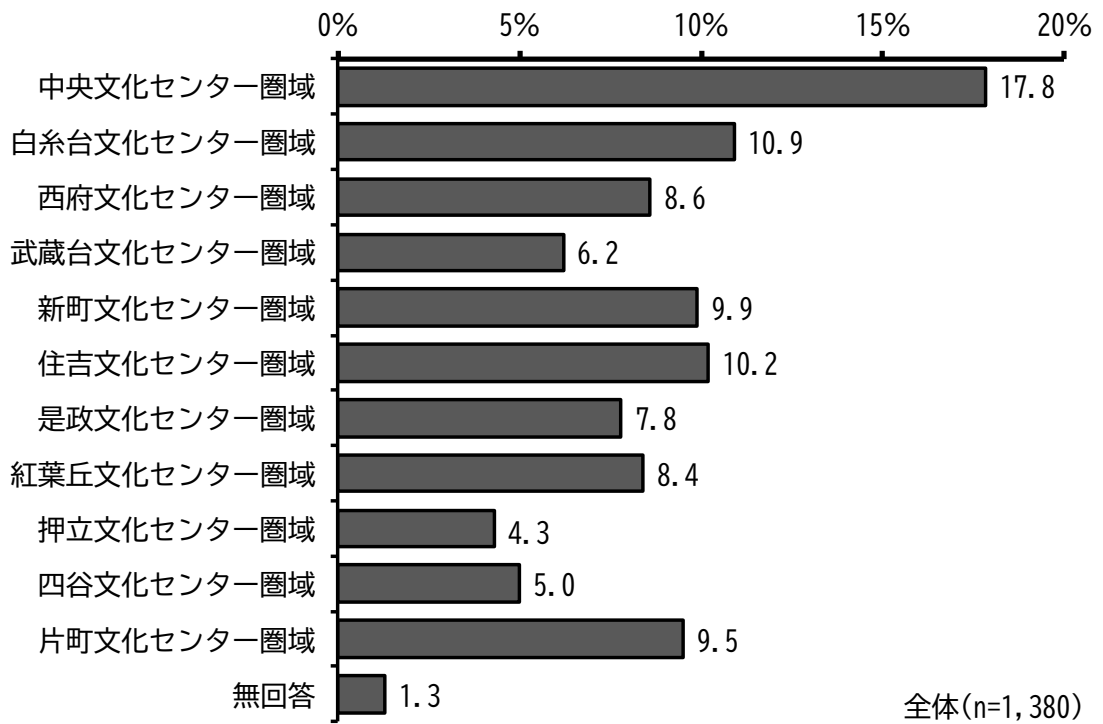
F6 あなたはどちらにお住まいですか。□□□□内に記入してください。(□町□丁目)

・回答者の居住地は次のとおり。

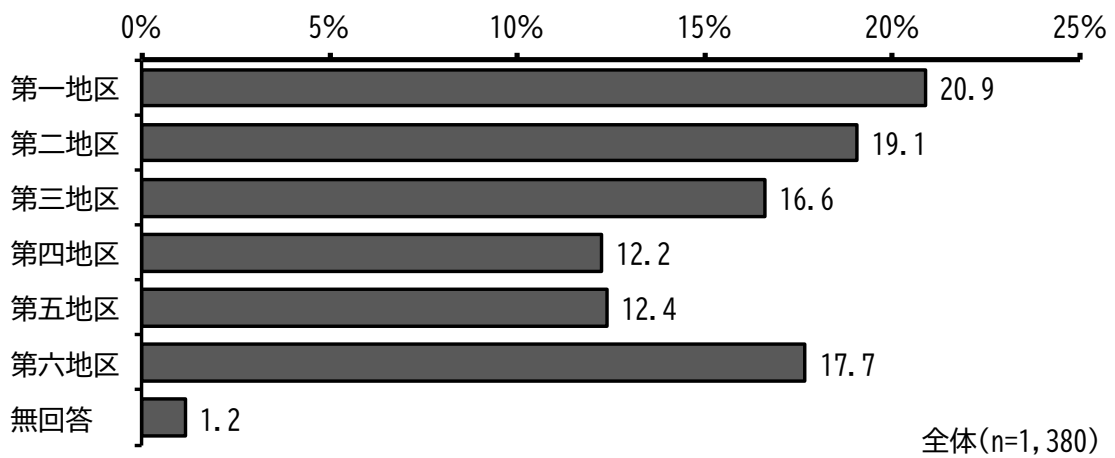
図表 居住地：町(全体)



図表 居住地：文化センター圏域（全体）



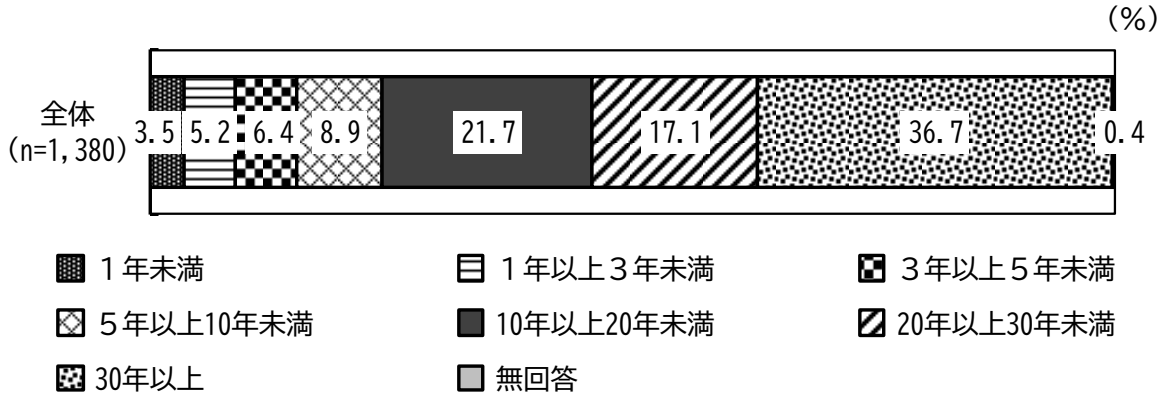
図表 居住地：福祉エリア（全体）



F7 あなたは府中市にお住まいになってから何年になりますか。(1つに○)

・「30年以上」(36.7%)が最も多く、次いで「10年以上20年未満」(21.7%)、「20年以上30年未満」(17.1%)と続いている。

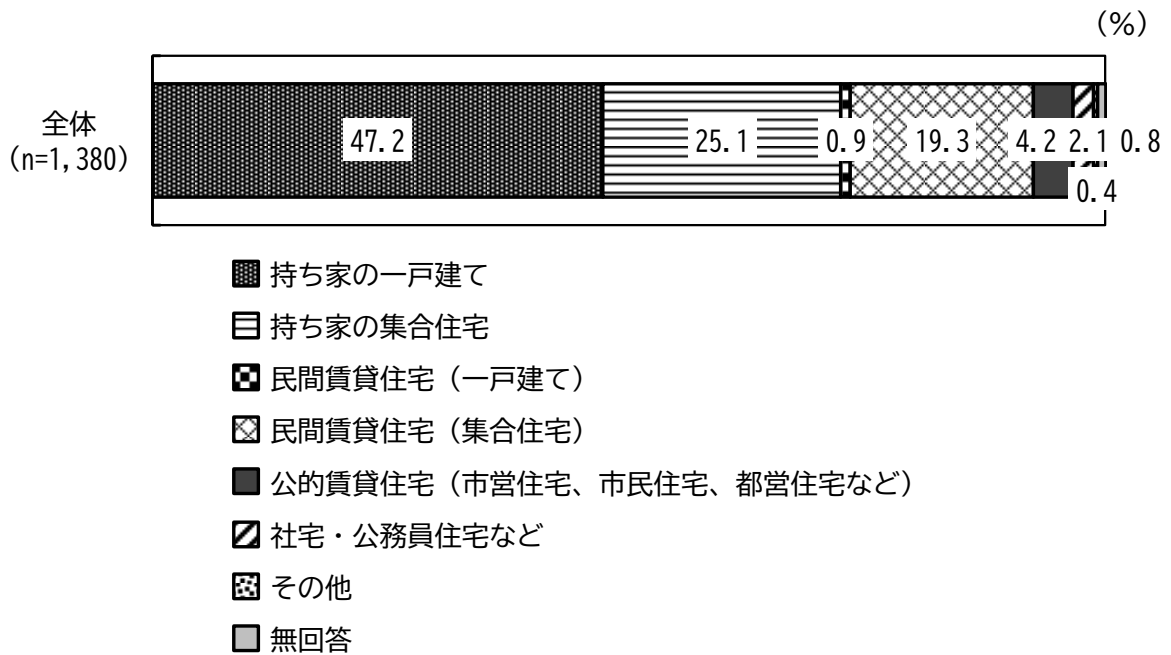
図表 居住歴 (全体)



F8 あなたのお住まいは、次のうちどれにあてはまりますか。(1つに○)

・「持ち家の一戸建て」(47.2%)が最も多く、次いで「持ち家の集合住宅」(25.1%)、「民間賃貸住宅(集合住宅)」(19.3%)と続いている。

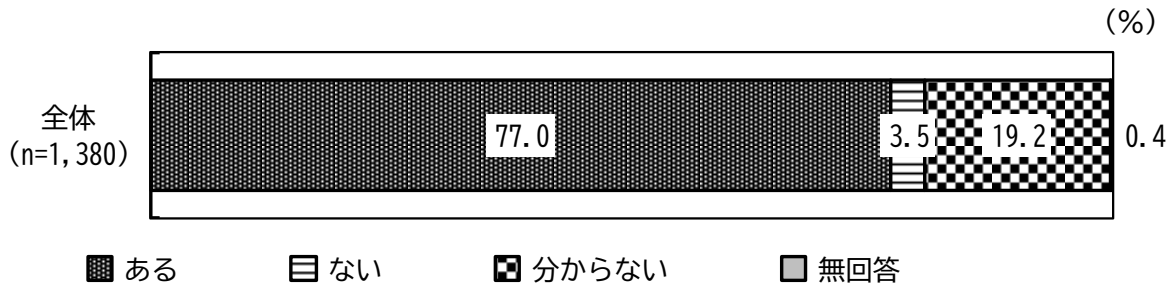
図表 住居形態 (全体)



F9 あなたのお住まいの地域には、自治会・町会等がありますか。(1つに○)

- ・「ある」が77.0%、「ない」が3.5%、「分からない」が19.2%となっている。
- ・居住年数別では、居住年数が短くなるにつれて「分からない」の割合が高くなっている。
- ・文化センター圏域別では、「ある」は、是政文化センター圏域が92.6%と最も高く、次いで押立文化センター圏域が88.3%、武蔵台文化センター圏域が86.0%と続いている。

図表 自治会・町会等の有無(全体)



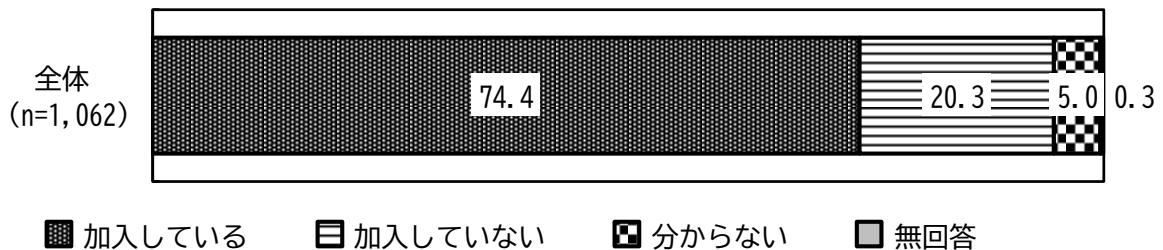
図表 自治会・町会等の有無(全体、性・年代別、居住年数別、文化センター圏域別)

		ある	ない	分からない	無回答
全体 (n=1,380)		77.0	3.5	19.2	0.4
居住年数	1年未満 (n=48)	37.5	6.3	56.3	0.0
	1年以上3年未満 (n=72)	47.2	4.2	48.6	0.0
	3年以上5年未満 (n=89)	59.6	3.4	37.1	0.0
	5年以上10年未満 (n=123)	65.0	4.1	30.1	0.8
	10年以上20年未満 (n=300)	77.7	3.3	19.0	0.0
	20年以上30年未満 (n=236)	80.9	3.4	15.3	0.4
	30年以上 (n=506)	88.9	3.2	7.9	0.0
文化センター圏域	中央文化センター圏域 (n=246)	67.1	4.9	27.6	0.4
	白糸台文化センター圏域 (n=150)	72.0	5.3	22.7	0.0
	西府文化センター圏域 (n=118)	70.3	2.5	27.1	0.0
	武蔵台文化センター圏域 (n=86)	86.0	2.3	11.6	0.0
	新町文化センター圏域 (n=137)	77.4	5.1	17.5	0.0
	住吉文化センター圏域 (n=141)	76.6	2.8	20.6	0.0
	是政文化センター圏域 (n=108)	92.6	0.0	6.5	0.9
	紅葉丘文化センター圏域 (n=116)	80.2	3.4	16.4	0.0
	押立文化センター圏域 (n=60)	88.3	3.3	8.3	0.0
	四谷文化センター圏域 (n=69)	81.2	2.9	15.9	0.0
	片町文化センター圏域 (n=131)	81.7	2.3	16.0	0.0

F9-1 F9で「1. ある」と答えた方におたずねします。あなたは、自治会・町会等に加入していますか。(1つに○)

- ・「加入している」が74.4%、「加入していない」が20.3%、「分からない」が5.0%となっている。
- ・性・年代別では、「加入している」は、男女とも年代が上がるにつれて高くなっている。
- ・居住年数別では、「加入している」は、10年以上20年未満は73.4%、20年以上30年未満は68.6%、30年以上は86.0%となっている。
- ・文化センター圏域別では、「加入している」は、新町文化センター圏域が84.0%と最も高く、片町文化センター圏域が58.9%と最も低くなっている。

図表 自治会・町会等への加入状況 (全体)
 <住んでいる地域に自治会・町会等が「ある」と答えた方> (%)



図表 自治会・町会等への加入状況 (全体、性・年代別、居住年数別、文化センター圏域別)
 <住んでいる地域に自治会・町会等が「ある」と答えた方>

		(n)	加入している (%)	加入していない (%)	分からない (%)	無回答 (%)
全体		(n=1,062)	74.4	20.3	5.0	0.3
性・年代	男性-18~39歳	(n=67)	52.2	37.3	10.4	0.0
	男性-40~64歳	(n=244)	69.3	25.8	4.9	0.0
	男性-65~74歳	(n=97)	83.5	12.4	4.1	0.0
	男性-75歳以上	(n=53)	84.9	11.3	1.9	1.9
	女性-18~39歳	(n=86)	55.8	31.4	12.8	0.0
	女性-40~64歳	(n=279)	75.6	19.7	3.9	0.7
	女性-65~74歳	(n=114)	82.5	14.0	3.5	0.0
	女性-75歳以上	(n=100)	94.0	5.0	1.0	0.0
居住年数	1年未満	(n=18)	50.0	38.9	11.1	0.0
	1年以上3年未満	(n=34)	47.1	44.1	8.8	0.0
	3年以上5年未満	(n=53)	52.8	35.8	11.3	0.0
	5年以上10年未満	(n=80)	57.5	33.8	7.5	1.3
	10年以上20年未満	(n=233)	73.4	21.0	5.6	0.0
	20年以上30年未満	(n=191)	68.6	27.2	3.7	0.5
	30年以上	(n=450)	86.0	10.2	3.6	0.2
文化センター圏域	中央文化センター圏域	(n=165)	69.7	23.0	7.3	0.0
	白系台文化センター圏域	(n=108)	70.4	25.9	3.7	0.0
	西府文化センター圏域	(n=83)	77.1	18.1	4.8	0.0
	武蔵台文化センター圏域	(n=74)	78.4	18.9	1.4	1.4
	新町文化センター圏域	(n=106)	84.0	15.1	0.9	0.0
	住吉文化センター圏域	(n=108)	80.6	11.1	8.3	0.0
	是政文化センター圏域	(n=100)	74.0	20.0	6.0	0.0
	紅葉丘文化センター圏域	(n=93)	72.0	22.6	4.3	1.1
	押立文化センター圏域	(n=53)	81.1	11.3	5.7	1.9
	四谷文化センター圏域	(n=56)	82.1	16.1	1.8	0.0
	片町文化センター圏域	(n=107)	58.9	33.6	7.5	0.0

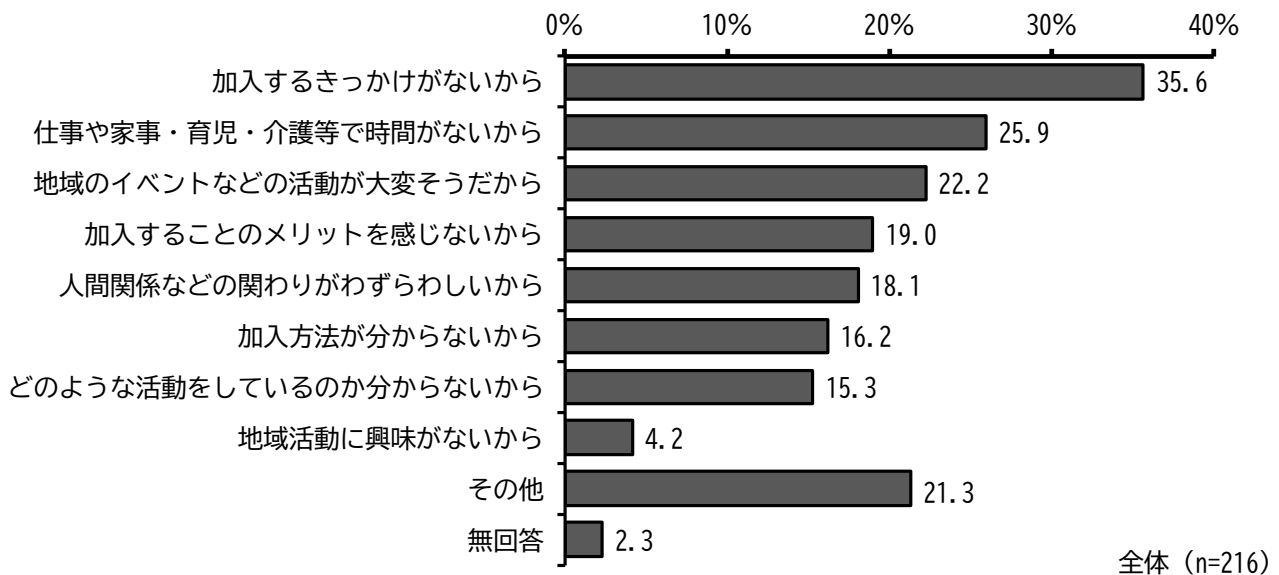
F9-2 F9で「2. 加入していない」と答えた方におたずねします。

自治会・町会等に参加していない主な理由は何ですか。(3つまで)

- ・「加入するきっかけがないから」(35.6%)が最も多く、次いで「仕事や家事・育児・介護等で時間がないから」(25.9%)、「地域のイベントなどの活動が大変そうだから」(22.2%)と続いている。
- ・性・年代別では、男性の18～39歳及び40～64歳で「加入するきっかけがないから」、65～74歳で「地域のイベントなどの活動が大変そうだから」、「どのような活動をしているのか分からないから」及び「その他」、75歳以上で「加入することのメリットを感じないから」、「加入するきっかけがないから」、「その他」が最も多くなっている。また、女性の18～39歳で「仕事や家事・育児・介護等で時間がないから」、40～64歳で「加入するきっかけがないから」、65～74歳及び75歳以上で「その他」が最も多くなっている。
- ・「その他」の主な理由として、住んでいる集合住宅全体が自治会に参加していないから等が挙げられた。
- ・文化センター圏域別では、「加入するきっかけがないから」は、白糸台文化センター圏域で46.4%、中央文化センター圏域で44.7%、武蔵台文化センター圏域で42.9%、住吉文化センター圏域で41.7%と高くなっている。

図表 自治会・町会等に参加していない理由(全体:複数回答(3つまで))

<自治会・町会等に「加入していない」と答えた方>



図表 自治会・町会等に参加していない理由
 (全体、性・年代別、居住年数別、文化センター圏域別：複数回答(3つまで))
 <自治会・町会等に「参加していない」と答えた方>

(%)

		人間関係 などの関 わりがわ ずらわし いから	地域のイ ベントな どの活動 が大変そ うだから	仕事や家 事・育 児・介 護等 で時間 がない から	地域活動 に興味 がない から	加入する ことの メリット を感じ ない から	
全体		(n=216)	18.1	22.2	25.9	4.2	19.0
性・年代	男性-18~39歳	(n=25)	20.0	24.0	36.0	4.0	20.0
	男性-40~64歳	(n=63)	19.0	17.5	25.4	1.6	25.4
	男性-65~74歳	(n=12)	8.3	25.0	0.0	0.0	8.3
	男性-75歳以上	(n=6)	16.7	16.7	0.0	16.7	33.3
	女性-18~39歳	(n=27)	11.1	25.9	55.6	3.7	11.1
	女性-40~64歳	(n=55)	20.0	27.3	25.5	1.8	20.0
	女性-65~74歳	(n=16)	18.8	18.8	6.3	18.8	0.0
女性-75歳以上	(n=5)	40.0	20.0	0.0	20.0	40.0	
文化 センター 圏域	中央文化センター圏域	(n=38)	26.3	26.3	34.2	2.6	5.3
	白糸台文化センター圏域	(n=28)	10.7	14.3	25.0	3.6	17.9
	西府文化センター圏域	(n=15)	0.0	26.7	46.7	0.0	20.0
	武蔵台文化センター圏域	(n=14)	35.7	21.4	28.6	0.0	28.6
	新町文化センター圏域	(n=16)	18.8	25.0	25.0	6.3	6.3
	住吉文化センター圏域	(n=12)	16.7	25.0	8.3	0.0	25.0
	是政文化センター圏域	(n=20)	15.0	15.0	15.0	0.0	15.0
	紅葉丘文化センター圏域	(n=21)	9.5	23.8	23.8	9.5	33.3
	押立文化センター圏域	(n=6)	66.7	50.0	33.3	33.3	50.0
	四谷文化センター圏域	(n=9)	11.1	22.2	22.2	0.0	33.3
片町文化センター圏域	(n=36)	16.7	19.4	19.4	5.6	19.4	

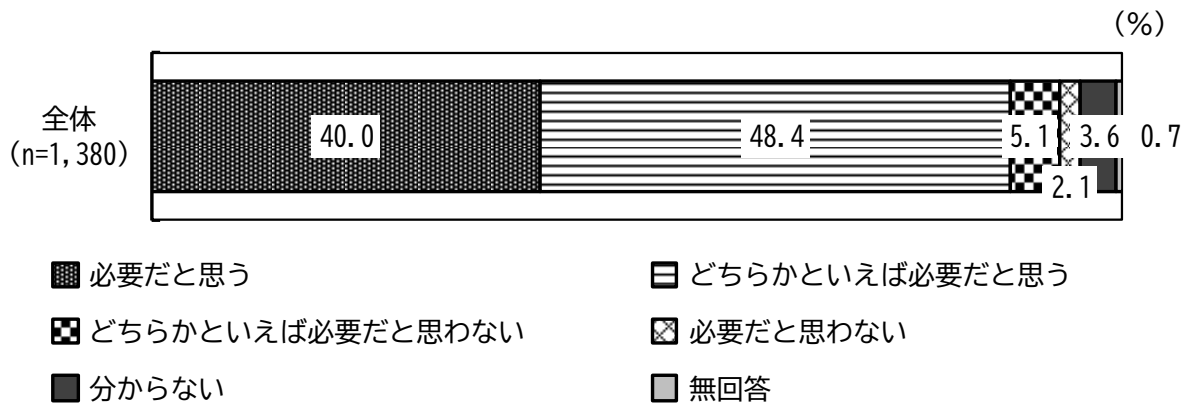
		どのよう な活動 をして いるの か分か らない から	加入する きっかけ がない から	加入方法 が分から ない から	その他	無回答	
全体		(n=216)	15.3	35.6	16.2	21.3	2.3
性・年代	男性-18~39歳	(n=25)	24.0	48.0	16.0	12.0	0.0
	男性-40~64歳	(n=63)	12.7	39.7	20.6	17.5	1.6
	男性-65~74歳	(n=12)	25.0	16.7	16.7	25.0	8.3
	男性-75歳以上	(n=6)	16.7	33.3	16.7	33.3	0.0
	女性-18~39歳	(n=27)	22.2	33.3	14.8	18.5	0.0
	女性-40~64歳	(n=55)	9.1	36.4	18.2	21.8	0.0
	女性-65~74歳	(n=16)	18.8	31.3	6.3	37.5	6.3
女性-75歳以上	(n=5)	20.0	40.0	0.0	60.0	0.0	
文化 センター 圏域	中央文化センター圏域	(n=38)	10.5	44.7	18.4	15.8	0.0
	白糸台文化センター圏域	(n=28)	25.0	46.4	17.9	21.4	0.0
	西府文化センター圏域	(n=15)	20.0	13.3	6.7	20.0	6.7
	武蔵台文化センター圏域	(n=14)	28.6	42.9	14.3	14.3	0.0
	新町文化センター圏域	(n=16)	12.5	18.8	25.0	6.3	12.5
	住吉文化センター圏域	(n=12)	25.0	41.7	16.7	25.0	0.0
	是政文化センター圏域	(n=20)	5.0	30.0	5.0	45.0	0.0
	紅葉丘文化センター圏域	(n=21)	14.3	28.6	9.5	28.6	0.0
	押立文化センター圏域	(n=6)	16.7	33.3	16.7	16.7	0.0
	四谷文化センター圏域	(n=9)	11.1	33.3	11.1	33.3	0.0
片町文化センター圏域	(n=36)	11.1	38.9	25.0	16.7	5.6	

(2) 近所づきあいについて

問1 あなたは近所づきあいを必要だと思えますか。(1つに○)

- ・「必要だと思う」が40.0%、「どちらかといえば必要だと思う」が48.4%で、両者を合わせた《必要である》が88.4%となっている。
- ・性・年代別では、男性も女性も年代があがるにつれて、「必要だと思う」の割合が高くなっており、男性の75歳以上で60.7%、女性の75歳以上で54.2%となっている。
- ・文化センター圏域別では、すべての文化センター圏域で《必要である》が85%以上となっている。

図表 近所づきあいの必要性 (全体)



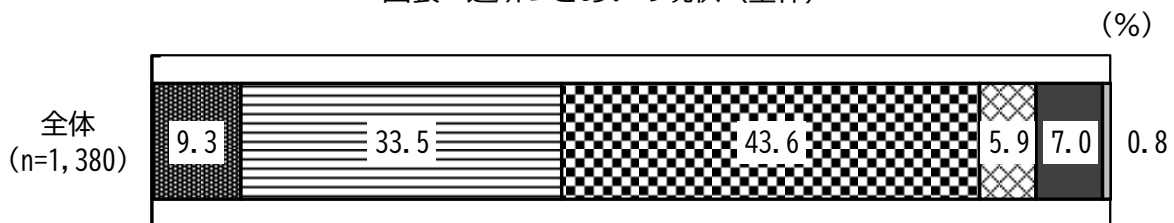
図表 近所づきあいの必要性 (全体、性・年代別、文化センター圏域別)

		(%)						(%)		
			必要だと思 う	どちらか といえば 必要だと思 う	どちらか といえば 必要だと思 わない	必要だと思 わない	分からな い	無回答	《必要で ある》	《必要な い》
全体	(n=1,380)	40.0	48.4	5.1	2.1	3.6	0.7	88.4	7.2	
性・年代	男性-18~39歳 (n=113)	23.9	58.4	6.2	8.0	3.5	0.0	82.3	14.2	
	男性-40~64歳 (n=321)	40.8	46.4	6.2	2.2	4.0	0.3	87.2	8.4	
	男性-65~74歳 (n=114)	54.4	39.5	3.5	0.9	0.9	0.9	93.9	4.4	
	男性-75歳以上 (n=61)	60.7	29.5	3.3	1.6	0.0	4.9	90.2	4.9	
	女性-18~39歳 (n=161)	24.2	62.7	6.8	1.2	4.3	0.6	86.9	8.0	
	女性-40~64歳 (n=343)	35.6	53.4	5.2	2.0	3.8	0.0	89.0	7.2	
	女性-65~74歳 (n=125)	46.4	44.0	4.0	0.8	3.2	1.6	90.4	4.8	
	女性-75歳以上 (n=118)	54.2	34.7	2.5	0.8	6.8	0.8	88.9	3.3	
文化センター圏域	中央文化センター圏域 (n=246)	29.7	57.7	4.5	3.3	4.5	0.4	87.4	7.8	
	白糸台文化センター圏域 (n=150)	36.0	50.0	7.3	3.3	2.7	0.7	86.0	10.6	
	西府文化センター圏域 (n=118)	35.6	50.0	10.2	0.8	2.5	0.8	85.6	11.0	
	武蔵台文化センター圏域 (n=86)	48.8	44.2	1.2	2.3	2.3	1.2	93.0	3.5	
	新町文化センター圏域 (n=137)	40.9	46.0	3.6	0.7	7.3	1.5	86.9	4.3	
	住吉文化センター圏域 (n=141)	45.4	41.1	5.7	2.8	5.0	0.0	86.5	8.5	
	是政文化センター圏域 (n=108)	45.4	49.1	1.9	1.9	1.9	0.0	94.5	3.8	
	紅葉丘文化センター圏域 (n=116)	44.8	45.7	4.3	1.7	3.4	0.0	90.5	6.0	
	押立文化センター圏域 (n=60)	61.7	33.3	3.3	0.0	1.7	0.0	95.0	3.3	
	四谷文化センター圏域 (n=69)	37.7	55.1	4.3	0.0	2.9	0.0	92.8	4.3	
片町文化センター圏域 (n=131)	38.9	48.1	7.6	2.3	2.3	0.8	87.0	9.9		

問2 あなたは、近隣に住む人と、どの程度おつきあいしていますか。(1つに○)

- ・「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」が43.6%で最も多く、次いで「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」が33.5%、「個人的なことを相談し合える人がいる」が9.3%と続いている。
- ・性・年代別では、「個人的なことを相談し合える人がいる」は、男性も女性も年代が上がるにつれて高くなっており、男性の75歳以上で9.8%、女性の75歳以上で17.8%となっている。
- ・世帯構成別では、ひとり暮らしの人で「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」が24.2%と高くなっている。
- ・住居形態別では、民間賃貸住宅（集合住宅）で「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」が23.3%と他の住居形態と比較すると高くなっている。
- ・文化センター圏域別では、中央文化センター圏域で「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」が12.2%と他の文化センター圏域と比較すると高くなっている。
- ・前回調査と今回調査では、選択肢が一部異なるが、「個人的なことを相談し合える人がいる」は、前回調査では11.6%となっている。また、福祉エリア別では前回調査では「個人的なことを相談し合える人がいる」が第一地区、第二地区、第五地区、第六地区で1割を超えていた。

図表 近所づきあいの現状（全体）



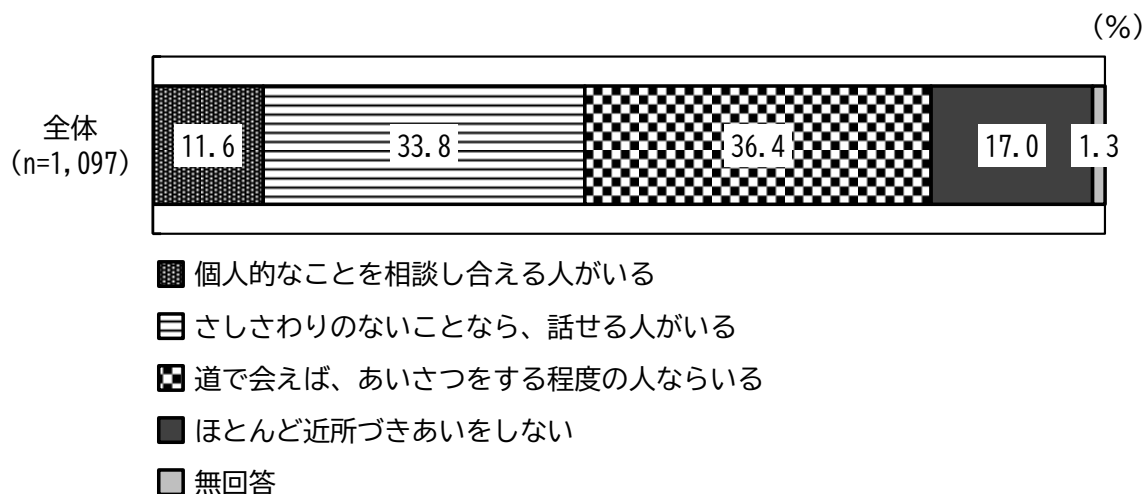
- 個人的なことを相談し合える人がいる
- ▨ さしさわりのないことなら、話せる人がいる
- ▩ 道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる
- ▧ あいさつや会話はしないが、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる
- 全く交流はなく、近隣に住む人を知らない
- 無回答

図表 近所づきあいの現状
(全体、性・年代別、世帯構成別、住居形態別、文化センター圏域別)

		(%)	個人的なことを相談し合える人がいる	さしさわりのないことなら、話せる人がいる	道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる	あいさつや会話は顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる	全く交流はなく、近隣に住む人知らない	無回答
全体	(n=1,380)	9.3	33.5	43.6	5.9	7.0	0.8	
性・年代	男性-18～39歳	(n=113)	2.7	18.6	46.0	17.7	15.0	0.0
	男性-40～64歳	(n=321)	5.0	24.6	56.1	5.6	8.1	0.6
	男性-65～74歳	(n=114)	9.6	41.2	41.2	5.3	2.6	0.0
	男性-75歳以上	(n=61)	9.8	49.2	32.8	3.3	0.0	4.9
	女性-18～39歳	(n=161)	5.6	18.6	51.6	8.7	15.5	0.0
	女性-40～64歳	(n=343)	12.8	36.7	41.7	3.5	4.7	0.6
	女性-65～74歳	(n=125)	14.4	46.4	30.4	4.0	2.4	2.4
	女性-75歳以上	(n=118)	17.8	54.2	20.3	3.4	4.2	0.0
世帯構成	ひとり暮らし	(n=194)	6.2	25.3	36.6	7.2	24.2	0.5
	配偶者とふたり暮らし	(n=345)	9.6	34.2	42.0	7.5	5.8	0.9
	その他	(n=515)	12.4	38.1	42.5	3.9	2.3	0.8
住居形態	持ち家の一戸建て	(n=652)	11.0	41.7	41.9	3.4	1.2	0.8
	持ち家の集合住宅	(n=346)	11.3	30.3	48.3	5.5	4.0	0.6
	民間賃貸住宅(一戸建て)	(n=12)	0.0	58.3	25.0	0.0	16.7	0.0
	民間賃貸住宅(集合住宅)	(n=266)	3.8	15.4	45.5	12.0	23.3	0.0
	公的賃貸住宅(市営住宅など)	(n=58)	10.3	39.7	39.7	5.2	3.4	1.7
	社宅・公務員住宅など	(n=29)	0.0	37.9	37.9	10.3	13.8	0.0
	その他	(n=6)	16.7	0.0	50.0	0.0	33.3	0.0
文化センター圏域	中央文化センター圏域	(n=246)	6.9	25.6	49.6	5.7	12.2	0.0
	白糸台文化センター圏域	(n=150)	12.0	32.7	40.7	8.7	6.0	0.0
	西府文化センター圏域	(n=118)	6.8	28.8	49.2	5.9	8.5	0.8
	武蔵台文化センター圏域	(n=86)	7.0	50.0	36.0	1.2	3.5	2.3
	新町文化センター圏域	(n=137)	8.8	40.1	42.3	4.4	2.2	2.2
	住吉文化センター圏域	(n=141)	12.8	34.8	39.7	6.4	5.7	0.7
	是政文化センター圏域	(n=108)	13.0	38.0	41.7	4.6	2.8	0.0
	紅葉丘文化センター圏域	(n=116)	12.9	29.3	44.8	6.9	6.0	0.0
	押立文化センター圏域	(n=60)	8.3	36.7	41.7	5.0	8.3	0.0
	四谷文化センター圏域	(n=69)	10.1	43.5	36.2	2.9	5.8	1.4
片町文化センター圏域	(n=131)	6.9	27.5	48.1	9.2	8.4	0.0	

<参考(前回調査)>

図表 近所づきあいの現状(全体)



図表 近所づきあいの現状 (全体、福祉エリア別)

(%)

			個人的な ことを相 談し合え る人がい る	さしさわ りのない ことな ら、話せ る人がい る	道で会え ば、あい さつをす る程度 の人なら いる	あいさつ や会話は ないが、 顔を見れ ば近隣の 人と分か る人がい る	全く交流 はなく、 近所に住 む人を 知らない	無回答
全体		(n=1,380)	9.3	33.5	43.6	5.9	7.0	0.8
福祉エリア	第一地区	(n=288)	11.8	28.8	43.1	8.3	8.0	0.0
	第二地区	(n=263)	9.9	35.7	42.6	4.6	7.2	0.0
	第三地区	(n=229)	8.7	33.2	47.6	4.4	4.8	1.3
	第四地区	(n=169)	8.3	33.1	42.6	8.3	7.7	0.0
	第五地区	(n=171)	7.0	40.4	43.3	2.3	5.3	1.8
	第六地区	(n=244)	9.4	32.4	43.4	6.6	7.4	0.8

<参考 (前回調査)>

図表 近所づきあいの現状 (全体、福祉エリア別)

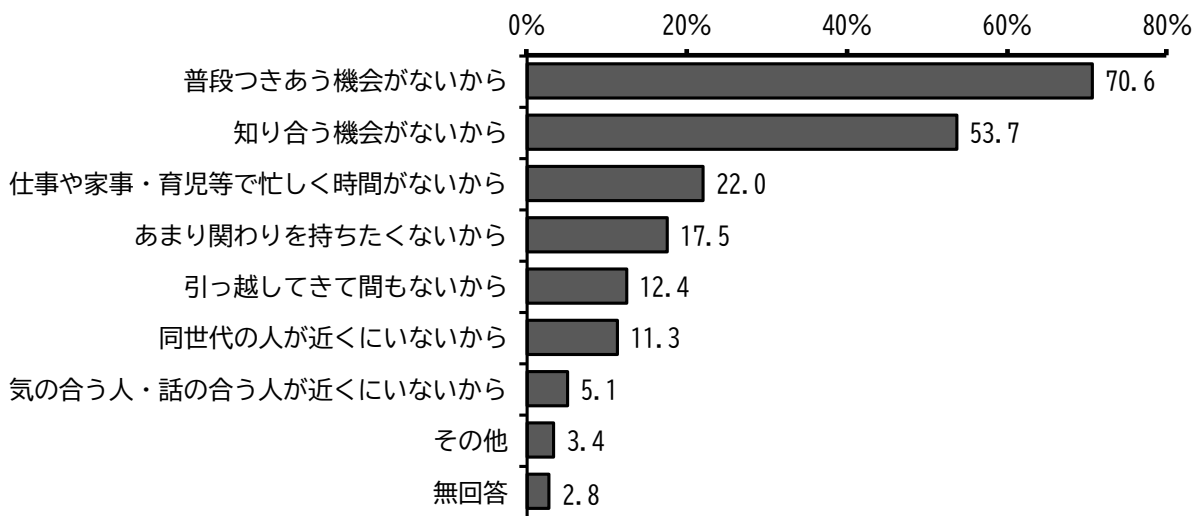
(%)

			個人的な ことを相 談し合え る人がい る	さしさわ りのない ことな ら、話せ る人がい る	道で会え ば、あい さつをす る程度 の人なら いる	ほとんど 近所づき あいをし ない	無回答
全体		(n=1,097)	11.6	33.8	36.4	17.0	1.3
福祉エリア	第一地区	(n=217)	10.6	34.6	35.9	18.0	0.9
	第二地区	(n=211)	14.7	30.3	37.9	17.1	0.0
	第三地区	(n=183)	8.7	33.3	34.4	21.3	2.2
	第四地区	(n=143)	9.1	35.7	38.5	16.1	0.7
	第五地区	(n=139)	13.7	35.3	38.1	12.2	0.7
	第六地区	(n=191)	12.0	36.1	34.6	14.7	2.6

問2-1 問2で「4. あいさつや会話はいいが、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる」、「5. 全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」と答えた方におたずねします。近所づきあいを(ほぼ)しない主な理由は何ですか。(3つまで○)

- ・「普段つきあう機会がないから」(70.6%)が最も多く、次いで「知り合う機会がないから」(53.7%)、「仕事や家事・育児等で忙しく時間がないから」(22.0%)と続いている。
- ・性・年代別では、男性も女性も18～39歳及び40～64歳で「普段つきあう機会がないから」と「知り合う機会がないから」が上位2位となっている。また、男性の18～39歳は「同世代の人が近くにいないから」と「あまり関わりを持ちたくないから」、40～64歳は「あまり関わりを持ちたくないから」が第3位となっている。女性の18～39歳及び40～64歳は「仕事や家事・育児等で忙しく時間がないから」が第3位となっている。
- ・前回の調査結果と比較すると、今回調査は、前回調査と同様に「普段つきあう機会がないから」(70.6%)が最も多くなっている。今回調査で追加した「知り合う機会がないから」以外の項目は前回調査と同様の傾向を示している。

図表 近所づきあいをしない理由(全体:複数回答(3つまで))
 <近所づきあいについて「あいさつや会話はいいが、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる」、「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」と答えた方>



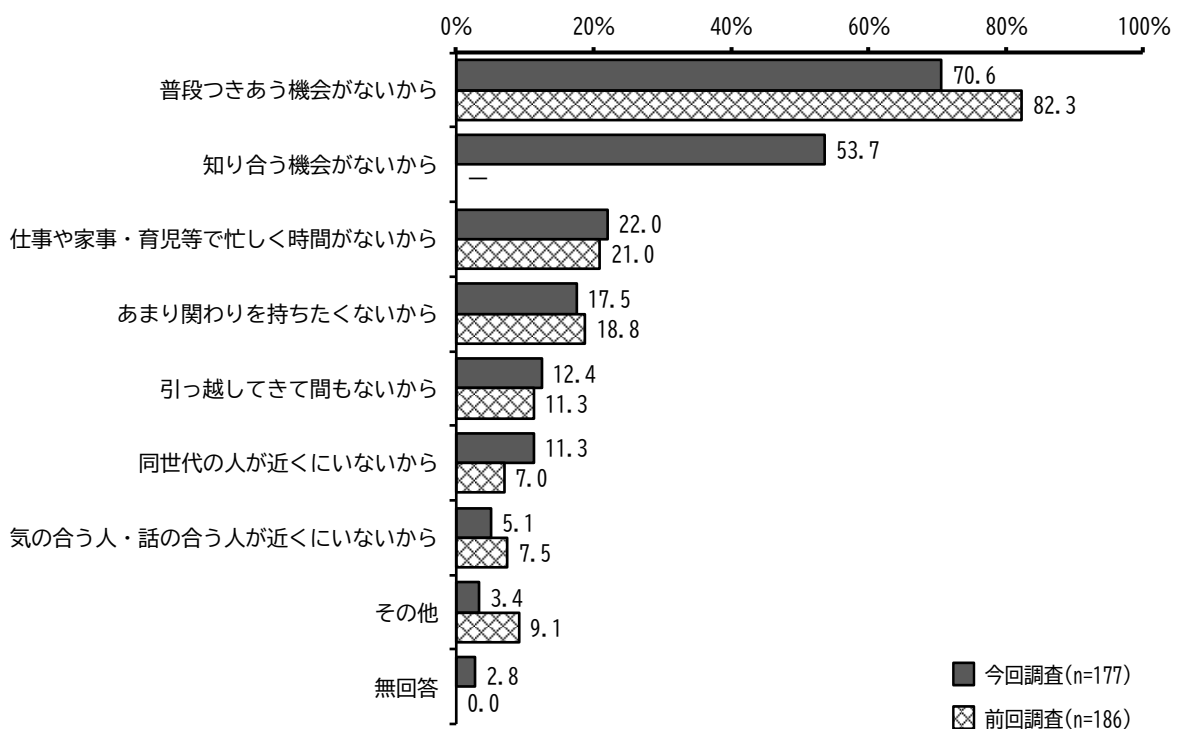
全体(n=117)

図表 近所づきあいをしない理由(全体、性・年代別：複数回答(3つまで))
 <近所づきあいについて「あいさつや会話は無いが、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる」、
 「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」と答えた方>

			普段つきあう機会がないから	仕事や家事・育児等で忙しく時間がないから	同世代の人が近くにいないから	引っ越してきて間もないから	気の合う人・話の合う人が近くにいないから
全体	(n=177)	70.6	22.0	11.3	12.4	5.1	
性・年代	男性-18~39歳 (n=37)	78.4	16.2	18.9	2.7	5.4	
	男性-40~64歳 (n=44)	61.4	20.5	2.3	6.8	6.8	
	男性-65~74歳 (n=9)	88.9	0.0	0.0	0.0	11.1	
	男性-75歳以上 (n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
	女性-18~39歳 (n=39)	69.2	30.8	15.4	17.9	0.0	
	女性-40~64歳 (n=28)	82.1	39.3	7.1	14.3	0.0	
	女性-65~74歳 (n=8)	37.5	12.5	25.0	50.0	12.5	
	女性-75歳以上 (n=9)	66.7	0.0	22.2	33.3	11.1	

			あまり関わりを持ちたくないから	知り合う機会がないから	その他	無回答
全体	(n=177)	17.5	53.7	3.4	2.8	
性・年代	男性-18~39歳 (n=37)	18.9	56.8	5.4	0.0	
	男性-40~64歳 (n=44)	25.0	52.3	4.5	2.3	
	男性-65~74歳 (n=9)	11.1	55.6	0.0	0.0	
	男性-75歳以上 (n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	
	女性-18~39歳 (n=39)	12.8	56.4	2.6	2.6	
	女性-40~64歳 (n=28)	14.3	50.0	3.6	3.6	
	女性-65~74歳 (n=8)	12.5	50.0	0.0	12.5	
	女性-75歳以上 (n=9)	11.1	55.6	0.0	11.1	

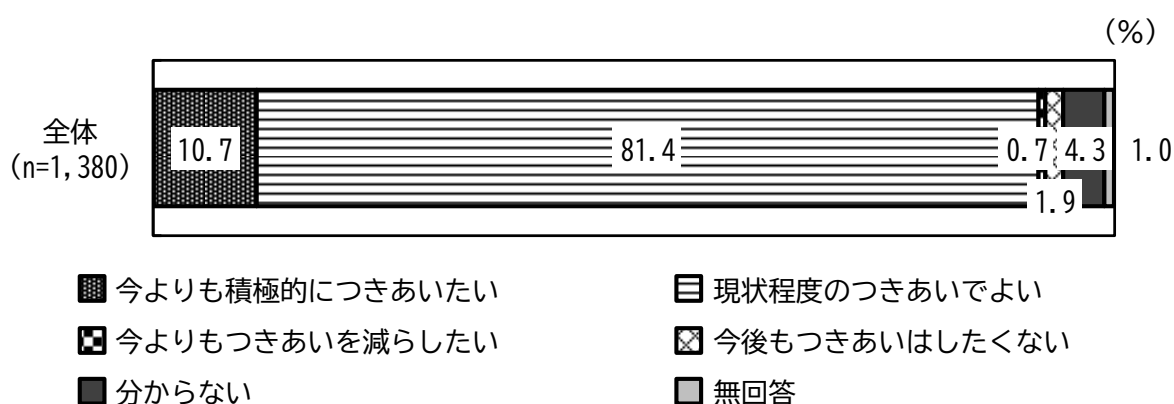
図表 近所づきあいをしない理由(全体：複数回答(3つまで))【経年比較】
 <今回調査は「あいさつや会話は無いが、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる」
 または「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」と回答した方のみ>
 <前回調査は「ほとんど近所づきあいをしない」と回答した方のみ>



問3 あなたは、今後の近所づきあいについて、どのようにお考えですか。（1つに○）

- ・「現状程度のつきあいでよい」が81.4%と最も多く、「今よりもつきあいを減らしたい」が0.7%と最も少なくなっている。
- ・性・年代別では、男性も女性もすべての年代で「現状程度のつきあいでよい」が最も多く、65～74歳まで年代が上がるにつれて割合が高くなっており、男性の65～74歳で86.0%、女性の65～74歳で91.2%となっている。
- ・問2の近所づきあいの現状の回答別では、「個人的なことを話し合える人がいる」と回答した人は「今よりも積極的につきあいたい」が18.6%と高くなっている。また、「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」と回答した人は「分からない」が29.2%と高くなっている。

図表 今後の近所づきあいについて（全体）



図表 今後の近所づきあいについて（全体、性・年代別、近隣との付き合いの程度別）

		今よりも積極的につきあいたい	現状程度のつきあいでよい	今よりもつきあいを減らしたい	今後もつきあいはしたくない	分からない	無回答
全体 (n=1,380)		10.7	81.4	0.7	1.9	4.3	1.0
性・年代	男性-18～39歳 (n=113)	12.4	75.2	0.0	5.3	6.2	0.9
	男性-40～64歳 (n=321)	10.9	78.8	0.6	2.5	6.2	0.9
	男性-65～74歳 (n=114)	9.6	86.0	0.9	0.0	2.6	0.9
	男性-75歳以上 (n=61)	9.8	85.2	0.0	0.0	1.6	3.3
	女性-18～39歳 (n=161)	10.6	79.5	0.0	3.1	6.8	0.0
	女性-40～64歳 (n=343)	12.0	81.3	1.2	1.7	3.2	0.6
	女性-65～74歳 (n=125)	4.8	91.2	0.8	0.0	2.4	0.8
	女性-75歳以上 (n=118)	10.2	83.9	0.0	0.8	3.4	1.7
近所づきあいの現状	個人的なことを相談し合える人がいる (n=129)	18.6	80.6	0.0	0.0	0.8	0.0
	さしさわりのないことなら、話せる人がいる (n=462)	10.8	87.2	0.6	0.0	0.4	0.9
	道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる (n=601)	9.5	84.0	1.0	1.5	3.3	0.7
	あいさつや会話はしないが、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる (n=81)	8.6	76.5	0.0	3.7	11.1	0.0
	全く交流はなく、近隣に住む人を知らない (n=96)	10.4	43.8	0.0	14.6	29.2	2.1

(3) 支え合いに関する意識について

- 問4 (ア) あなたは、近隣に高齢者や障害等のある方、子育てなどで困っている世帯があった場合、次のような手助けをすることができますか。(手助けできること)
- (イ) あなたは、次のような手助けをしている又はしたことがありますか。(手助けしている又はしたと)
- (ウ) あなたは困っているときに、近隣の人に次のような手助けをしてほしいと思いますか。(手助けしてほしいこと)
- (1)～(10)の(ア)手助けできること、(イ)手助けしている又はしたと、(ウ)手助けしてほしいことについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。(1つに○)

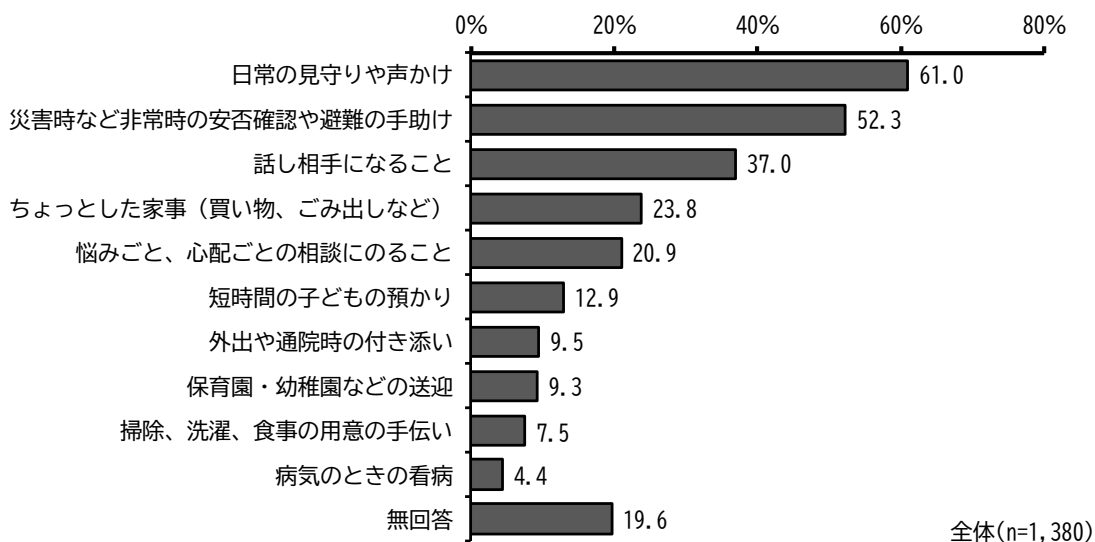
図表 近隣で手助けできること、手助けしている又はしたと、手助けしてほしいこと
(全体：複数回答)

	(%)		
	(ア)	(イ)	(ウ)
手助けできること		手助けしている又はしたと	手助けしてほしいこと
全体 (N=1,380)			
(1) 日常の見守りや声かけ	61.0	19.1	19.6
(2) 話し相手になること	37.0	14.9	8.7
(3) 悩みごと、心配ごとの相談にのること	20.9	6.5	6.6
(4) ちょっとした家事(買い物、ごみ出しなど)	23.8	3.8	5.8
(5) 掃除、洗濯、食事の用意の手伝い	7.5	2.0	3.5
(6) 短時間の子どもの預かり	12.9	4.7	6.4
(7) 保育園・幼稚園などの送迎	9.3	3.0	3.8
(8) 外出や通院時の付き添い	9.5	2.2	3.0
(9) 病気のとときの看病	4.4	1.0	3.8
(10) 災害時など非常時の安否確認や避難の手助け	52.3	5.0	34.5
無回答	19.6	70.9	53.0

(ア) 近隣で手助けできること

- ・ 80.4%の人が近隣で手助けできることがある。
- ・ 「日常の見守りや声かけ」(61.0%)が最も多く、次いで「災害時など非常時の安否確認や避難の手助け」(52.3%)、「話し相手になること」(37.0%)と続いている。
- ・ 性・年代別では、男性は18～39歳及び40～64歳で「災害時など非常時の安否確認や避難の手助け」が最も多く、18～39歳で64.6%、40～64歳で64.2%となっている。
65～74歳及び75歳以上は「日常の見守りや声かけ」が最も多く、65～74歳で60.5%、75歳以上で50.8%となっている。女性はすべての年代で「日常の見守りや声かけ」が最も多く、特に40～64歳で74.6%と高くなっている。

図表 近隣で手助けできること (全体：複数回答)



図表 近隣で手助けできること (全体、性・年代別：複数回答)

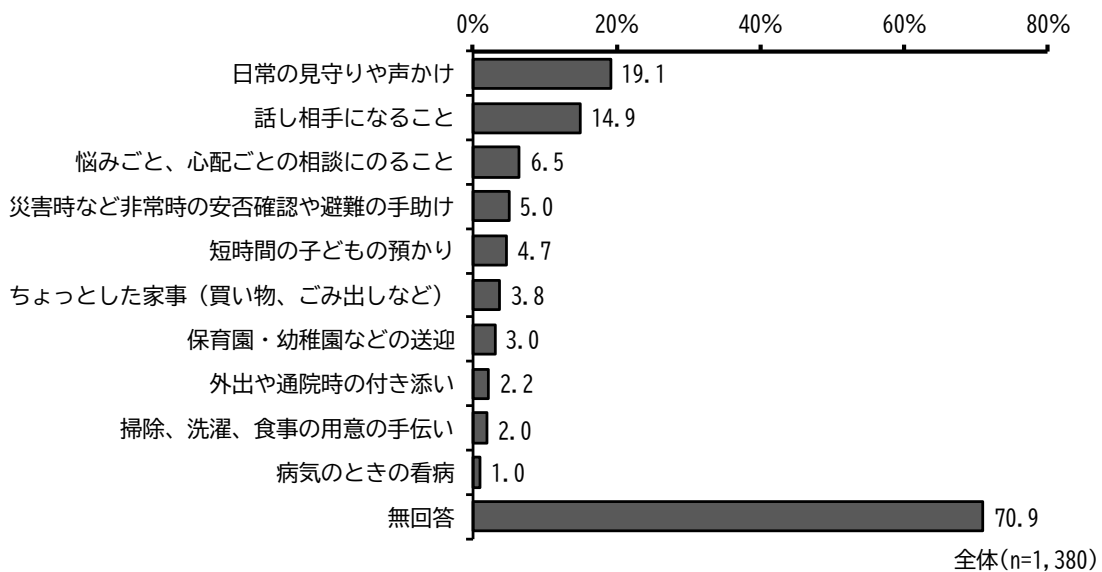
		(%)					
		日常の見守りや声かけ	話し相手になること	悩みごと、心配ごとの相談にのること	ちょっとした家事 (買い物、ごみ出しなど)	掃除、洗濯、食事の用意の手伝い	短時間の子どもの預かり
全体	(n=1,380)	61.0	37.0	20.9	23.8	7.5	12.9
性・年代	男性-18～39歳 (n=113)	50.4	30.1	23.0	18.6	10.6	21.2
	男性-40～64歳 (n=321)	59.5	33.3	17.8	14.6	3.4	9.0
	男性-65～74歳 (n=114)	60.5	28.9	15.8	14.9	0.9	7.0
	男性-75歳以上 (n=61)	50.8	36.1	23.0	21.3	11.5	11.5
	女性-18～39歳 (n=161)	62.7	45.3	29.8	25.5	12.4	19.9
	女性-40～64歳 (n=343)	74.6	42.9	25.9	34.7	8.2	14.9
	女性-65～74歳 (n=125)	64.0	41.6	12.8	31.2	10.4	12.8
	女性-75歳以上 (n=118)	40.7	30.5	13.6	22.0	8.5	7.6

		保育園・幼稚園などの送迎	外出や通院時の付き添い	病気のときの看病	災害時など非常時の安否確認や避難の手助け	無回答
全体	(n=1,380)	9.3	9.5	4.4	52.3	19.6
性・年代	男性-18～39歳 (n=113)	13.3	12.4	7.1	64.6	16.8
	男性-40～64歳 (n=321)	5.9	6.2	2.5	64.2	15.6
	男性-65～74歳 (n=114)	7.9	4.4	0.0	50.0	21.9
	男性-75歳以上 (n=61)	13.1	14.8	6.6	36.1	34.4
	女性-18～39歳 (n=161)	13.7	11.8	9.3	59.0	14.3
	女性-40～64歳 (n=343)	10.8	10.2	4.1	58.9	11.1
	女性-65～74歳 (n=125)	10.4	12.8	5.6	32.0	20.8
	女性-75歳以上 (n=118)	4.2	9.3	3.4	17.8	49.2

(イ) 近隣で手助けしている又はしたこと

- ・ 29.1%の人が近隣で手助けしている又はしたことがある。
- ・ 「日常の見守りや声かけ」(19.1%) が最も多く、次いで「話し相手になること」(14.9%)、「悩みごと、心配ごとの相談にのること」(6.5%) と続いている。
- ・ 性・年代別では、男性はすべての年代で「日常の見守りや声かけ」が最も多く、年代が上がるにつれて割合が高くなっている。女性は75歳以上で「話し相手になること」、それ以外の年代で「日常の見守りや声かけ」が最も多くなっている。18～39歳は「話し相手になること」も同率で最も多くなっている。

図表 近隣で手助けしている又はしたこと (全体：複数回答)



図表 近隣で手助けしている又はしたこと (全体、性・年代別：複数回答)

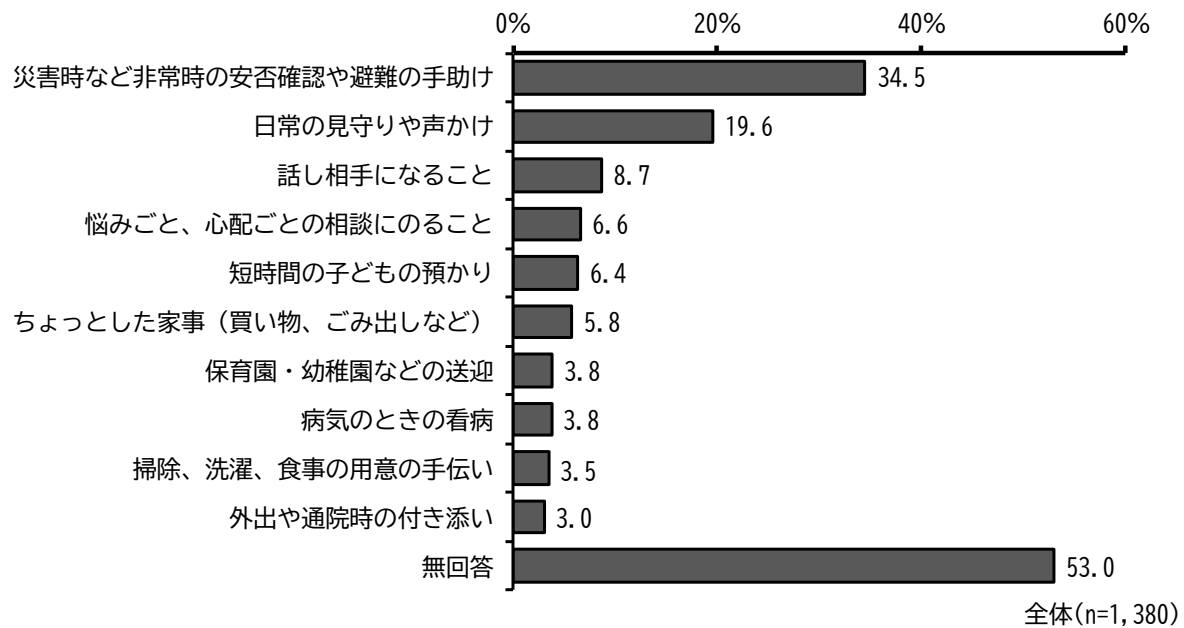
		(%)	日常の見守りや声かけ	話し相手になること	悩みごと、心配ごとの相談にのること	ちょっとした家事 (買い物、ごみ出しなど)	掃除、洗濯、食事の用意の手伝い	短時間の子どもの預かり
全体	(n=1,380)		19.1	14.9	6.5	3.8	2.0	4.7
性・年代	男性-18～39歳 (n=113)		14.2	8.0	3.5	0.9	0.9	1.8
	男性-40～64歳 (n=321)		15.3	9.0	4.4	3.7	0.9	3.7
	男性-65～74歳 (n=114)		19.3	14.0	6.1	0.0	0.9	2.6
	男性-75歳以上 (n=61)		23.0	19.7	8.2	9.8	1.6	8.2
	女性-18～39歳 (n=161)		13.7	13.7	6.8	2.5	3.1	5.0
	女性-40～64歳 (n=343)		23.6	18.1	7.9	3.5	1.7	7.3
	女性-65～74歳 (n=125)		24.0	20.8	7.2	4.8	3.2	5.6
	女性-75歳以上 (n=118)		22.9	23.7	10.2	8.5	5.1	2.5

		保育園・幼稚園などの送迎	外出や通院時の付き添い	病気のときの看病	災害時など非常時の安否確認や避難の手助け	無回答
全体	(n=1,380)	3.0	2.2	1.0	5.0	70.9
性・年代	男性-18～39歳 (n=113)	0.0	0.0	0.0	5.3	80.5
	男性-40～64歳 (n=321)	2.2	0.6	0.3	6.2	76.3
	男性-65～74歳 (n=114)	3.5	3.5	1.8	7.9	68.4
	男性-75歳以上 (n=61)	9.8	3.3	4.9	6.6	67.2
	女性-18～39歳 (n=161)	0.0	1.2	1.2	3.1	75.2
	女性-40～64歳 (n=343)	4.7	2.3	0.6	3.8	65.6
	女性-65～74歳 (n=125)	4.8	4.8	2.4	6.4	63.2
	女性-75歳以上 (n=118)	2.5	5.9	0.8	2.5	66.9

(ウ) 近隣で手助けしてほしいこと

- ・ 47. 0%の人が近隣で手助けしてほしいことがある。
- ・ 「災害時など非常時の安否確認や避難の手助け」(34.5%)が最も多く、次いで「日常の見守りや声かけ」(19.6%)、「話し相手になること」(8.7%)と続いている。
- ・ 性・年代別では、男女ともにすべての年代で「災害時など非常時の安否確認や避難の手助け」が最も多く、次いで、「日常の見守りや声かけ」が多い。

図表 近隣で手助けしてほしいこと (全体：複数回答)



図表 近隣で手助けしてほしいこと (全体、性・年代別：複数回答)

		日常の見守りや声かけ	話し相手になること	悩みごと、心配ごとの相談にのること	ちょっとした家事(買い物、ごみ出しなど)	掃除、洗濯、食事の用意の手伝い	短時間の子どもの預かり
全体	(n=1,380)	19.6	8.7	6.6	5.8	3.5	6.4
性・年代	男性-18~39歳 (n=113)	23.0	13.3	13.3	7.1	4.4	15.0
	男性-40~64歳 (n=321)	13.1	4.7	3.4	5.0	2.5	3.4
	男性-65~74歳 (n=114)	20.2	7.0	2.6	4.4	2.6	0.9
	男性-75歳以上 (n=61)	19.7	6.6	8.2	8.2	4.9	0.0
	女性-18~39歳 (n=161)	28.6	16.8	14.9	7.5	5.6	21.1
	女性-40~64歳 (n=343)	21.0	8.2	7.0	4.7	3.8	6.7
	女性-65~74歳 (n=125)	23.2	8.8	3.2	5.6	2.4	0.8
	女性-75歳以上 (n=118)	14.4	9.3	3.4	7.6	3.4	0.8

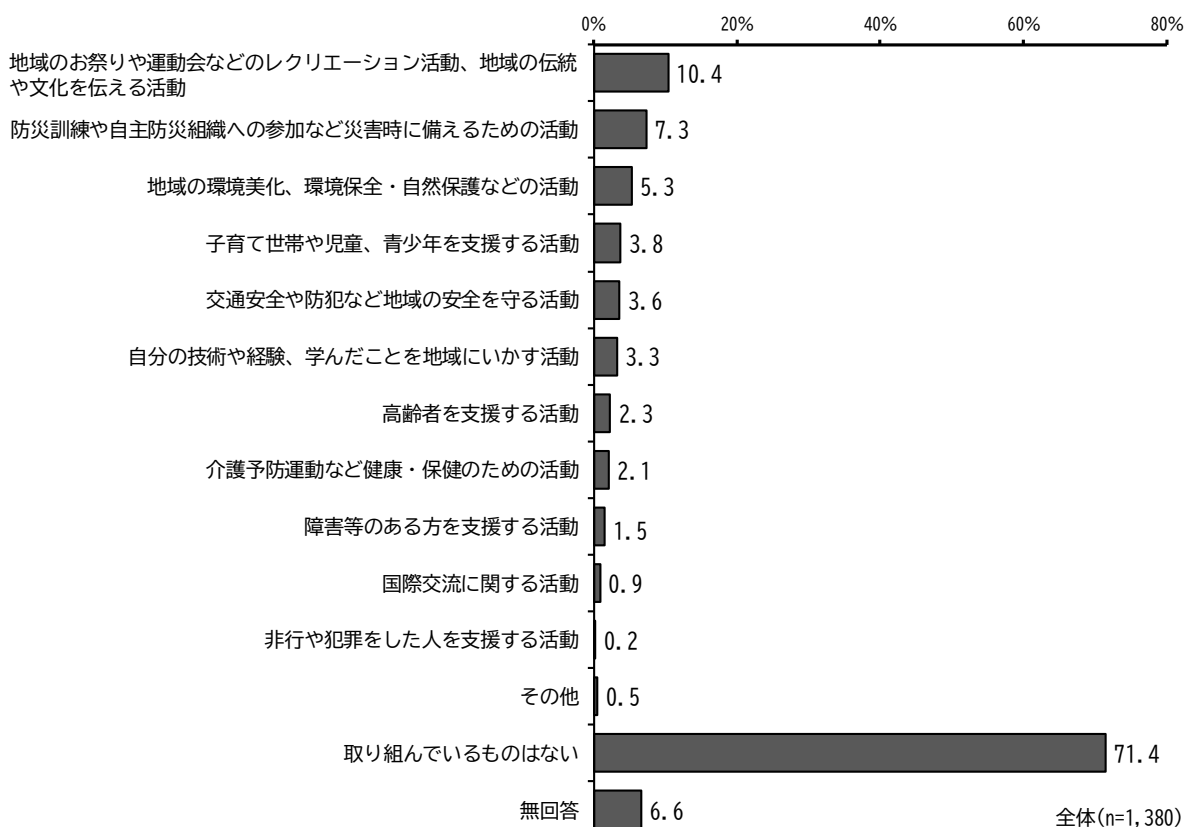
		保育園・幼稚園などの送迎	外出や通院時の付き添い	病気のときの看病	災害時など非常時の安否確認や避難の手助け	無回答
全体	(n=1,380)	3.8	3.0	3.8	34.5	53.0
性・年代	男性-18~39歳 (n=113)	10.6	5.3	6.2	43.4	36.3
	男性-40~64歳 (n=321)	1.2	0.6	2.8	30.5	60.7
	男性-65~74歳 (n=114)	0.9	2.6	4.4	24.6	63.2
	男性-75歳以上 (n=61)	0.0	3.3	6.6	23.0	65.6
	女性-18~39歳 (n=161)	13.0	6.2	6.2	52.2	29.2
	女性-40~64歳 (n=343)	3.8	3.8	2.3	35.3	52.8
	女性-65~74歳 (n=125)	0.8	2.4	3.2	29.6	56.8
	女性-75歳以上 (n=118)	0.8	2.5	3.4	33.1	56.8

(4) 地域活動・ボランティア活動について

問5 あなたは、次のような地域での活動やボランティアに取り組んでいますか。(いくつでも○)

- ・ 22.0%の人が地域での活動やボランティアに取り組んでいる。
- ・ 取り組んでいる内容としては、「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(10.4%)が最も多く、次いで「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」(7.3%)、「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」(5.3%)と続いている。
- ・ 性・年代別では、男性の65～74歳は、「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」及び「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」で全体を5.0ポイント以上上回っている。また、男性の75歳以上は、「交通安全や防犯など地域の安全を守る活動」で全体を5.0ポイント以上、「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」及び「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」で全体を10.0ポイント以上上回っている。女性の65～74歳は、「介護予防運動など健康・保健のための活動」で全体を5.0ポイント以上上回っている。また、女性の75歳以上は、「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」、「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」、「介護予防運動など健康・保健のための活動」及び「自分の技術や経験、学んだことを地域にいかす活動」で全体を5.0ポイント以上上回っている。
- ・ 「取り組んでいるものはない」は、男女とも年代が上がるほど割合が下がる。男性の18～39歳が82.3%、女性の18～39歳が88.2%となっている。

図表 地域活動・ボランティア活動の取組状況(活動内容)(全体:複数回答)



図表 地域活動・ボランティア活動の取組状況（活動内容）
（全体、性・年代別、文化センター圏域別：複数回答）

(%)

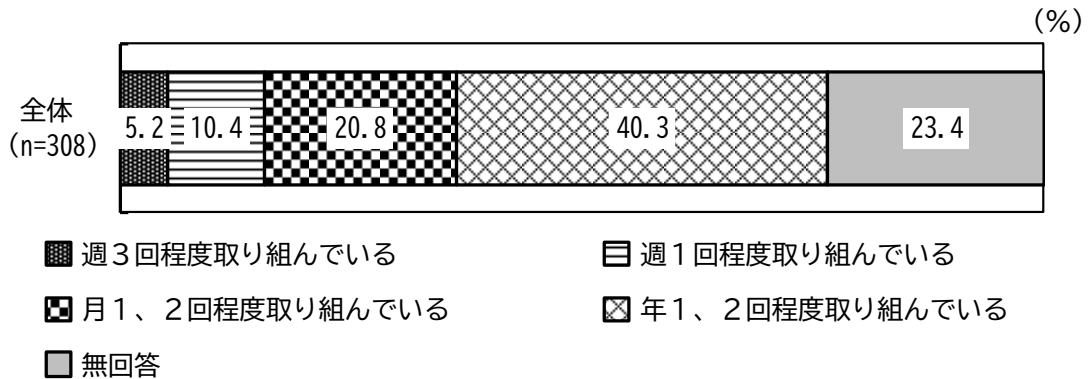
			子育て世帯 や児童、青 少年を支援 する活動	高齢者を支 援する活動	障害等のある 方を支援 する活動	交通安全や 防犯など地 域の安全を 守る活動	非行や犯罪 をした人を 支援する活 動	地域の環境 美化、環境 保全・自然 保護などの 活動	国際交流に 関する活動
全体		(n=1,380)	3.8	2.3	1.5	3.6	0.2	5.3	0.9
性・年代	男性-18～39歳	(n=113)	2.7	0.9	1.8	1.8	0.0	2.7	0.0
	男性-40～64歳	(n=321)	3.7	1.2	1.2	2.5	0.0	2.5	0.0
	男性-65～74歳	(n=114)	6.1	2.6	0.0	7.0	2.6	11.4	2.6
	男性-75歳以上	(n=61)	4.9	4.9	0.0	11.5	0.0	16.4	0.0
	女性-18～39歳	(n=161)	1.2	0.6	1.2	1.2	0.0	1.9	0.0
	女性-40～64歳	(n=343)	4.1	1.2	1.7	5.0	0.0	3.5	2.0
	女性-65～74歳	(n=125)	6.4	6.4	2.4	3.2	0.0	8.8	0.8
女性-75歳以上	(n=118)	1.7	5.9	3.4	1.7	0.0	11.0	0.8	
文化 センター 圏域	中央文化センター圏域	(n=246)	3.7	2.0	2.4	2.8	0.4	5.3	0.8
	白糸台文化センター圏域	(n=150)	3.3	0.7	0.7	3.3	0.0	5.3	2.0
	西府文化センター圏域	(n=118)	1.7	1.7	0.8	1.7	0.0	4.2	0.0
	武蔵台文化センター圏域	(n=86)	5.8	1.2	1.2	5.8	0.0	3.5	1.2
	新町文化センター圏域	(n=137)	5.8	5.1	1.5	4.4	0.0	5.1	2.2
	住吉文化センター圏域	(n=141)	6.4	2.1	2.1	2.8	0.7	5.7	0.0
	是政文化センター圏域	(n=108)	2.8	2.8	2.8	5.6	0.9	10.2	0.0
	紅葉丘文化センター圏域	(n=116)	5.2	1.7	0.0	5.2	0.0	4.3	0.0
	押立文化センター圏域	(n=60)	3.3	5.0	1.7	3.3	0.0	3.3	0.0
	四谷文化センター圏域	(n=69)	2.9	2.9	1.4	1.4	0.0	7.2	0.0
片町文化センター圏域	(n=131)	0.8	2.3	1.5	4.6	0.0	4.6	2.3	

			防災訓練や 自主防災組 織への参加 など災害時 に備えるた めの活動	介護予防運 動など健 康・保健の ための活動	地域のお祭 りや運動会 などのレク リエーション 活動、地 域の伝統や 文化を伝え る活動	自分の技術 や経験、学 んだことを 地域にいか す活動	取り組んで いるものは ない	その他	無回答
全体		(n=1,380)	7.3	2.1	10.4	3.3	71.4	0.5	6.6
性・年代	男性-18～39歳	(n=113)	2.7	1.8	7.1	0.9	82.3	0.9	3.5
	男性-40～64歳	(n=321)	5.3	0.0	11.5	3.1	79.8	0.6	2.2
	男性-65～74歳	(n=114)	15.8	1.8	14.0	2.6	57.9	0.9	10.5
	男性-75歳以上	(n=61)	21.3	4.9	11.5	6.6	52.5	0.0	16.4
	女性-18～39歳	(n=161)	1.9	0.6	4.3	1.2	88.2	0.0	0.6
	女性-40～64歳	(n=343)	5.5	0.3	11.4	1.5	72.0	0.6	5.2
	女性-65～74歳	(n=125)	8.8	8.0	11.2	5.6	58.4	0.8	12.0
女性-75歳以上	(n=118)	13.6	8.5	12.7	11.0	52.5	0.0	15.3	
文化 センター 圏域	中央文化センター圏域	(n=246)	5.3	2.0	11.4	4.5	72.4	0.0	6.1
	白糸台文化センター圏域	(n=150)	6.7	1.3	12.0	2.0	74.0	0.0	6.0
	西府文化センター圏域	(n=118)	5.9	2.5	11.0	2.5	78.0	0.0	5.1
	武蔵台文化センター圏域	(n=86)	14.0	1.2	11.6	2.3	72.1	0.0	5.8
	新町文化センター圏域	(n=137)	8.0	1.5	10.2	3.6	70.1	0.7	6.6
	住吉文化センター圏域	(n=141)	7.8	3.5	9.9	5.0	66.7	0.7	7.8
	是政文化センター圏域	(n=108)	9.3	3.7	10.2	3.7	61.1	0.9	9.3
	紅葉丘文化センター圏域	(n=116)	7.8	1.7	9.5	4.3	76.7	0.0	6.0
	押立文化センター圏域	(n=60)	13.3	3.3	11.7	1.7	66.7	1.7	6.7
	四谷文化センター圏域	(n=69)	10.1	1.4	13.0	1.4	68.1	1.4	10.1
片町文化センター圏域	(n=131)	2.3	1.5	6.1	2.3	73.3	1.5	4.6	

問5-1 問5で「1. 子育て世帯や児童、青少年を支援する活動」～「11. 自分の技術や経験、学んだことを地域にいかす活動」、「13. その他」と答えた方におたずねします。あなたは、地域活動・ボランティア活動にどの程度取り組んでいますか。（1つに○）

- ・「年1、2回程度取り組んでいる」（40.3%）が最も多く、次いで「月1、2回程度取り組んでいる」（20.8%）、「週1回程度取り組んでいる」（10.4%）と続いている。

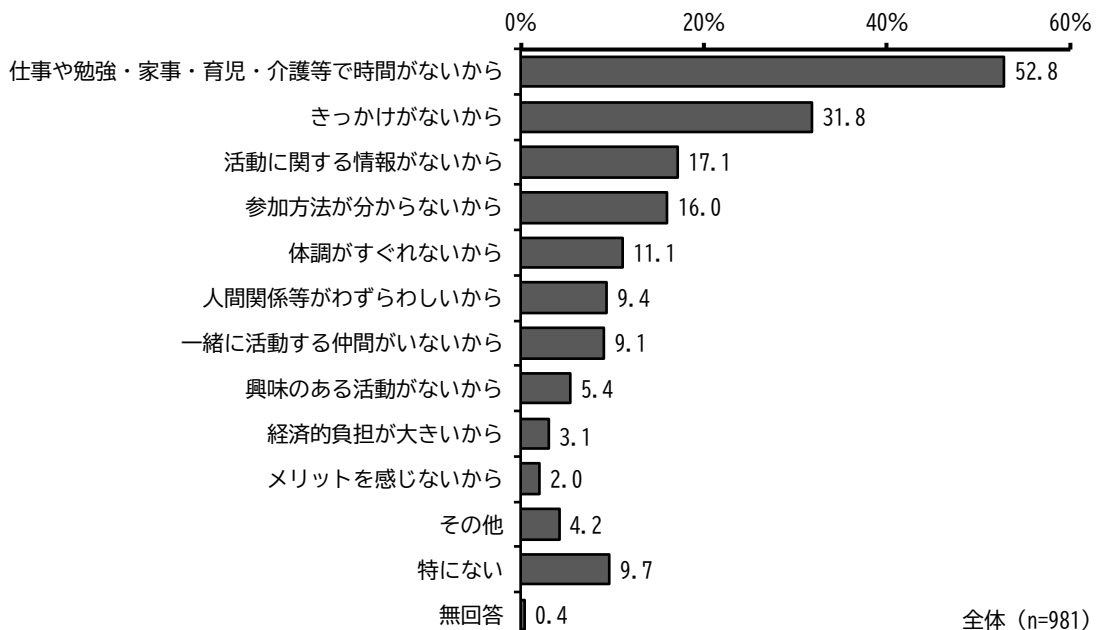
図表 地域活動・ボランティア活動の取組状況（活動頻度）（全体）
 <何らかの活動やボランティアをしていると答えた方>



問5-2 問5で「12. 取り組んでいるものはない」と答えた方におたずねします。活動していない主な理由は何ですか。（3つまで○）

- ・「仕事や勉強・家事・育児・介護等で時間がないから」（52.8%）が最も多く、次いで「きっかけがないから」（31.8%）、「活動に関する情報がないから」（17.1%）と続いている。
- ・性・年代別では、男性は75歳以上で「体調がすぐれないから」、それ以外の年代で「仕事や勉強・家事・育児・介護等で時間がないから」が最も多くなっている。女性は18～39歳、40～64歳で「仕事や勉強・家事・育児・介護等で時間がないから」が最も多く、65～74歳で「きっかけがないから」、75歳以上で「体調がすぐれないから」が最も多くなっている。

図表 地域活動・ボランティア活動をしていない主な理由（全体：複数回答（3つまで））
 <地域活動・ボランティア活動に「取り組んでいるものはない」と答えた方>



図表 地域活動・ボランティア活動をしていない主な理由(全体、性・年代別:複数回答(3つまで))
 <「取り組んでいるものはない」と答えた方>

(%)

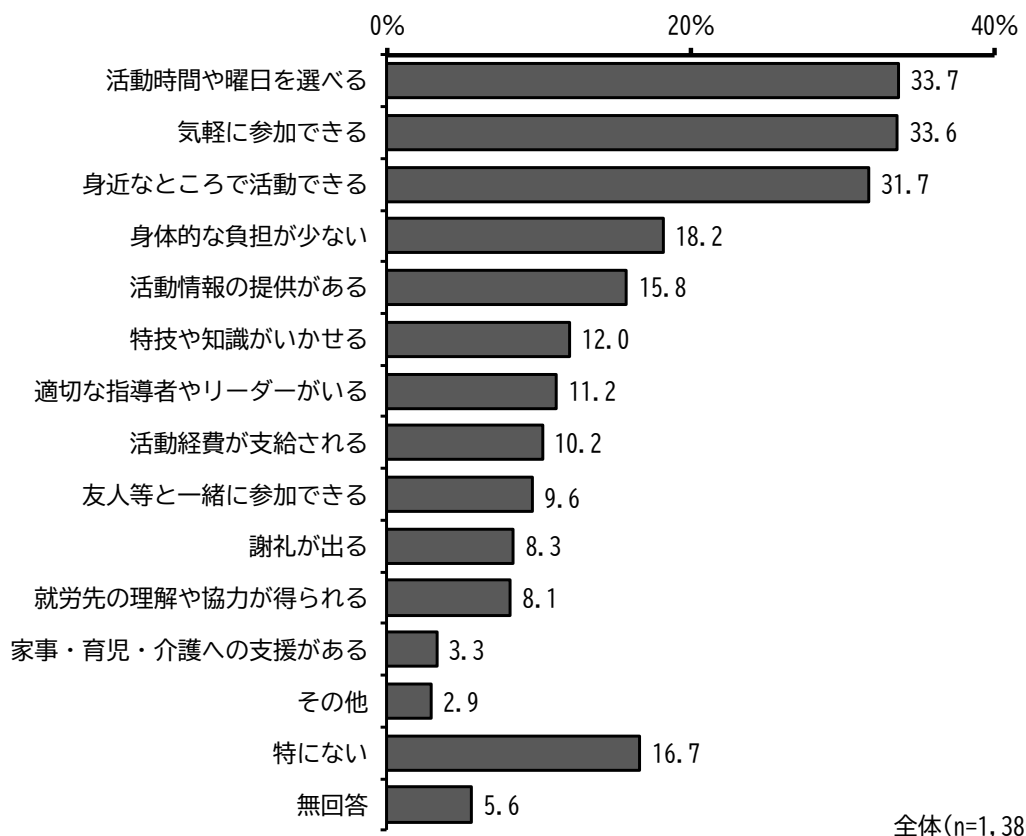
			興味のある活動がないから	活動に関する情報がないから	経済的負担が大きいから	メリットを感じないから	きっかけがないから	仕事や勉強・家事・育児・介護等で時間がないから	体調がすぐれないから
全体		(n=981)	5.4	17.1	3.1	2.0	31.8	52.8	11.1
性・年代	男性-18~39歳	(n=92)	8.7	16.3	4.3	13.0	32.6	64.1	4.3
	男性-40~64歳	(n=255)	5.1	17.3	2.4	2.0	32.9	53.7	4.3
	男性-65~74歳	(n=66)	4.5	22.7	0.0	1.5	34.8	47.0	10.6
	男性-75歳以上	(n=32)	0.0	21.9	3.1	0.0	34.4	3.1	50.0
	女性-18~39歳	(n=142)	9.2	14.8	2.8	1.4	33.8	66.2	4.2
	女性-40~64歳	(n=247)	3.6	20.2	4.5	0.0	31.6	65.6	10.9
	女性-65~74歳	(n=72)	4.2	8.3	1.4	0.0	36.1	30.6	20.8
	女性-75歳以上	(n=60)	5.0	11.7	1.7	0.0	15.0	10.0	33.3

			一緒に活動する仲間がいらないから	人間関係等がわづらわしいから	参加方法が分からないから	特になし	その他	無回答
全体		(n=981)	9.1	9.4	16.0	9.7	4.2	0.4
性・年代	男性-18~39歳	(n=92)	12.0	10.9	14.1	7.6	3.3	0.0
	男性-40~64歳	(n=255)	9.0	11.8	16.5	12.2	2.0	1.2
	男性-65~74歳	(n=66)	7.6	3.0	18.2	10.6	3.0	0.0
	男性-75歳以上	(n=32)	9.4	3.1	18.8	9.4	6.3	0.0
	女性-18~39歳	(n=142)	9.2	5.6	21.8	5.6	2.1	0.0
	女性-40~64歳	(n=247)	8.1	10.9	16.2	6.1	2.4	0.4
	女性-65~74歳	(n=72)	15.3	12.5	6.9	11.1	11.1	0.0
	女性-75歳以上	(n=60)	5.0	6.7	10.0	21.7	20.0	0.0

問6 あなたは、ボランティア活動について、どのような条件であれば、活動・参加したいと思いますか。
(3つまで○)

- ・「活動時間や曜日を選べる」(33.7%)が最も多く、次いで「気軽に参加できる」(33.6%)、「身近なところで活動できる」(31.7%)と続いている。
- ・性・年代別では、男性は75歳以上で「身近なところで活動できる」、それ以外の年代で「気軽に参加できる」が最も多くなっている。女性は18～39歳で「気軽に参加できる」、40～64歳で「活動時間や曜日を選べる」、65～74歳及び75歳以上で「身近なところで活動できる」が最も多くなっている。
- ・問5の地域活動・ボランティア活動の取組状況の回答別では、「取り組んでいる」と回答した人は、「活動時間や曜日を選べる」が最も多く、「取り組んでいない」と回答した人は「気軽に参加できる」が最も多くなっている。また、「特にない」は、「取り組んでいる」と回答した人は、3.9%と低いが、「取り組んでいない」と回答した人は、20.9%と高くなっている。

図表 ボランティア活動に活動・参加しやすい条件
(全体：複数回答(3つまで))



図表 ボランティア活動に活動・参加しやすい条件
(全体、性・年代別、地域活動・ボランティアの活動の取組状況別：複数回答（3つまで）)

(%)

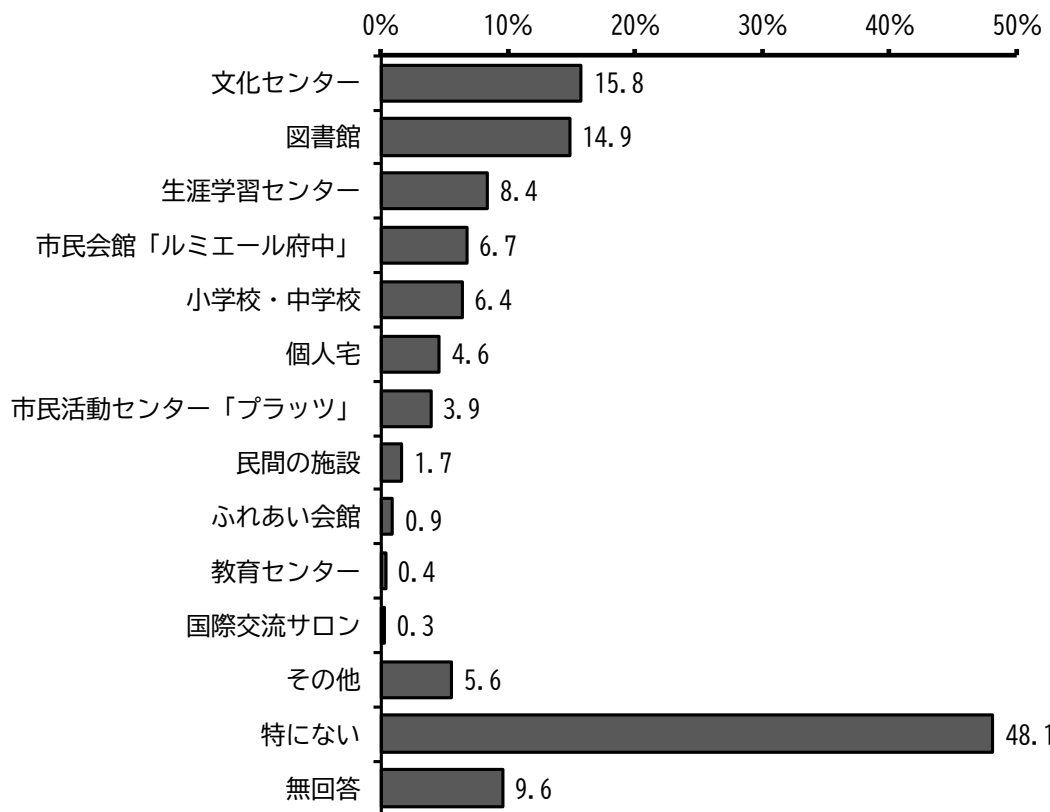
		活動情報の提供がある	友人等と一緒に参加できる	身近なところで活動できる	活動時間や曜日を選べる	気軽に参加できる	適切な指導者やリーダーがいる	特技や知識がいかせる	身体的な負担が少ない	
全体	(n=1,380)	15.8	9.6	31.7	33.7	33.6	11.2	12.0	18.2	
性・年代	男性-18~39歳	(n=113)	12.4	13.3	29.2	21.2	30.1	8.8	16.8	11.5
	男性-40~64歳	(n=321)	18.7	5.3	31.2	34.9	36.4	11.2	12.5	13.4
	男性-65~74歳	(n=114)	21.9	6.1	30.7	26.3	33.3	11.4	13.2	21.1
	男性-75歳以上	(n=61)	16.4	6.6	26.2	11.5	24.6	8.2	13.1	23.0
	女性-18~39歳	(n=161)	13.0	17.4	32.3	37.3	44.7	8.7	5.0	14.3
	女性-40~64歳	(n=343)	16.9	11.4	34.4	47.2	37.6	13.4	14.0	22.2
	女性-65~74歳	(n=125)	13.6	6.4	43.2	36.0	28.8	15.2	9.6	29.6
女性-75歳以上	(n=118)	9.3	8.5	19.5	17.8	14.4	8.5	10.2	14.4	
地域活動・ボランティア活動の取組状況	取り組んでいる	(n=308)	19.5	15.6	42.5	46.1	36.7	17.9	20.1	22.1
	取り組んでいない	(n=981)	15.3	8.2	30.0	31.8	34.4	9.3	10.2	17.1

		活動経費が支給される	謝礼が出る	家事・育児・介護への支援がある	就労先の理解や協力が得られる	特になし	その他	無回答	
全体	(n=1,380)	10.2	8.3	3.3	8.1	16.7	2.9	5.6	
性・年代	男性-18~39歳	(n=113)	23.0	23.0	4.4	12.4	16.8	0.0	2.7
	男性-40~64歳	(n=321)	11.2	8.7	1.6	14.0	18.1	2.5	2.8
	男性-65~74歳	(n=114)	3.5	2.6	0.0	0.9	24.6	0.9	7.9
	男性-75歳以上	(n=61)	6.6	1.6	0.0	1.6	21.3	6.6	13.1
	女性-18~39歳	(n=161)	16.1	18.6	15.5	8.7	11.2	0.6	0.0
	女性-40~64歳	(n=343)	9.9	7.3	2.9	10.5	10.8	2.3	3.5
	女性-65~74歳	(n=125)	6.4	0.8	0.0	0.8	15.2	5.6	8.8
女性-75歳以上	(n=118)	1.7	0.0	0.0	0.0	28.0	8.5	16.9	
地域活動・ボランティア活動の取組状況	取り組んでいる	(n=308)	11.7	8.8	1.9	4.9	3.9	4.2	4.9
	取り組んでいない	(n=981)	10.2	8.6	4.0	9.4	20.9	2.2	2.8

問7 あなたが活動の拠点として利用している施設はどれですか。(いくつでも○)

- ・ 42.3%の人が活動の拠点として利用している施設がある。
- ・ 活動の拠点として利用している施設としては、「文化センター」(15.8%)が最も多く、次いで「図書館」(14.9%)、「生涯学習センター」(8.4%)と続いている。
- ・ 性・年代別では、男性は18～39歳で「図書館」、それ以外の年代で「文化センター」が最も多くなっている。女性は18～39歳、40～64歳で「図書館」、65～74歳及び75歳以上で「文化センター」が最も多くなっている。また、女性は18～39歳で「市民会館「ルミエール府中」と「図書館」、40～64歳で「小学校・中学校」、75歳以上で「民間の施設」が全体を5.0ポイント以上上回っている。「特にない」は、男性の18～39歳、40～64歳及び女性の18～39歳以上で5割を超えて高くなっている。
- ・ 文化センター圏域別では、「文化センター」は、武蔵台文化センター圏域で30.2%と最も高く、中央文化センター圏域で4.9%と最も低くなっている。また、中央文化センター圏域で「市民会館「ルミエール府中」、新町文化センター圏域及び紅葉丘文化センター圏域で「生涯学習センター」、押立文化センター圏域で「民間の施設」が全体を5.0ポイント以上上回っている。「特にない」は、武蔵台文化センター圏域で39.5%と最も低く、白糸台文化センター圏域で59.3%と最も高くなっている。

図表 身近な活動拠点の利用状況(全体：複数回答)



全体(n=1,380)

図表 身近な活動拠点の利用状況（全体、性・年代別、文化センター圏域別：複数回答）

(%)

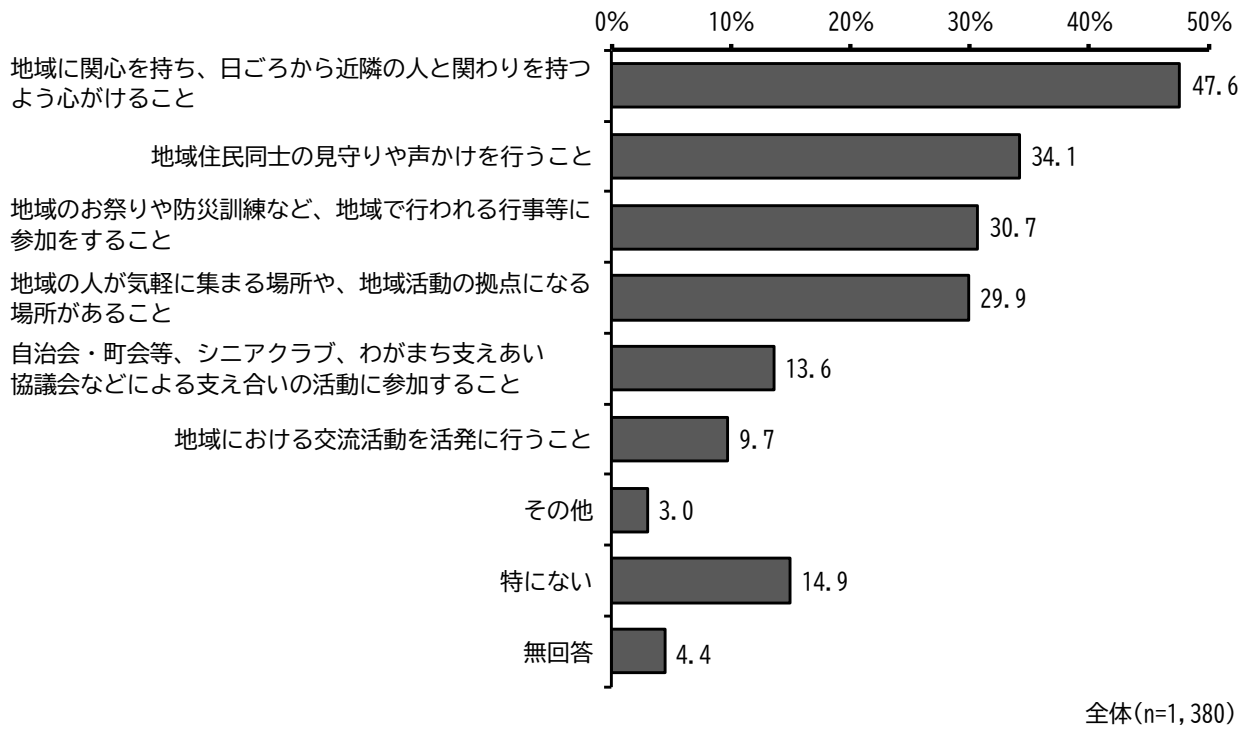
		文化センター	市民会館「ルミエール府中」	市民活動センター「プラッツ」	ふれあい会館	生涯学習センター	教育センター	国際交流サロン	
全体	(n=1,380)	15.8	6.7	3.9	0.9	8.4	0.4	0.3	
性・年代	男性-18~39歳	(n=113)	9.7	8.8	4.4	0.0	9.7	0.9	0.0
	男性-40~64歳	(n=321)	14.0	7.2	3.7	0.9	9.3	0.6	0.0
	男性-65~74歳	(n=114)	15.8	5.3	3.5	0.0	7.9	0.0	0.9
	男性-75歳以上	(n=61)	27.9	3.3	0.0	1.6	4.9	0.0	0.0
	女性-18~39歳	(n=161)	15.5	12.4	1.9	0.6	7.5	0.0	0.0
	女性-40~64歳	(n=343)	15.5	5.5	4.7	1.2	8.7	0.3	0.6
	女性-65~74歳	(n=125)	23.2	8.8	6.4	1.6	6.4	0.8	0.8
	女性-75歳以上	(n=118)	16.1	0.8	5.1	1.7	10.2	0.0	0.0
文化センター圏域	中央文化センター圏域	(n=246)	4.9	13.0	7.3	1.2	11.0	0.4	0.4
	白系台文化センター圏域	(n=150)	12.0	6.0	2.0	0.7	4.7	0.0	1.3
	西府文化センター圏域	(n=118)	22.9	5.1	5.1	0.0	5.9	0.0	0.0
	武蔵台文化センター圏域	(n=86)	30.2	3.5	1.2	1.2	3.5	1.2	0.0
	新町文化センター圏域	(n=137)	16.1	7.3	3.6	2.2	13.9	0.7	0.7
	住吉文化センター圏域	(n=141)	19.1	3.5	2.1	1.4	6.4	0.0	0.0
	是政文化センター圏域	(n=108)	18.5	3.7	4.6	0.9	9.3	0.9	0.0
	紅葉丘文化センター圏域	(n=116)	19.0	3.4	1.7	0.0	14.7	0.0	0.0
	押立文化センター圏域	(n=60)	23.3	6.7	5.0	1.7	13.3	1.7	0.0
	四谷文化センター圏域	(n=69)	18.8	7.2	4.3	0.0	4.3	0.0	0.0
片町文化センター圏域	(n=131)	10.7	6.1	3.8	0.8	3.8	0.0	0.0	

		図書館	小学校・中学校	民間の施設	個人宅	特になし	その他	無回答	
全体	(n=1,380)	14.9	6.4	1.7	4.6	48.1	5.6	9.6	
性・年代	男性-18~39歳	(n=113)	16.8	1.8	0.0	8.8	54.9	5.3	5.3
	男性-40~64歳	(n=321)	12.1	6.5	0.9	5.3	53.3	5.6	5.6
	男性-65~74歳	(n=114)	11.4	4.4	0.9	2.6	49.1	7.0	12.3
	男性-75歳以上	(n=61)	13.1	1.6	1.6	3.3	24.6	1.6	32.8
	女性-18~39歳	(n=161)	19.9	6.8	1.2	9.3	54.0	4.3	2.5
	女性-40~64歳	(n=343)	18.4	12.0	1.2	2.6	47.8	4.7	6.4
	女性-65~74歳	(n=125)	14.4	1.6	3.2	1.6	44.8	6.4	14.4
	女性-75歳以上	(n=118)	9.3	3.4	6.8	5.1	33.9	10.2	19.5
文化センター圏域	中央文化センター圏域	(n=246)	17.9	5.7	0.8	6.5	44.7	8.5	6.5
	白系台文化センター圏域	(n=150)	14.0	4.7	1.3	4.7	59.3	5.3	8.0
	西府文化センター圏域	(n=118)	15.3	8.5	1.7	0.8	50.0	3.4	5.9
	武蔵台文化センター圏域	(n=86)	18.6	7.0	1.2	1.2	39.5	8.1	9.3
	新町文化センター圏域	(n=137)	12.4	5.1	2.2	5.1	43.8	4.4	13.1
	住吉文化センター圏域	(n=141)	12.1	6.4	2.1	2.8	48.2	5.7	12.1
	是政文化センター圏域	(n=108)	13.0	11.1	1.9	4.6	40.7	3.7	16.7
	紅葉丘文化センター圏域	(n=116)	10.3	6.0	0.0	9.5	51.7	8.6	6.0
	押立文化センター圏域	(n=60)	18.3	6.7	6.7	6.7	43.3	1.7	10.0
	四谷文化センター圏域	(n=69)	11.6	10.1	1.4	4.3	52.2	4.3	11.6
片町文化センター圏域	(n=131)	19.8	3.8	2.3	3.8	51.9	3.8	9.2	

問8 あなたが思う、地域における支え合いをより充実するため必要なことはどれですか。（3つまで○）

- ・「地域に関心を持ち、日ごろから近隣の人と関わりを持つよう心がけること」（47.6%）が最も多く、次いで「地域住民同士の見守りや声かけを行うこと」（34.1%）、「地域のお祭りや防災訓練など、地域で行われる行事等に参加をすること」（30.7%）、と続いている。「特にない」は14.9%となっている。
- ・性別では、男性も女性も「地域に関心を持ち、日ごろから近隣の人と関わりを持つよう心がけること」が最も多く、男性は「地域のお祭りや防災訓練など、地域で行われる行事等に参加をすること」、女性は「地域住民同士の見守りや声かけを行うこと」が続いている。
- ・年齢別では、すべての年齢で「地域に関心を持ち、日ごろから近隣の人と関わりを持つよう心がけること」が最も多く、18～19歳、40～49歳、50～59歳、70～74歳、75歳以上で「地域住民同士の見守りや声かけを行うこと」、20～29歳、65～69歳で「地域のお祭りや防災訓練など、地域で行われる行事等に参加をすること」、30～39歳、60～64歳で「地域の人が気軽に集まる場所や、地域活動の拠点になる場所があること」が続いている。また、70～74歳は「地域のお祭りや防災訓練など、地域で行われる行事等に参加をすること」も同率で2位となっている。
- ・世帯構成別では、すべての世帯構成で「地域に関心を持ち、日ごろから近隣の人と関わりを持つよう心がけること」が最も多くなっている。ひとり暮らしは「特にない」が25.3%と2割を超えている。
- ・文化センター圏域別では、すべての圏域で「地域に関心を持ち、日ごろから近隣の人と関わりを持つよう心がけること」が最も多く、武蔵台文化センター圏域、住吉文化センター圏域、押立文化センター圏域で「地域のお祭りや防災訓練など、地域で行われる行事等に参加をすること」が続き、それ以外の地域で「地域住民同士の見守りや声かけを行うこと」が続いている。また、白糸台文化センター圏域は「地域の人が気軽に集まる場所や、地域活動の拠点になる場所があること」も同率で2番目に多くなっている。

図表 地域における支え合いをより充実するために必要なこと
(全体：複数回答（3つまで）)



図表 地域における支え合いをより充実するために必要なこと
(全体、性別、年齢別、世帯構成別、文化センター圏域別：複数回答（3つまで）)

		(n)	地域に関心を持ち、日ごろから近隣の人と関わりを持つよう心がけること	地域のお祭りや防災訓練など、地域で行われる行事等に参加をすること	自治会・町会等、シニアクラブ、わがまち支えあい協議会などによる支え合いの活動に参加すること	地域住民同士の見守りや声かけを行うこと	地域における交流活動を活発に行うこと	地域の人気軽が集まる場所や、地域活動の拠点になる場所があること	特にない	その他	無回答
全体		(n=1380)	47.6	30.7	13.6	34.1	9.7	29.9	14.9	3.0	4.4
性別	男性	(n=609)	45.2	31.0	14.3	28.9	11.3	29.9	17.6	3.6	3.8
	女性	(n=747)	49.5	30.8	13.1	38.8	8.3	29.9	12.9	2.4	4.7
年齢	18～19歳	(n=11)	63.6	27.3	0.0	54.5	9.1	27.3	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	(n=93)	49.5	35.5	5.4	34.4	15.1	30.1	11.8	3.2	1.1
	30～39歳	(n=173)	46.8	34.7	7.5	35.8	11.6	42.8	12.7	0.6	1.7
	40～49歳	(n=278)	49.6	35.6	7.2	37.8	8.6	27.0	14.0	5.4	1.4
	50～59歳	(n=278)	50.4	27.7	15.1	36.3	11.9	32.7	13.3	2.5	2.9
	60～64歳	(n=115)	48.7	23.5	16.5	31.3	11.3	32.2	18.3	4.3	2.6
	65～69歳	(n=110)	42.7	37.3	21.8	35.5	8.2	27.3	15.5	2.7	3.6
	70～74歳	(n=132)	46.2	31.8	21.2	31.8	9.8	22.0	18.2	0.0	9.8
75歳以上	(n=187)	42.2	21.9	19.3	25.1	3.7	23.5	18.7	3.7	12.8	
世帯構成	ひとり暮らし	(n=194)	39.7	22.2	10.3	26.3	8.2	33.0	25.3	3.1	4.6
	配偶者とふたり暮らし	(n=345)	48.1	29.3	16.8	33.3	11.0	30.4	11.6	2.3	5.8
	その他	(n=515)	55.0	37.7	13.4	38.4	9.7	29.9	9.9	3.9	1.9
文化センター圏域	中央文化センター圏域	(n=246)	46.7	32.1	15.0	35.4	12.2	34.6	13.0	2.4	4.1
	白糸台文化センター圏域	(n=150)	46.7	29.3	10.7	36.0	8.7	36.0	13.3	2.7	3.3
	西府文化センター圏域	(n=118)	46.6	25.4	15.3	36.4	11.0	33.1	17.8	1.7	3.4
	武蔵台文化センター圏域	(n=86)	54.7	39.5	11.6	29.1	11.6	27.9	9.3	4.7	5.8
	新町文化センター圏域	(n=137)	47.4	24.1	10.2	30.7	6.6	27.0	21.9	0.7	5.8
	住吉文化センター圏域	(n=141)	46.8	35.5	17.0	35.5	10.6	22.0	14.2	3.5	5.0
	是政文化センター圏域	(n=108)	47.2	26.9	20.4	34.3	9.3	30.6	15.7	2.8	5.6
	紅葉丘文化センター圏域	(n=116)	43.1	26.7	7.8	37.9	6.0	26.7	14.7	4.3	5.2
	押立文化センター圏域	(n=60)	53.3	43.3	26.7	26.7	8.3	31.7	13.3	1.7	3.3
	四谷文化センター圏域	(n=69)	55.1	30.4	7.2	37.7	10.1	29.0	8.7	5.8	2.9
片町文化センター圏域	(n=131)	46.6	32.8	11.5	33.6	9.9	27.5	17.6	3.8	3.1	

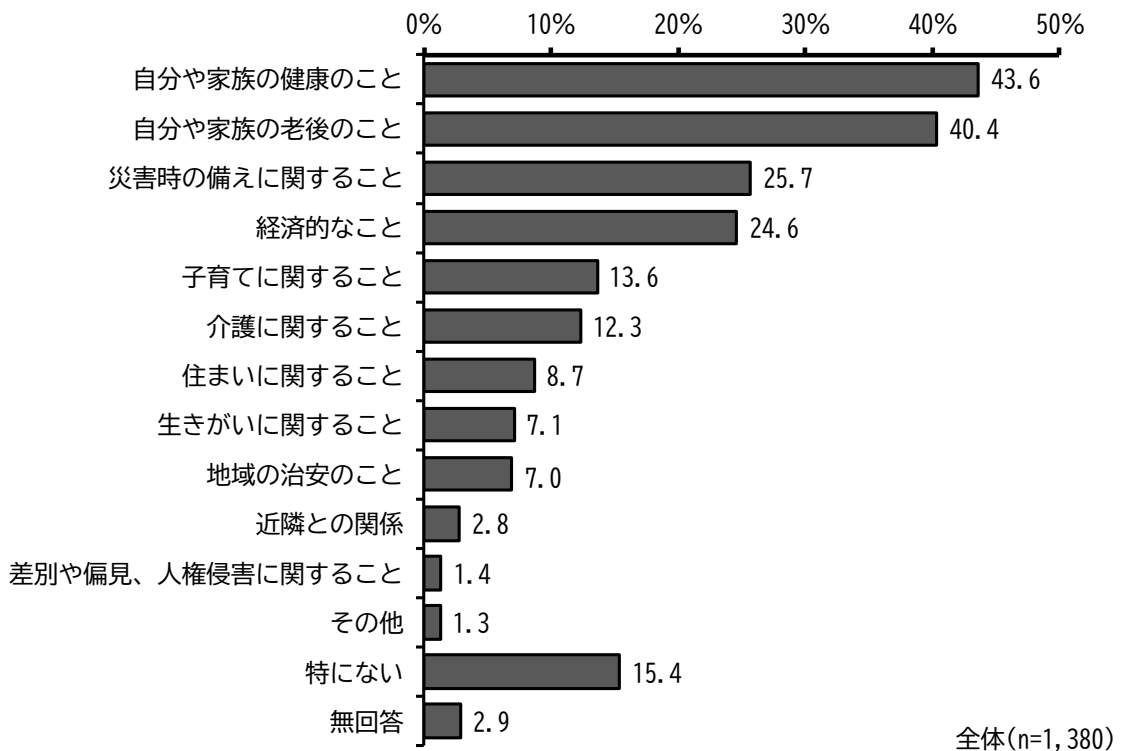
(5) 日ごろの悩みと相談について

問9 あなたは、あるいはご家族は現在、日常生活においてどのような悩みや不安を感じていますか。

(3つまで○)

- ・ 81.7%の人が日常生活において悩みや不安を感じている。
- ・ 「自分や家族の健康のこと」(43.6%)が最も多く、次いで「自分や家族の老後のこと」(40.4%)、「災害時の備えに関すること」(25.7%)と続いている。
- ・ 年齢別では、18～19歳及び50～59歳で「自分や家族の老後のこと」、20～29歳で「経済的なこと」、30～39歳で「子育てに関すること」、40～49歳及び60歳以上で「自分や家族の健康のこと」が最も多くなっている。

図表 日常生活における悩みや不安の内容(全体：複数回答(3つまで))



図表 日常生活における悩みや不安の内容（全体、年齢別：複数回答（3つまで））

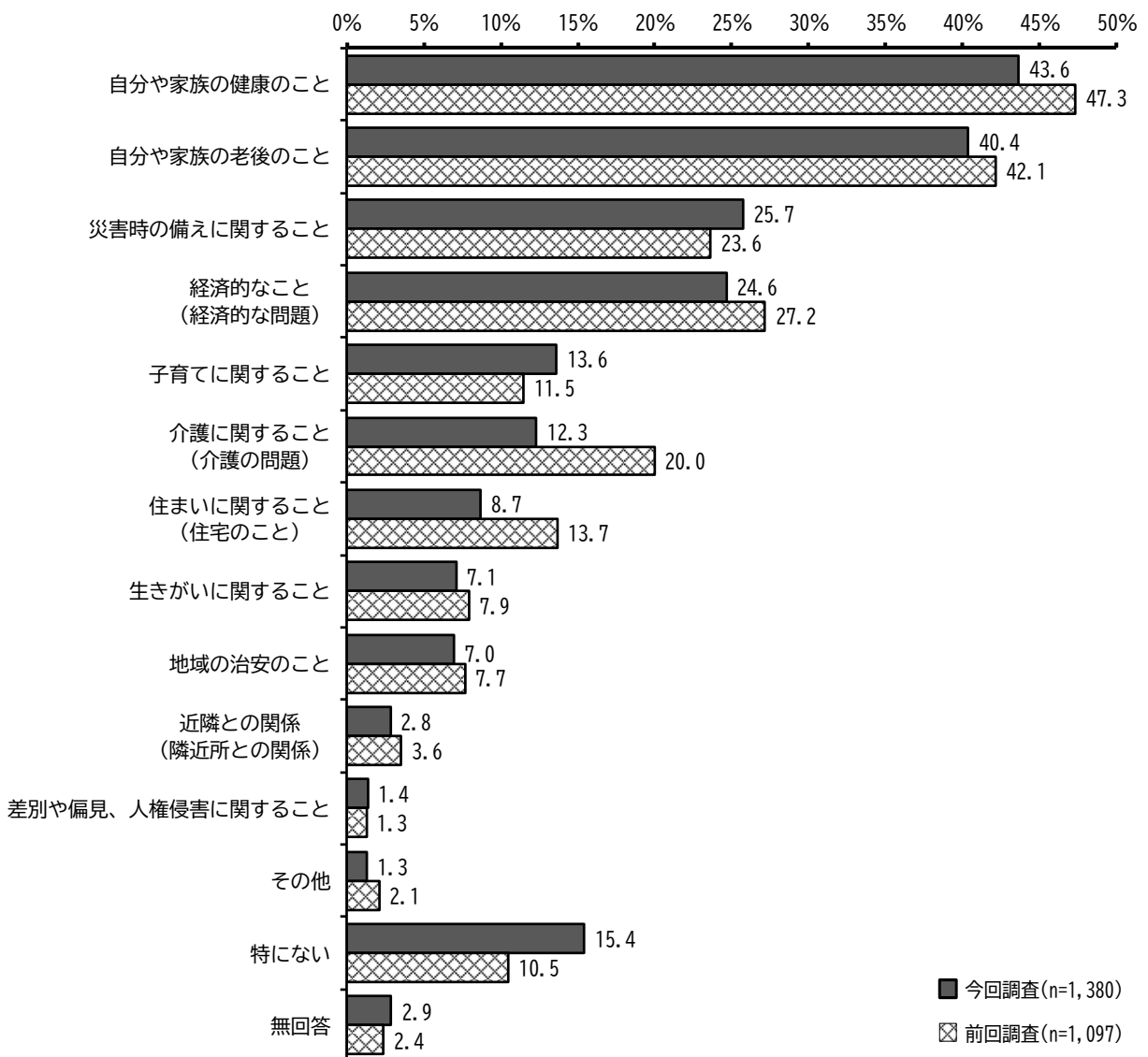
(%)

		自分や家族の健康のこと	自分や家族の老後のこと	生きがいに関すること	子育てに関すること	介護に関すること	経済的なこと	近隣との関係	
全体	(n=1,380)	43.6	40.4	7.1	13.6	12.3	24.6	2.8	
年齢	18～19歳	(n=11)	36.4	45.5	9.1	0.0	0.0	27.3	0.0
	20～29歳	(n=93)	36.6	26.9	9.7	14.0	7.5	38.7	0.0
	30～39歳	(n=173)	39.9	27.7	8.7	43.4	3.5	31.8	1.7
	40～49歳	(n=278)	38.8	37.4	6.1	27.7	7.9	31.3	4.3
	50～59歳	(n=278)	40.3	51.4	6.8	7.9	15.8	26.6	2.5
	60～64歳	(n=115)	47.8	47.0	13.0	0.0	13.9	22.6	4.3
	65～69歳	(n=110)	54.5	39.1	6.4	0.9	10.0	17.3	1.8
	70～74歳	(n=132)	45.5	40.9	3.8	0.0	13.6	14.4	3.8
	75歳以上	(n=187)	53.5	43.3	5.3	0.0	24.1	11.2	2.7

		住まいに関すること	地域の治安のこと	災害時の備えに関すること	差別や偏見、人権侵害に関すること	特にない	その他	無回答	
全体	(n=1,380)	8.7	7.0	25.7	1.4	15.4	1.3	2.9	
年齢	18～19歳	(n=11)	0.0	0.0	27.3	9.1	18.2	9.1	0.0
	20～29歳	(n=93)	5.4	7.5	28.0	2.2	18.3	2.2	0.0
	30～39歳	(n=173)	9.8	8.7	30.6	1.7	13.9	0.6	1.2
	40～49歳	(n=278)	9.4	9.7	26.3	2.2	14.0	1.4	2.2
	50～59歳	(n=278)	12.9	6.1	27.7	1.1	13.7	1.1	1.4
	60～64歳	(n=115)	6.1	7.0	20.9	0.0	15.7	0.9	1.7
	65～69歳	(n=110)	9.1	2.7	24.5	0.9	20.9	1.8	2.7
	70～74歳	(n=132)	7.6	3.0	18.9	0.0	22.0	0.0	6.8
	75歳以上	(n=187)	4.8	8.0	24.6	1.6	11.8	2.1	7.0

- ・ 前回調査結果と今回調査結果を比較すると、今回調査結果も前回調査結果と同様に「自分や家族の健康のこと」(43.6%)が最も多く、次いで「自分や家族の老後のこと」(40.4%)となっている。一方、前回調査では、「経済的なこと」(27.2%)が3番目に多かったが、今回調査では、「災害時の備えに関すること」(25.7%)が3番目に多かった。また、今回調査では、前回調査より「介護に関すること」は7.7ポイント、「住まいに関すること」は5.0ポイント低くなっている。また、「特にない」が10.5%だったが、今回調査では15.4%と高くなっている。
- ・ 福祉エリア別では、今回調査は前回調査より「子育てに関すること」が、第四地区と第六地区で5.0ポイント以上高くなっており、「災害時の備えに関すること」が、第五地区と第六地区で8.6ポイント以上高くなっている。一方、「介護に関すること」は、すべての圏域で割合が低くなっており、特に第四地区で11.7ポイント低くなっている。また、「特にない」の割合は、すべての圏域で前回調査より今回調査の方が高くなっている。

図表 日常生活における悩みや不安の内容(全体：複数回答(3つまで))【経年比較】



※今回調査と前回調査で異なる選択肢は、()内に前回調査の選択肢を記載。

図表 日常生活における悩みや不安の内容
(全体、福祉エリア別：複数回答（3つまで））【経年比較】

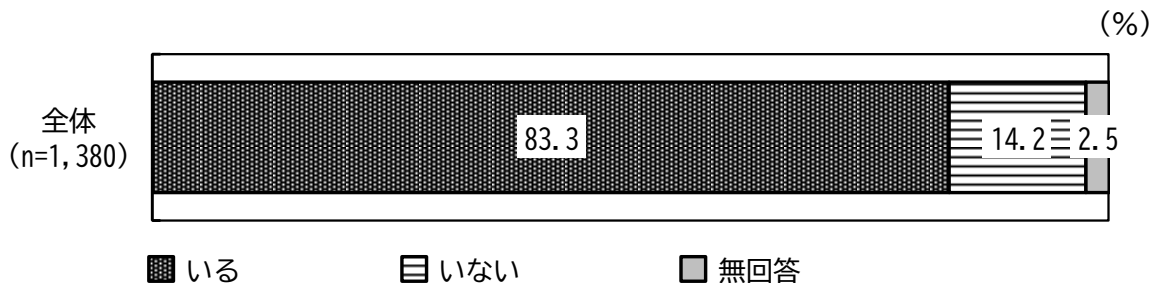
			(%)							
			自分や家族の健康のこと	自分や家族の老後のこと	生きがいに関する	子育てに関する	介護に関すること (介護の問題)	経済的なこと (経済的な問題)	近隣との関係 (隣近所との関係)	
全体	今回調査	(n=1,380)	43.6	40.4	7.1	13.6	12.3	24.6	2.8	
	前回調査	(n=1,097)	47.3	42.1	7.9	11.5	20.0	27.2	3.6	
福祉エリア	第一地区	今回調査	(n=288)	44.4	42.7	8.7	13.5	12.2	25.7	4.2
		前回調査	(n=217)	45.6	38.7	6.9	14.7	20.3	30.0	2.3
	第二地区	今回調査	(n=263)	41.1	42.2	7.6	11.0	13.3	25.5	2.3
		前回調査	(n=211)	46.9	40.3	10.4	11.8	17.1	29.9	2.8
	第三地区	今回調査	(n=229)	45.4	41.9	4.4	12.7	13.1	22.7	2.2
		前回調査	(n=183)	43.2	42.1	8.2	9.8	20.8	22.4	3.8
	第四地区	今回調査	(n=169)	39.1	36.1	6.5	13.6	10.7	21.9	1.2
		前回調査	(n=143)	49.0	49.0	6.3	7.0	22.4	26.6	2.8
	第五地区	今回調査	(n=171)	45.0	39.8	5.8	16.4	14.6	26.3	2.9
		前回調査	(n=139)	51.1	41.7	7.2	15.8	20.9	25.2	6.5
	第六地区	今回調査	(n=243)	45.1	38.5	8.6	16.4	10.7	25.8	3.7
		前回調査	(n=191)	49.2	44.5	7.9	9.9	20.4	27.7	3.7

			住まいに関する こと (住宅のこと)	地域の治安のこと	災害時の備えに関する	差別や偏見、人権侵害に関する	特にな	その他	無回答	
全体	今回調査	(n=1,380)	8.7	7.0	25.7	1.4	15.4	1.3	2.9	
	前回調査	(n=1,097)	13.7	7.7	23.6	1.3	10.5	2.1	2.4	
福祉エリア	第一地区	今回調査	(n=288)	9.7	6.9	21.2	1.4	17.7	1.0	1.7
		前回調査	(n=217)	16.6	7.4	21.2	0.9	12.9	2.8	0.5
	第二地区	今回調査	(n=263)	6.8	5.3	27.4	1.5	13.7	1.1	4.6
		前回調査	(n=211)	11.4	8.5	26.1	0.0	10.9	1.9	2.8
	第三地区	今回調査	(n=229)	7.9	7.0	20.5	0.9	18.3	0.9	2.6
		前回調査	(n=183)	15.8	9.8	25.7	2.2	9.3	2.2	5.5
	第四地区	今回調査	(n=169)	9.5	7.7	25.4	2.4	17.8	3.6	2.4
		前回調査	(n=143)	9.1	7.0	25.2	1.4	7.7	2.8	2.1
	第五地区	今回調査	(n=171)	11.1	4.7	26.9	1.2	12.3	1.2	2.9
		前回調査	(n=139)	18.7	7.2	18.0	3.6	7.9	2.9	0.7
	第六地区	今回調査	(n=243)	8.6	9.4	33.2	0.8	12.7	0.8	2.9
		前回調査	(n=191)	9.9	6.3	24.6	0.0	11.5	0.5	2.1

※今回調査と前回調査で異なる選択肢は、() 内に前回調査の選択肢を記載。

問10 あなたは、悩みや困りごとを相談できる人がいますか。(1つに○)

- ・「いる」が83.3%、「いない」が14.2%となっている。
- ・性・年代別では、男性はすべての年代で「いない」が1割を超えており、特に40～64歳で23.1%と高くなっている。女性は年代が上がるにつれて、「いる」の割合が下がっている。また、男性と女性を比較すると、すべての年代で女性の方が「いる」割合が高くなっている。



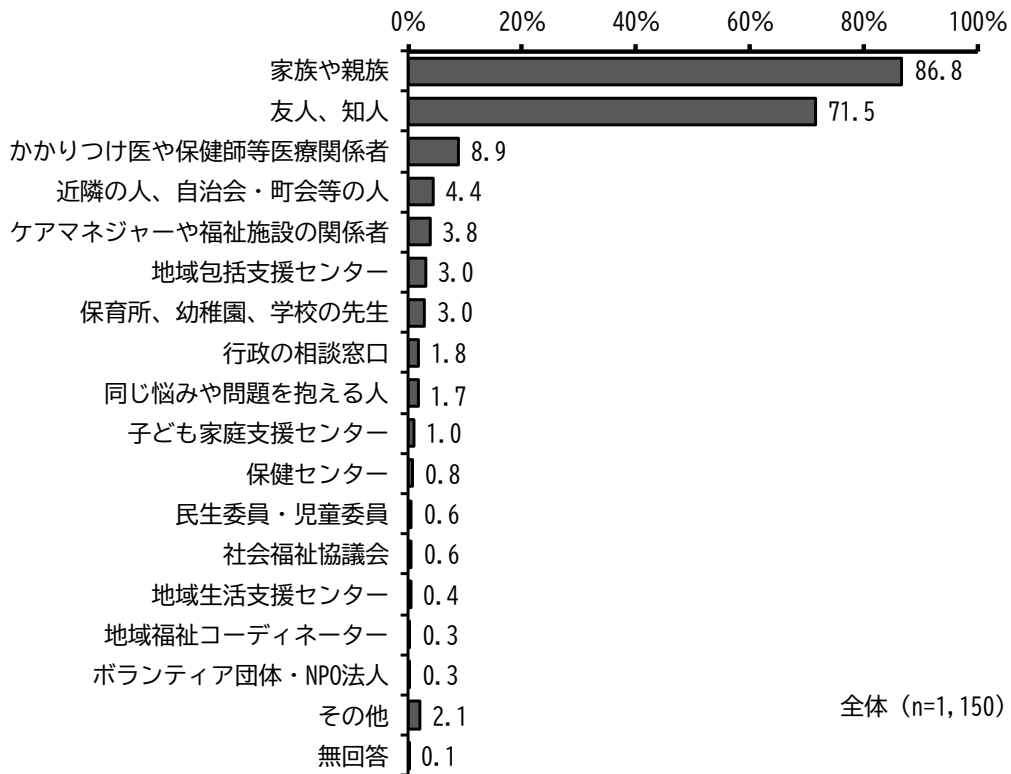
図表 悩みや困りごとを相談できる人の有無 (全体、性・年代別)

			いる (%)	いない (%)	無回答 (%)
全体	(n=1,380)		83.3	14.2	2.5
性・年代	男性-18～39歳	(n=113)	84.1	14.2	1.8
	男性-40～64歳	(n=321)	75.4	23.1	1.6
	男性-65～74歳	(n=114)	75.4	20.2	4.4
	男性-75歳以上	(n=61)	75.4	18.0	6.6
	女性-18～39歳	(n=161)	91.3	8.1	0.6
	女性-40～64歳	(n=343)	88.9	9.9	1.2
	女性-65～74歳	(n=125)	87.2	9.6	3.2
	女性-75歳以上	(n=118)	84.7	9.3	5.9

問10-1 問10で「1. いる」と答えた方におたずねします。どのような人・機関に相談をしていますか。(いくつでも○)

- ・「家族や親族」(86.8%)が最も多く、次いで「友人、知人」(71.5%)、「かかりつけ医や保健師等医療関係者」(8.9%)と続いている。
- ・性・年代別では、男性も女性もすべての年代で「家族や親族」が最も多く、次いで「友人、知人」と続いている。また、男性65～74歳で「近隣の人、自治会・町会等の人」、75歳以上で「近隣の人、自治会・町会等の人」、「地域包括支援センター」、「ケアマネジャーや福祉施設の関係者」及び「かかりつけ医や保健師等医療関係者」、女性の18～39歳で「保育所、幼稚園、学校の先生」、女性の75歳以上で「かかりつけ医や保健師等医療関係者」が全体を5.0ポイント以上上回っている。

図表 相談相手（全体：複数回答）
 <相談できる人が「いる」と答えた方>



図表 相談相手（全体、性・年代別：複数回答）
 <相談できる人が「いる」と答えた方>

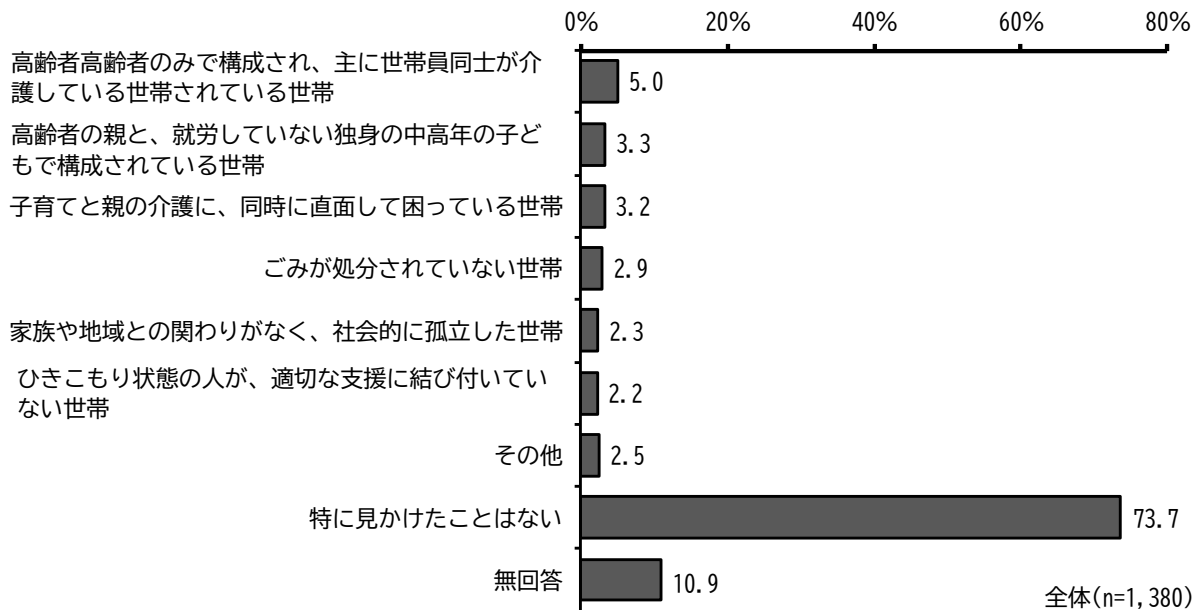
		(%)									
		家族や親族	友人、知人	近隣の人、自治会・町会等の人	民生委員・児童委員	同じ悩みや問題を抱える人	行政の相談窓口	地域包括支援センター	地域生活支援センター	保健センター	
全体	(n=1,150)	86.8	71.5	4.4	0.6	1.7	1.8	3.0	0.4	0.8	
性・年代	男性-18~39歳 (n=95)	87.4	73.7	1.1	0.0	2.1	1.1	0.0	0.0	1.1	
	男性-40~64歳 (n=242)	83.5	62.4	2.9	0.4	1.2	0.8	1.7	0.8	0.0	
	男性-65~74歳 (n=86)	84.9	66.3	11.6	1.2	0.0	1.2	2.3	0.0	0.0	
	男性-75歳以上 (n=46)	87.0	54.3	13.0	0.0	0.0	6.5	13.0	2.2	0.0	
	女性-18~39歳 (n=147)	91.2	86.4	3.4	0.0	1.4	1.4	0.0	0.7	3.4	
	女性-40~64歳 (n=305)	87.5	83.3	3.9	0.3	3.3	0.7	2.3	0.3	1.0	
	女性-65~74歳 (n=109)	89.9	69.7	3.7	0.9	1.8	6.4	3.7	0.0	0.0	
	女性-75歳以上 (n=100)	88.0	51.0	6.0	3.0	1.0	3.0	12.0	0.0	0.0	

		子ども家庭支援センター	社会福祉協議会	地域福祉コーディネーター	ボランティア団体・NPO法人	保育所、幼稚園、学校の先生	ケアマネジャーや福祉施設の関係者	かかりつけ医や保健師等医療関係者	その他	無回答
全体	(n=1,150)	1.0	0.6	0.3	0.3	3.0	3.8	8.9	2.1	0.1
性・年代	男性-18~39歳 (n=95)	1.1	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	7.4	3.2	0.0
	男性-40~64歳 (n=242)	0.8	0.8	0.4	0.4	1.2	2.5	2.9	2.1	0.0
	男性-65~74歳 (n=86)	0.0	1.2	0.0	1.2	0.0	4.7	10.5	3.5	0.0
	男性-75歳以上 (n=46)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.9	32.6	0.0	0.0
	女性-18~39歳 (n=147)	3.4	0.0	0.0	1.4	10.9	1.4	4.8	2.0	0.0
	女性-40~64歳 (n=305)	1.0	0.0	0.3	0.0	3.6	4.3	8.9	3.0	0.3
	女性-65~74歳 (n=109)	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	2.8	11.9	0.9	0.0
	女性-75歳以上 (n=100)	0.0	4.0	1.0	0.0	0.0	8.0	14.0	0.0	0.0

問11 あなたは、地域の中で次のようなことで困っている世帯を見かけたり、相談を受けたことがありますか。(いくつでも○)

- ・ 15.4%の人が地域の中で困っている世帯を見かけたり、相談を受けたことがある。
- ・ 「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯」(5.0%)が最も多く、次いで「高齢者の親と、就労していない独身の中高年の子どもで構成されている世帯」(3.3%)、「子育てと親の介護に、同時に直面して困っている世帯」(3.2%)と続いている。

図表 地域における課題を抱えた世帯の把握状況(全体：複数回答)



問12 府中市に設置されている、福祉に関する相談窓口についておたずねします。

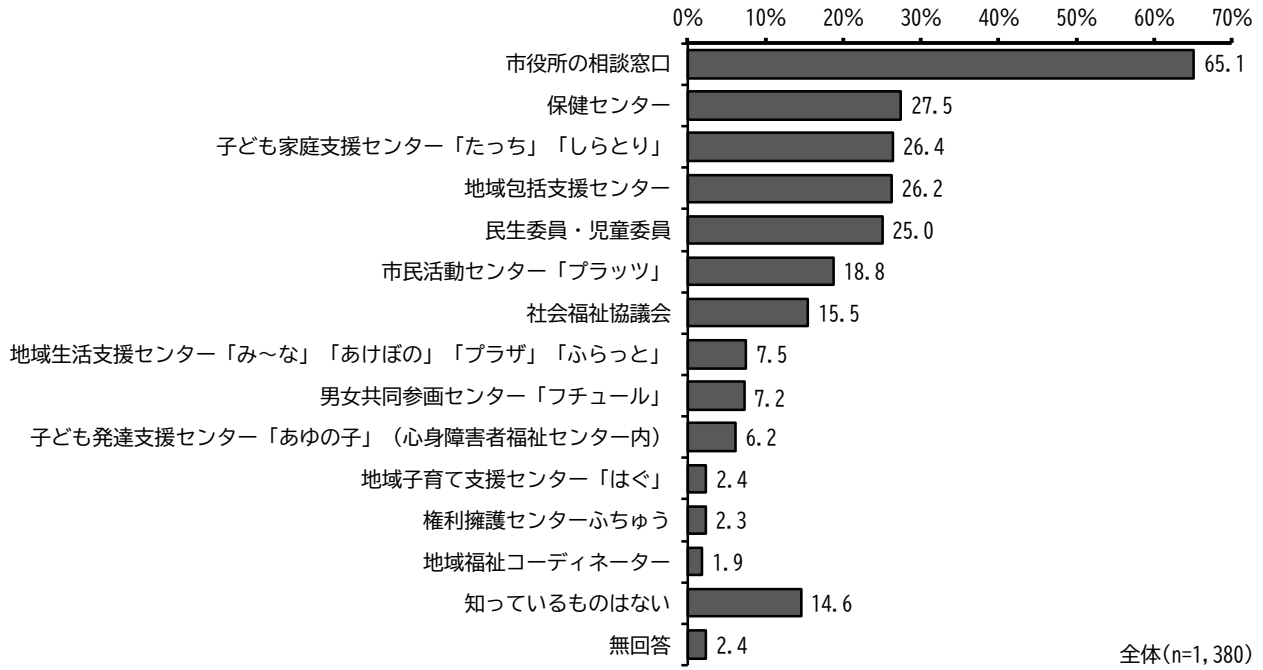
(ア) あなたがご存じの相談窓口はどれですか。(いくつでも○)

(イ) 上記の相談窓口を利用するにあたっての主な課題はどれですか。(3つまで○)

(ア) 相談窓口の認知度

- ・ 「市役所の相談窓口」(65.1%)が最も多く、次いで「保健センター」(27.5%)、「子ども家庭支援センター「たち」「しらとり」」(26.4%)と続いている。「知っているものはない」は14.6%となっている。
- ・ 知っている相談窓口は、年齢別で差がある。
- ・ 問10の悩みや困りごとを相談できる人の有無の回答別では、「知っているものはない」は、「相談できる人がいる」と回答した人は、12.7%と低くなっているが、「相談できる人がいない」と回答した人は、26.0%と高くなっている。

図表 相談窓口の認知度（全体：複数回答）



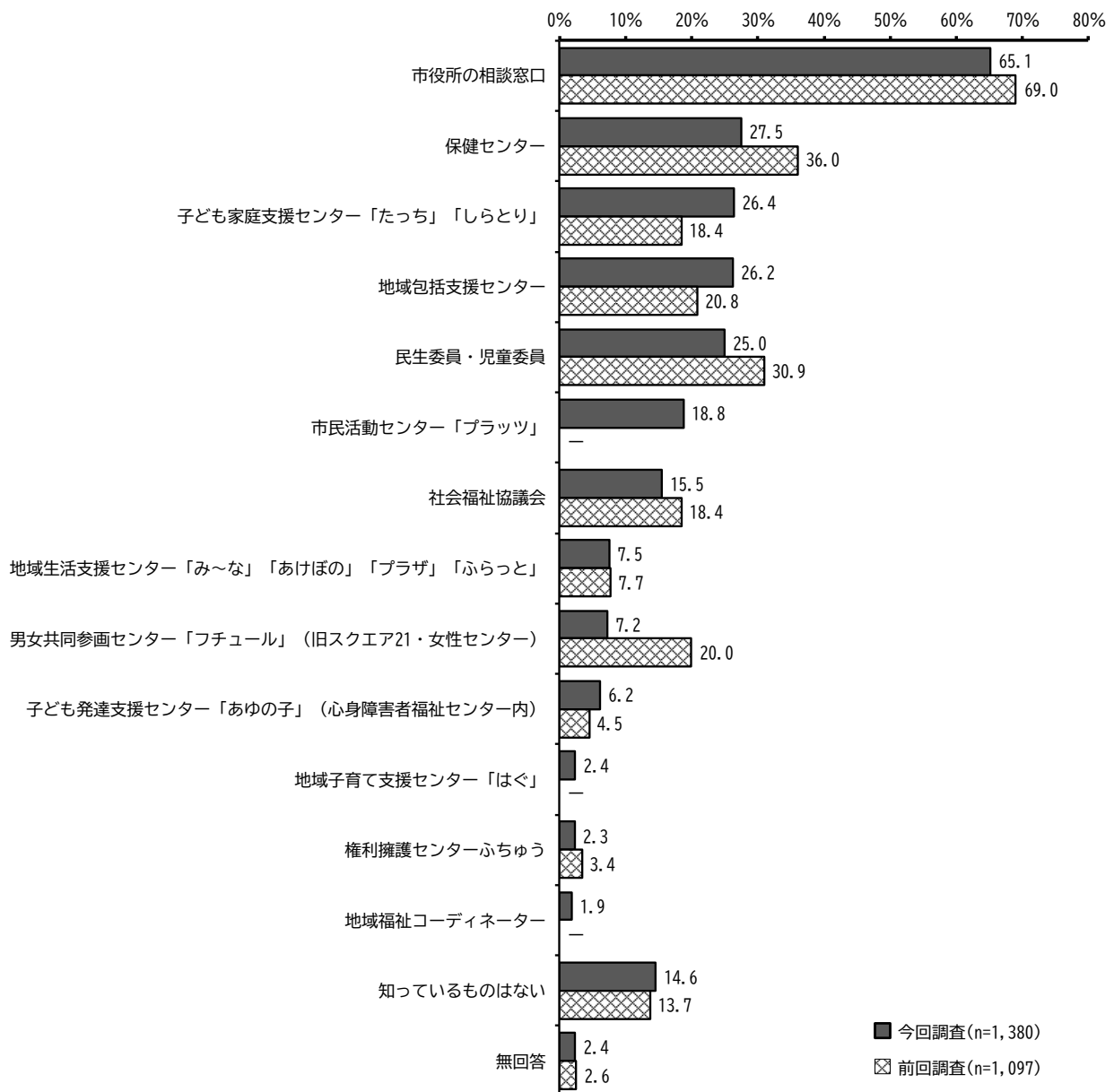
図表 相談窓口の認知度（全体、年齢別、相談できる人の有無別：複数回答）

		(%)								
		市役所の相談窓口	民生委員・児童委員	地域包括支援センター	権利擁護センターふちゅう	子ども発達支援センター「あゆの子」（心身障害者福祉センター内）	保健センター	地域生活支援センター「み～な」「あけぼの」「プラザ」「ふらっと」	子ども家庭支援センター「たち」「しらとり」	
全体	(n=1,380)	65.1	25.0	26.2	2.3	6.2	27.5	7.5	26.4	
年齢	18～19歳 (n=11)	36.4	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	27.3	27.3	
	20～29歳 (n=93)	60.2	18.3	14.0	1.1	7.5	22.6	6.5	20.4	
	30～39歳 (n=173)	59.5	13.9	13.9	1.2	8.1	34.1	6.4	48.6	
	40～49歳 (n=278)	63.7	26.3	19.4	3.2	10.8	26.6	6.5	48.6	
	50～59歳 (n=278)	69.8	33.5	27.0	2.5	6.8	29.5	6.8	25.5	
	60～64歳 (n=115)	63.5	20.9	32.2	3.5	2.6	27.0	13.0	12.2	
	65～69歳 (n=110)	67.3	22.7	30.0	1.8	5.5	31.8	9.1	12.7	
	70～74歳 (n=132)	75.8	27.3	30.3	2.3	2.3	28.0	8.3	9.8	
75歳以上 (n=187)	62.6	27.8	45.5	1.6	1.1	20.3	5.9	5.3		
相談できる人の有無	相談できる人がいる (n=1,150)	66.8	26.1	26.5	2.5	7.0	29.0	8.0	28.9	
	相談できる人がいない (n=196)	55.6	18.4	23.5	1.0	2.6	19.9	5.1	12.8	

		地域子育て支援センター「はぐ」	男女共同参画センター「フチャール」	社会福祉協議会	地域福祉コーディネーター	市民活動センター「プラッツ」	知っているものはない	無回答
全体	(n=1,380)	2.4	7.2	15.5	1.9	18.8	14.6	2.4
年齢	18～19歳 (n=11)	0.0	9.1	0.0	0.0	27.3	18.2	0.0
	20～29歳 (n=93)	2.2	9.7	8.6	2.2	22.6	24.7	0.0
	30～39歳 (n=173)	4.6	5.8	8.7	1.2	23.1	15.0	0.0
	40～49歳 (n=278)	3.6	8.3	11.5	1.1	25.9	14.4	1.4
	50～59歳 (n=278)	2.2	8.3	16.2	1.8	16.9	15.8	0.4
	60～64歳 (n=115)	0.0	8.7	20.0	1.7	17.4	22.6	3.5
	65～69歳 (n=110)	0.9	5.5	20.0	1.8	15.5	12.7	3.6
	70～74歳 (n=132)	0.8	3.8	19.7	2.3	14.4	7.6	6.1
75歳以上 (n=187)	2.1	6.4	22.5	3.7	9.6	8.6	5.9	
相談できる人の有無	相談できる人がいる (n=1,150)	2.8	7.9	15.9	2.1	19.6	12.7	2.0
	相談できる人がいない (n=196)	0.0	4.1	13.3	1.0	14.3	26.0	2.0

・前回の調査結果と比較すると、今回調査は前回調査と同様に「市役所の相談窓口」（65.1%）が最も多く、次いで「保健センター」（27.5%）となっている。前回調査では、次いで「民生委員・児童委員」（30.9%）となっていたが、今回調査では、「子ども家庭支援センター「たち」」「しらとり」（26.4%）となっている。また、今回調査は、前回調査より「子ども家庭支援センター「たち」」「しらとり」と「地域包括支援センター」の認知度が高くなっている一方で、「市役所の相談窓口」、「保健センター」、「民生委員・児童委員」、「社会福祉協議会」及び「男女共同参画センター「フチュール」」の認知度は低くなっている。

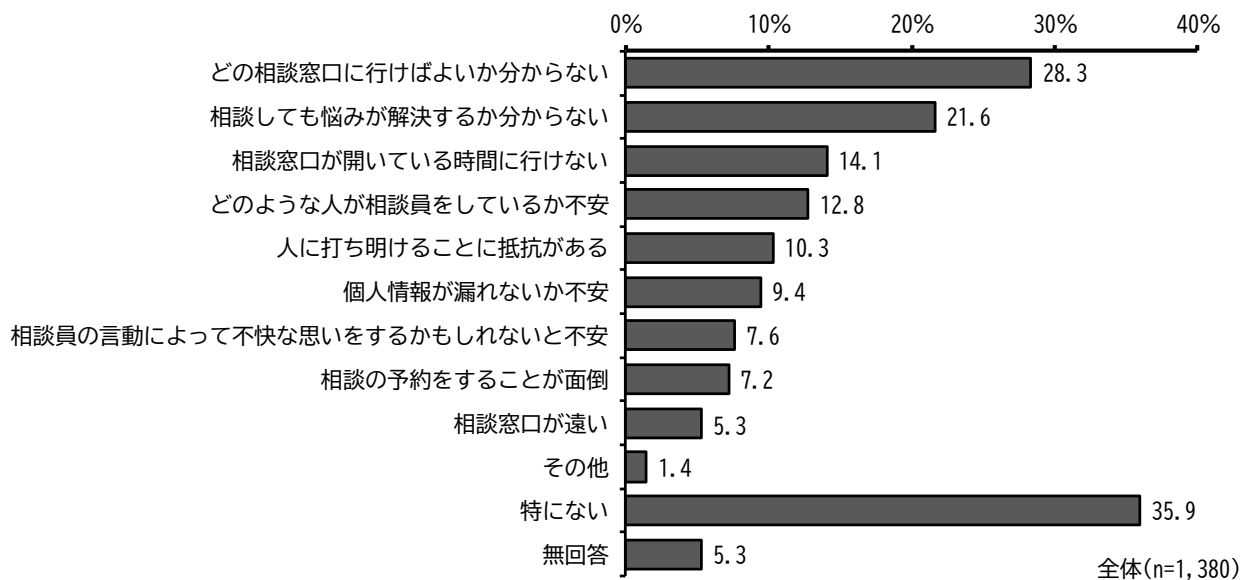
図表 相談窓口の認知度（全体：複数回答）【経年比較】



(イ) 相談窓口を利用するにあたっての課題

- ・ 58. 8%の人が相談窓口を利用する上での課題を感じている。
- ・ 「どの相談窓口に行けばよいか分からない」（28. 3%）が最も多く、次いで「相談しても悩みが解決するか分からない」（21. 6%）、「相談窓口が開いている時間に行けない」（14. 1%）と続いている。「特にない」は35. 9%となっている。
- ・ 年齢別では、20～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳で「どの相談窓口に行けばよいか分からない」が最も多くなっている。また、18歳～19歳、65～69歳、70～74歳、75歳以上で「特にない」は4割を超えており、特に70～74歳で56. 1%と高くなっている。
- ・ 問10の悩みや困りごとを相談できる人の有無の回答別では、「相談できる人がいない」と回答した人は、「どの相談窓口に行けばよいか分からない」及び「相談しても悩みが解決するか分からない」で3割を超えている。

図表 相談窓口を利用する上での課題（全体：複数回答（3つまで））



図表 相談窓口を利用する上での課題
(全体、年齢別、相談できる人の有無別：複数回答（3つまで）)

			(%)					
			どの相談 窓口に行 けばよ いか分 から ない	相談窓 口が 遠い	相談窓 口が 開い てい る時 間 に 行 け な い	相談の 予約 を す る こ と が 面 倒	個人情 報が 漏れ ない か 不 安	どのよ うな 人 が 相 談 員 を し て い る か 不 安
全体		(n=1,380)	28.3	5.3	14.1	7.2	9.4	12.8
年齢	18～19歳	(n=11)	27.3	0.0	0.0	9.1	9.1	9.1
	20～29歳	(n=93)	32.3	12.9	25.8	12.9	6.5	8.6
	30～39歳	(n=173)	32.9	6.4	19.7	11.6	9.2	14.5
	40～49歳	(n=278)	35.3	4.7	22.7	9.7	12.9	14.7
	50～59歳	(n=278)	34.2	4.0	18.3	5.8	8.6	15.8
	60～64歳	(n=115)	31.3	6.1	10.4	8.7	7.0	11.3
	65～69歳	(n=110)	25.5	3.6	7.3	5.5	10.0	8.2
	70～74歳	(n=132)	10.6	4.5	0.0	3.8	8.3	10.6
	75歳以上	(n=187)	16.0	4.8	1.6	1.1	9.1	11.2
相談できる 人の有無	相談できる人がいる	(n=1,150)	27.7	4.9	14.3	7.2	10.5	13.1
	相談できる人がいない	(n=196)	34.2	8.2	14.8	7.7	4.6	10.7

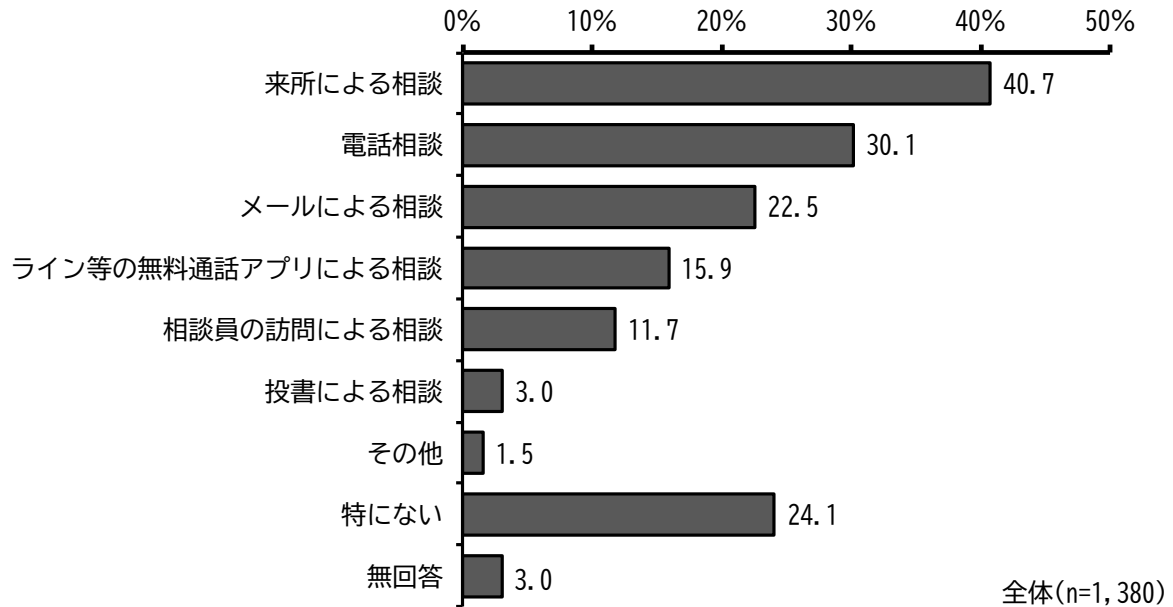
			相談員の 言動に よって 不快な 思いを する か もし れ な い と 不 安	人に 打ち 明 け る こ と に 抵 抗 が あ る	相談し ても 悩 み が 解 決 す る か 分 ら な い	特 に な い	そ の 他	無 回 答
全体		(n=1,380)	7.6	10.3	21.6	35.9	1.4	5.3
年齢	18～19歳	(n=11)	18.2	27.3	0.0	45.5	0.0	0.0
	20～29歳	(n=93)	9.7	14.0	30.1	24.7	0.0	2.2
	30～39歳	(n=173)	11.0	15.6	21.4	30.1	0.6	1.2
	40～49歳	(n=278)	9.0	11.2	30.2	28.1	2.2	2.5
	50～59歳	(n=278)	8.6	8.3	22.7	30.6	2.2	3.6
	60～64歳	(n=115)	7.8	13.9	20.0	33.9	1.7	5.2
	65～69歳	(n=110)	1.8	9.1	17.3	45.5	0.0	6.4
	70～74歳	(n=132)	3.8	3.8	10.6	56.1	0.0	12.9
	75歳以上	(n=187)	5.3	7.5	15.5	47.6	2.7	11.2
相談できる 人の有無	相談できる人がいる	(n=1,150)	7.6	9.7	19.8	36.7	1.5	4.5
	相談できる人がいない	(n=196)	9.2	14.3	33.2	31.1	1.5	5.1

問13 あなたは、公的機関に相談する際に、どのような形態であれば相談したいと思いますか。

(3つまで○)

- ・「来所による相談」（40.7%）が最も多く、次いで「電話相談」（30.1%）、「メールによる相談」（22.5%）と続いている。「特にない」は24.1%となっている。
- ・年齢別では、18～19歳で「メールによる相談」、20～29歳で「ライン等の無料通話アプリによる相談」、その他の年齢で「来所による相談」が最も多くなっている。「特にない」は75歳以上で36.4%と最も高くなっている。
- ・相談できる人の有無別では、相談できる人がいる人と相談できる人がいない人のどちらも「来所による相談」が最も多くなっている。

図表 相談したいと思う形態（全体：複数回答（3つまで））



図表 相談したいと思う形態
（全体、年齢別、相談できる人の有無別：複数回答（3つまで））

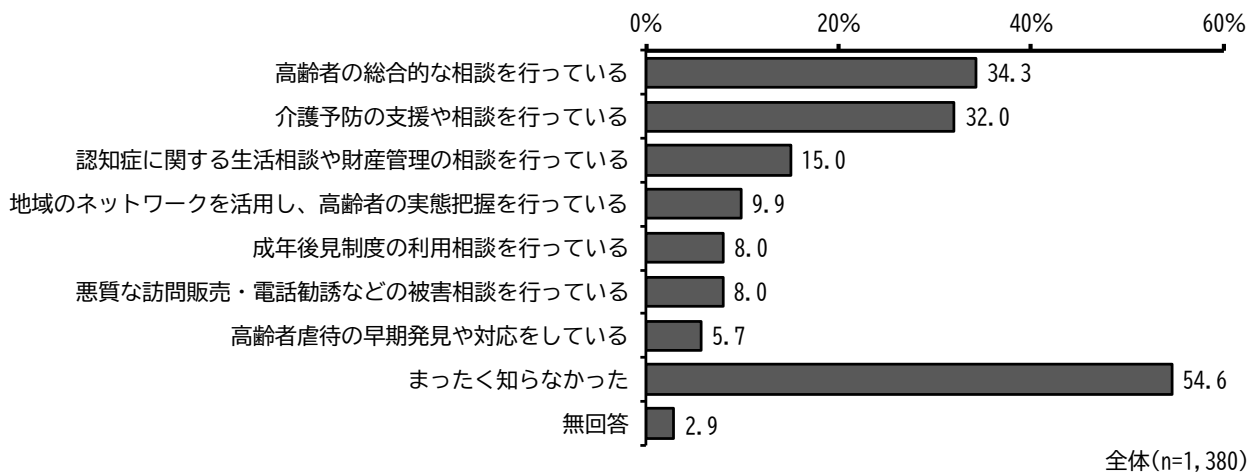
			来所による 相談	相談員の訪 問による相 談	電話相談	メールによ る相談	ライン等の無 料通話アプリ による相談
全体		(n=1,380)	40.7	11.7	30.2	22.5	15.9
年齢	18～19歳	(n=11)	36.4	0.0	18.2	45.5	36.4
	20～29歳	(n=93)	33.3	8.6	18.3	35.5	45.2
	30～39歳	(n=173)	37.0	11.6	27.7	33.5	30.1
	40～49歳	(n=278)	40.6	9.0	30.6	33.1	18.0
	50～59歳	(n=278)	46.8	11.5	36.7	30.6	16.9
	60～64歳	(n=115)	45.2	14.8	31.3	13.0	6.1
	65～69歳	(n=110)	42.7	10.0	34.5	10.0	8.2
	70～74歳	(n=132)	40.9	10.6	25.8	4.5	2.3
	75歳以上	(n=187)	34.8	18.7	28.9	2.7	2.7
相談できる 人の有無	相談できる人がいる	(n=1,150)	41.7	11.7	30.8	22.8	16.5
	相談できる人がいない	(n=196)	35.2	12.2	25.5	23.0	13.3

			投書による 相談	特にない	その他	無回答
全体		(n=1,380)	3.0	24.1	1.5	3.0
年齢	18～19歳	(n=11)	18.2	18.2	0.0	0.0
	20～29歳	(n=93)	8.6	20.4	2.2	1.1
	30～39歳	(n=173)	4.0	17.9	0.6	0.0
	40～49歳	(n=278)	1.4	20.1	2.9	1.8
	50～59歳	(n=278)	1.8	15.5	0.7	1.8
	60～64歳	(n=115)	2.6	32.2	0.9	3.5
	65～69歳	(n=110)	1.8	27.3	1.8	3.6
	70～74歳	(n=132)	3.0	34.8	0.8	8.3
	75歳以上	(n=187)	3.7	36.4	2.1	5.3
相談できる 人の有無	相談できる人がいる	(n=1,150)	2.9	23.3	1.4	2.1
	相談できる人がいない	(n=196)	4.6	28.6	2.0	4.6

問14 府中市には地域包括支援センターが11か所ありますが、あなたは、次の地域包括支援センターの役割や機能をご存じですか。(いくつでも○)

- ・「高齢者の総合的な相談を行っている」(34.3%)が最も多く、次いで「介護予防の支援や相談を行っている」(32.0%)、「認知症に関する生活相談や財産管理の相談を行っている」(15.0%)と続いている。「まったく知らなかった」は54.6%となっている。
- ・性・年代別では、女性の75歳以上で「介護予防の支援や相談を行っている」、それ以外の性・年代で「高齢者の総合的な相談を行っている」が最も多くなっている。また、女性の65歳～74歳で「高齢者の総合的な相談を行っている」、75歳以上で「高齢者の総合的な相談を行っている」と「介護予防の支援や相談を行っている」が5割を超え、多くなっている。「まったく知らなかった」は、男性も女性も年代が上がるにつれ、割合が少なくなっている。

図表 地域包括支援センターの役割や機能の認知度(全体：複数回答)



図表 地域包括支援センターの役割や機能の認知度（全体、性・年代別：複数回答）

(%)

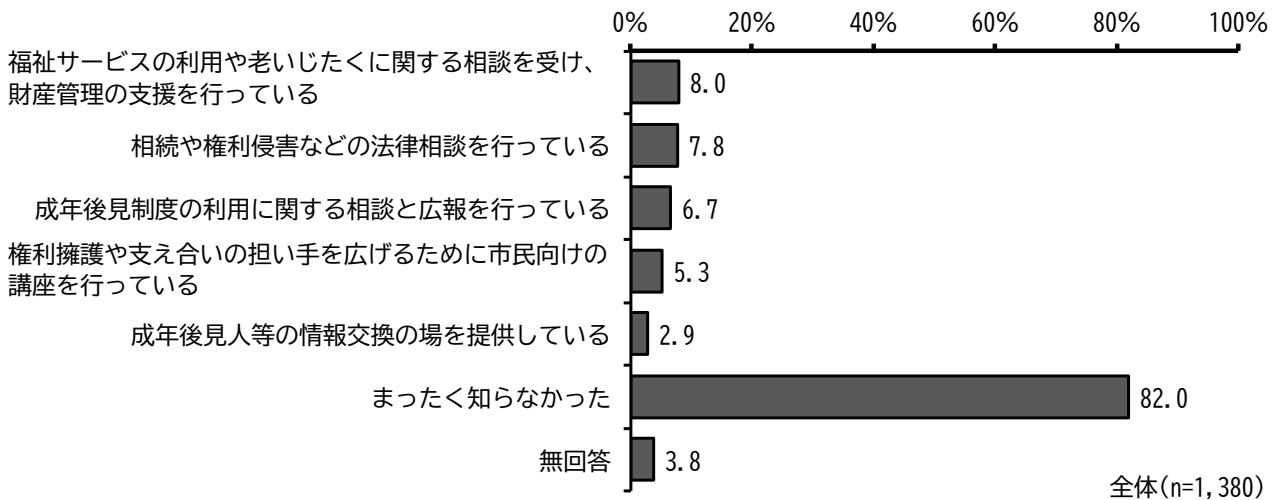
			高齢者の総合的な相談を行っている	介護予防の支援や相談を行っている	認知症に関する生活相談や財産管理の相談を行っている	成年後見制度の利用相談を行っている	高齢者虐待の早期発見や対応をしている
全体		(n=1,380)	34.3	32.0	15.0	8.0	5.7
性・年代	男性-18～39歳	(n=113)	22.1	20.4	9.7	3.5	4.4
	男性-40～64歳	(n=321)	25.2	21.5	11.8	8.1	4.0
	男性-65～74歳	(n=114)	34.2	28.9	7.9	3.5	2.6
	男性-75歳以上	(n=61)	42.6	39.3	16.4	8.2	3.3
	女性-18～39歳	(n=161)	22.4	19.3	7.5	5.0	6.8
	女性-40～64歳	(n=343)	38.5	37.0	21.3	11.4	9.6
	女性-65～74歳	(n=125)	51.2	49.6	26.4	12.0	5.6
	女性-75歳以上	(n=118)	55.1	57.6	16.1	7.6	3.4

			悪質な訪問販売・電話勧誘などの被害相談を行っている	地域のネットワークを活用し、高齢者の実態把握を行っている	まったく知らなかった	無回答
全体		(n=1,380)	8.0	9.9	54.6	2.9
性・年代	男性-18～39歳	(n=113)	7.1	6.2	71.7	1.8
	男性-40～64歳	(n=321)	7.2	5.6	66.4	1.6
	男性-65～74歳	(n=114)	7.9	10.5	54.4	4.4
	男性-75歳以上	(n=61)	6.6	4.9	41.0	9.8
	女性-18～39歳	(n=161)	6.2	7.5	72.0	0.0
	女性-40～64歳	(n=343)	8.5	13.1	50.7	1.2
	女性-65～74歳	(n=125)	12.0	17.6	29.6	8.0
	女性-75歳以上	(n=118)	9.3	13.6	24.6	5.1

問15 あなたは、次の権利擁護センターふちゅうの役割や機能をご存じですか。（いくつでも○）

・「福祉サービスの利用や老いじたくに関する相談を受け、財産管理の支援を行っている」（8.0%）が最も多く、次いで「相続や権利侵害などの法律相談を行っている」（7.8%）、「成年後見制度の利用に関する相談と広報を行っている」（6.7%）と続いている。「まったく知らなかった」は82.0%となっている。

図表 権利擁護センターふちゅうの役割や機能の認知度（全体：複数回答）



問16 保育や子育て支援、高齢者や障害等のある方への福祉サービス、健康づくり、ボランティア活動等、府中市の福祉に関する情報についておたずねします。

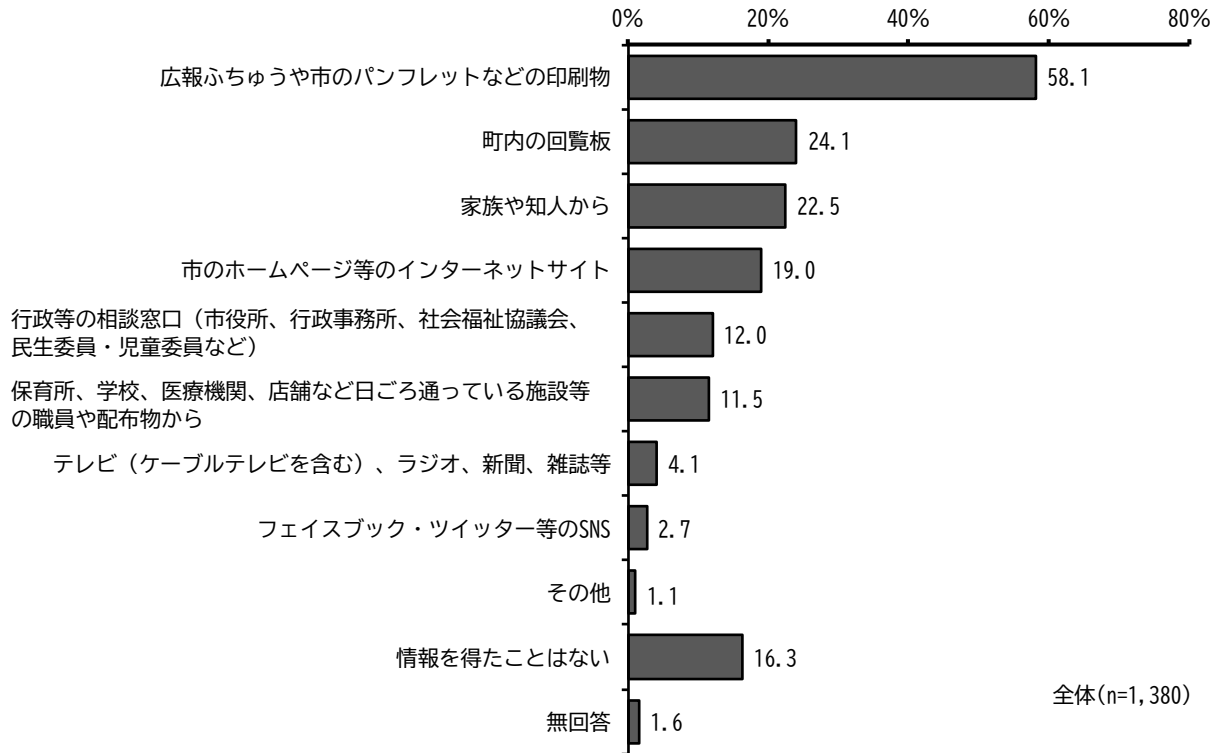
(ア) あなたは、府中市の福祉に関する情報を、どこから入手していますか。（いくつでも○）

(イ) 情報を入手する際、特に困っていることはありますか。（3つまで○）

(ア) 福祉サービスの情報の入手先

- ・ 82.1%の人がいずれかの方法で府中市の福祉に関する情報を入手している。
- ・ 「広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物」（58.1%）が最も多く、次いで「町内の回覧板」（24.1%）、「家族や知人から」（22.5%）と続いている。「情報を得たことはない」は16.3%となっている。
- ・ 性別では、男性も女性も「広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物」が最も多くなっている。また、「広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物」と「町内の回覧板」では、男性と女性で差が大きくなっている。
- ・ 年齢別では、18～19歳及び20～29歳で「家族や知人から」が最も多く、それ以外の年齢では、「広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物」が最も多くなっている。

図表 市の福祉に関する情報の入手先（全体：複数回答）



図表 市の福祉に関する情報の入手先（全体、性別、年齢別：複数回答）

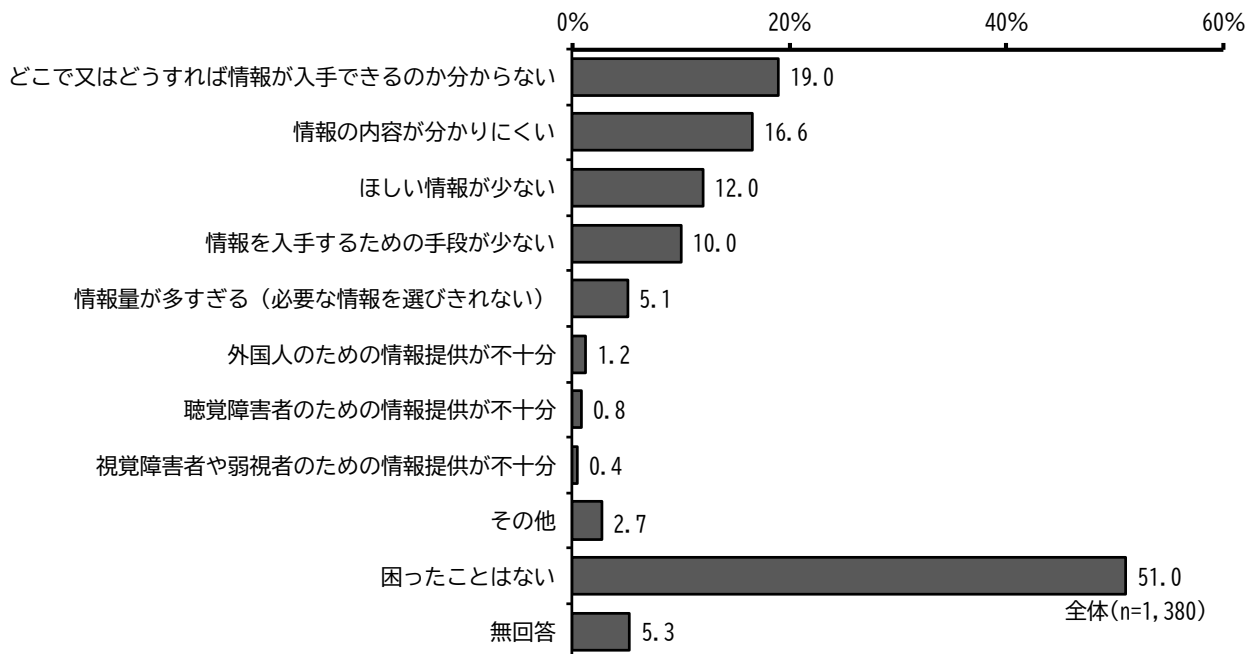
		家族や知人から	行政等の相談窓口（市役所、行政事務所、社会福祉協議会、民生委員・児童委員など）	保育所、学校、医療機関、店舗など日ごろ通っている施設等の職員や配布物から	広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物	町内の回覧板	テレビ（ケーブルテレビを含む）、ラジオ、新聞、雑誌等
全体	(n=1,380)	22.5	12.0	11.5	58.1	24.1	4.1
性別	男性 (n=609)	23.3	12.5	9.5	52.9	19.2	4.8
	女性 (n=747)	22.2	11.9	13.4	62.9	28.0	3.7
年齢	18～19歳 (n=11)	54.5	0.0	27.3	18.2	9.1	9.1
	20～29歳 (n=93)	37.6	5.4	3.2	25.8	9.7	1.1
	30～39歳 (n=173)	20.2	11.0	23.7	46.8	12.1	1.2
	40～49歳 (n=278)	24.5	7.6	20.9	53.2	20.9	2.5
	50～59歳 (n=278)	21.2	11.9	7.6	60.1	20.1	5.0
	60～64歳 (n=115)	16.5	15.7	2.6	66.1	24.3	4.3
	65～69歳 (n=110)	17.3	18.2	8.2	70.9	34.5	3.6
	70～74歳 (n=132)	22.7	16.7	6.1	68.9	40.2	6.1
75歳以上 (n=187)	20.9	15.0	7.0	71.1	35.8	8.0	

		市のホームページ等のインターネットサイト	フェイスブック・ツイッター等のSNS	情報を得たことはない	その他	無回答
全体	(n=1,380)	19.0	2.7	16.3	1.1	1.6
性別	男性 (n=609)	19.2	2.8	19.9	0.5	1.5
	女性 (n=747)	19.4	2.7	13.1	1.5	1.3
年齢	18～19歳 (n=11)	18.2	9.1	9.1	0.0	0.0
	20～29歳 (n=93)	15.1	7.5	33.3	1.1	1.1
	30～39歳 (n=173)	26.6	6.9	22.0	2.3	0.0
	40～49歳 (n=278)	25.9	3.6	18.7	0.4	1.1
	50～59歳 (n=278)	23.0	1.8	15.8	0.4	0.0
	60～64歳 (n=115)	20.0	0.0	17.4	0.9	1.7
	65～69歳 (n=110)	18.2	0.9	6.4	1.8	2.7
	70～74歳 (n=132)	7.6	0.0	11.4	0.8	3.8
75歳以上 (n=187)	5.9	0.5	9.1	2.1	3.7	

(イ) 情報入手の際に困っていること

- ・ 43. 7%の人が情報入手の際に困っていることがある。
- ・ 「どこで又はどうすれば情報が入手できるのか分からない」(19.0%)、次いで「情報の内容が分かりにくい」(16.6%)、「ほしい情報が少ない」(12.0%)と続いている。「困ったことはない」(51.0%)が5割を超えている。
- ・ 性別では、男性も女性も「困ったことはない」が5割を超えている。
- ・ 年齢別では、50～59歳及び60～64歳で「情報の内容が分かりにくい」、それ以外の年齢で「どこで又はどうすれば情報が入手できるのか分からない」が最も多くなっている。また、18～19歳では、「情報の内容が分かりにくい」も同率で最も多くなっている。
- ・ 今回と前回の調査結果を比較すると、前回調査では選択肢が一部異なるが、「ほしい情報が少ない」(19.4%)が最も多く、次いで「情報量が少ない」(17.7%)、「情報入手の方法がわからない」(16.5%)と続いている。また、前回調査では「困ったことはない」は39.1%だったが、今回調査は51.0%と11.9ポイント高くなっている。

図表 情報入手の際に困っていること (全体：複数回答 (3つまで))



図表 情報を入手する際に困っていること（全体、性別、年齢別：複数回答（3つまで））

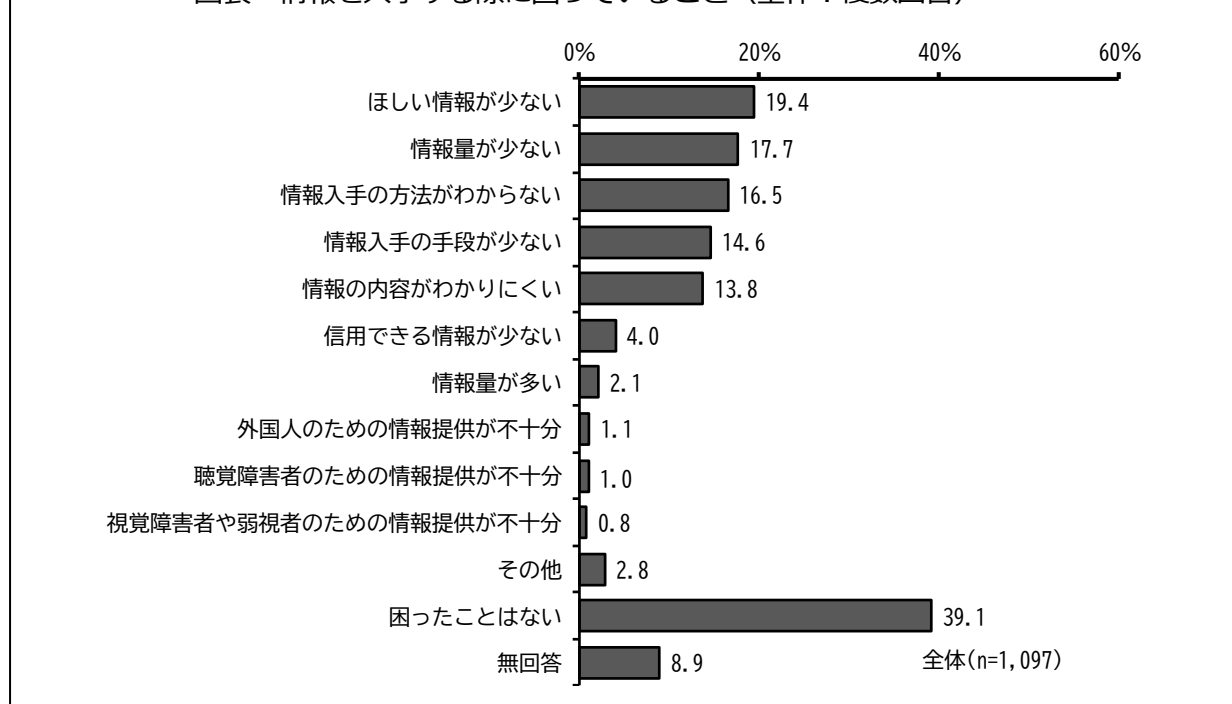
(%)

		ほしい情報が少ない	情報量が多すぎる（必要な情報を選びきれない）	情報の内容が分かりにくい	情報を入手するための手段が少ない	どこで又はどうすれば情報が入手できるのか分からない	視覚障害者や弱視者のための情報提供が不十分
全体	(n=1,380)	12.0	5.1	16.6	10.0	19.0	0.4
性別	男性 (n=609)	12.5	6.2	16.7	9.9	19.9	0.7
	女性 (n=747)	11.4	4.1	16.7	10.3	18.3	0.3
年齢	18～19歳 (n=11)	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0
	20～29歳 (n=93)	16.1	8.6	17.2	6.5	19.4	0.0
	30～39歳 (n=173)	16.2	6.4	18.5	11.6	23.7	0.6
	40～49歳 (n=278)	10.1	5.0	17.3	9.7	19.8	0.0
	50～59歳 (n=278)	14.4	4.7	21.2	9.4	20.1	0.0
	60～64歳 (n=115)	13.0	4.3	15.7	10.4	14.8	0.9
	65～69歳 (n=110)	10.9	2.7	11.8	10.0	18.2	0.0
	70～74歳 (n=132)	6.8	6.1	14.4	13.6	17.4	0.8
75歳以上 (n=187)	10.2	4.3	12.3	9.6	16.6	1.6	

		聴覚障害者のための情報提供が不十分	外国人のための情報提供が不十分	困ったことはない	その他	無回答
全体	(n=1,380)	0.8	1.2	51.0	2.7	5.3
性別	男性 (n=609)	1.3	1.6	52.4	3.0	3.3
	女性 (n=747)	0.4	0.7	50.2	2.5	6.6
年齢	18～19歳 (n=11)	0.0	0.0	90.9	0.0	0.0
	20～29歳 (n=93)	1.1	1.1	50.5	2.2	2.2
	30～39歳 (n=173)	0.0	0.6	50.3	1.7	0.6
	40～49歳 (n=278)	0.0	1.1	51.4	2.5	2.2
	50～59歳 (n=278)	0.4	1.1	48.2	3.6	4.0
	60～64歳 (n=115)	0.9	0.9	55.7	1.7	6.1
	65～69歳 (n=110)	0.9	1.8	55.5	3.6	6.4
	70～74歳 (n=132)	0.0	1.5	52.3	3.0	9.1
75歳以上 (n=187)	3.7	2.1	46.5	2.7	13.9	

<参考（前回調査）>

図表 情報を入手する際に困っていること（全体：複数回答）



(6) 福祉のまちづくりについて

問17 現在、府中市の建築物や公共交通機関、情報案内、公園や道路等について、障害等のある方や妊婦、乳幼児を連れた方、高齢者等が利用しやすいように整備されていると思いませんか。(1)～(11)のそれぞれの項目について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。

※《整備されている》・・・「整備されている」と「やや整備されている」の合計
 ※《整備されていない》・・・「整備されていない」と「あまり整備されていない」の合計
 (62ページ 図表(11)まで同様)

- ・《整備されている》の割合が『(1) 車いすの方や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路(段差をなくす、幅を広げる)』、『(2) 公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター』、『(3) 車いすの方、乳幼児を連れた方等誰もが使いやすいトイレ』、『(5) 点字ブロックや視覚障害者用の信号機』、『(6) 車いすやベビーカーで乗降しやすいノンステップバスやリフト付バス』と『(7) 障害等のある方用の駐車場』で5割を超えている。一方、『(9) 手話のできる職員が配置されていたり、音声ガイドがある施設』と『(10) 補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストラン等』は1割台で低くなっている。

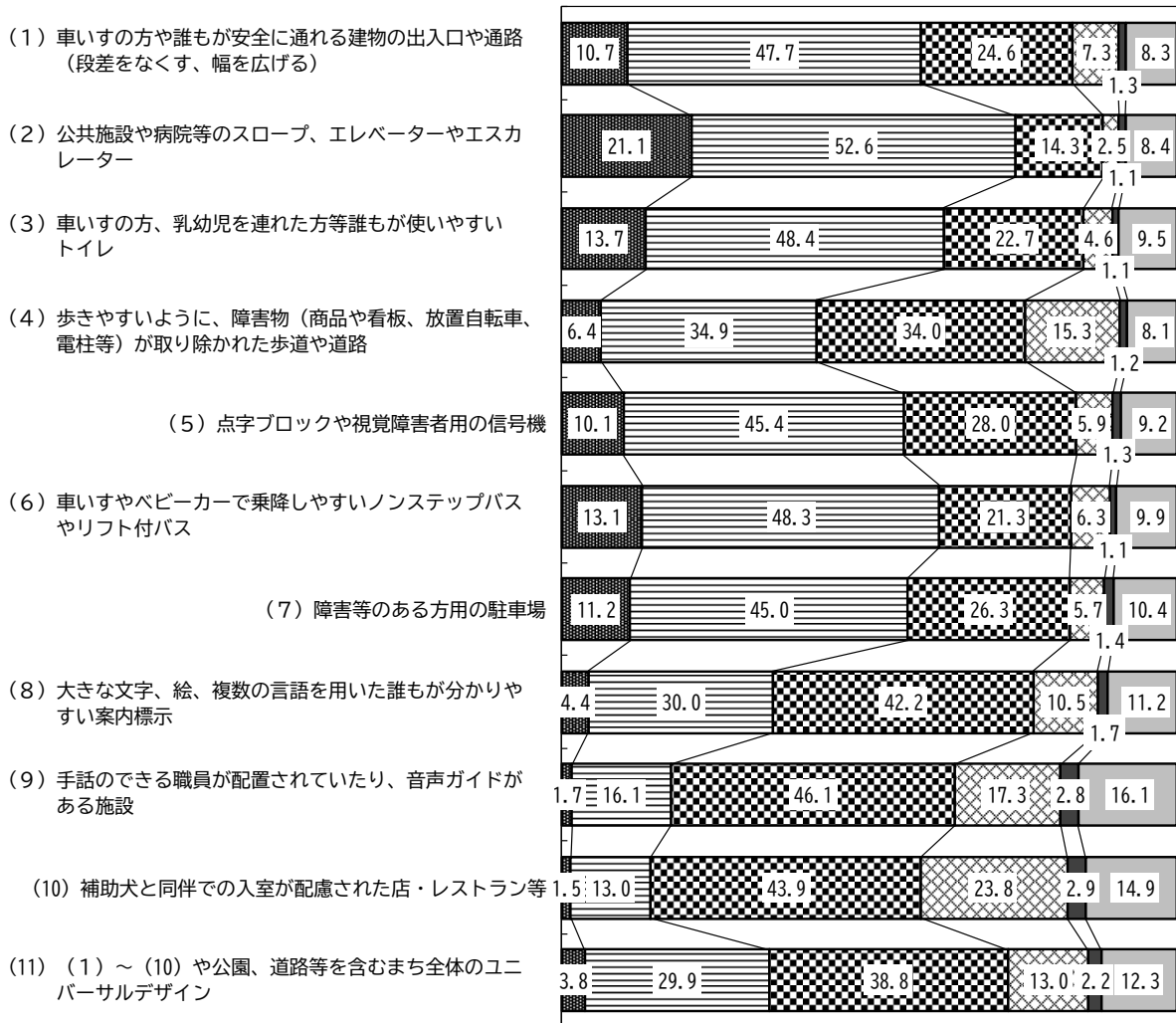
図表 福祉のまちづくり(建築物、インフラ、情報案内)の状況(全体)

全体(N=1,380)	(%)						(%)		
	整備されている	やや整備されている	あまり整備されていない	整備されていない	整備の必要を感じない	無回答	《整備されている》	《整備されていない》	整備の必要を感じない
(1) 車いすの方や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路(段差をなくす、幅を広げる)	10.7	47.7	24.6	7.3	1.3	8.3	58.4	31.9	1.3
(2) 公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター	21.1	52.6	14.3	2.5	1.1	8.4	73.7	16.8	1.1
(3) 車いすの方、乳幼児を連れた方等誰もが使いやすいトイレ	13.7	48.4	22.7	4.6	1.1	9.5	62.1	27.3	1.1
(4) 歩きやすいように、障害物(商品や看板、放置自転車、電柱等)が取り除かれた歩道や道路	6.4	34.9	34.0	15.3	1.2	8.1	41.3	49.3	1.2
(5) 点字ブロックや視覚障害者用の信号機	10.1	45.4	28.0	5.9	1.3	9.2	55.5	33.9	1.3
(6) 車いすやベビーカーで乗降しやすいノンステップバスやリフト付バス	13.1	48.3	21.3	6.3	1.1	9.9	61.4	27.6	1.1
(7) 障害等のある方用の駐車場	11.2	45.0	26.3	5.7	1.4	10.4	56.2	32.0	1.4
(8) 大きな文字、絵、複数の言語を用いた誰もが分かりやすい案内標示	4.4	30.0	42.2	10.5	1.7	11.2	34.4	52.7	1.7
(9) 手話のできる職員が配置されていたり、音声ガイドがある施設	1.7	16.1	46.1	17.3	2.8	16.1	17.8	63.4	2.8
(10) 補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストラン等	1.5	13.0	43.9	23.8	2.9	14.9	14.5	67.7	2.9
(11) (1)～(10)や公園、道路等を含むまち全体のユニバーサルデザイン	3.8	29.9	38.8	13.0	2.2	12.3	33.7	51.8	2.2

図表 福祉のまちづくり（建築物、インフラ、情報案内）の状況（全体）

全体(n=1,380)

(%)



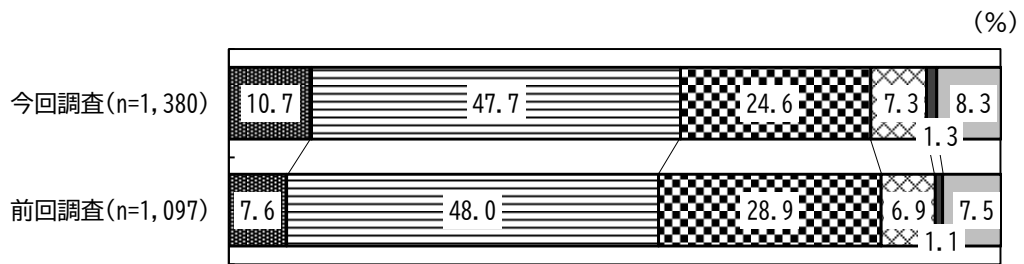
整備されている
 やや整備されている
 あまり整備されていない
 整備されていない

整備の必要を感じない
 無回答

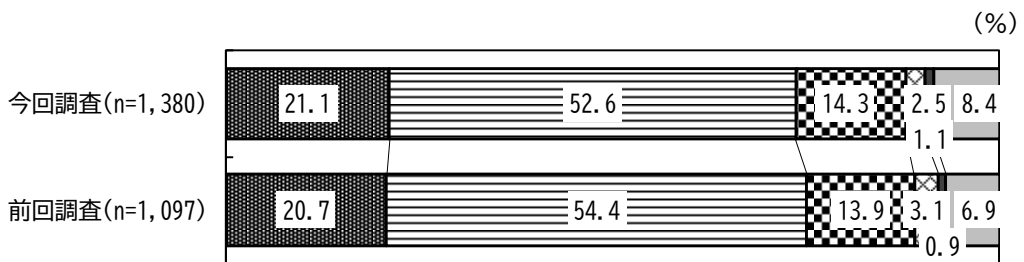
・今回と前回の調査結果を比較すると、『整備されている』の割合が、『(1) 車いすの方や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路(段差をなくす、幅を広げる)』、『(4) 歩きやすいように、障害物(商品や看板、放置自転車、電柱等)が取り除かれた歩道や道路』、『(9) 手話のできる職員が配置されていたり、音声ガイドがある施設』、『(10) 補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストラン等』及び『(11) (1)～(10)や公園、道路等を含むまち全体のユニバーサルデザイン』で前回調査より高くなっている。

図表 福祉のまちづくり(建築物、インフラ、情報案内)の状況(全体)【経年比較】

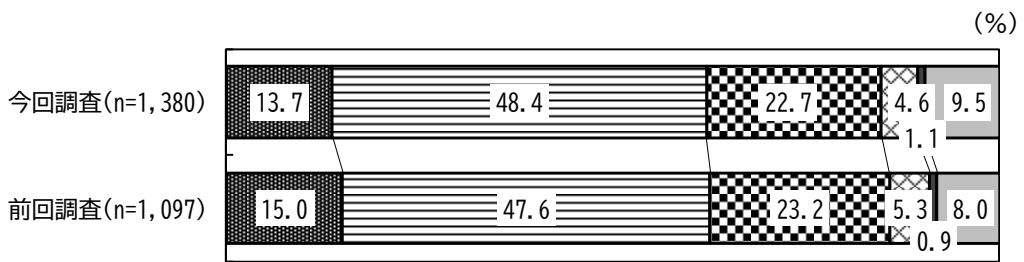
(1) 車いすの方や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路(段差をなくす、幅を広げる)



(2) 公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター



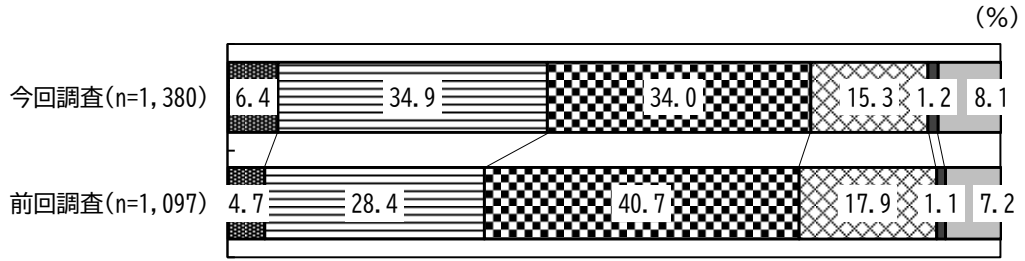
(3) 車いすの方、乳幼児を連れた方等誰もが使いやすいトイレ



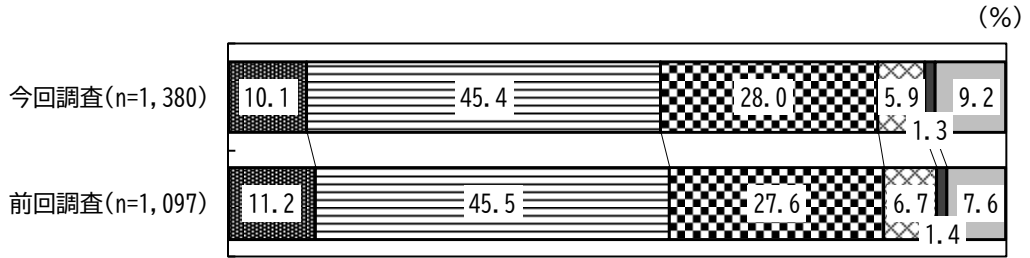
整備されている
 やや整備されている
 あまり整備されていない

整備されていない
 整備の必要を感じない
 無回答

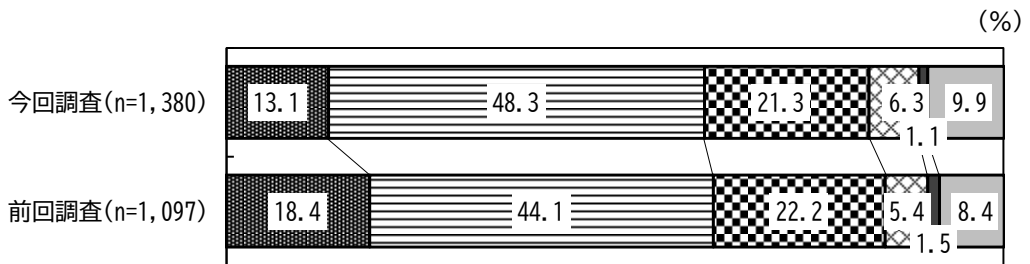
(4) 歩きやすいように、障害物（商品や看板、放置自転車、電柱等）が取り除かれた歩道や道路



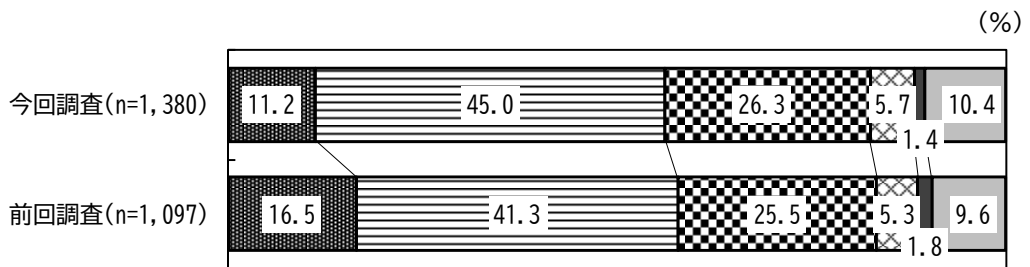
(5) 点字ブロックや視覚障害者用の信号機



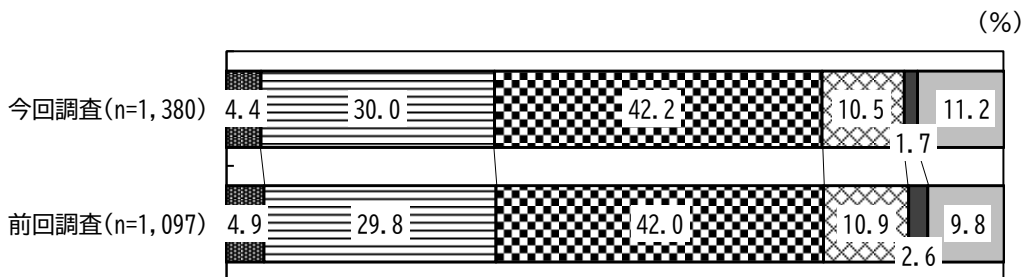
(6) 車いすやベビーカーで乗降しやすいノンステップバスやリフト付バス



(7) 障害等のある方用の駐車場 (※前回調査では「障害者用の駐車場」)

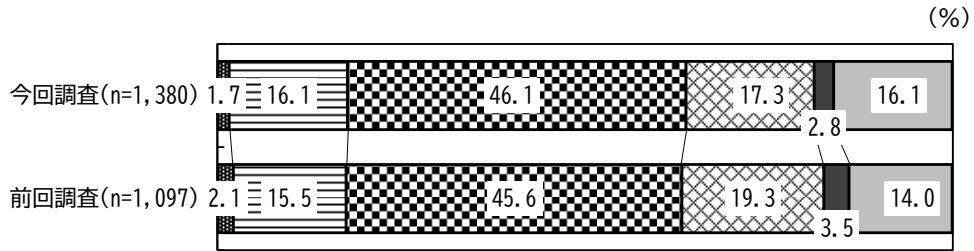


(8) 大きな文字、絵、複数の言語を用いた誰もが分かりやすい案内標示

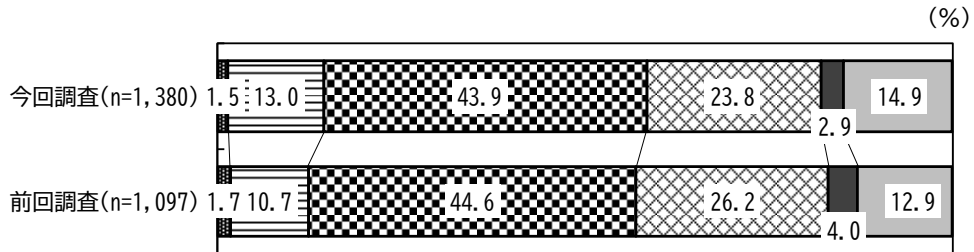


整備されている
 やや整備されている
 あまり整備されていない
 整備されていない
 整備の必要を感じない
 無回答

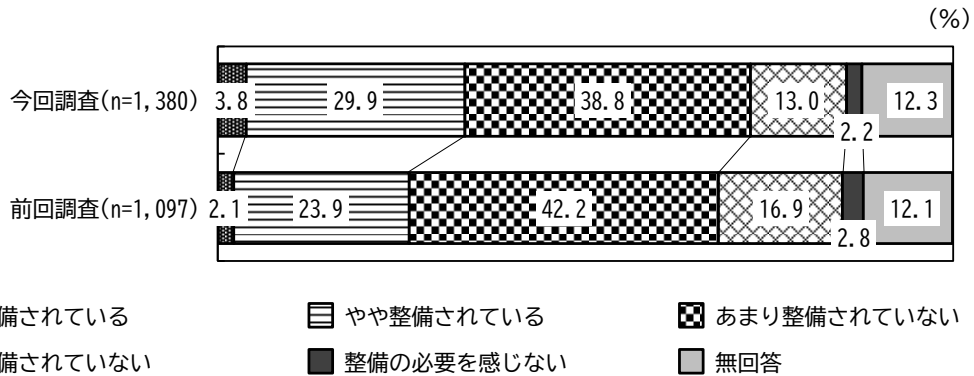
(9) 手話のできる職員が配置されていたり、音声ガイドがある施設



(10) 補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストラン等



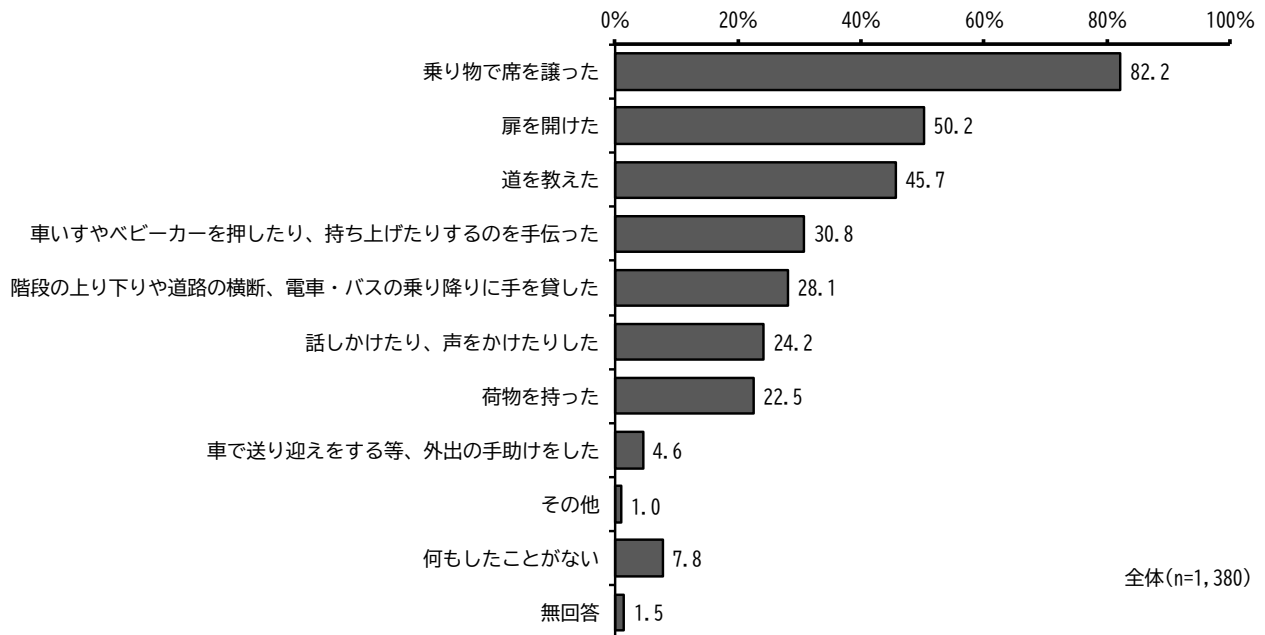
(11) (1)～(10)や公園、道路等を含むまち全体のユニバーサルデザイン



問18 あなたは、高齢者や障害等のある方、妊婦、乳幼児を連れた方などに、次のようなお手伝いをしたことがありますか。(いくつでも○)

- ・90.7%の人が外出先で手助けの経験がある。
- ・「乗り物で席を譲った」(82.2%)が最も多く、次いで「扉を開けた」(50.2%)、「道を教えた」(45.7%)と続いている。「何もしたことがない」は7.8%となっている。
- ・年齢別では、「何もしたことがない」は、20～29歳及び75歳以上で1割を超えている。

図表 外出先での手助けの経験(全体：複数回答)



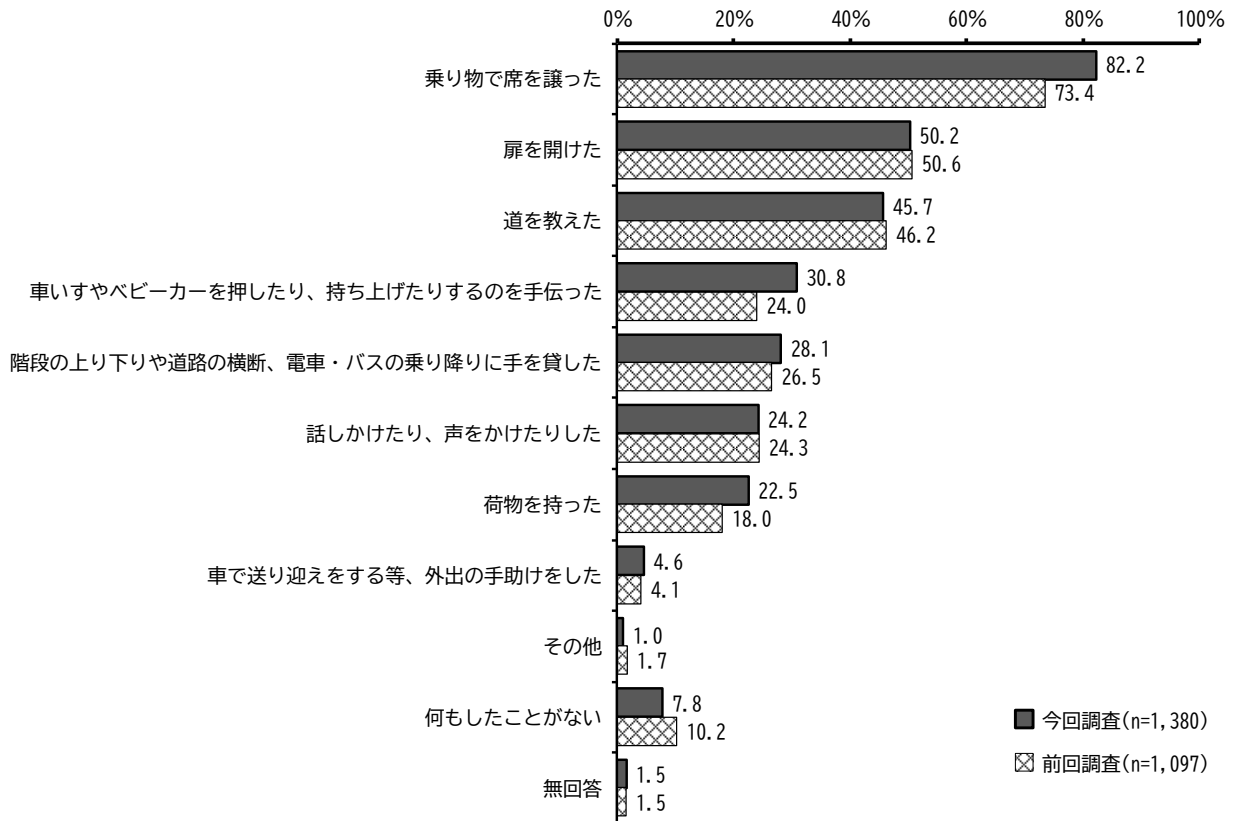
図表 外出先での手助けの経験(全体、年齢別：複数回答)

		乗りで席を譲った	荷物を持った	階段の上り下りや道路の横断、電車・バスの乗り降りに手を貸した	車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりするのを手伝った	道を教えた	扉を開けた
全体	(n=1,380)	82.2	22.5	28.1	30.8	45.7	50.2
年齢	18～19歳 (n=11)	100.0	36.4	27.3	36.4	63.6	36.4
	20～29歳 (n=93)	77.4	15.1	10.8	17.2	50.5	48.4
	30～39歳 (n=173)	90.2	15.6	26.0	32.9	45.1	59.5
	40～49歳 (n=278)	88.5	18.7	27.7	38.5	46.0	59.4
	50～59歳 (n=278)	88.5	26.3	33.5	36.3	46.4	56.8
	60～64歳 (n=115)	80.0	25.2	33.9	33.9	44.3	48.7
	65～69歳 (n=110)	83.6	26.4	29.1	28.2	46.4	43.6
	70～74歳 (n=132)	81.8	26.5	23.5	28.0	38.6	40.9
75歳以上 (n=187)	58.3	25.1	30.5	17.6	46.5	31.6	

		話しかけたり、声をかけたりした	車で送り迎えをする等、外出の手助けをした	何もしたことがない	その他	無回答
全体	(n=1,380)	24.2	4.6	7.8	1.0	1.5
年齢	18～19歳 (n=11)	36.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳 (n=93)	16.1	2.2	15.1	2.2	0.0
	30～39歳 (n=173)	22.5	1.7	5.2	1.2	0.0
	40～49歳 (n=278)	18.0	4.3	5.4	0.4	0.4
	50～59歳 (n=278)	21.9	4.7	5.0	0.7	0.4
	60～64歳 (n=115)	27.8	6.1	8.7	0.0	1.7
	65～69歳 (n=110)	29.1	5.5	8.2	0.9	1.8
	70～74歳 (n=132)	25.8	6.8	6.8	0.8	3.0
75歳以上 (n=187)	34.8	5.9	14.4	2.7	5.3	

- ・今回と前回の調査結果を比較すると、今回調査は前回調査と同様に、「乗り物で席を譲った」が最も多く、次いで「扉を開けた」、「道を教えた」と続いている。今回調査は前回調査より、「乗り物で席を譲った」が8.8ポイント、「車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりするのを手伝った」が6.8ポイント高くなっている。また、「何もしたことがない」は、今回調査は7.8%、前回調査は10.2%で、何もしたことがない人の割合が低くなっている。

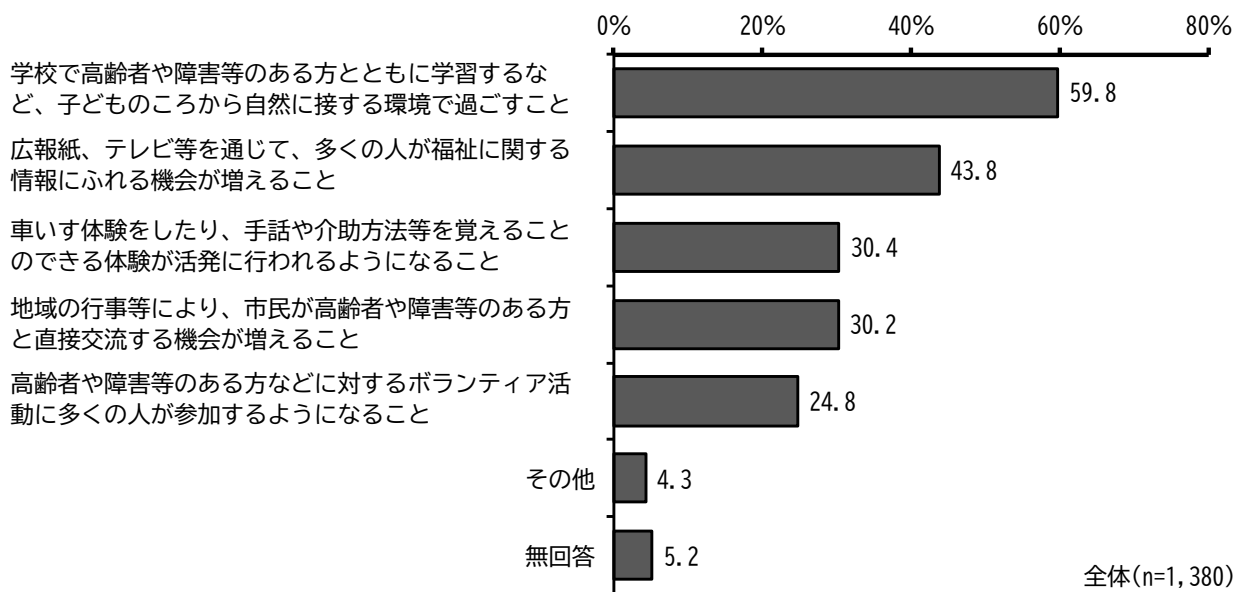
図表 外出先での手助けの経験（全体：複数回答）【経年比較】



問19 市民一人ひとりの理解と協力、いわゆる「心のバリアフリー」を実現していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで○）

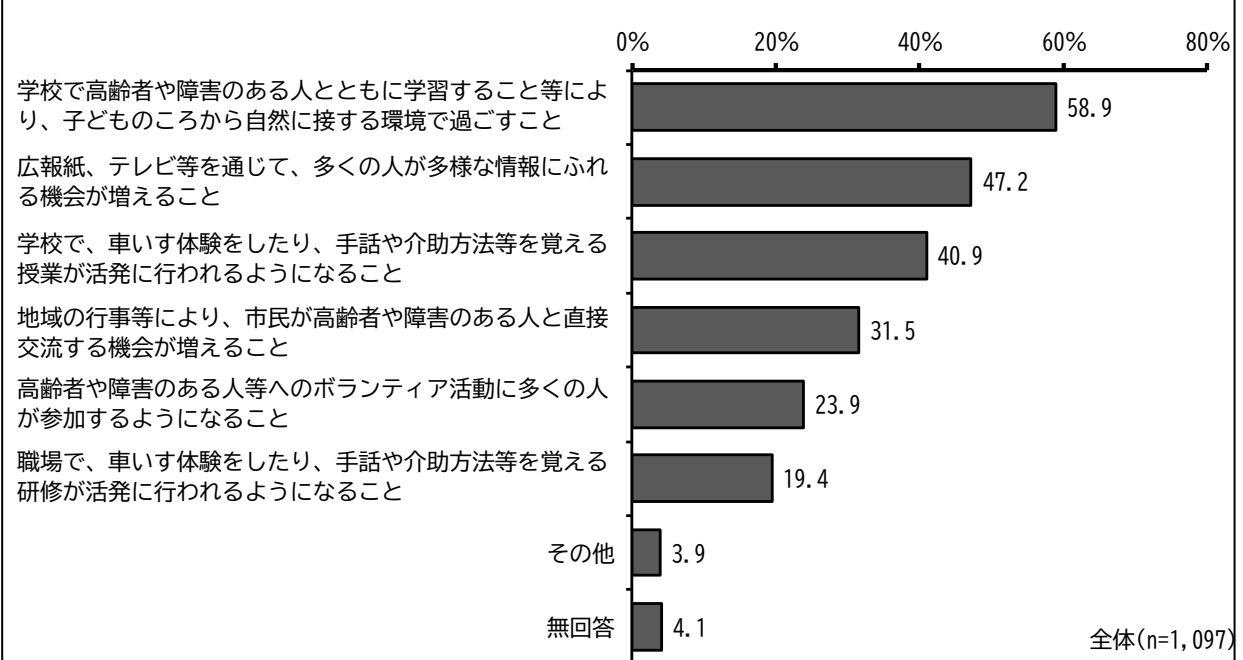
- ・「学校で高齢者や障害等のある方とともに学習するなど、子どものころから自然に接する環境で過ごすこと」（59.8%）が最も多く、次いで「広報紙、テレビ等を通じて、多くの方が福祉に関する情報にふれる機会が増えること」（43.8%）、「車いす体験をしたり、手話や介助方法等を覚えることのできる体験が活発に行われるようになること」（30.4%）と続いている。
- ・今回と前回の調査結果を比較すると、前回調査では選択肢が一部異なるが、前回調査でも「学校で高齢者や障害のある方とともに学習すること等により、子どものころから自然に接する環境で過ごすこと」が58.9%と最も多くなっている。

図表 心のバリアフリーを実現するために必要なこと（全体：複数回答（3つまで））



<参考（前回調査）>

図表 心のバリアフリーを進めるために必要なこと（全体：複数回答（3つまで））

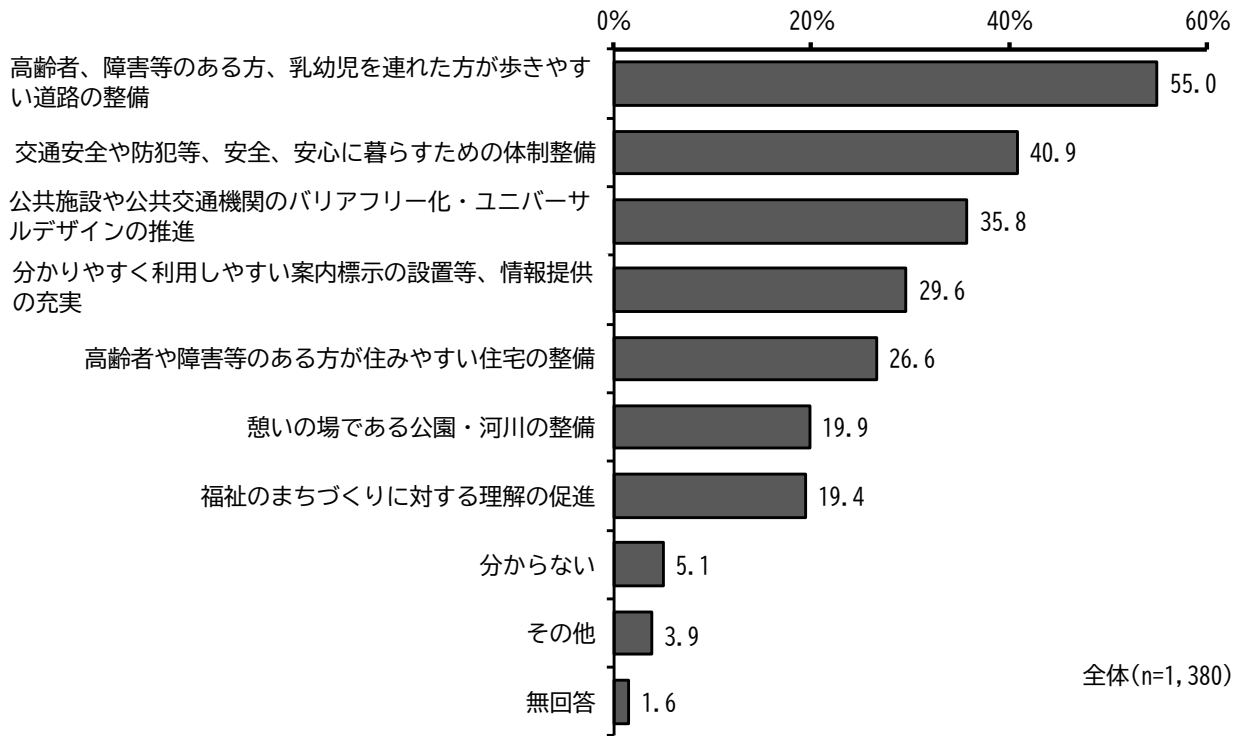


問20 福祉のまちづくりを実現するために、優先的に取り組む必要があると思うことは何ですか。

(3つまで○)

- ・「高齢者、障害等のある方、乳幼児を連れた方が歩きやすい道路の整備」(55.0%)が最も多く、次いで「交通安全や防犯等、安全、安心に暮らすための体制整備」(40.9%)、「公共施設や公共交通機関のバリアフリー化・ユニバーサルデザインの推進」(35.8%)と続いている。

図表 福祉のまちづくりのために優先的に取り組むこと(全体：複数回答(3つまで))

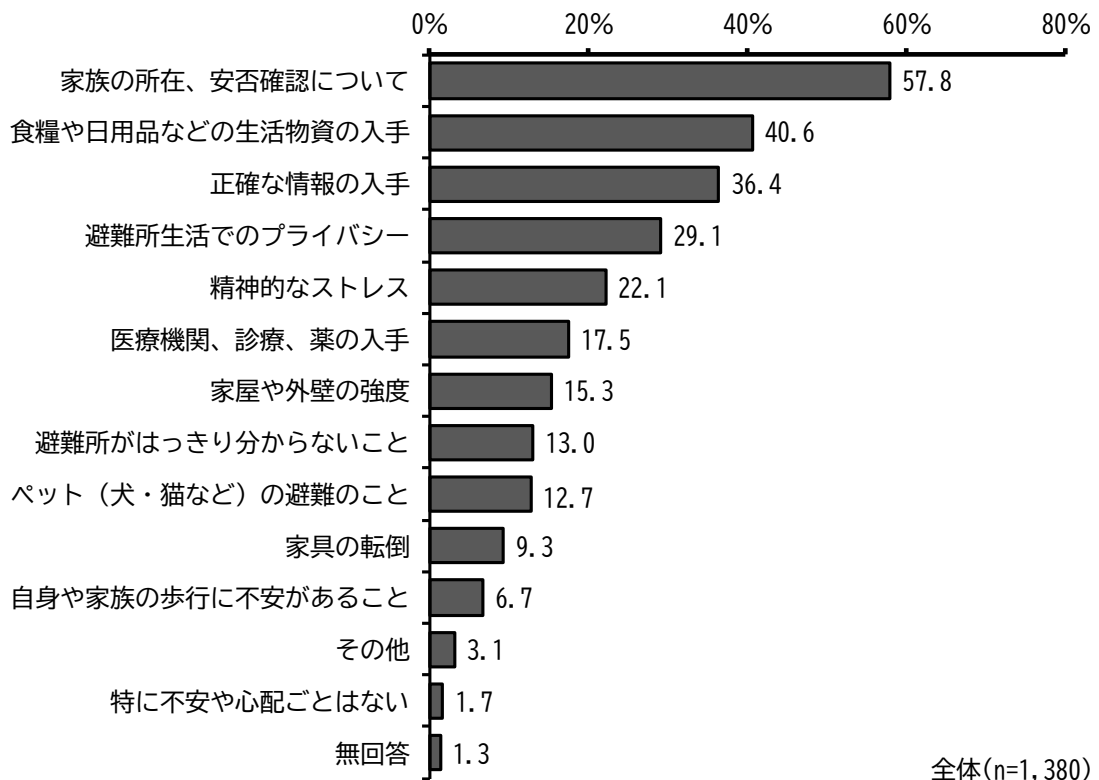


(7) 災害時の支え合いについて

問21 災害時、あなたが、特に不安や心配なことは何ですか。(3つまで○)

- ・ 97.0%の人が災害時の不安や心配ごとがある。
- ・ 「家族の所在、安否確認について」(57.8%)が最も多く、次いで「食糧や日用品などの生活物資の入手」(40.6%)、「正確な情報の入手」(36.4%)と続いている。「特に不安や心配ごとはない」は1.7%となっている。
- ・ 年齢別では、18～19歳で「食糧や日用品などの生活物資の入手」、20～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60～64歳、65～69歳、75歳以上で「家族の所在、安否確認について」が最も多く、75歳以上は「正確な情報の入手」も同率で最も多くなっている。70～74歳は「正確な情報の入手」が最も多くなっている。
- ・ 世帯構成別では、ひとり暮らしは「正確な情報の入手」が最も多く、「食糧や日用品などの生活物資の入手」と続いている。配偶者とふたり暮らしとその他は「家族の所在、安否確認について」が最も多く、配偶者とふたり暮らしは「正確な情報の入手」、その他は「食糧や日用品などの生活物資の入手」と続いている。
- ・ 今回と前回の調査結果を比較すると、前回調査では選択肢が一部異なるとともに、選択可能数に制限はなかったが、「所在、安否の確認」(67.8%)が最も多く、次いで「正確な情報の入手」(55.0%)、「避難生活」(54.1%)と続いている。

図表 災害時の不安や心配ごと(全体：複数回答(3つまで))



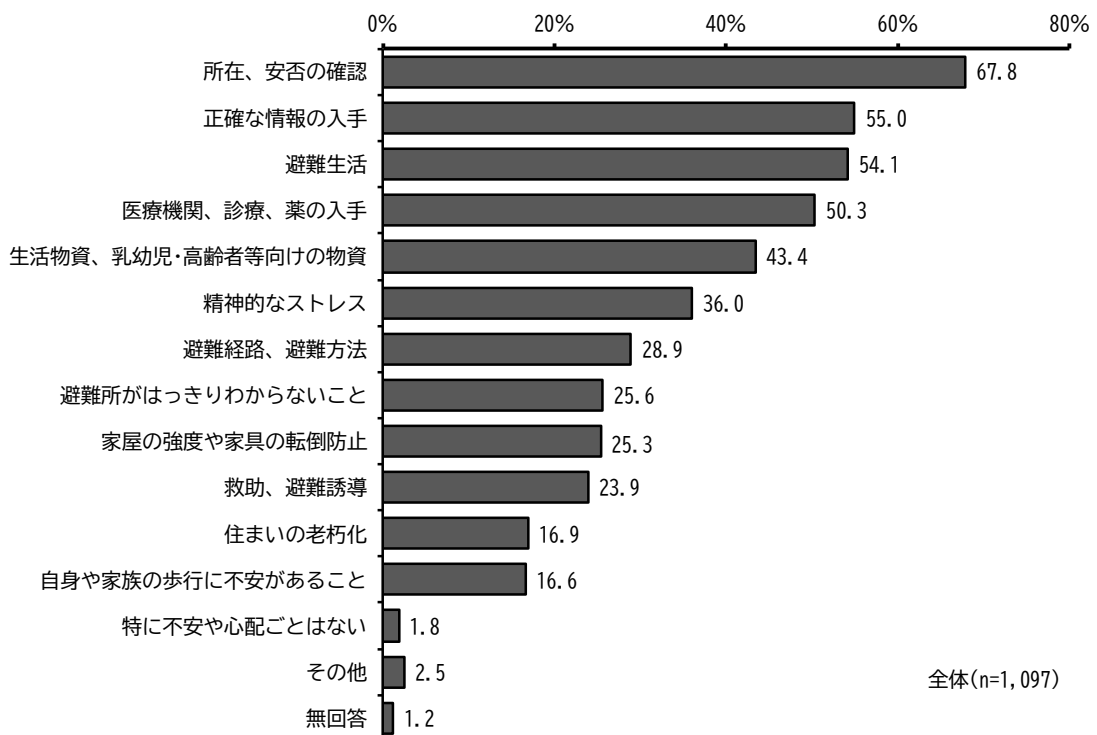
図表 災害時の不安や心配ごと（全体、年齢別、世帯構成別：複数回答（3つまで））

			家族の所在、安否確認について	家具の転倒	家屋や外壁の強度	自身や家族の歩行に不安があること	避難所がはっきり分からないこと	ペット（犬・猫など）の避難のこと	正確な情報の入手
全体		(n=1,380)	57.8	9.3	15.3	6.7	13.0	12.7	36.4
年齢	18～19歳	(n=11)	45.5	18.2	27.3	9.1	9.1	18.2	9.1
	20～29歳	(n=93)	60.2	11.8	16.1	1.1	15.1	14.0	19.4
	30～39歳	(n=173)	64.2	11.6	15.0	0.6	11.6	9.8	28.9
	40～49歳	(n=278)	71.6	4.7	14.0	2.9	15.1	16.5	34.9
	50～59歳	(n=278)	62.6	7.2	12.9	4.7	7.6	16.9	42.4
	60～64歳	(n=115)	57.4	14.8	23.5	5.2	13.0	12.2	39.1
	65～69歳	(n=110)	58.2	10.0	14.5	10.0	13.6	15.5	40.9
	70～74歳	(n=132)	45.5	8.3	15.2	6.1	15.2	6.1	48.5
世帯構成	75歳以上	(n=187)	33.7	12.3	15.5	22.5	16.6	5.9	33.7
	ひとり暮らし	(n=194)	32.5	9.3	16.5	7.2	17.5	8.8	44.8
	配偶者とふたり暮らし	(n=345)	50.7	10.7	15.1	6.4	13.6	10.7	40.3
その他		(n=515)	71.8	6.8	14.0	3.3	12.6	14.6	33.8

			避難所生活でのプライバシー	食糧や日用品などの生活物資の入手	医療機関、診療、薬の入手	精神的なストレス	特に不安や心配ごとはない	その他	無回答
全体		(n=1,380)	29.1	40.6	17.5	22.1	1.7	3.1	1.3
年齢	18～19歳	(n=11)	9.1	63.6	9.1	18.2	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	(n=93)	36.6	48.4	12.9	31.2	2.2	1.1	0.0
	30～39歳	(n=173)	30.1	58.4	15.6	24.3	0.6	1.2	1.2
	40～49歳	(n=278)	29.1	43.2	11.2	22.7	0.7	4.0	1.1
	50～59歳	(n=278)	27.7	40.6	15.1	21.6	1.4	3.6	0.7
	60～64歳	(n=115)	27.0	37.4	19.1	22.6	0.9	0.9	0.9
	65～69歳	(n=110)	23.6	26.4	22.7	22.7	3.6	5.5	1.8
	70～74歳	(n=132)	30.3	36.4	24.2	14.4	6.1	3.0	0.8
世帯構成	75歳以上	(n=187)	31.0	28.9	25.7	20.3	0.5	4.3	3.2
	ひとり暮らし	(n=194)	30.9	34.5	22.7	25.8	2.6	3.6	1.5
	配偶者とふたり暮らし	(n=345)	31.3	38.3	20.9	22.6	2.3	2.0	0.6
その他		(n=515)	29.1	45.6	15.7	19.8	1.2	4.1	0.8

<参考（前回調査）>

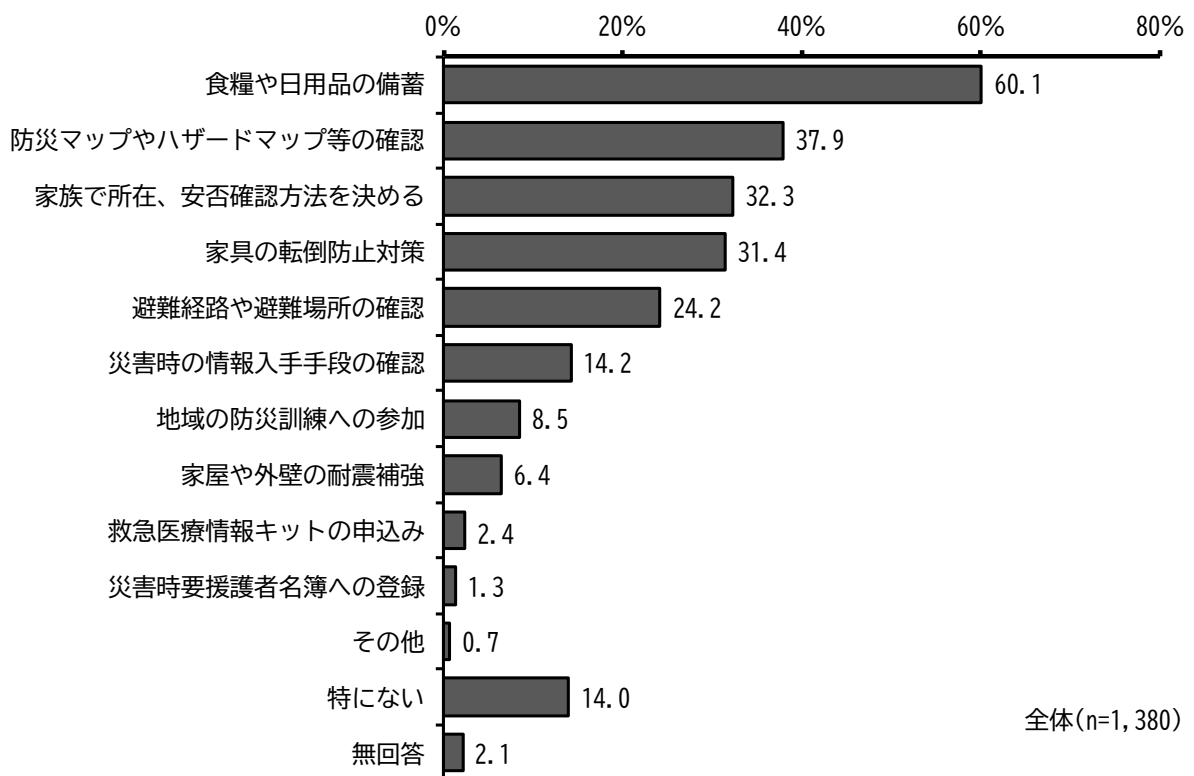
図表 災害時の不安や心配ごと（全体：複数回答（いくつでも））



問22 あなたが普段から災害時に備えていることはありますか。(いくつでも○)

- ・ 83.9%の人が普段から災害時に備えていることがある。
- ・ 「食糧や日用品の備蓄」(60.1%)が最も多く、次いで「防災マップやハザードマップ等の確認」(37.9%)、「家族で所在、安否確認方法を決める」(32.3%)と続いている。「特にない」は14.0%となっている。
- ・ 年齢別では、すべての年齢で「食糧や日用品の備蓄」が最も多く、18～19歳で「避難経路や避難場所の確認」、20～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳及び60～64歳で「防災マップやハザードマップ等の確認」、65～69歳、70～74歳及び75歳以上で「家具の転倒防止対策」と続いている。
- ・ 世帯構成別では、ひとり暮らしは「災害時の情報入手手段の確認」、「災害時要援護者名簿への登録」、「救急医療情報キットの申込み」を除いた項目で他の世帯構成に比べて低くなっており、「特にない」が26.3%と高くなっている。

図表 普段から災害に備えていること (全体：複数回答)



図表 普段から災害に備えていること（全体、年齢別、世帯構成別：複数回答）

(%)

			家族で所在、安否確認方法を決める	家具の転倒防止対策	家屋や外壁の耐震補強	防災マップやハザードマップ等の確認	避難経路や避難場所の確認	地域の防災訓練への参加	食糧や日用品の備蓄
全体		(n=1,380)	32.3	31.4	6.4	37.9	24.2	8.5	60.1
年齢	18～19歳	(n=11)	45.5	36.4	9.1	45.5	54.5	0.0	81.8
	20～29歳	(n=93)	24.7	28.0	4.3	31.2	24.7	2.2	41.9
	30～39歳	(n=173)	27.2	23.7	5.2	41.0	23.7	2.9	57.8
	40～49歳	(n=278)	36.3	28.1	3.6	46.4	25.9	5.4	66.5
	50～59歳	(n=278)	35.6	29.9	5.8	37.4	24.1	9.0	60.8
	60～64歳	(n=115)	27.8	26.1	5.2	37.4	13.0	2.6	61.7
	65～69歳	(n=110)	37.3	40.9	8.2	38.2	28.2	14.5	63.6
	70～74歳	(n=132)	34.8	42.4	10.6	37.1	29.5	16.7	58.3
75歳以上	(n=187)	27.3	36.9	10.2	26.7	20.9	15.5	57.8	
世帯構成	ひとり暮らし	(n=194)	13.4	16.0	2.1	28.9	22.7	5.2	41.8
	配偶者とふたり暮らし	(n=345)	33.9	38.6	7.2	37.1	22.9	12.2	65.8
	その他	(n=515)	37.1	35.0	7.8	46.0	25.0	9.1	67.2

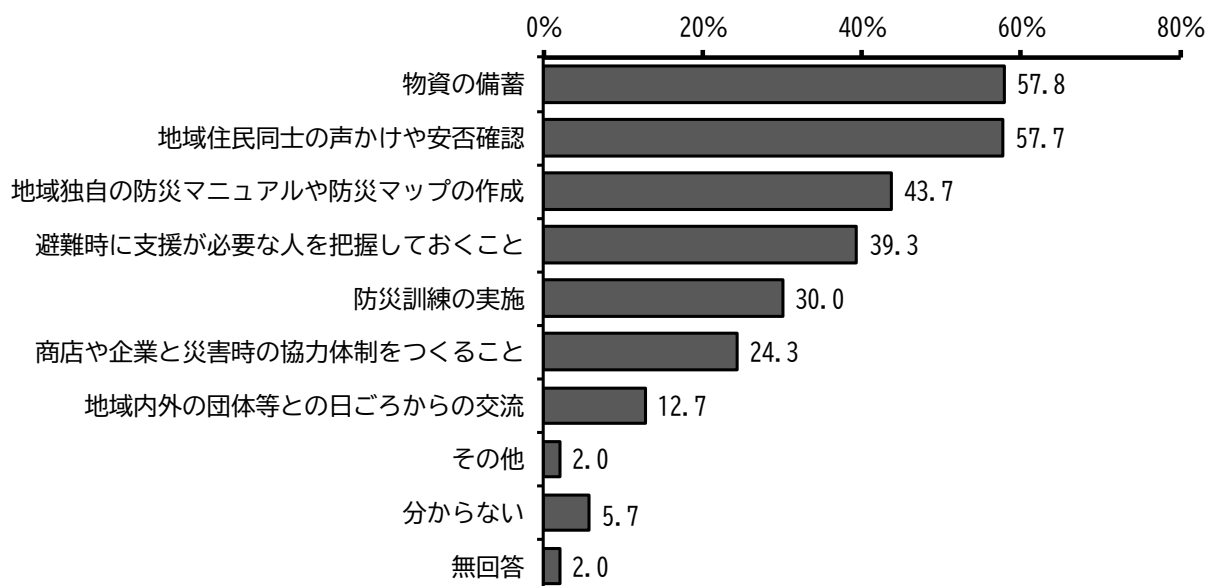
			災害時の情報入手手段の確認	災害時要援護者名簿への登録	救急医療情報キットの申込み	特にない	その他	無回答
全体		(n=1,380)	14.2	1.3	2.4	14.0	0.7	2.1
年齢	18～19歳	(n=11)	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	(n=93)	10.8	0.0	2.2	22.6	0.0	1.1
	30～39歳	(n=173)	12.7	1.2	1.7	14.5	0.6	1.2
	40～49歳	(n=278)	15.1	0.4	0.4	12.6	0.4	1.8
	50～59歳	(n=278)	11.2	1.1	1.8	16.2	0.4	0.4
	60～64歳	(n=115)	14.8	0.0	2.6	18.3	0.9	1.7
	65～69歳	(n=110)	16.4	0.0	0.9	8.2	0.9	2.7
	70～74歳	(n=132)	14.4	0.8	3.0	12.9	0.8	2.3
75歳以上	(n=187)	19.3	5.9	7.5	10.7	2.1	5.9	
世帯構成	ひとり暮らし	(n=194)	15.5	2.1	4.6	26.3	1.0	3.6
	配偶者とふたり暮らし	(n=345)	18.3	0.9	3.2	10.7	0.9	1.7
	その他	(n=515)	10.3	0.8	0.8	10.1	0.4	1.0

問23 あなたが、災害に備えて地域で取り組むとよいと思うものはどのようなことですか。

(いくつでも○)

- ・「物資の備蓄」(57.8%)が最も多く、次いで「地域住民同士の声かけや安否確認」(57.7%)、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」(43.7%)と続いている。
- ・年齢別では、18歳から59歳までの年代で「物資の備蓄」が最も多く、60歳以上の年代で「地域住民同士の声かけや安否確認」が最も多くなっている。
- ・世帯構成別では、ひとり暮らしで「物資の備蓄」、配偶者とふたり暮らし及びその他で「地域住民同士の声かけや安否確認」がそれぞれ最も多くなっている。
- ・文化センター圏域別では、中央文化センター圏域、白糸台文化センター圏域、西府文化センター圏域、武蔵台文化センター圏域及び片町文化センター圏域で「物資の備蓄」が最も多く、新町文化センター圏域、住吉文化センター圏域、是政文化センター圏域、紅葉丘文化センター圏域、押立文化センター圏域及び四谷文化センター圏域で「地域住民同士の声かけや安否確認」が最も多くなっている。

図表 災害に備えて地域で取り組むとよいと思うもの(全体：複数回答)



全体(n=1,380)

図表 災害に備えて地域で取り組むとよいと思うもの
(全体、年齢別、世帯構成別、文化センター圏域別：複数回答)

			地域住民同士の声かけや安否確認	防災訓練の実施	地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成	地域内外の団体等との日ごろからの交流	物資の備蓄	(%)
全体		(n=1,380)	57.7	30.0	43.7	12.7	57.8	
性別	男性	(n=609)	50.7	29.2	42.5	12.8	59.8	
	女性	(n=747)	63.3	31.1	44.8	12.4	56.9	
年齢	18～19歳	(n=11)	54.5	9.1	36.4	0.0	81.8	
	20～29歳	(n=93)	39.8	19.4	40.9	4.3	76.3	
	30～39歳	(n=173)	51.4	35.8	46.2	9.8	68.2	
	40～49歳	(n=278)	52.9	28.1	38.8	14.0	58.3	
	50～59歳	(n=278)	55.4	27.7	45.0	14.7	56.8	
	60～64歳	(n=115)	60.9	26.1	42.6	12.2	56.5	
	65～69歳	(n=110)	71.8	40.0	49.1	13.6	53.6	
	70～74歳	(n=132)	63.6	32.6	53.0	11.4	45.5	
	75歳以上	(n=187)	69.0	32.1	39.6	15.5	50.3	
世帯構成	ひとり暮らし	(n=194)	47.9	24.2	42.3	11.3	59.3	
	配偶者とふたり暮らし	(n=345)	60.6	32.2	48.7	13.0	54.5	
	その他	(n=515)	62.5	34.8	43.3	15.5	61.6	
文化センター圏域	中央文化センター圏域	(n=246)	53.3	32.9	38.6	11.4	64.6	
	白糸台文化センター圏域	(n=150)	60.0	30.7	44.7	6.7	62.0	
	西府文化センター圏域	(n=118)	58.5	29.7	48.3	12.7	60.2	
	武蔵台文化センター圏域	(n=86)	60.5	38.4	43.0	14.0	70.9	
	新町文化センター圏域	(n=137)	62.0	26.3	40.9	11.7	59.1	
	住吉文化センター圏域	(n=141)	61.0	29.1	43.3	12.1	51.1	
	是政文化センター圏域	(n=108)	56.5	35.2	47.2	16.7	46.3	
	紅葉丘文化センター圏域	(n=116)	56.9	30.2	48.3	14.7	56.0	
	押立文化センター圏域	(n=60)	66.7	26.7	35.0	15.0	41.7	
	四谷文化センター圏域	(n=69)	66.7	20.3	43.5	21.7	40.6	
	片町文化センター圏域	(n=131)	47.3	27.5	50.4	12.2	63.4	

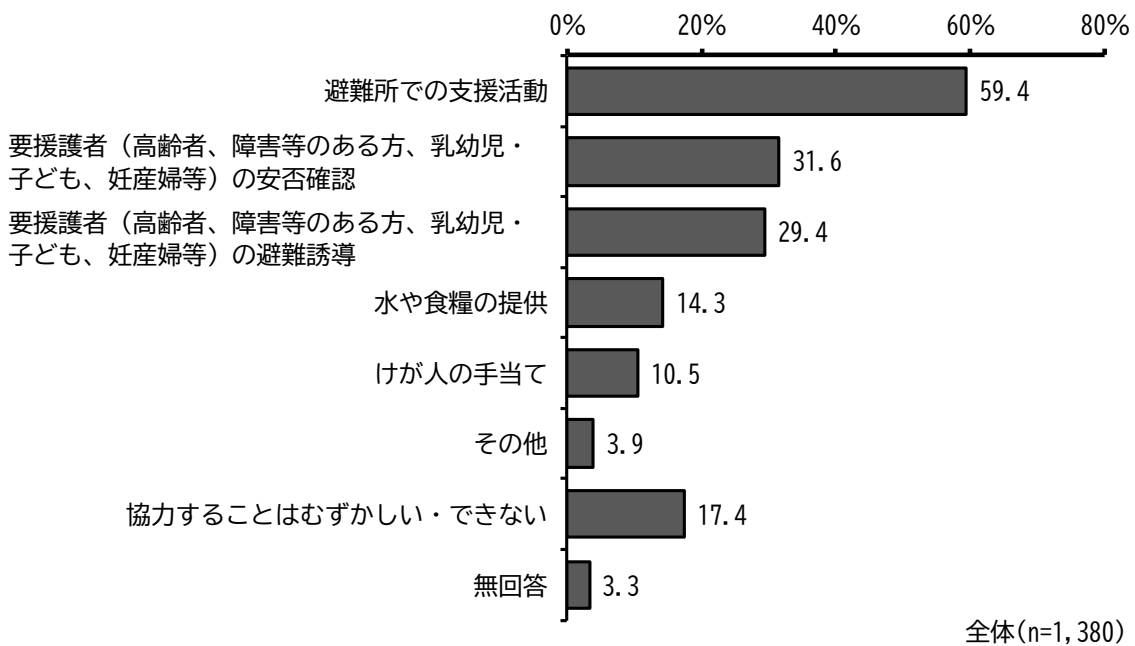
			商店や企業と災害時の協力体制をつくること	避難時に支援が必要な人を把握しておくこと	分からない	その他	無回答
全体		(n=1,380)	24.3	39.3	5.7	2.0	2.0
性別	男性	(n=609)	24.0	33.5	6.9	2.3	2.0
	女性	(n=747)	24.4	44.6	4.7	1.7	1.6
年齢	18～19歳	(n=11)	18.2	9.1	0.0	9.1	0.0
	20～29歳	(n=93)	30.1	33.3	2.2	1.1	1.1
	30～39歳	(n=173)	32.4	37.0	3.5	2.3	0.6
	40～49歳	(n=278)	25.9	39.2	7.2	1.4	1.1
	50～59歳	(n=278)	25.9	45.7	7.2	2.2	0.4
	60～64歳	(n=115)	23.5	47.8	7.0	2.6	1.7
	65～69歳	(n=110)	22.7	40.0	3.6	0.9	1.8
	70～74歳	(n=132)	16.7	34.1	6.8	1.5	3.0
	75歳以上	(n=187)	15.5	34.8	5.3	2.7	6.4
世帯構成	ひとり暮らし	(n=194)	24.7	32.5	8.8	2.6	3.1
	配偶者とふたり暮らし	(n=345)	20.6	43.2	3.8	2.3	1.4
	その他	(n=515)	27.2	41.6	5.0	1.6	0.6
文化センター圏域	中央文化センター圏域	(n=246)	22.4	39.0	5.7	2.4	1.2
	白糸台文化センター圏域	(n=150)	28.7	45.3	6.0	1.3	2.0
	西府文化センター圏域	(n=118)	31.4	40.7	2.5	1.7	0.8
	武蔵台文化センター圏域	(n=86)	22.1	34.9	3.5	1.2	1.2
	新町文化センター圏域	(n=137)	21.9	38.7	5.8	2.2	2.9
	住吉文化センター圏域	(n=141)	22.0	35.5	7.1	2.1	2.1
	是政文化センター圏域	(n=108)	20.4	39.8	5.6	1.9	4.6
	紅葉丘文化センター圏域	(n=116)	27.6	40.5	5.2	0.9	0.9
	押立文化センター圏域	(n=60)	20.0	45.0	8.3	1.7	3.3
	四谷文化センター圏域	(n=69)	27.5	40.6	5.8	1.4	1.4
	片町文化センター圏域	(n=131)	25.2	35.9	6.1	3.1	1.5

問24 災害時、地域で手助けが必要な方に、あなたができることは、どのようなことですか。

(いくつでも○)

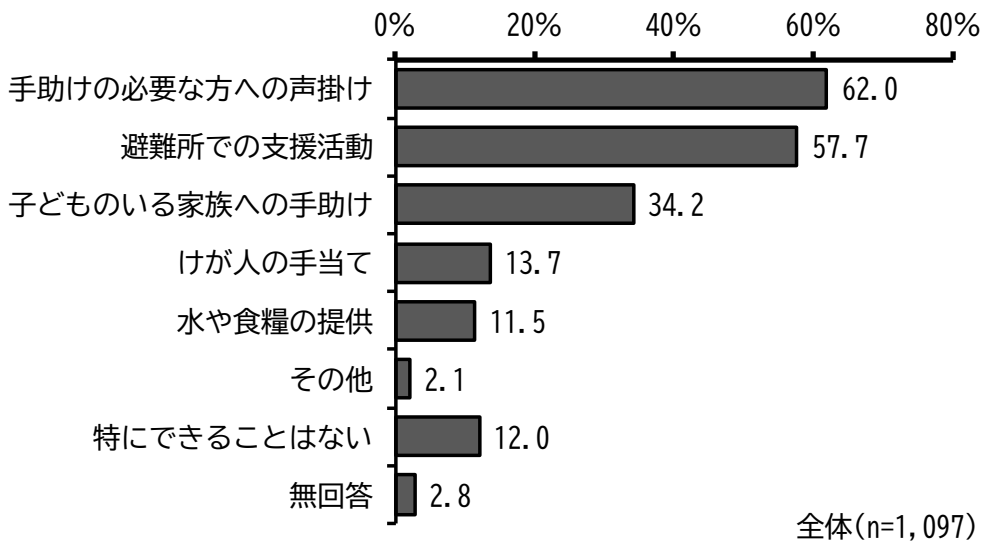
- ・ 79.3%の人が災害時に手助けが必要な方にできることがある。
- ・ 「避難所での支援活動」(59.4%)が最も多く、次いで「要援護者(高齢者、障害者のある方、乳幼児・子ども、妊産婦等)の安否確認」(31.6%)、「要援護者(高齢者、障害者のある方、乳幼児・子ども、妊産婦等)の避難誘導」(29.4%)と続いている。
- ・ 今回と前回の調査結果を比較すると、前回調査では選択肢が一部異なるが、「手助けの必要な方への声掛け」(62.0%)が最も多く、次いで「避難所での支援活動」(57.7%)、「子どものいる家族への手助け」(34.2%)が続いている。

図表 災害時に手助けが必要な方にできること(全体：複数回答)



<参考(前回調査)>

図表 災害時に手助けが必要な方にできること(全体：複数回答)

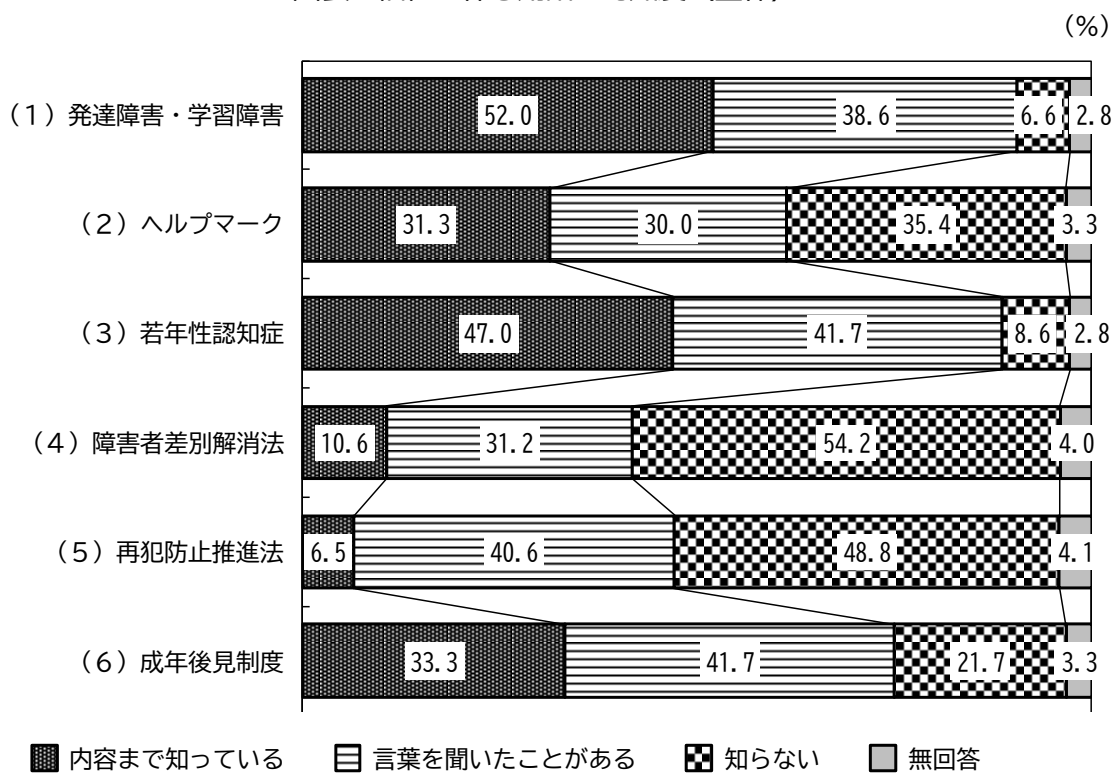


(8) 福祉に対する考え方について

問25 あなたは、次のことをご存じですか。(1)～(6)のそれぞれの項目について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。

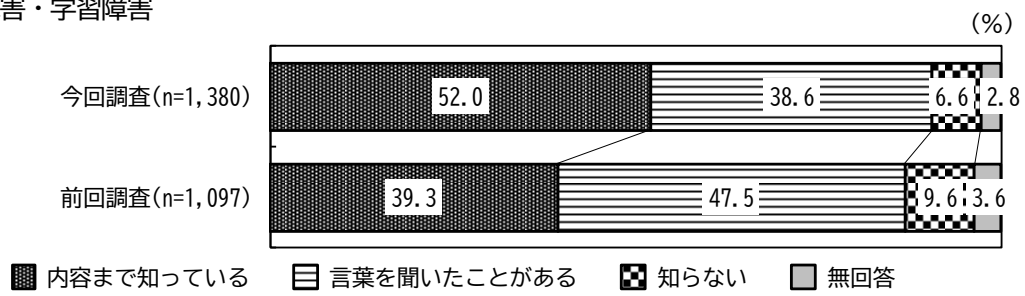
- ・「内容まで知っている」が『(1) 発達障害・学習障害』は52.0%、『(3) 若年性認知症』は47.0%と高くなっている。一方、『(4) 障害者差別解消法』は10.6%、『(5) 再犯防止推進法』は6.5%と低くなっている。
- ・今回と前回の調査結果を比較すると、前回調査と同じ項目である『発達障害・学習障害』、『若年性認知症』、『成年後見制度』はすべて「内容まで知っている」が前回調査より高くなっている。特に『発達障害・学習障害』では、「内容まで知っている」が12.7ポイント高くなっている。

図表 福祉に係る用語の認知度 (全体)

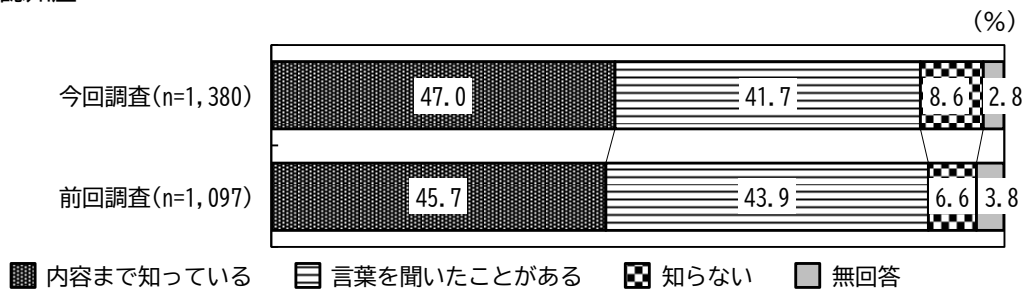


図表 福祉に係る用語の認知度（全体）【経年比較】

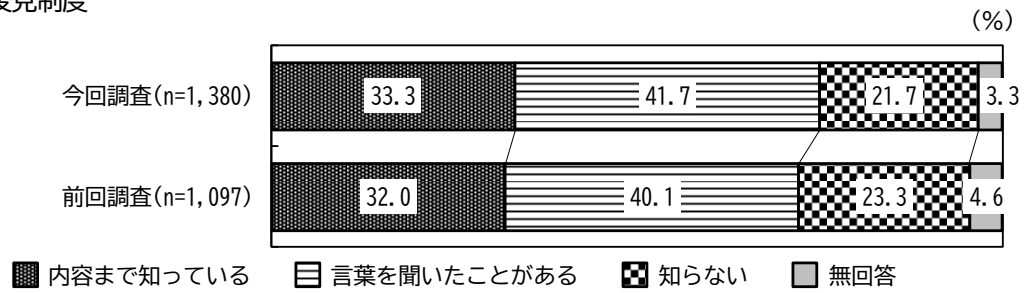
発達障害・学習障害



若年性認知症



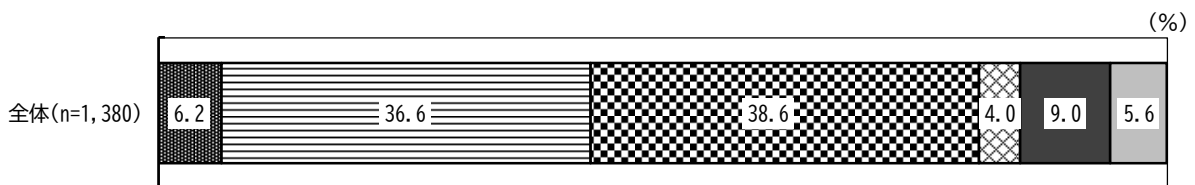
成年後見制度



問26 あなたは認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。最も近いと思うものをお答えください。(1つに○)

- ・「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」(38.6%)が最も多く、次いで「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」(36.6%)、「認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう」(9.0%)と続いている。
- ・性別では、男性は「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」(43.8%)、女性は「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」(41.9%)が最も多くなっている。
- ・年齢別では、18～19歳、20～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳、65～69歳で「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」、60～64歳、70～74歳、75歳以上で「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」が最も多くなっている。

図表 認知症に対するイメージ (全体)



- 認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる
- ▣ 認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける
- ▤ 認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる
- ▥ 認知症になると、暴言、暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる
- 認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう
- 無回答

図表 認知症に対するイメージ (全体、性別、年齢別)

		認知症に対するイメージ (%)					
		認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる	認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける	認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる	認知症になると、暴言、暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる	認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう	無回答
全体	(n=1,380)	6.2	36.6	38.6	4.0	9.0	5.6
性別	男性 (n=609)	6.9	30.5	43.8	4.4	9.9	4.4
	女性 (n=747)	5.5	41.9	35.1	3.6	7.8	6.2
年齢	18～19歳 (n=11)	0.0	18.2	63.6	18.2	0.0	0.0
	20～29歳 (n=93)	2.2	22.6	54.8	10.8	8.6	1.1
	30～39歳 (n=173)	7.5	35.8	42.8	5.2	7.5	1.2
	40～49歳 (n=278)	4.7	38.5	41.4	3.6	8.6	3.2
	50～59歳 (n=278)	5.0	38.1	40.6	4.3	8.3	3.6
	60～64歳 (n=115)	4.3	44.3	36.5	0.9	9.6	4.3
	65～69歳 (n=110)	3.6	32.7	41.8	2.7	12.7	6.4
	70～74歳 (n=132)	9.1	41.7	30.3	1.5	11.4	6.1
75歳以上 (n=187)	11.8	34.2	24.1	3.2	8.6	18.2	

問27 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。(1)～(8)について、あなたの考えに最も近いものに1ずつ○をつけてください。

※《そう思う》・・・「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計

※《そう思わない》・・・「あまり思わない」と「全く思わない」の合計

(84ページ 図表(7)まで同様)

- ・《そう思う》の割合が『(1) 障害等のある方とない方が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である』、『(5) 児童や高齢者、障害等のある方への虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である』及び『(8) 地域づくりには、障害の有無に関わらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての地域住民と多様な主体が参画し、つながりながら取り組むことが重要である』で8割以上と高くなっている。一方、『(3) 生活保護受給者に対する偏見や差別がある』及び『(4) ひきこもりやニートは、本人や家族だけでなく、社会全体の問題である』で5割未満と低くなっている。

図表 福祉に関する考え方 (全体)

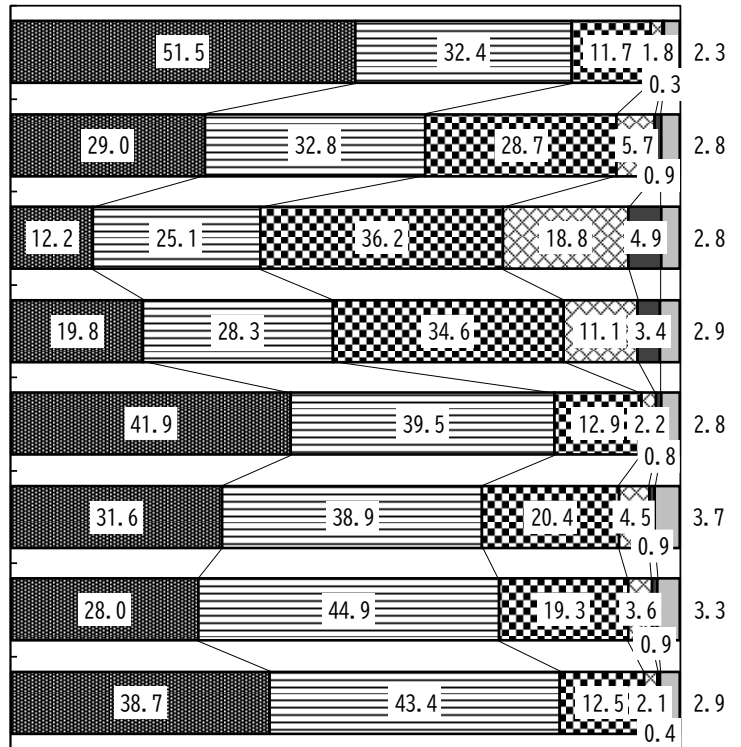
全体(n=1,380)	(%)						(%)		
	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらと もいえな い	あまり思 わない	全く思わ ない	無回答	《そう思 う》	どちらと もいえな い	《そう思 わない》
(1) 障害等のある方とない方が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である	51.5	32.4	11.7	1.8	0.3	2.3	83.9	11.7	2.1
(2) 経済的困窮の問題は、本人だけでなく、社会全体の問題である	29.0	32.8	28.7	5.7	0.9	2.8	61.8	28.7	6.6
(3) 生活保護受給者に対する偏見や差別がある	12.2	25.1	36.2	18.8	4.9	2.8	37.3	36.2	23.7
(4) ひきこもりやニートは、本人や家族だけでなく、社会全体の問題である	19.8	28.3	34.6	11.1	3.4	2.9	48.1	34.6	14.5
(5) 児童や高齢者、障害等のある方への虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である	41.9	39.5	12.9	2.2	0.8	2.8	81.4	12.9	3.0
(6) DV被害を防ぎ、被害者を支援するために、地域でのつながりが重要である	31.6	38.9	20.4	4.5	0.9	3.7	70.5	20.4	5.4
(7) ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である	28.0	44.9	19.3	3.6	0.9	3.3	72.9	19.3	4.5
(8) 地域づくりには、障害の有無に関わらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての地域住民と多様な主体が参画し、つながりながら取り組むことが重要である	38.7	43.4	12.5	2.1	0.4	2.9	82.1	12.5	2.5

図表 福祉に関する考え方（全体）

全体(n=1,380)

(%)

- (1) 障害等のある方とない方が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である
- (2) 経済的困窮の問題は、本人だけでなく、社会全体の問題である
- (3) 生活保護受給者に対する偏見や差別がある
- (4) ひきこもりやニートは、本人や家族だけでなく、社会全体の問題である
- (5) 児童や高齢者、障害等のある方への虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である
- (6) DV被害を防ぎ、被害者を支援するために、地域でのつながりが重要である
- (7) ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である
- (8) 地域づくりには、障害の有無に関わらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての地域住民と多様な主体が参画し、つながりながら取り組むことが重要である



■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらともいえない ■ あまり思わない ■ 全く思わない ■ 無回答

(1) 障害等のある方とない方が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である

- ・《そう思う》が83.9%、「どちらともいえない」が11.7%、《そう思わない》は2.1%となっている。
- ・性別では、《そう思う》が男性は81.8%、女性は85.5%となっている。
- ・年齢別では、《そう思う》が20～29歳で88.2%、65～69歳で86.4%と高くなっている。

図表 障害等のある方とない方が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である (全体、性別、年齢別)

		(%)						(%)		
		そう思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらとも いえない	あまり思わ ない	全く思わな い	無回答	《そう思 う》	どちらとも いえない	《そう思わ ない》
全体	(n=1,380)	51.5	32.4	11.7	1.8	0.3	2.3	83.9	11.7	2.1
性別	男性 (n=609)	50.4	31.4	13.3	2.0	0.7	2.3	81.8	13.3	2.7
	女性 (n=747)	52.2	33.3	10.6	1.6	0.0	2.3	85.5	10.6	1.6
年齢	18～19歳 (n=11)	45.5	27.3	27.3	0.0	0.0	0.0	72.8	27.3	0.0
	20～29歳 (n=93)	61.3	26.9	5.4	4.3	1.1	1.1	88.2	5.4	5.4
	30～39歳 (n=173)	51.4	32.4	13.3	2.3	0.0	0.6	83.8	13.3	2.3
	40～49歳 (n=278)	44.6	40.3	10.4	3.2	1.1	0.4	84.9	10.4	4.3
	50～59歳 (n=278)	54.0	30.9	12.6	1.8	0.0	0.7	84.9	12.6	1.8
	60～64歳 (n=115)	51.3	28.7	17.4	0.0	0.0	2.6	80.0	17.4	0.0
	65～69歳 (n=110)	59.1	27.3	9.1	0.0	0.0	4.5	86.4	9.1	0.0
	70～74歳 (n=132)	49.2	32.6	12.9	0.0	0.0	5.3	81.8	12.9	0.0
	75歳以上 (n=187)	50.3	31.6	10.2	1.6	0.0	6.4	81.9	10.2	1.6

(2) 経済的困窮の問題は、本人だけでなく、社会全体の問題である

- ・《そう思う》が61.8%、「どちらともいえない」が28.7%、《そう思わない》は6.6%となっている。
- ・性別では、《そう思う》が男性は61.8%、女性は61.1%となっている。
- ・年齢別では、《そう思う》が18～19歳で72.7%、75歳以上で67.9%、20～29歳で67.8%と高くなっている。

図表 経済的困窮の問題は、本人だけでなく、社会全体の問題である（全体、性別、年齢別）

		(%)						(%)		
		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらとも いえない	あまり思わ ない	全く思わな い	無回答	《そう思 う》	どちらとも いえない	《そう思わ ない》
全体	(n=1,380)	29.0	32.8	28.7	5.7	0.9	2.8	61.8	28.7	6.6
性別	男性 (n=609)	31.4	30.4	29.1	5.9	0.7	2.6	61.8	29.1	6.6
	女性 (n=747)	26.0	35.1	29.0	5.8	1.2	2.9	61.1	29.0	7.0
年齢	18～19歳 (n=11)	18.2	54.5	27.3	0.0	0.0	0.0	72.7	27.3	0.0
	20～29歳 (n=93)	36.6	31.2	26.9	3.2	1.1	1.1	67.8	26.9	4.3
	30～39歳 (n=173)	30.6	31.8	27.2	9.8	0.0	0.6	62.4	27.2	9.8
	40～49歳 (n=278)	23.7	33.8	30.6	9.4	2.2	0.4	57.5	30.6	11.6
	50～59歳 (n=278)	32.0	28.4	30.9	5.8	1.4	1.4	60.4	30.9	7.2
	60～64歳 (n=115)	25.2	36.5	32.2	1.7	0.9	3.5	61.7	32.2	2.6
	65～69歳 (n=110)	29.1	36.4	26.4	2.7	0.0	5.5	65.5	26.4	2.7
	70～74歳 (n=132)	31.8	23.5	31.8	6.1	0.0	6.8	55.3	31.8	6.1
75歳以上 (n=187)	27.3	40.6	22.5	2.1	0.5	7.0	67.9	22.5	2.6	

(3) 生活保護受給者に対する偏見や差別がある

- ・《そう思う》が37.3%、「どちらともいえない」が36.2%、《そう思わない》は23.7%となっている。
- ・性別では、《そう思う》が男性は40.9%、女性は34.3%となっている。
- ・年齢別では、《そう思う》が20～29歳で46.2%、30～39歳で43.9%、60～64歳で40.9%と高くなっている。

図表 生活保護受給者に対する偏見や差別がある（全体、性別、年齢別）

		(%)						(%)		
		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらとも いえない	あまり思わ ない	全く思わな い	無回答	《そう思 う》	どちらとも いえない	《そう思わ ない》
全体	(n=1,380)	12.2	25.1	36.2	18.8	4.9	2.8	37.3	36.2	23.7
性別	男性 (n=609)	14.3	26.6	34.6	16.3	5.4	2.8	40.9	34.6	21.7
	女性 (n=747)	10.3	24.0	37.5	21.0	4.6	2.7	34.3	37.5	25.6
年齢	18～19歳 (n=11)	9.1	18.2	54.5	9.1	9.1	0.0	27.3	54.5	18.2
	20～29歳 (n=93)	12.9	33.3	30.1	20.4	2.2	1.1	46.2	30.1	22.6
	30～39歳 (n=173)	10.4	33.5	32.4	19.7	3.5	0.6	43.9	32.4	23.2
	40～49歳 (n=278)	12.9	25.5	38.1	17.6	5.4	0.4	38.4	38.1	23.0
	50～59歳 (n=278)	15.8	23.7	38.8	18.0	2.9	0.7	39.5	38.8	20.9
	60～64歳 (n=115)	13.9	27.0	38.3	14.8	1.7	4.3	40.9	38.3	16.5
	65～69歳 (n=110)	11.8	19.1	38.2	18.2	8.2	4.5	30.9	38.2	26.4
	70～74歳 (n=132)	9.8	15.9	42.4	18.9	6.8	6.1	25.7	42.4	25.7
75歳以上 (n=187)	8.0	24.1	28.3	23.5	8.0	8.0	32.1	28.3	31.5	

(4) ひきこもりやニートは、本人や家族だけでなく、社会全体の問題である

- ・《そう思う》が48.1%、「どちらともいえない」が34.6%、《そう思わない》は14.5%となっている。
- ・性別では、《そう思う》が男性は48.8%、女性は46.7%となっている。
- ・年齢別では、《そう思う》が65～69歳で57.3%、60～64歳で56.5%、75歳以上で51.9%及び20～29歳で50.5%と高くなっている。

図表 ひきこもりやニートは、本人や家族だけでなく、社会全体の問題である
(全体、性別、年齢別)

		(%)						(%)		
		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらともい えない	あまり思わ ない	全く思わな い	無回答	《そう思 う》	どちらとも いえない	《そう思わ ない》
全体	(n=1,380)	19.8	28.3	34.6	11.1	3.4	2.9	48.1	34.6	14.5
性別	男性 (n=609)	21.0	27.8	31.2	13.1	4.4	2.5	48.8	31.2	17.5
	女性 (n=747)	18.5	28.2	38.0	9.5	2.5	3.2	46.7	38.0	12.0
年齢	18～19歳 (n=11)	18.2	18.2	54.5	9.1	0.0	0.0	36.4	54.5	9.1
	20～29歳 (n=93)	21.5	29.0	32.3	10.8	5.4	1.1	50.5	32.3	16.2
	30～39歳 (n=173)	16.8	31.2	32.9	12.7	5.8	0.6	48.0	32.9	18.5
	40～49歳 (n=278)	12.6	28.1	39.2	14.7	4.7	0.7	40.7	39.2	19.4
	50～59歳 (n=278)	21.6	25.5	34.2	14.4	3.6	0.7	47.1	34.2	18.0
	60～64歳 (n=115)	25.2	31.3	27.8	10.4	1.7	3.5	56.5	27.8	12.1
	65～69歳 (n=110)	27.3	30.0	30.9	7.3	0.0	4.5	57.3	30.9	7.3
	70～74歳 (n=132)	21.2	22.0	41.7	7.6	2.3	5.3	43.2	41.7	9.9
75歳以上 (n=187)	20.3	31.6	31.6	4.8	2.1	9.6	51.9	31.6	6.9	

(5) 児童や高齢者、障害等のある方への虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である

- ・《そう思う》が81.4%、「どちらともいえない」が12.9%、《そう思わない》は3.0%となっている。
- ・性別では、《そう思う》が男性は80.3%、女性は82.4%となっている。
- ・年齢別では、《そう思う》が18～19歳で90.9%、20～29歳で86.0%、65～69歳で87.2%と高くなっている。

図表 児童や高齢者、障害等のある方への虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である
(全体、性別、年齢別)

		(%)						(%)		
		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらともい えない	あまり思わ ない	全く思わな い	無回答	《そう思 う》	どちらとも いえない	《そう思わ ない》
全体	(n=1,380)	41.9	39.5	12.9	2.2	0.8	2.8	81.4	12.9	3.0
性別	男性 (n=609)	40.9	39.4	13.5	2.8	1.0	2.5	80.3	13.5	3.8
	女性 (n=747)	42.2	40.2	12.6	1.6	0.5	2.9	82.4	12.6	2.1
年齢	18～19歳 (n=11)	54.5	36.4	9.1	0.0	0.0	0.0	90.9	9.1	0.0
	20～29歳 (n=93)	47.3	38.7	10.8	2.2	0.0	1.1	86.0	10.8	2.2
	30～39歳 (n=173)	43.4	39.3	12.7	2.9	1.2	0.6	82.7	12.7	4.1
	40～49歳 (n=278)	38.5	40.6	14.4	4.3	1.8	0.4	79.1	14.4	6.1
	50～59歳 (n=278)	39.9	43.9	14.0	1.4	0.0	0.7	83.8	14.0	1.4
	60～64歳 (n=115)	36.5	43.5	13.9	0.9	0.9	4.3	80.0	13.9	1.8
	65～69歳 (n=110)	52.7	34.5	6.4	0.9	0.9	4.5	87.2	6.4	1.8
	70～74歳 (n=132)	44.7	31.1	17.4	1.5	0.0	5.3	75.8	17.4	1.5
75歳以上 (n=187)	39.0	39.0	10.7	1.6	1.1	8.6	78.0	10.7	2.7	

(6) DV被害を防ぎ、被害者を支援するために、地域でのつながりが重要である

- ・《そう思う》が70.5%、「どちらともいえない」が20.4%、《そう思わない》は5.4%となっている。
- ・性別では、《そう思う》が男性は69.6%、女性は70.9%となっている。
- ・年齢別では、《そう思う》が18～19歳で90.9%と高くなっている。その他の年齢では、8割未満となっている。

図表 DV被害を防ぎ、被害者を支援するために、地域でのつながりが重要である
(全体、性別、年齢別)

		(%)						(%)		
		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらともい えない	あまり思わ ない	全く思わな い	無回答	《そう思 う》	どちらとも いえない	《そう思わ ない》
全体	(n=1,380)	31.6	38.9	20.4	4.5	0.9	3.7	70.5	20.4	5.4
性別	男性 (n=609)	30.5	39.1	20.5	5.4	1.3	3.1	69.6	20.5	6.7
	女性 (n=747)	31.9	39.0	20.7	3.7	0.5	4.1	70.9	20.7	4.2
年齢	18～19歳 (n=11)	18.2	72.7	9.1	0.0	0.0	0.0	90.9	9.1	0.0
	20～29歳 (n=93)	36.6	39.8	18.3	4.3	0.0	1.1	76.4	18.3	4.3
	30～39歳 (n=173)	34.7	35.3	23.7	4.6	1.2	0.6	70.0	23.7	5.8
	40～49歳 (n=278)	29.1	38.1	22.3	7.9	2.2	0.4	67.2	22.3	10.1
	50～59歳 (n=278)	29.9	43.9	21.6	2.9	0.0	1.8	73.8	21.6	2.9
	60～64歳 (n=115)	32.2	40.0	18.3	3.5	1.7	4.3	72.2	18.3	5.2
	65～69歳 (n=110)	40.0	38.2	13.6	1.8	0.9	5.5	78.2	13.6	2.7
	70～74歳 (n=132)	30.3	37.1	19.7	4.5	0.0	8.3	67.4	19.7	4.5
	75歳以上 (n=187)	27.8	35.3	20.3	4.3	1.1	11.2	63.1	20.3	5.4

(7) ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である

- ・《そう思う》が72.9%、「どちらともいえない」が19.3%、《そう思わない》は4.5%となっている。
- ・性別では、《そう思う》が男性は70.5%、女性は74.7%となっている。
- ・年齢別では、《そう思う》が18～19歳で81.9%、20～29歳で79.6%、30～39歳で77.5%、65～69歳で78.2%と高くなっている。

図表 ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である
(全体、性別、年齢別)

		(%)						(%)		
		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらともい えない	あまり思わ ない	全く思わな い	無回答	《そう思 う》	どちらとも いえない	《そう思わ ない》
全体	(n=1,380)	28.0	44.9	19.3	3.6	0.9	3.3	72.9	19.3	4.5
性別	男性 (n=609)	26.3	44.2	21.2	3.9	1.1	3.3	70.5	21.2	5.0
	女性 (n=747)	28.5	46.2	18.2	3.3	0.7	3.1	74.7	18.2	4.0
年齢	18～19歳 (n=11)	36.4	45.5	18.2	0.0	0.0	0.0	81.9	18.2	0.0
	20～29歳 (n=93)	35.5	44.1	16.1	3.2	0.0	1.1	79.6	16.1	3.2
	30～39歳 (n=173)	27.2	50.3	16.8	2.9	1.7	1.2	77.5	16.8	4.6
	40～49歳 (n=278)	23.7	43.2	24.1	6.5	2.2	0.4	66.9	24.1	8.7
	50～59歳 (n=278)	24.8	48.2	21.9	3.6	0.0	1.4	73.0	21.9	3.6
	60～64歳 (n=115)	31.3	38.3	23.5	2.6	0.9	3.5	69.6	23.5	3.5
	65～69歳 (n=110)	32.7	45.5	13.6	1.8	0.9	5.5	78.2	13.6	2.7
	70～74歳 (n=132)	28.0	44.7	16.7	3.0	0.8	6.8	72.7	16.7	3.8
	75歳以上 (n=187)	29.9	42.8	15.0	2.7	0.0	9.6	72.7	15.0	2.7

(8) 地域づくりには、障害の有無に関わらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての地域住民と多様な主体が参画し、つながりながら取り組むことが重要である

- ・《そう思う》が82.1%、「どちらともいえない」が12.5%、《そう思わない》は2.5%となっている。
- ・性別では、《そう思う》が男性は79.7%、女性は84.2%となっている。
- ・年齢別では、《そう思う》が18～19歳で100.0%、20～29歳で87.1%と高くなっている。

図表 地域づくりには、障害の有無に関わらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての地域住民と多様な主体が参画し、つながりながら取り組むことが重要である（全体、性別、年齢別）

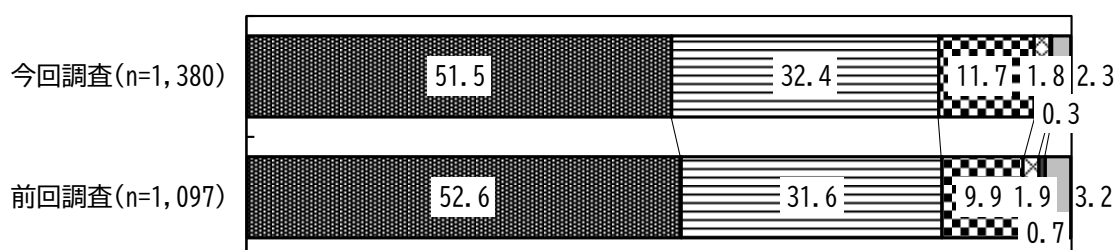
		(%)						(%)		
		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない	無回答	《そう思う》	どちらともいえない	《そう思わない》
全体	(n=1,380)	38.7	43.4	12.5	2.1	0.4	2.9	82.1	12.5	2.5
性別	男性 (n=609)	36.5	43.2	15.1	2.1	0.3	2.8	79.7	15.1	2.4
	女性 (n=747)	40.2	44.0	10.4	2.0	0.4	2.9	84.2	10.4	2.4
年齢	18～19歳 (n=11)	54.5	45.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	20～29歳 (n=93)	43.0	44.1	10.8	0.0	0.0	2.2	87.1	10.8	0.0
	30～39歳 (n=173)	37.0	48.0	11.0	2.9	0.6	0.6	85.0	11.0	3.5
	40～49歳 (n=278)	34.9	46.4	15.1	2.9	0.4	0.4	81.3	15.1	3.3
	50～59歳 (n=278)	37.1	45.0	15.8	1.1	0.0	1.1	82.1	15.8	1.1
	60～64歳 (n=115)	41.7	38.3	13.0	1.7	1.7	3.5	80.0	13.0	3.4
	65～69歳 (n=110)	43.6	39.1	9.1	3.6	0.0	4.5	82.7	9.1	3.6
	70～74歳 (n=132)	41.7	39.4	11.4	2.3	0.0	5.3	81.1	11.4	2.3
75歳以上 (n=187)	37.4	41.2	9.1	2.1	1.1	9.1	78.6	9.1	3.2	

- ・今回と前回の調査結果を比較すると、『(2) 経済的困窮の問題は、本人だけでなく、社会全体の問題である』と『(4) ひきこもりやニートは、本人や家族だけでなく、社会全体の問題である』で《そう思う》の割合が、前回調査より5.0ポイント以上高くなっている。一方、『(1) 障害等のある方とない方が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である』、『(5) 児童や高齢者、障害等のある方への虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である』、『(6) DV被害を防ぎ、被害者を支援するために、地域でのつながりが重要である』、『(7) ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である』で《そう思う》の割合が前回調査より低くなっている。

図表 福祉に関する考え方（全体）【経年比較】

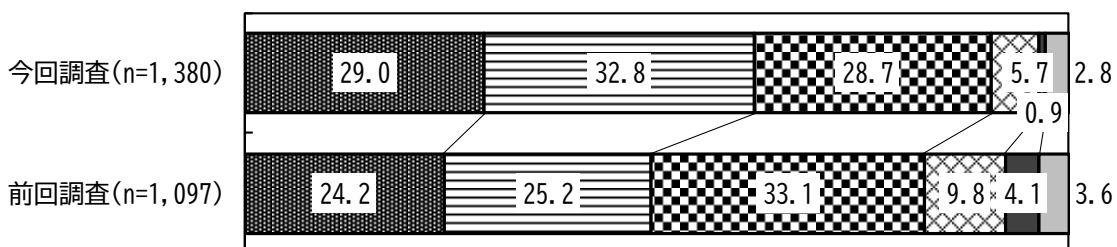
(1) 障害等のある方とない方が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である

(※前回調査では「障害のある人とない人が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である」) (%)



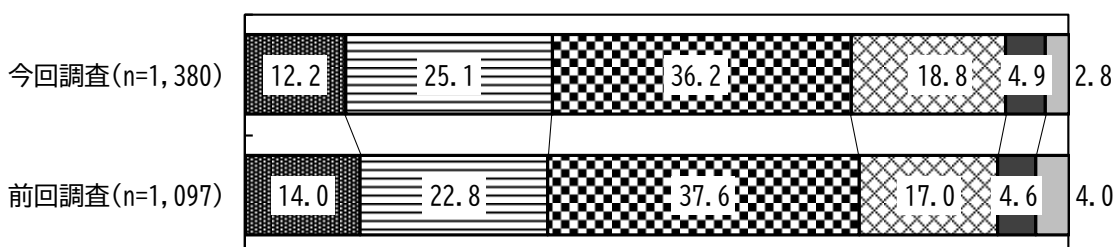
(2) 経済的困窮の問題は、本人だけでなく、社会全体の問題である

(※前回調査では「ホームレスの問題は、本人だけでなく、社会全体の問題だと感じる」) (%)



(3) 生活保護受給者に対する偏見や差別がある

(※前回調査では「生活保護受給者に対する偏見や差別があると感じる」) (%)

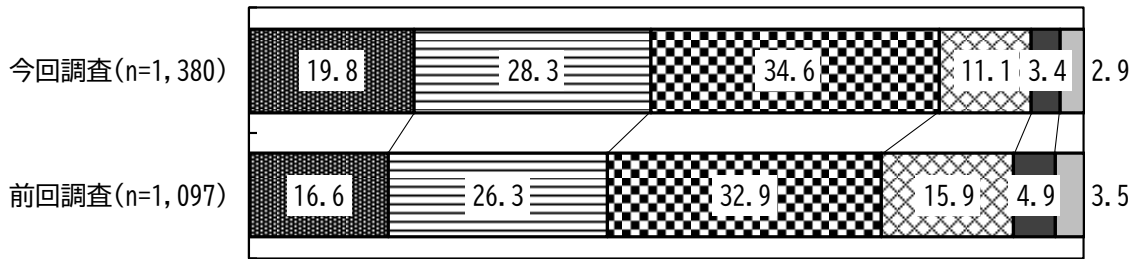


そう思う
 どちらかといえばそう思う
 どちらともいえない
 あまり思わない
 全く思わない
 無回答

(4) ひきこもりやニートは、本人や家族だけでなく、社会全体の問題である

(※前回調査では「ひきこもりやニートは、本人だけでなく、社会全体の問題だと感じる」)

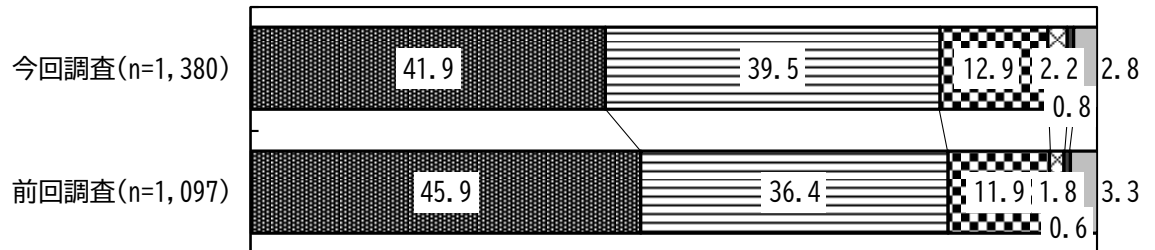
(%)



(5) 児童や高齢者、障害等のある方への虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である

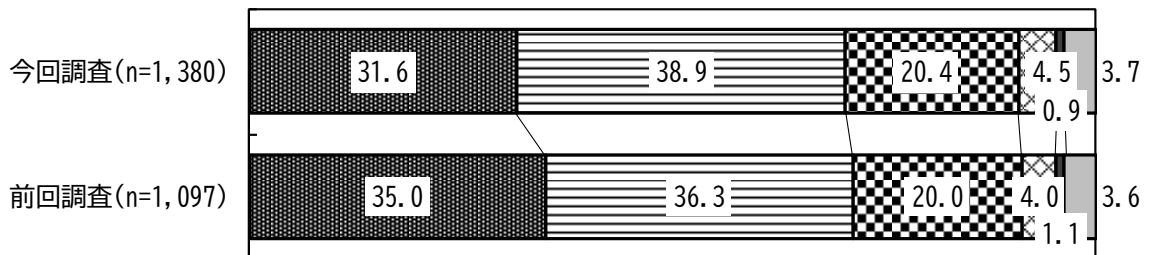
(※前回調査では「児童や高齢者の虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である」)

(%)



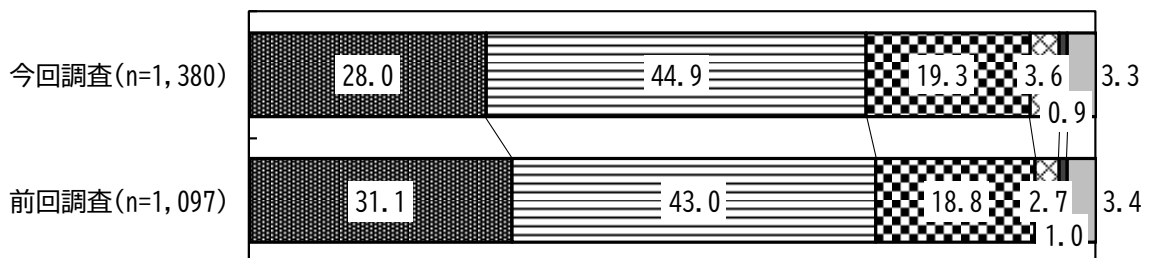
(6) DV被害を防ぎ、被害者を支援するために、地域でのつながりが重要である

(%)



(7) ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である

(%)



- そう思う
- ▨ どちらかといえばそう思う
- ▩ どちらともいえない
- ⊠ あまり思わない
- 全く思わない
- 無回答

(9) 府中市の福祉施策について

問28 あなたが現在、お住まいの地域の暮らしやすさについて、どのように感じていますか。

(1)～(10)のそれぞれの項目について、あてはまるものに1つつ○をつけてください。

※《満足》・・・「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

※《不満》・・・「満足していない」と「どちらかといえば満足していない」の合計

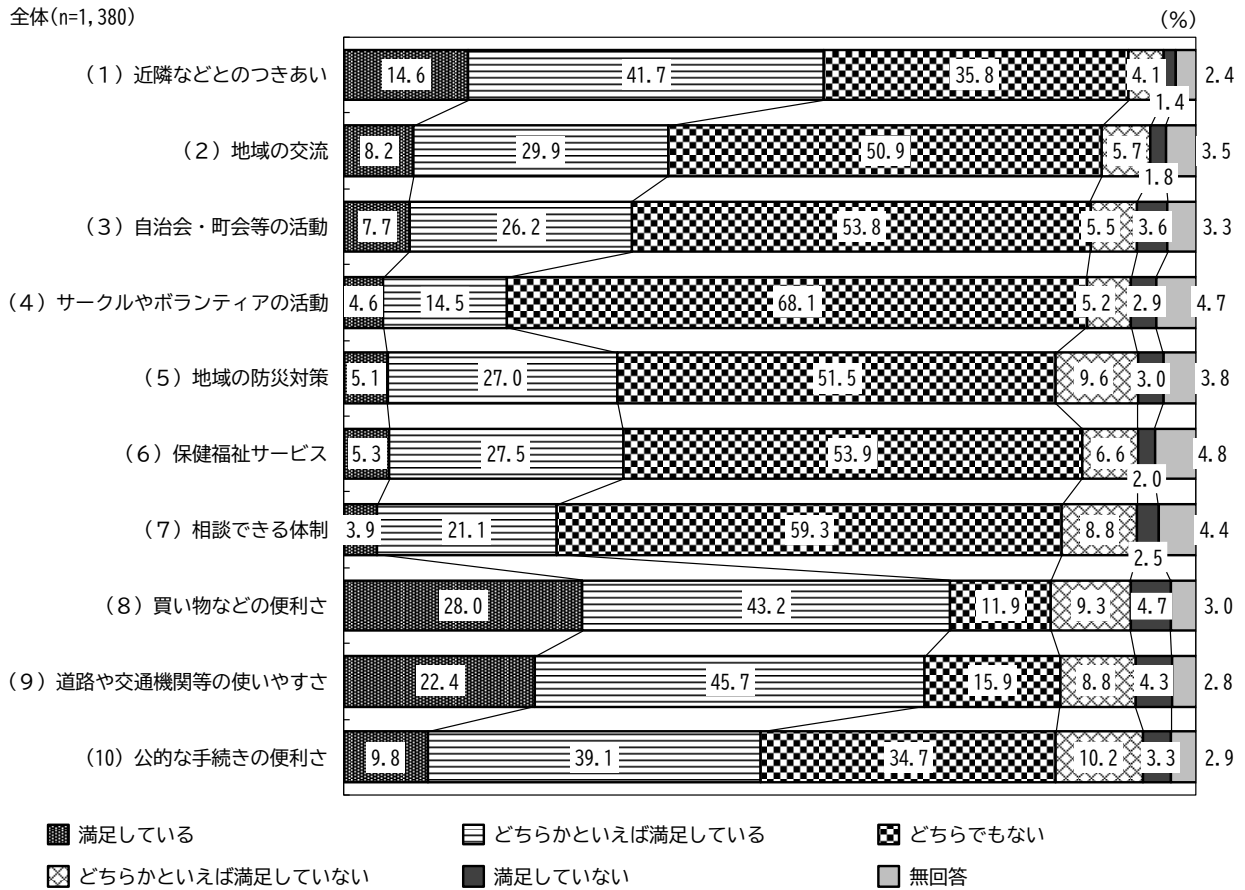
(91ページ 図表(10)まで同様)

- ・《満足》の割合が『(8) 買い物などの便利さ』で71.2%、『(9) 道路や交通機関等の使いやすさ』で68.1%と高くなっている。一方、《満足》の割合が『(4) サークルやボランティアの活動』で19.1%、『(7) 相談できる体制』で25.0%と低くなっている。
- ・前回の調査の選択肢は、「満足、どちらでもない、満足していない」で、今回調査の選択肢とは異なるが、「満足」の割合が『(8) 買い物等の便利さ』、『(9) 道路や交通機関等の使いやすさ』で5割を超え、『(1) 隣近所等とのつきあい』、『(10) 公的な手続きの便利さ』で3割程度と高くなっている。一方、『(3) 町内会・自治会の活動』で「満足」の割合が2割程度、『(2) 地域の交流』、『(4) サークルやボランティアの活動』、『(5) 地域の防災対策』、『(6) 保健福祉サービス』及び『(7) 相談できる体制』で1割程度と低くなっている。

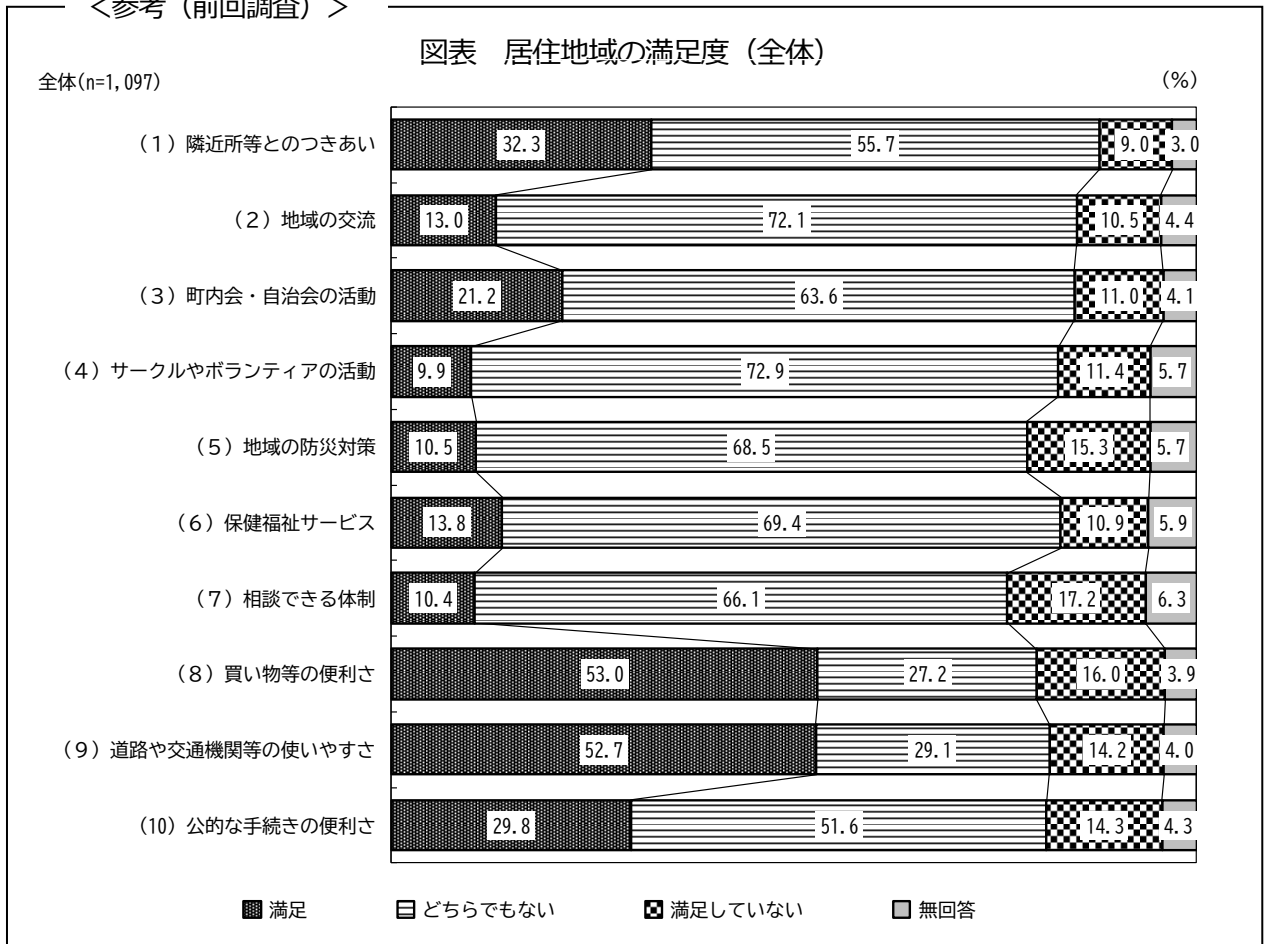
図表 居住地域の満足度 (全体)

	(%)						(%)		
	満足している	どちらかといえば満足している	どちらでもない	どちらかといえば満足していない	満足していない	無回答	《満足》	どちらでもない	《不満》
全体 (N=1,380)									
(1) 近隣などとのつきあい	14.6	41.7	35.8	4.1	1.4	2.4	56.3	35.8	5.5
(2) 地域の交流	8.2	29.9	50.9	5.7	1.8	3.5	38.1	50.9	7.5
(3) 自治会・町会等の活動	7.7	26.2	53.8	5.5	3.6	3.3	33.9	53.8	9.1
(4) サークルやボランティアの活動	4.6	14.5	68.1	5.2	2.9	4.7	19.1	68.1	8.1
(5) 地域の防災対策	5.1	27.0	51.5	9.6	3.0	3.8	32.1	51.5	12.6
(6) 保健福祉サービス	5.3	27.5	53.9	6.6	2.0	4.8	32.8	53.9	8.6
(7) 相談できる体制	3.9	21.1	59.3	8.8	2.5	4.4	25.0	59.3	11.3
(8) 買い物などの便利さ	28.0	43.2	11.9	9.3	4.7	3.0	71.2	11.9	14.0
(9) 道路や交通機関等の使いやすさ	22.4	45.7	15.9	8.8	4.3	2.8	68.1	15.9	13.1
(10) 公的な手続きの便利さ	9.8	39.1	34.7	10.2	3.3	2.9	48.9	34.7	13.5

図表 居住地域の満足度（全体）



<参考（前回調査）>



(1) 近隣などとのつきあい

- ・《満足》が56.3%、「どちらでもない」が35.8%、《不満》は5.5%となっている。
- ・福祉エリア別では、《満足》はすべての圏域で5割台となっている。
- ・文化センター圏域別では、《満足》は住吉文化センター圏域で61.0%、是政文化センター圏域で62.0%と高くなっている。

図表 近隣などとのつきあい（全体、福祉エリア別、文化センター圏域別：複数回答）

		(%)						(%)		
		満足している	どちらかといえば満足している	どちらでもない	どちらかといえば満足していない	満足していない	無回答	《満足》	どちらでもない	《不満》
全体	(n=1,380)	14.6	41.7	35.8	4.1	1.4	2.4	56.3	35.8	5.5
福祉 エリア	第一地区 (n=288)	14.9	39.9	38.2	3.8	1.7	1.4	54.8	38.2	5.5
	第二地区 (n=263)	16.7	38.8	35.7	4.2	2.3	2.3	55.5	35.7	6.5
	第三地区 (n=229)	11.8	46.3	33.6	5.2	1.3	1.7	58.1	33.6	6.5
	第四地区 (n=169)	14.8	42.6	33.7	4.7	1.2	3.0	57.4	33.7	5.9
	第五地区 (n=171)	15.8	42.1	33.9	3.5	1.2	3.5	57.9	33.9	4.7
	第六地区 (n=244)	13.9	41.8	38.1	3.3	0.4	2.5	55.7	38.1	3.7
文化 センター 圏域	中央文化センター圏域 (n=246)	12.6	40.2	38.6	5.3	1.6	1.6	52.8	38.6	6.9
	白糸台文化センター圏域 (n=150)	17.3	37.3	38.0	4.0	1.3	2.0	54.6	38.0	5.3
	西府文化センター圏域 (n=118)	17.8	38.1	35.6	3.4	0.0	5.1	55.9	35.6	3.4
	武蔵台文化センター圏域 (n=86)	16.3	43.0	30.2	5.8	2.3	2.3	59.3	30.2	8.1
	新町文化センター圏域 (n=137)	12.4	47.4	34.3	3.6	1.5	0.7	59.8	34.3	5.1
	住吉文化センター圏域 (n=141)	17.0	44.0	34.8	2.1	0.0	2.1	61.0	34.8	2.1
	是政文化センター圏域 (n=108)	18.5	43.5	29.6	4.6	0.9	2.8	62.0	29.6	5.5
	紅葉丘文化センター圏域 (n=116)	13.8	42.2	34.5	5.2	2.6	1.7	56.0	34.5	7.8
	押立文化センター圏域 (n=60)	13.3	36.7	38.3	5.0	5.0	1.7	50.0	38.3	10.0
	四谷文化センター圏域 (n=69)	10.1	42.0	43.5	1.4	1.4	1.4	52.1	43.5	2.8
	片町文化センター圏域 (n=131)	11.5	44.3	35.9	3.8	0.8	3.8	55.8	35.9	4.6

(2) 地域の交流

- ・《満足》が38.1%、「どちらでもない」が50.9%、《不満》は7.5%となっている。
- ・福祉エリア別では、《満足》は第五地区で43.3%と4割を超えている。
- ・文化センター圏域別では、《満足》は西府文化センター圏域、武蔵台文化センター圏域、新町文化センター圏域、是政文化センター圏域及び押立文化センター圏域で4割を超えている。

図表 地域の交流（全体、福祉エリア別、文化センター圏域別：複数回答）

		(%)						(%)		
		満足している	どちらかといえば満足している	どちらでもない	どちらかといえば満足していない	満足していない	無回答	《満足》	どちらでもない	《不満》
全体	(n=1,380)	8.2	29.9	50.9	5.7	1.8	3.5	38.1	50.9	7.5
福祉 エリア	第一地区 (n=288)	6.6	28.5	52.8	5.9	2.8	3.5	35.1	52.8	8.7
	第二地区 (n=263)	10.6	28.5	50.6	4.9	2.3	3.0	39.1	50.6	7.2
	第三地区 (n=229)	7.9	29.3	52.0	6.6	1.7	2.6	37.2	52.0	8.3
	第四地区 (n=169)	8.9	29.0	49.7	5.3	1.8	5.3	37.9	49.7	7.1
	第五地区 (n=171)	8.8	34.5	46.8	5.3	0.6	4.1	43.3	46.8	5.9
	第六地区 (n=244)	7.0	29.9	53.3	6.6	0.8	2.5	36.9	53.3	7.4
文化 センター 圏域	中央文化センター圏域 (n=246)	9.3	24.0	56.5	5.7	2.4	2.0	33.3	56.5	8.1
	白糸台文化センター圏域 (n=150)	8.0	22.0	56.0	7.3	3.3	3.3	30.0	56.0	10.6
	西府文化センター圏域 (n=118)	7.6	33.1	47.5	5.1	0.8	5.9	40.7	47.5	5.9
	武蔵台文化センター圏域 (n=86)	8.1	32.6	45.3	8.1	1.2	4.7	40.7	45.3	9.3
	新町文化センター圏域 (n=137)	5.1	36.5	49.6	5.1	1.5	2.2	41.6	49.6	6.6
	住吉文化センター圏域 (n=141)	10.6	27.7	53.2	5.0	0.0	3.5	38.3	53.2	5.0
	是政文化センター圏域 (n=108)	12.0	30.6	47.2	3.7	1.9	4.6	42.6	47.2	5.6
	紅葉丘文化センター圏域 (n=116)	6.0	33.6	50.0	4.3	1.7	4.3	39.6	50.0	6.0
	押立文化センター圏域 (n=60)	6.7	35.0	43.3	10.0	3.3	1.7	41.7	43.3	13.3
	四谷文化センター圏域 (n=69)	5.8	31.9	55.1	5.8	1.4	0.0	37.7	55.1	7.2
	片町文化センター圏域 (n=131)	7.6	32.1	48.1	6.1	1.5	4.6	39.7	48.1	7.6

(3) 自治会・町会等の活動

- ・《満足》が33.9%、「どちらでもない」が53.8%、《不満》は9.1%となっている。
- ・福祉エリア別では、《満足》はすべての圏域で3割台となっている。
- ・文化センター圏域別では、《満足》は是政文化センター圏域で40.8%、押立文化センター圏域で43.4%と高くなっている。

図表 自治会・町会等の活動（全体、福祉エリア別、文化センター圏域別：複数回答）

		(n)	満足している				無回答			満足している		
			満足している	どちらかといえば満足している	どちらでもない	どちらかといえば満足していない	満足している	無回答	《満足》	どちらでもない	《不満》	
全体		(n=1,380)	7.7	26.2	53.8	5.5	3.6	3.3	33.9	53.8	9.1	
福祉 エリア	第一地区	(n=288)	6.3	26.0	55.9	5.2	3.8	2.8	32.3	55.9	9.0	
	第二地区	(n=263)	11.0	26.2	50.6	5.3	4.2	2.7	37.2	50.6	9.5	
	第三地区	(n=229)	4.4	26.6	56.3	6.6	3.1	3.1	31.0	56.3	9.7	
	第四地区	(n=169)	8.9	23.7	52.7	7.7	2.4	4.7	32.6	52.7	10.1	
	第五地区	(n=171)	9.4	26.3	50.3	7.0	3.5	3.5	35.7	50.3	10.5	
	第六地区	(n=244)	6.6	27.5	56.6	2.9	3.7	2.9	34.1	56.6	6.6	
文化 センター 圏域	中央文化センター圏域	(n=246)	8.5	22.4	56.9	6.1	4.1	2.0	30.9	56.9	10.2	
	白糸台文化センター圏域	(n=150)	7.3	17.3	61.3	5.3	5.3	3.3	24.6	61.3	10.6	
	西府文化センター圏域	(n=118)	8.5	24.6	55.1	5.1	0.8	5.9	33.1	55.1	5.9	
	武蔵台文化センター圏域	(n=86)	10.5	29.1	43.0	9.3	4.7	3.5	39.6	43.0	14.0	
	新町文化センター圏域	(n=137)	2.2	33.6	55.5	5.1	0.7	2.9	35.8	55.5	5.8	
	住吉文化センター圏域	(n=141)	10.6	25.5	51.8	3.5	5.0	3.5	36.1	51.8	8.5	
	是政文化センター圏域	(n=108)	13.0	27.8	43.5	7.4	5.6	2.8	40.8	43.5	13.0	
	紅葉丘文化センター圏域	(n=116)	2.6	32.8	55.2	3.4	2.6	3.4	35.4	55.2	6.0	
	押立文化センター圏域	(n=60)	11.7	31.7	45.0	6.7	3.3	1.7	43.4	45.0	10.0	
	四谷文化センター圏域	(n=69)	4.3	36.2	53.6	1.4	4.3	0.0	40.5	53.6	5.7	
片町文化センター圏域	(n=131)	5.3	21.4	58.8	7.6	2.3	4.6	26.7	58.8	9.9		

(4) サークルやボランティアの活動

- ・《満足》が19.1%、「どちらでもない」が68.1%、《不満》は8.1%となっている。
- ・福祉エリア別では、《満足》は第二地区で22.8%、第四地区で21.3%、第五地区で22.8%と2割を超えている。
- ・文化センター圏域別では、《満足》は西府文化センター圏域で21.1%、武蔵台文化センター圏域で23.3%、是政文化センター圏域で25.0%、押立文化センター圏域で23.4%と2割を超えている。

図表 サークルやボランティアの活動（全体、福祉エリア別、文化センター圏域別：複数回答）

		(n)	満足している				無回答			満足している		
			満足している	どちらかといえば満足している	どちらでもない	どちらかといえば満足していない	満足している	無回答	《満足》	どちらでもない	《不満》	
全体		(n=1,380)	4.6	14.5	68.1	5.2	2.9	4.7	19.1	68.1	8.1	
福祉 エリア	第一地区	(n=288)	4.2	13.9	70.1	4.5	3.1	4.2	18.1	70.1	7.6	
	第二地区	(n=263)	8.4	14.4	63.1	6.1	3.0	4.9	22.8	63.1	9.1	
	第三地区	(n=229)	2.6	12.7	72.1	5.7	1.7	5.2	15.3	72.1	7.4	
	第四地区	(n=169)	4.7	16.6	66.3	5.3	1.8	5.3	21.3	66.3	7.1	
	第五地区	(n=171)	4.7	18.1	64.3	5.8	2.3	4.7	22.8	64.3	8.1	
	第六地区	(n=244)	2.9	13.1	71.7	4.5	4.1	3.7	16.0	71.7	8.6	
文化 センター 圏域	中央文化センター圏域	(n=246)	4.9	13.0	73.2	4.5	2.4	2.0	17.9	73.2	6.9	
	白糸台文化センター圏域	(n=150)	6.7	10.7	66.7	4.7	5.3	6.0	17.4	66.7	10.0	
	西府文化センター圏域	(n=118)	4.2	16.9	66.9	4.2	0.8	6.8	21.1	66.9	5.0	
	武蔵台文化センター圏域	(n=86)	4.7	18.6	60.5	7.0	3.5	5.8	23.3	60.5	10.5	
	新町文化センター圏域	(n=137)	1.5	16.8	71.5	3.6	0.7	5.8	18.3	71.5	4.3	
	住吉文化センター圏域	(n=141)	4.3	12.1	70.9	5.0	3.5	4.3	16.4	70.9	8.5	
	是政文化センター圏域	(n=108)	10.2	14.8	57.4	9.3	2.8	5.6	25.0	57.4	12.1	
	紅葉丘文化センター圏域	(n=116)	1.7	15.5	71.6	5.2	0.9	5.2	17.2	71.6	6.1	
	押立文化センター圏域	(n=60)	6.7	16.7	60.0	6.7	5.0	5.0	23.4	60.0	11.7	
	四谷文化センター圏域	(n=69)	1.4	13.0	75.4	4.3	5.8	0.0	14.4	75.4	10.1	
片町文化センター圏域	(n=131)	3.8	16.0	66.4	6.1	2.3	5.3	19.8	66.4	8.4		

(5) 地域の防災対策

- ・《満足》が32.1%、「どちらでもない」が51.5%、《不満》は12.6%となっている。
- ・福祉エリア別では、《満足》は第五地区で38.0%と高くなっている。
- ・文化センター圏域別では、《満足》は武蔵台文化センター圏域で40.7%と高くなっている。

図表 地域の防災対策 (全体、福祉エリア別、文化センター圏域別：複数回答)

		(%)					(%)			
		満足している	どちらかといえは満足している	どちらでもない	どちらかといえは満足していない	満足していない	無回答	《満足》	どちらでもない	《不満》
全体	(n=1,380)	5.1	27.0	51.5	9.6	3.0	3.8	32.1	51.5	12.6
福祉エリア	第一地区 (n=288)	3.8	24.7	57.3	7.6	3.5	3.1	28.5	57.3	11.1
	第二地区 (n=263)	6.5	26.6	46.8	13.3	1.9	4.9	33.1	46.8	15.2
	第三地区 (n=229)	3.5	28.8	53.7	8.3	2.6	3.1	32.3	53.7	10.9
	第四地区 (n=169)	4.7	32.0	46.7	8.3	4.1	4.1	36.7	46.7	12.4
	第五地区 (n=171)	8.8	29.2	48.0	7.6	2.3	4.1	38.0	48.0	9.9
	第六地区 (n=244)	4.1	23.0	54.1	11.9	3.7	3.3	27.1	54.1	15.6
文化センター圏域	中央文化センター圏域 (n=246)	4.5	29.7	53.7	7.7	2.4	2.0	34.2	53.7	10.1
	白糸台文化センター圏域 (n=150)	3.3	20.7	58.7	9.3	4.7	3.3	24.0	58.7	14.0
	西府文化センター圏域 (n=118)	6.8	22.9	54.2	8.5	0.8	6.8	29.7	54.2	9.3
	武蔵台文化センター圏域 (n=86)	8.1	32.6	44.2	7.0	3.5	4.7	40.7	44.2	10.5
	新町文化センター圏域 (n=137)	3.6	29.9	57.7	4.4	1.5	2.9	33.5	57.7	5.9
	住吉文化センター圏域 (n=141)	6.4	25.5	49.6	9.9	5.7	2.8	31.9	49.6	15.6
	是政文化センター圏域 (n=108)	8.3	24.1	43.5	15.7	0.9	7.4	32.4	43.5	16.6
	紅葉丘文化センター圏域 (n=116)	0.9	30.2	50.0	10.3	3.4	5.2	31.1	50.0	13.7
	押立文化センター圏域 (n=60)	8.3	30.0	36.7	18.3	3.3	3.3	38.3	36.7	21.6
	四谷文化センター圏域 (n=69)	2.9	27.5	49.3	14.5	5.8	0.0	30.4	49.3	20.3
片町文化センター圏域 (n=131)	4.6	25.2	54.2	9.9	2.3	3.8	29.8	54.2	12.2	

(6) 保健福祉サービス

- ・《満足》が32.8%、「どちらでもない」が53.9%、《不満》は8.6%となっている。
- ・福祉エリア別では、《満足》は第五地区で40.3%と高くなっている。
- ・文化センター圏域別では、《満足》は武蔵台文化センター圏域で43.0%と高くなっている。

図表 保健福祉サービス (全体、福祉エリア別、文化センター圏域別：複数回答)

		(%)					(%)			
		満足している	どちらかといえは満足している	どちらでもない	どちらかといえは満足していない	満足していない	無回答	《満足》	どちらでもない	《不満》
全体	(n=1,380)	5.3	27.5	53.9	6.6	2.0	4.8	32.8	53.9	8.6
福祉エリア	第一地区 (n=288)	5.9	24.7	57.3	5.9	1.7	4.5	30.6	57.3	7.6
	第二地区 (n=263)	8.0	24.0	52.5	8.4	1.5	5.7	32.0	52.5	9.9
	第三地区 (n=229)	3.9	30.6	52.4	5.7	2.6	4.8	34.5	52.4	8.3
	第四地区 (n=169)	4.1	30.8	52.1	5.9	1.8	5.3	34.9	52.1	7.7
	第五地区 (n=171)	6.4	33.9	47.4	5.3	2.3	4.7	40.3	47.4	7.6
	第六地区 (n=244)	3.3	25.4	57.8	8.2	2.0	3.3	28.7	57.8	10.2
文化センター圏域	中央文化センター圏域 (n=246)	5.7	31.7	51.2	5.7	2.8	2.8	37.4	51.2	8.5
	白糸台文化センター圏域 (n=150)	8.7	23.3	52.0	8.0	3.3	4.7	32.0	52.0	11.3
	西府文化センター圏域 (n=118)	5.1	27.1	56.8	4.2	0.0	6.8	32.2	56.8	4.2
	武蔵台文化センター圏域 (n=86)	3.5	39.5	38.4	8.1	4.7	5.8	43.0	38.4	12.8
	新町文化センター圏域 (n=137)	3.6	27.0	59.1	5.8	0.0	4.4	30.6	59.1	5.8
	住吉文化センター圏域 (n=141)	6.4	27.7	53.2	7.1	2.1	3.5	34.1	53.2	9.2
	是政文化センター圏域 (n=108)	8.3	20.4	50.9	11.1	0.9	8.3	28.7	50.9	12.0
	紅葉丘文化センター圏域 (n=116)	2.6	28.4	57.8	3.4	1.7	6.0	31.0	57.8	5.1
	押立文化センター圏域 (n=60)	5.0	20.0	56.7	10.0	1.7	6.7	25.0	56.7	11.7
	四谷文化センター圏域 (n=69)	1.4	27.5	56.5	10.1	4.3	0.0	28.9	56.5	14.4
片町文化センター圏域 (n=131)	4.6	26.7	58.8	4.6	0.8	4.6	31.3	58.8	5.4	

(7) 相談できる体制

- ・《満足》が25.0%、「どちらでもない」が59.3%、《不満》は11.3%となっている。
- ・福祉エリア別では、《満足》は第五地区で31.6%と高くなっている。
- ・文化センター圏域別では、《満足》は武蔵台文化センター圏域で30.2%と高くなっている。

図表 相談できる体制（全体、福祉エリア別、文化センター圏域別：複数回答）

		(%)					(%)			
		満足している	どちらかといえば満足している	どちらでもない	どちらかといえば満足していない	満足していない	無回答	《満足》	どちらでもない	《不満》
全体	(n=1,380)	3.9	21.1	59.3	8.8	2.5	4.4	25.0	59.3	11.3
福祉エリア	第一地区 (n=288)	3.1	17.7	64.9	6.9	2.4	4.9	20.8	64.9	9.3
	第二地区 (n=263)	5.7	17.1	59.3	11.8	1.9	4.2	22.8	59.3	13.7
	第三地区 (n=229)	3.9	22.7	56.8	10.0	2.6	3.9	26.6	56.8	12.6
	第四地区 (n=169)	2.4	26.6	55.6	7.7	1.8	5.9	29.0	55.6	9.5
	第五地区 (n=171)	5.3	26.3	53.8	7.6	2.9	4.1	31.6	53.8	10.5
	第六地区 (n=244)	3.3	21.3	59.8	8.6	3.7	3.3	24.6	59.8	12.3
文化センター圏域	中央文化センター圏域 (n=246)	2.8	22.8	59.8	8.9	3.3	2.4	25.6	59.8	12.2
	白糸台文化センター圏域 (n=150)	6.0	19.3	57.3	9.3	3.3	4.7	25.3	57.3	12.6
	西府文化センター圏域 (n=118)	5.1	23.7	56.8	6.8	0.8	6.8	28.8	56.8	7.6
	武蔵台文化センター圏域 (n=86)	3.5	26.7	50.0	10.5	4.7	4.7	30.2	50.0	15.2
	新町文化センター圏域 (n=137)	4.4	21.2	61.3	8.8	0.7	3.6	25.6	61.3	9.5
	住吉文化センター圏域 (n=141)	5.0	19.1	61.0	7.8	3.5	3.5	24.1	61.0	11.3
	是政文化センター圏域 (n=108)	6.5	13.9	60.2	13.0	0.9	5.6	20.4	60.2	13.9
	紅葉丘文化センター圏域 (n=116)	0.9	17.2	67.2	5.2	2.6	6.9	18.1	67.2	7.8
	押立文化センター圏域 (n=60)	3.3	16.7	56.7	16.7	1.7	5.0	20.0	56.7	18.4
	四谷文化センター圏域 (n=69)	1.4	26.1	58.0	10.1	4.3	0.0	27.5	58.0	14.4
片町文化センター圏域 (n=131)	3.1	26.7	56.5	6.1	2.3	5.3	29.8	56.5	8.4	

(8) 買い物などの便利さ

- ・《満足》が71.2%、「どちらでもない」が11.9%、《不満》は14.0%となっている。
- ・福祉エリア別では、《満足》は第三地区で80.8%と高くなっているが、第二地区で59.7%と低くなっている。
- ・文化センター圏域別では、《満足》は中央文化センター圏域で81.3%、新町文化センター圏域で81.0%と高くなっている。一方、是政文化センター圏域で48.2%、紅葉丘文化センター圏域で50.0%と低くなっている。

図表 買い物などの便利さ（全体、福祉エリア別、文化センター圏域別：複数回答）

		(%)					(%)			
		満足している	どちらかといえば満足している	どちらでもない	どちらかといえば満足していない	満足していない	無回答	《満足》	どちらでもない	《不満》
全体	(n=1,380)	28.0	43.2	11.9	9.3	4.7	3.0	71.2	11.9	14.0
福祉エリア	第一地区 (n=288)	25.3	41.3	13.2	10.1	8.0	2.1	66.6	13.2	18.1
	第二地区 (n=263)	19.0	40.7	15.6	14.4	6.5	3.8	59.7	15.6	20.9
	第三地区 (n=229)	29.3	51.5	7.0	8.3	1.7	2.2	80.8	7.0	10.0
	第四地区 (n=169)	37.9	39.1	7.7	7.7	4.1	3.6	77.0	7.7	11.8
	第五地区 (n=171)	34.5	37.4	12.3	8.2	4.1	3.5	71.9	12.3	12.3
	第六地区 (n=244)	28.7	47.1	13.5	5.7	2.5	2.5	75.8	13.5	8.2
文化センター圏域	中央文化センター圏域 (n=246)	35.4	45.9	7.7	6.1	2.8	2.0	81.3	7.7	8.9
	白糸台文化センター圏域 (n=150)	28.0	46.0	10.0	8.7	5.3	2.0	74.0	10.0	14.0
	西府文化センター圏域 (n=118)	42.4	37.3	9.3	5.1	0.8	5.1	79.7	9.3	5.9
	武蔵台文化センター圏域 (n=86)	22.1	39.5	15.1	11.6	8.1	3.5	61.6	15.1	19.7
	新町文化センター圏域 (n=137)	29.2	51.8	9.5	8.0	0.7	0.7	81.0	9.5	8.7
	住吉文化センター圏域 (n=141)	28.4	45.4	13.5	7.1	2.8	2.8	73.8	13.5	9.9
	是政文化センター圏域 (n=108)	16.7	31.5	16.7	19.4	10.2	5.6	48.2	16.7	29.6
	紅葉丘文化センター圏域 (n=116)	12.1	37.9	16.4	15.5	14.7	3.4	50.0	16.4	30.2
	押立文化センター圏域 (n=60)	16.7	41.7	21.7	13.3	3.3	3.3	58.4	21.7	16.6
	四谷文化センター圏域 (n=69)	20.3	52.2	18.8	7.2	1.4	0.0	72.5	18.8	8.6
片町文化センター圏域 (n=131)	36.6	41.2	6.9	7.6	3.8	3.8	77.8	6.9	11.4	

(9) 道路や交通機関等の使いやすさ

- ・《満足》が68.1%、「どちらでもない」が15.9%、《不満》は13.1%となっている。
- ・福祉エリア別では、《満足》は第三地区で77.8%、第四地区で76.9%と高くなっており、第二地区で61.6%、第五地区で61.4%と低くなっている。
- ・文化センター圏域別では、《満足》は中央文化センター圏域で79.2%と高くなっている。一方、武蔵台文化センター圏域で54.6%、是政文化センター圏域で50.0%、紅葉丘文化センター圏域で54.3%、四谷文化センター圏域で58.0%と低くなっている。

図表 道路や交通機関等の使いやすさ（全体、福祉エリア別、文化センター圏域別：複数回答）

		(%)						(%)		
		満足している	どちらかといえば満足している	どちらでもない	どちらかといえば満足していない	満足していない	無回答	《満足》	どちらでもない	《不満》
全体	(n=1,380)	22.4	45.7	15.9	8.8	4.3	2.8	68.1	15.9	13.1
福祉 エリア	第一地区 (n=288)	18.4	47.9	16.0	11.5	4.2	2.1	66.3	16.0	15.7
	第二地区 (n=263)	16.7	44.9	19.8	9.5	5.3	3.8	61.6	19.8	14.8
	第三地区 (n=229)	24.5	53.3	9.6	7.0	3.5	2.2	77.8	9.6	10.5
	第四地区 (n=169)	34.9	42.0	10.7	6.5	3.0	3.0	76.9	10.7	9.5
	第五地区 (n=171)	22.8	38.6	15.8	12.3	7.0	3.5	61.4	15.8	19.3
	第六地区 (n=244)	22.1	44.7	21.3	6.6	3.3	2.0	66.8	21.3	9.9
文化 センター 圏域	中央文化センター圏域 (n=246)	26.8	52.4	10.2	6.1	2.8	1.6	79.2	10.2	8.9
	白糸台文化センター圏域 (n=150)	26.0	48.7	12.0	9.3	2.0	2.0	74.7	12.0	11.3
	西府文化センター圏域 (n=118)	28.8	40.7	16.1	4.2	4.2	5.9	69.5	16.1	8.4
	武蔵台文化センター圏域 (n=86)	17.4	37.2	17.4	16.3	9.3	2.3	54.6	17.4	25.6
	新町文化センター圏域 (n=137)	24.1	50.4	13.1	7.3	3.6	1.5	74.5	13.1	10.9
	住吉文化センター圏域 (n=141)	22.7	46.1	19.9	6.4	2.8	2.1	68.8	19.9	9.2
	是政文化センター圏域 (n=108)	13.0	37.0	21.3	13.0	11.1	4.6	50.0	21.3	24.1
	紅葉丘文化センター圏域 (n=116)	9.5	44.8	21.6	14.7	6.0	3.4	54.3	21.6	20.7
	押立文化センター圏域 (n=60)	13.3	51.7	20.0	8.3	1.7	5.0	65.0	20.0	10.0
	四谷文化センター圏域 (n=69)	14.5	43.5	26.1	13.0	2.9	0.0	58.0	26.1	15.9
片町文化センター圏域 (n=131)	32.1	42.0	11.5	7.6	3.8	3.1	74.1	11.5	11.4	

(10) 公的な手続きの便利さ

- ・《満足》が48.9%、「どちらでもない」が34.7%、《不満》は13.5%となっている。
- ・福祉エリア別では、《満足》は第四地区で59.2%と高くなっており、第二地区と第五地区でともに43.3%と低くなっている。
- ・文化センター圏域別では、《満足》は中央文化センター圏域で61.0%と高くなっている。一方、是政文化センター圏域で35.2%、武蔵台文化センター圏域で37.2%、紅葉丘文化センター圏域で54.3%及び押立文化センター圏域で38.3%と低くなっている。

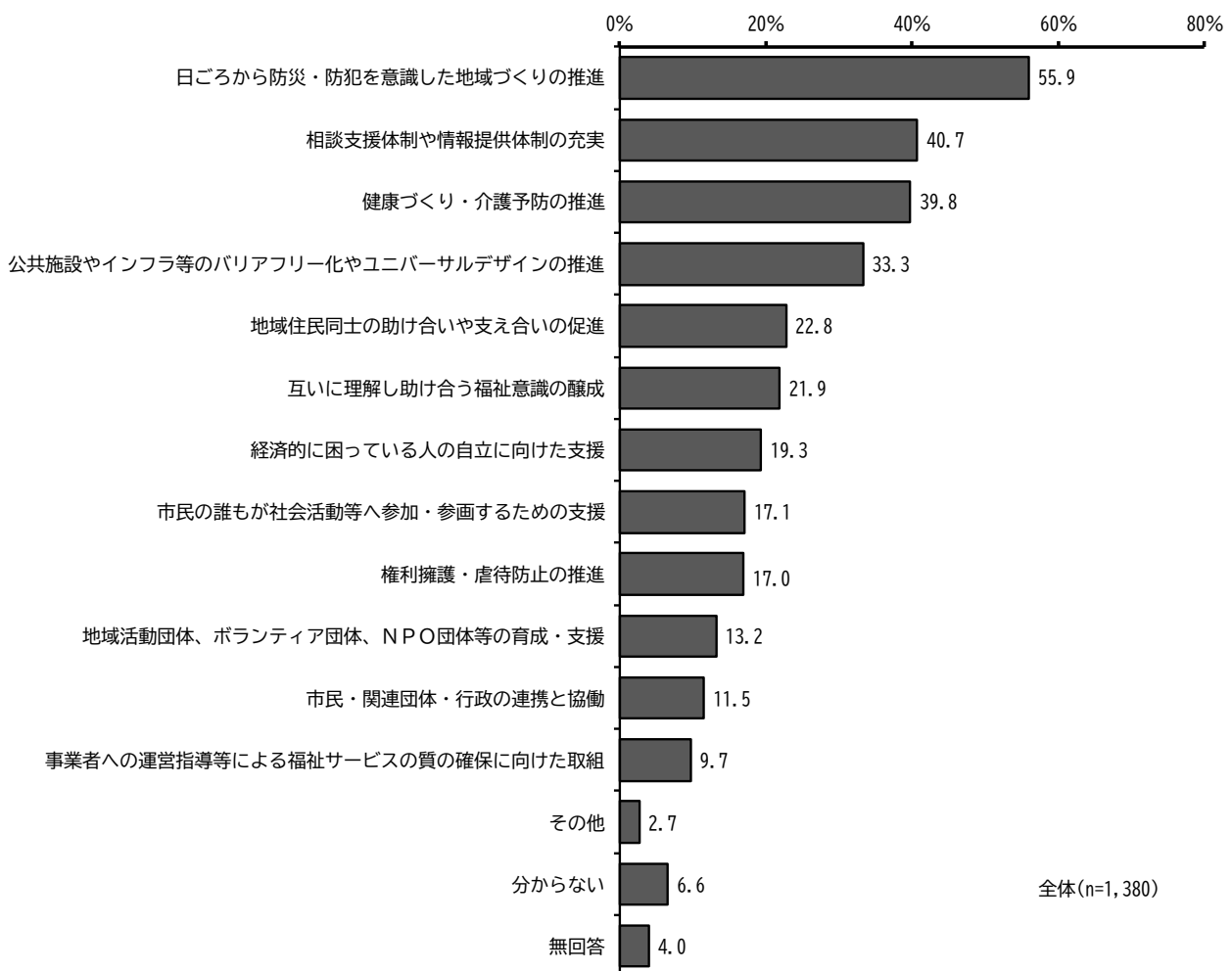
図表 公的な手続きの便利さ（全体、福祉エリア別、文化センター圏域別：複数回答）

		(%)						(%)		
		満足している	どちらかといえば満足している	どちらでもない	どちらかといえば満足していない	満足していない	無回答	《満足》	どちらでもない	《不満》
全体	(n=1,380)	9.8	39.1	34.7	10.2	3.3	2.9	48.9	34.7	13.5
福祉 エリア	第一地区 (n=288)	6.3	38.5	34.4	13.2	4.9	2.8	44.8	34.4	18.1
	第二地区 (n=263)	9.5	33.8	39.9	8.7	4.6	3.4	43.3	39.9	13.3
	第三地区 (n=229)	13.1	44.5	28.4	9.6	2.2	2.2	57.6	28.4	11.8
	第四地区 (n=169)	17.2	42.0	29.6	7.7	0.6	3.0	59.2	29.6	8.3
	第五地区 (n=171)	7.6	35.7	38.0	9.4	5.8	3.5	43.3	38.0	15.2
	第六地区 (n=244)	8.2	39.3	37.7	11.5	1.2	2.0	47.5	37.7	12.7
文化 センター 圏域	中央文化センター圏域 (n=246)	12.6	48.4	27.2	7.7	2.4	1.6	61.0	27.2	10.1
	白糸台文化センター圏域 (n=150)	12.0	38.7	32.0	12.0	2.7	2.7	50.7	32.0	14.7
	西府文化センター圏域 (n=118)	7.6	44.9	33.1	7.6	0.8	5.9	52.5	33.1	8.4
	武蔵台文化センター圏域 (n=86)	5.8	31.4	38.4	14.0	8.1	2.3	37.2	38.4	22.1
	新町文化センター圏域 (n=137)	14.6	40.9	33.6	8.0	1.5	1.5	55.5	33.6	9.5
	住吉文化センター圏域 (n=141)	10.6	36.2	39.7	10.6	0.7	2.1	46.8	39.7	11.3
	是政文化センター圏域 (n=108)	7.4	27.8	45.4	8.3	7.4	3.7	35.2	45.4	15.7
	紅葉丘文化センター圏域 (n=116)	2.6	34.5	32.8	17.2	8.6	4.3	37.1	32.8	25.8
	押立文化センター圏域 (n=60)	8.3	30.0	45.0	10.0	1.7	5.0	38.3	45.0	11.7
	四谷文化センター圏域 (n=69)	4.3	44.9	33.3	14.5	2.9	0.0	49.2	33.3	17.4
片町文化センター圏域 (n=131)	13.0	35.9	37.4	8.4	2.3	3.1	48.9	37.4	10.7	

問29 府中市ではどのような福祉施策に優先して取り組むべきだと思いますか。あなたの考えに近いものをお答えください。（5つまで○）

- ・「日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」（55.9%）が最も多く、次いで「相談支援体制や情報提供体制の充実」（40.7%）、「健康づくり・介護予防の推進」（39.8%）と続いている。
- ・性別では、男性も女性も「日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」が最も多く、順位の入れ替えはあるものの、「健康づくり・介護予防の推進」と「相談支援体制や情報提供体制の充実」と続いている。
- ・年齢別では、すべての年齢で「日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」が最も多くなっており、特に65～69歳は66.4%で全体を10.0ポイント以上上回っている。また、18～19歳は「地域住民同士の助け合いや支え合いの促進」も同率で最も多くなっている。
- ・福祉エリア別では、すべての圏域で「日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」が最も多くなっており、特に第六地区で60.7%と6割を超え高くなっている。
- ・文化センター圏域別では、すべての圏域で「日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」が最も多くなっており、特に四谷文化センター圏域は66.7%で全体を10.0ポイント以上上回っている。

図表 優先的に取り組むべき福祉施策（全体：複数回答（5つまで））



図表 優先的に取り組むべき福祉施策
(全体、性別、年齢別、福祉エリア別、文化センター圏域別：複数回答（5つまで））

			相談支援 体制や情 報提供体 制の充実	権利擁 護・虐待 防止の推 進	日ごろか ら防災・ 防犯を意 識した地 域づくり の推進	経済的に 困っている 人の自立に 向けた支援	事業者への 運営指導等 による福祉 サービスの 質の確保に 向けた取組	健康づく り・介護 予防の推 進	地域住民 同士の助 け合いや 支え合い の促進	地域活動 団体、ボ ランティア 団体、NPO 団体等の育 成・支援
全体		(n=1,380)	40.7	17.0	55.9	19.3	9.7	39.8	22.8	13.2
性別	男性	(n=609)	39.6	17.6	55.5	23.0	10.5	40.4	22.3	13.5
	女性	(n=747)	42.4	16.5	56.8	16.2	9.0	39.8	23.0	13.0
年齢	18～19歳	(n=11)	9.1	9.1	36.4	27.3	9.1	27.3	36.4	0.0
	20～29歳	(n=93)	35.5	18.3	61.3	25.8	11.8	34.4	16.1	10.8
	30～39歳	(n=173)	41.6	24.3	54.9	16.8	6.4	31.8	17.9	11.0
	40～49歳	(n=278)	39.2	18.3	58.6	18.0	8.6	33.1	20.5	8.6
	50～59歳	(n=278)	40.6	17.6	53.6	19.8	11.2	37.8	20.9	13.3
	60～64歳	(n=115)	37.4	17.4	57.4	19.1	9.6	42.6	25.2	22.6
	65～69歳	(n=110)	49.1	15.5	66.4	22.7	10.0	52.7	28.2	15.5
	70～74歳	(n=132)	44.7	9.1	56.1	19.7	12.1	49.2	31.1	14.4
75歳以上	(n=187)	41.2	12.3	48.1	17.6	9.1	47.6	25.7	15.5	
福祉 エリア	第一地区	(n=288)	46.9	19.4	54.2	25.7	10.4	46.9	21.5	10.8
	第二地区	(n=263)	38.4	17.5	57.8	17.5	6.8	33.5	21.7	14.4
	第三地区	(n=229)	38.0	16.6	52.8	21.4	10.9	39.7	21.4	15.7
	第四地区	(n=169)	33.7	17.2	55.0	16.0	8.9	36.1	21.3	13.6
	第五地区	(n=171)	45.6	17.0	56.1	18.7	14.0	40.9	25.1	14.6
	第六地区	(n=244)	41.0	13.5	60.7	16.0	9.0	40.6	25.8	11.1
文化 センター 圏域	中央文化センター圏域	(n=246)	45.1	19.1	54.5	22.4	9.8	43.5	22.4	13.0
	白糸台文化センター圏域	(n=150)	46.7	16.0	51.3	21.3	9.3	42.0	23.3	11.3
	西府文化センター圏域	(n=118)	44.1	19.5	59.3	10.2	11.9	35.6	28.0	14.4
	武蔵台文化センター圏域	(n=86)	43.0	12.8	57.0	23.3	11.6	43.0	26.7	14.0
	新町文化センター圏域	(n=137)	41.6	17.5	53.3	20.4	13.1	35.8	21.2	14.6
	住吉文化センター圏域	(n=141)	36.9	14.2	56.0	21.3	12.1	40.4	24.8	13.5
	是政文化センター圏域	(n=108)	37.0	19.4	60.2	13.9	6.5	30.6	17.6	16.7
	紅葉丘文化センター圏域	(n=116)	37.9	19.8	56.9	25.9	6.9	44.8	19.0	13.8
	押立文化センター圏域	(n=60)	30.0	13.3	63.3	23.3	8.3	36.7	26.7	11.7
	四谷文化センター圏域	(n=69)	37.7	13.0	66.7	13.0	7.2	47.8	23.2	7.2
片町文化センター圏域	(n=131)	38.2	16.0	51.9	16.8	9.2	36.6	20.6	13.0	

			市民・関 連団体・ 行政の連 携と協働	互いに理 解し助け 合う福祉 意識の醸 成	市民の誰 もが社会 活動等へ 参加・参 画するた めの支援	公共施設や インフラ等 のバリアフ リー化やユ ニバーサル デザインの 推進	その他	分からな い	無回答
全体		(n=1,380)	11.5	21.9	17.1	33.3	2.7	6.6	4.0
性別	男性	(n=609)	11.7	22.7	18.6	36.0	3.0	6.1	3.6
	女性	(n=747)	11.5	21.4	15.7	31.2	2.5	7.0	4.0
年齢	18～19歳	(n=11)	0.0	27.3	18.2	27.3	0.0	9.1	0.0
	20～29歳	(n=93)	10.8	16.1	16.1	39.8	5.4	6.5	2.2
	30～39歳	(n=173)	8.1	19.7	21.4	42.8	4.0	6.4	0.6
	40～49歳	(n=278)	12.6	19.8	15.1	33.5	3.6	7.6	2.9
	50～59歳	(n=278)	14.0	21.9	19.8	33.5	3.2	6.5	1.8
	60～64歳	(n=115)	13.9	25.2	20.9	28.7	1.7	5.2	4.3
	65～69歳	(n=110)	10.9	23.6	14.5	39.1	0.9	5.5	2.7
	70～74歳	(n=132)	15.2	23.5	14.4	27.3	0.8	4.5	6.8
75歳以上	(n=187)	7.0	25.7	12.8	24.6	1.1	8.6	11.2	
福祉 エリア	第一地区	(n=288)	12.8	20.8	18.8	38.9	2.1	5.6	2.4
	第二地区	(n=263)	8.7	23.6	16.0	31.6	3.8	5.7	5.3
	第三地区	(n=229)	11.8	20.1	17.9	30.1	3.1	6.1	5.2
	第四地区	(n=169)	14.8	24.9	21.3	33.1	0.6	7.1	3.0
	第五地区	(n=171)	12.3	17.0	15.2	33.9	4.1	8.2	4.1
	第六地区	(n=244)	9.8	24.2	14.8	32.0	2.5	6.6	2.9
文化 センター 圏域	中央文化センター圏域	(n=246)	11.4	18.7	22.4	38.2	2.8	3.7	3.3
	白糸台文化センター圏域	(n=150)	14.0	20.7	18.7	38.0	2.7	8.0	3.3
	西府文化センター圏域	(n=118)	12.7	21.2	16.9	33.9	1.7	4.2	5.9
	武蔵台文化センター圏域	(n=86)	10.5	18.6	14.0	25.6	5.8	11.6	3.5
	新町文化センター圏域	(n=137)	16.1	23.4	17.5	29.9	2.2	8.0	3.6
	住吉文化センター圏域	(n=141)	9.9	29.8	14.2	26.2	0.0	7.1	3.5
	是政文化センター圏域	(n=108)	4.6	25.0	15.7	24.1	4.6	6.5	6.5
	紅葉丘文化センター圏域	(n=116)	11.2	19.8	17.2	33.6	2.6	4.3	3.4
	押立文化センター圏域	(n=60)	10.0	25.0	13.3	36.7	1.7	5.0	6.7
	四谷文化センター圏域	(n=69)	8.7	20.3	15.9	37.7	5.8	4.3	1.4
片町文化センター圏域	(n=131)	13.7	20.6	15.3	38.9	2.3	9.2	2.3	

問30 府中市の地域福祉及び福祉のまちづくりへのご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

- ・自由記述による意見を集約し、主な内容で分類した。
- ・回答者数 303人、意見の件数 325件

①防災に関すること：35件

- ・避難所が坂上で、すべての路線が停止しているなか、車のないお年寄りには是政からどう避難すれば良いのか分かりませんでした。
- ・台風19号の際、避難所が偏ったようなので大地震の際はどうするのか今後市民に周知してほしい。
- ・災害時にペット同伴で避難できる場所をつくってほしいです。
- ・先日の台風の際の市の放送が、大雨によってかき消される音量で、かつ反響していて全く聞きとれませんでした。携帯に送られてくる緊急アラームの情報と同じ内容ならその旨、一言いれてほしいです。聞きとりやすいように改善するか、情報拡散手段を増やしてほしいです。
- ・避難所開設時は何が提供されるのか、何を持参しなければいけないのかが分からない。避難所でのプライバシー保護や障害のある人や高齢者や乳幼児世帯、外国人の方等も利用しやすいのか気になります。
- ・府中市は他市に比べ、まちづくりに対応されている市だと思いますが、豪雨による多摩川の氾濫と、その対応が心配です。

②バリアフリー、ユニバーサルデザインに関すること：34件

- ・歩道の舗装状態が悪く安全に歩けないところが近所にある。
- ・電線の埋設化と歩道のさらなる整備。せっかく歩道があっても電柱があると、結局、歩行者の安全性が確保できない。
- ・車いすでちょっとした段差に困っている人を見ます。段差をもっと平らにできればと思います。
- ・東府中にある斜めの踏切は車いすや高齢者にはとても危険だと思います。踏切事故につながるといいます。バリアフリーのためにも将来、東府中辺りが踏切のない高架になることを望みます。
- ・バリアフリー化についてですが、市の窓口において、手話通訳者が決まった曜日にしか在籍していないのは課題だと思います。
- ・北府中駅前の府中街道のバス停は、信号がないので、危険だけれど住民は道路をつっきっている。近くに信号があれば住民は安心して渡れる。歩道橋があるが荷物を持って、昇り降りは大変です。

③福祉施策等に対する考えなど：29件

- ・道路の整備やバリアフリー化など大事とは思いますが、障害者の方やお年寄り、赤ちゃん子どもたちとの交流、このような方々が自然に集まって楽しめるような環境づくりが大切だと思います。
- ・近年、市の重点施策は福祉よりもイベントに傾いているように思えてなりません。福祉は地味で政策アピールは目立ちにくいですが、安心して暮らしやすいまちづくりを目指すためには、イベント

よりも福祉の充実へ重点を置かれるべきだと思います。

- ・ もっとITを活用した福祉というものができないかと思う。
- ・ 様々な人が、面白く気軽に参画できる仕掛けがほしい。最初は「ちょっとだけやってみる」というきっかけづくりが有効。また、継続性を上げるために「ぼんやりした不満や困り事」を発信できるような双方向型の取組を考えることが望ましい。

④福祉の意識に関すること：27件

- ・ 小学生の頃、夏休みに手話講習があり、今でも会社の会議の際に少しですが、通訳をしています。今の子どもたちにも手話を広げると将来とても役に立つと思うので、夏休みや学校でしてほしいなと思います。
- ・ あまり関心のなかった分野なので、私自身の知識が不足していると感じています。これから勉強していきたいと思います。
- ・ 障害者に優しいまちづくりをお願いいたします。
- ・ 助け合うことは大切ですが、自分で切り開かないといけないことも伝えなければいけない。
- ・ 私も高齢者であるが、現役で働いているため、福祉関係活動等に関する機会がなかったことに、今回のアンケートで気づきました。今後は、もう少し情報収集に心掛けたいと感じました。

⑤地域活動、近所づきあい、見守りに関すること：26件

- ・ 最近自然災害が増えてきているので近隣とのコミュニケーションを取り、助け合えるまちになってほしいです。
- ・ 古くからの住民の社会と新しく市民となった社会との壁がある。そのため自治会への参加が表面的なものとなっている面がある。
- ・ 自治会が地域に長く住んでいる世帯を主体にして構成されており、共働きの子育て世代にとっては、接点が少ないため、なかなか活動に関われないのが現状である。反面、子どもを中心としたコミュニティ(消防少年団、学校、都立公園のイベント等)で地域と関わる機会が多々あるので、引き続き積極的に活動していきたい。
- ・ 大國魂神社のお祭りに子どもから高齢者まで参加しているのを見て、府中市は地域の交流が自然とできている市なのだと思います。

⑥情報の入手に関すること：21件

- ・ 情報をどのように得たいか、新聞を取っていない家庭も多くなった中で最大の問題だと思います。
- ・ 転入してまだ日が浅く、どこで情報を入手できるのか、どこに何が、何ができるのか等、分からないので活発な情報発信をお願いしたい。
- ・ 福祉サービス、健康づくり、ボランティア活動等の情報が少なくどのような内容か、どのような活動をしているのか分からない。自治会に入ってもよく分かりません。

⑦交通機関に関すること：20件

- ・ ちゅうバスの運行時間をもう少し遅くまで伸ばしてほしい。終了するのが早すぎて必要な時にあまり使えず不便さを感じる。
- ・ 交通手段がちゅうバスに限られてしまうためもう少しバスの本数を増やしていただきたい。
- ・ 車を持っていない方、自転車に乗られない方が移動しやすいようにちゅうバスの本数が増えると良いと思います。特に通学のために、早朝、夜の便があると良い、本数が増えると高齢者の方も座れ、外出しやすいと思う。

⑧子育て支援に関すること：17件

- ・ 妊婦に対する支援が少し少ないような気がします。
- ・ 待機児童ゼロを目指してほしい。保育所はまだ足りません。
- ・ 近所に遊具があり、子どもが楽しめる公園が少なすぎます。もう少し遊べる公園があれば、より住みやすくなると思います。小さな子どもがいる世帯にとっては、とても大事な条件のひとつだと思います。

⑨相談窓口等に関すること：14件

- ・ 万が一、何か困ったことが起きた時に相談したらよい窓口が土日及び時間外も含めて集約されていると嬉しいです。
- ・ 公的な手続きは、その場所に行って紙を何十枚も書かなければならないことが多い。スマートフォン、パソコン等で完結できるような仕組みにすることで、共働きの家庭や主婦や時間がない人でも並ばずに時間をかけずに行うことができ、なおかつ資料の削減になるのでインターネットを使用した方が良いと思う。インターネットでも、その場所に行ってもできるという選択肢を与えた方が良いと思う。

⑩高齢者福祉、介護保険サービスに関すること：13件

- ・ 今までの家族や友人に対する介護支援は時間もかかるし手続等も大変。ケアマネジャーによっても対応が違う。市役所から丸投げ的に介護施設に廻してつき離されてしまう経験をしてきたのでとても心配しています。もう少し介護する側の立場を理解してほしい。
- ・ 高齢者は何段階もの健康状態があります。細やかな健康づくりプログラムがあれば良いなと思います。
- ・ 高齢者が増加するため高齢者の働き場所の確保と健康づくりを充実し、介護予防が必要と思われます。

⑪健康、医療に関すること：5件

- ・ 公園にシニアのトレーニングを手助けできる用具を設置していただいた。スポーツクラブの利用に市から補助があると嬉しい。エリアが設定されていると利用しづらいので近隣地区も含めた施設が望ましい。

⑫その他の要望、提案など：26件

- ・府中市に住むようになって約16年になります。今まで不便に感じたことはありませんが、定年まであと10年になり、そろそろ真剣に考えないといけない時期に来たと思っています。定年を迎えても経済的に不安なところが多々あるので、府中市に居住する者を優先的に府中市が“中心”となって第二の就職先を斡旋していただく等の方策を取っていただければと感じています。
- ・府中市は高齢者や子育て世代の支援は手厚いのですがもう少し若者の貧困についても考えてほしいです。

⑬その他（地域福祉及び福祉のまちづくり以外に関する意見等）：58件

1-2 調査結果からみた課題

(1) 地域における支え合いの促進

- ・近所づきあいが必要だと考えている人は約9割である（問1）。
- ・近所づきあいの現状は、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」が最も多い（問2）。
- ・近所づきあいのない理由は「普段つきあう機会がないから」が最も多く、次いで「知り合う機会がないから」が多い（問2-1）。
- ・「日常の見守りや声かけ」は、「近隣で手助けできること」及び「手助けしている又はしたこと」として最も多い。また、「手助けしてほしいこと」としても2番目に多い（問4）。
- ・地域による支え合いをより充実するためには必要なことは、「地域に関心を持ち、日ごろから近隣の人と関わりを持つよう心がけること」が最も多い（問8）。
- ・市が優先して取り組むべき福祉施策として、「地域住民同士の助け合いや支え合いの促進」は全14項目のうち5番目に多い（問29）。

※地域住民が地域に関心を持ち、地域における助け合い・支え合いを促進するための意識啓発、場づくり及び知り合うきっかけづくりなど、近所づきあい及び地域における支え合いを促進する方策が必要である。

(2) 地域活動やボランティア活動への参加促進

- ・地域活動・ボランティア活動に取り組んでいる人は、2割程度である（問5）。
- ・地域活動・ボランティア活動に取り組んでいない理由は「仕事・家事等で時間がない」が最も多く、次いで「きっかけがない」が多い（問5-1）。
- ・ボランティア活動に参加したいと思う条件としては、「活動時間や曜日を選べる」が最も多く、次いで「気軽に参加できる」、「身近なところで参加できる」が多い（問6）。
- ・活動の拠点として利用している施設は「文化センター」が最も多い（問7）。
- ・住んでいる地域の暮らしやすさについての設問では、「サークルやボランティア活動」は《満足》の割合が約2割と全10項目のうち最も満足度が低い（問28）。

※身近な地域で気軽に地域活動・ボランティア活動に取り組めるきっかけづくりや仕組みづくりを図る必要がある。

(3) 利用しやすい相談体制の整備

- ・悩みや困りごとについて、14.2%の人が相談できる人がいない(問10)。
- ・相談窓口を利用するにあたっての課題は、「どの相談窓口に行けばよいか分からない」が最も多く、次いで「相談しても悩みが解決するか分からない」、「相談窓口が開いている時間に行けない」と続いている。(問12(イ))。
- ・相談したいと思う形態は、「来所による相談」が最も多いが、年代によっては「メールによる相談」や「ライン等の無料通話アプリによる相談」の希望も多い(問13)。
- ・住んでいる地域の暮らしやすさについての設問では、「相談できる体制」は《満足》の割合が2割台と全10項目のうち2番目に満足度が低い(問28)。
- ・市が優先して取り組むべき福祉施策として、「相談支援体制や情報提供体制の充実」が全14項目のうち2番目に多い(問29)。

※多様な相談形態や休日や夜間も相談が可能な窓口の設置に向けた検討が必要である。また、複合的な悩みを抱えている人からの相談に対応し、支援する仕組みづくりを図る必要がある。

(4) 福祉に関する情報提供の充実

- ・福祉に関する情報の入手先は、「広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物」が最も多く、次いで「町内の回覧板」、「友人や知人から」と続いている(問16(ア))。
- ・情報入手の際に困っていることは、「どこで又はどうすれば情報が入手できるのか分からない」が最も多く、次いで「情報の内容が分かりにくい」、「ほしい情報が少ない」と続いている(問16(イ))。
- ・福祉に関する相談窓口の認知度は、「市役所の相談窓口」(65.1%)が最も高い。それ以外の認知度は、3割を超えていない(問12(ア))。
- ・福祉に係る用語の認知度のうち、「発達障害・学習障害」及び「若年性認知症」は、「内容まで知っている」が5割程度だが、「障害者差別解消法」及び「再犯防止推進法」は、1割程度である(問25)。
- ・市が優先して取り組むべき福祉施策として、「相談支援体制や情報提供体制の充実」が全14項目のうち2番目に多い(問29)。

※福祉に関する情報の充実や多様な手段による情報の提供を図る必要がある。また、利用しやすい相談体制の整備を図るとともに、相談窓口の周知を図る必要がある。

(5) 地域の防災体制の強化

- ・「災害時など非常時の安否確認や避難の手助け」は、「近隣で手助けしてほしいこと」として最も多く、「手助けできること」としても2番目に多い(問4)。
- ・地域活動・ボランティア活動の取組状況のうち、「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」は2番目に多い(問5)。
- ・災害時の不安や心配ごとは、「家族の所在、安否確認について」が最も多い(問21)。
- ・災害に備えて地域で取り組むとよいと思うものは、「物資の備蓄」が最も多く、次いで「地域住民同士の声かけや安否確認」、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」と続いている(問23)。
- ・住んでいる地域の暮らしやすさについての設問では、「地域の防災対策」は《満足》の割合が3割台で全10項目のうち3番目に満足度が低い(問28)。
- ・市が優先して取り組むべき福祉施策として、「日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」が全14項目のうち最も多い(問29)。
- ・地域福祉及び福祉のまちづくりに関する意見・要望(自由記述)では、災害時の避難所の増設や避難所運営、防災や避難に関する情報の提供など、防災に関することが最も多い(問30)。

※災害時などの非常時における近隣での手助けについて、「手助けしてほしいこと」及び「手助けできること」の両方の回答が多い。日ごろから非常時を意識した地域における関係づくりが重要であり、住民同士の声かけや安否確認など、地域において非常時に対する具体的な取組を促進する必要がある。

(6) 福祉のまちづくりの推進

- ・市の建築物、公共交通機関、情報案内等のバリアフリーについて、個別の項目の整備状況については、《整備されている》が5割を超えているものもあるが、まち全体のユニバーサルデザインは、《整備されている》が3割程度である。特に、補助犬と同伴の入出が配慮された店・レストラン、手話ができる職員の配置や音声ガイド、大きな文字、絵、複数の言語を用いた分かりやすい案内標示は《整備されている》が1割程度と低い(問17)。
- ・外出先での手助けの経験について、何もしたことがない人の割合は前回調査から減っている(問18)。
- ・心のバリアフリーを実現するために必要なことは、「学校で高齢者や障害等のある方とともに学習するなど、子どもたちから自然に接する環境で過ごすこと」が最も多く、次いで「広報誌、テレビ等を通じて、多くの人々が福祉に関する情報にふれる機会が増えること」が多い(問19)。
- ・福祉のまちづくりを実現するために、優先して取り組む必要があることとして、「高齢者、障害等のある方、乳幼児を連れた方が歩きやすい道路の整備」が最も多く、次いで「交通安全や防犯等、安全、安心に暮らすための体制整備」、「公共施設や公共交通機関のバリアフリー化・ユニバーサルデザインの推進」と続いている(問20)。

- ・市が優先して取り組むべき福祉施策として、「公共施設やインフラ等のバリアフリー化やユニバーサルデザインの推進」が全14項目のうち4番目に多い(問29)。
- ・地域福祉及び福祉のまちづくりに関する意見・要望(自由記述)では、通行しやすい道路の整備や、手話通訳の配置など、バリアフリーに関することが多い(問30)。

※市は福祉のまちづくりを推進するため、心のバリアフリー、情報のバリアフリー、制度のバリアフリー及び物理的なバリアフリーに取り組んできたが、今後も子どもたちからの福祉教育や福祉に関する情報に触れる機会を増やすことでの心のバリアフリー、わかりやすい案内標示や手話通訳の配置や音声ガイドなどによる情報のバリアフリー、障害物が取り除かれた歩道や道路などの物理的なバリアフリー等に取り組むことで、更なる福祉のまちづくりの推進が必要である。

第2章 他分野調査との共通設問の結果概要

(1) 近所づきあいの現状について

(一般市民調査(問2)、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(問45)、要支援・要介護認定者調査(問20)、障害等のある人への調査(問24)、子どもの育ちや発達に関する調査(問27))

- ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、要支援・要介護認定者調査(利用者)及び要支援・要介護認定者調査(未利用者)は、「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」が最も多く、一般市民調査、要支援・要介護認定者調査(施設入所者)、障害等のある人への調査、子どもの育ちや発達に関する調査は「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」が最も多くなっている。
- ・「個人的なことを相談し合える人がいる」の割合は、子どもの育ちや発達に関する調査で20.7%と最も高く、次いで要支援・要介護認定者調査(未利用者)で17.0%、要支援・要介護認定者調査(利用者)で15.6%と続いている。

図表 近所づきあいの現状(全体)

								(%)	
			個人的なことを相談し合える人がいる	さしさわりのないことなら、話せる人がいる	道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる	あいさつや会話は無いが、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる	全く交流はなく、近隣に住む人を知らない	無回答	
地域福祉分野	一般市民調査	(n=1,380)	9.3	33.5	43.6	5.9	7.0	0.8	
高齢者福祉分野	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(n=2,571)	13.0	42.1	34.1	4.9	3.2	2.8	
	要支援・要介護認定者調査	利用者	(n=1,223)	15.6	35.3	32.1	6.6	5.0	5.4
		施設入所者	(n=361)	6.9	21.6	23.3	10.5	11.6	26.0
	未利用者	(n=418)	17.0	43.8	24.2	5.0	4.3	5.7	
障害者福祉分野	障害等のある人への調査	(n=1,419)	7.6	19.5	34.9	11.6	12.4	14.0	
	子どもの育ちや発達に関する調査	(n=651)	20.7	30.4	34.5	8.0	4.9	1.5	

(2) 近隣で手助けできること、地域で頼まれたらできることについて

(近隣で手助けできること：一般市民調査(問4)、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(問47)
地域で頼まれたらできること：障害等のある人への調査(問26))

- ・近隣で手助けできることは、一般市民調査では、「日常の見守りや声かけ」(61.0%)が最も多く、次いで「災害時など非常時の安否確認や避難の手助け」(52.3%)、「話し相手になること」(37.0%)と続いている。介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、「日ごろの安否確認」(34.5%)が最も多く、次いで「ちょっとした買い物」(20.3%)、「災害時の手助け」(15.9%)と続いている。
- ・地域で頼まれたらできることについて、「できる」の割合は、障害等のある人の調査では、「安否確認の声かけ」(52.3%)が最も多く、次いで「具合がよくないときに、病院等に連絡する」(43.0%)、「ちょっとした買い物やゴミ出し」(40.3%)と続いている。

図表 近隣で手助けできること(全体：複数回答)

								(%)
			日常の見守りや声かけ	話し相手になること	悩みごと、心配ごとの相談にのること	ちょっとした家事(買い物、ゴミ出しなど)	掃除、洗濯、食事の用意の手伝い	短時間の子どもの預かり
地域福祉分野	一般市民調査	(n=1,380)	61.0	37.0	20.9	23.8	7.5	12.9
			保育園・幼稚園などの送迎	外出や通院時の付き添い	病気のときの看病	災害時など非常時の安否確認や避難の手助け	無回答	
地域福祉分野	一般市民調査	(n=1,380)	9.3	9.5	4.4	52.3	19.6	

図表 近隣で手助けできること(全体：複数回答)

								(%)
			日ごろの安否確認	趣味など世間話の相手	介護などの相談相手	ちょっとした買い物	ゴミ出しなどの家庭支援	電球交換などの簡単な作業
高齢者福祉分野	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(n=2,571)	34.5	14.5	4.9	20.3	10.6	8.8
			炊事、洗濯、掃除などの家事	介護が必要な家族などの預かり	外出の付添い	災害時の手助け	無回答	
高齢者福祉分野	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(n=2,571)	2.8	0.6	3.2	15.9	46.4	

図表 地域で頼まれたらできること（全体）
（「できる」の割合）

								(%)
			安否確認の 声かけ	話し相手や 相談相手	ちょっとした 買い物や ゴミ出し	食事や掃 除・洗濯の 手伝い	子どもの預 かり	通院の送迎 や外出の手 助け
障害者福 祉分野	障害等のある人への 調査	(n=1,419)	52.3	38.7	40.3	23.2	15.9	19.7
			具合がよく ないとき に、病院等 に連絡する	災害時避難 の手助けの 準備				
障害者福 祉分野	障害等のある人への 調査	(n=1,419)	43.0	30.6				

（3）近隣で手助けしてほしいこと、地域で頼みたいことについて

（近隣で手助けしてほしいこと：一般市民調査（問4）、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（問47）
地域で頼みたいこと：障害等のある人への調査（問26））

- ・近隣で手助けしてほしいことは、一般市民調査では、「災害時など非常時の安否確認や避難の手助け」（34.5%）が最も多く、次いで「日常の見守りや声かけ」（19.6%）「話し相手になること」（8.7%）と続いている。介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、「災害時の手助け」（23.6%）が最も多く、次いで「日ごろの安否確認」（20.6%）、「ちょっとした買い物」（14.7%）と続いている。
- ・地域で頼みたいことについて、「頼みたい」の割合は、障害等のある人への調査では、「安否確認の声かけ」（53.8%）が最も多く、次いで「災害時避難の手助けの準備」（42.6%）、「具合がよくないときに、病院等に連絡する」（41.6%）と続いている。

図表 近隣で手助けしてほしいこと（全体：複数回答）

								(%)
			日常の見守 りや声かけ	話し相手に なること	悩みごと、 心配ごとの 相談にのる こと	ちょっとした 家事（買 い物、ごみ 出しなど）	掃除、洗 濯、食事の 用意の手伝 い	短時間の子 どもの預か り
地域福祉 分野	一般市民調査	(n=1,380)	19.6	8.7	6.6	5.8	3.5	6.4
			保育園・幼 稚園などの 送迎	外出や通院 時の付き添 い	病気のとき の看病	災害時など 非常時の安 否確認や避 難の手助け	無回答	
地域福祉 分野	一般市民調査	(n=1,380)	3.8	3.0	3.8	34.5	53.0	

図表 近隣で手助けしてほしいこと（全体：複数回答）

(%)

			日ごろの安否確認	趣味など世間話の相手	介護などの相談相手	ちょっとした買い物	ごみ出しなどの家庭支援	電球交換などの簡単な作業
高齢者福祉分野	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(n=2,571)	20.6	4.7	6.1	14.7	6.2	8.3

			炊事、洗濯、掃除などの家事	介護が必要な家族などの預かり	外出の付添い	災害時の手助け	無回答
高齢者福祉分野	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(n=2,571)	5.6	0.8	3.6	23.6	52.7

図表 地域で頼みたいこと（全体）
（「頼みたい」の割合）

(%)

			安否確認の声かけ	話し相手や相談相手	ちょっとした買い物やゴミ出し	食事や掃除・洗濯の手伝い	子どもの預かり	通院の送迎や外出の手助け
障害者福祉分野	障害等のある人への調査	(n=1,419)	53.8	29.9	23.6	18.3	10.3	24.1

			具合がよくないときに、病院等に連絡する	災害時避難の手助けの準備
障害者福祉分野	障害等のある人への調査	(n=1,419)	41.6	42.6

(4) 悩みや困りごとを相談できる人の有無について

(一般市民調査(問10)、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(問61)、障害等のある人への調査(問12)、子どもの育ちや発達に関する調査(問28))

- ・「いる」の割合は、すべての調査で8割以上となっているが、特に介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は92.8%と高くなっている。

図表 悩みや困りごとを相談できる人の有無 (全体) (%)

			いる	いない	無回答
地域福祉分野	一般市民調査	(n=1,380)	83.3	14.2	2.5
高齢者福祉分野	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(n=2,571)	92.8	2.3	4.9
障害者福祉分野	障害等のある人への調査	(n=1,419)	84.5	11.5	4.0
	子どもの育ちや発達に関する調査	(n=651)	87.7	10.8	1.5

(5) 認知症に対するイメージについて

(一般市民調査(問26)、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(問37))

- ・一般市民調査は、「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」が38.6%で最も多く、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」が36.5%で最も多くなっている。
- ・「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」の割合は、一般市民調査は38.6%、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は23.5%と15ポイントの差がある。

図表 認知症に対するイメージ (全体) (%)

			認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる	認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける	認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用が必要になる	認知症になると、暴言、暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる	認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう	無回答
地域福祉分野	一般市民調査	(n=1,380)	6.2	36.6	38.6	4.0	9.0	5.6
高齢者福祉分野	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(n=2,571)	11.8	36.5	23.5	3.6	12.2	12.3

資料編

府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画策定のための調査

市民の皆さまには日ごろから市政発展のため、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

市は、平成27年度を初年度とする「地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画」において「みんなでつくる、『共に生きるまち』」を理念とし、様々な地域福祉及び福祉のまちづくりに係る取組を進めています。

このたび、令和3年度から令和8年度までの計画を新たに策定するに当たり、市民の皆様の地域福祉及び福祉のまちづくりに対するご意見を伺い、新しい計画策定の参考とすることを目的として「府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画策定のための調査」を実施することとしました。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

令和元年10月 府中市

回答に当たってのお願い

1. **封筒のあて名ご本人**がご回答ください。調査票の設問中の「あなた」とは、封筒のあて名の方を指します。
2. 何らかの理由でご本人が記入できない場合には、ご本人の意思を反映してご家族や周りの方が代わりに記入してください。
3. 回答は、濃い鉛筆又は黒のボールペンで記入してください。
4. 回答は、あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。○の数は、それぞれの設問の指示に従ってください。また、「3つまで○」など、○の数が指定されている設問は、あなたの考えに近いものや優先したいものを選んでご回答ください。
5. の場合は回答内容等を記入してください。
6. 「その他」に○印をつけた場合は、[] 内に内容を具体的に記入してください。
7. 調査票、返信用封筒に住所、氏名を記入する必要はありません。

記入を終えた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、

11月11日(月)までに郵便ポストに投函してください。切手は不要です。

記入に当たって不明な点がございましたら、次までお問い合わせください。

【問合せ先】

府中市福祉保健部地域福祉推進課

TEL 042-335-4161

FAX 042-335-7802

E-mail : tiikifuku01@city.fuchu.tokyo.jp

対象者の抽出方法・個人情報の取扱い

この調査は、令和元年10月1日時点において、府中市にお住まいの18歳以上の方から無作為に抽出した3,000人の方を対象としています。

ご回答いただいた内容はすべて統計的に処理し、個人が特定されることはありません。また、本調査の目的以外に使用することはありません。

現行の府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画について

現行の地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画は、中央図書館や市のホームページでご覧いただけます。

府中市ホームページ (<http://www.city.fuchu.tokyo.jp/>)

行政情報のタブ ⇒ 施策・計画・審議会・協議会 ⇒

施策・計画 ⇒ 健康・福祉分野 ⇒ 府中市福祉計画 ⇒

府中市福祉計画 みんなでつくる、みんなの福祉 ⇒

府中市福祉計画 地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画
(第2編 地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画)

はじめに、あなたご自身のことをおたずねします

F 1 あなたの性別は次のうちどれですか。(1つに〇)

* 戸籍上の区別とは別にご自身の主観によりご記入ください。

(N=1,380)

1. 男性 44.1% 2. 女性 54.1% 無回答 1.7%

F 2 あなたの年齢は次のうちどれですか。(1つに〇)

* 令和元年10月1日現在の年齢でお答えください。

(N=1,380)

1. 18~19歳 0.8% 5. 35~39歳 7.2% 9. 55~59歳 10.2% 13. 75~79歳 8.1%
 2. 20~24歳 2.9% 6. 40~44歳 9.2% 10. 60~64歳 8.3% 14. 80~84歳 3.8%
 3. 25~29歳 3.8% 7. 45~49歳 10.9% 11. 65~69歳 8.0% 15. 85~89歳 1.6%
 4. 30~34歳 5.3% 8. 50~54歳 9.9% 12. 70~74歳 9.6% 16. 90歳以上 0.0%
 無回答 0.2%

F 3 あなたのご職業は次のうちどれですか。(1つに〇)

(N=1,380)

F 3-1 ← { 1. 自営業(家族従業の場合含む)・自由業 7.7% 4. 学生 → F 3-1 へ進む 2.4%
 2. 正規の社員・職員・役員など 35.6% 5. 家事専業 17.0%
 3. 非正規の社員・職員(契約社員・ 6. 無職 } → F 4 へ進む 16.2%
 派遣・パート・アルバイト等) 19.4% 7. その他〔具体的に: 〕 1.2%
 無回答 0.6%

F 3-1 F 3で「1. 自営業(家族従業の場合含む)・自由業」～「4. 学生」と答えた方におたずねします。

あなたの主な通勤、通学先はどちらですか。(1つに〇)

(n=897)

1. 府中市内 28.5% 2. 府中市外 48.6% 3. 定まっていない 2.2% 無回答 20.6%

F 4 世帯についておたずねします。世帯の人数はあなたを含めて何人ですか。(1つに〇)

* 2世帯住宅は同居としてお答えください。

* 配偶者の親族を含めてお答えください。

(N=1,380)

1. 1人 → F 5へ進む 14.1% 4. 4人 } → F 4-1 へ進む 20.1%
 2. 2人 } 32.2% 5. 5人 } 5.6%
 3. 3人 } → F 4-1 へ進む 23.4% 6. 6人以上 } 2.5%
 無回答 2.2%

F 4-1 F 4で「2. 2人」～「6. 6人以上」と答えた方におたずねします。

あなたと同居している方はどなたですか。(いくつでも〇)

(n=1,156)

1. 配偶者(夫又は妻) 74.4% 4. 祖父、祖母 1.5%
 2. 子 51.0% 5. その他〔具体的に: 〕 7.7%
 3. 父、母 16.7% 無回答 3.5%

F 5 現在、あなた自身、もしくは同居している方の中に、次のような方はいますか。
(いくつでも○)

(N=1,380)

- | | | | |
|-------------------|-------|---------------------------|-------|
| 1. 乳児（1歳未満） | 2.6% | 6. 身体・知的・精神等の障害のある方及び難病など | |
| 2. 乳児を除く小学校入学前の幼児 | 9.3% | により、心や身体のはたらきに障害のある方 | 6.7% |
| 3. 小学生 | 12.2% | 7. 介護・介助を必要とする方 | 4.7% |
| 4. 中学生・高校生 | 10.4% | 8. いずれもない | 37.0% |
| 5. 65歳以上の方 | 30.1% | 無回答 | 3.7% |

F 6 あなたはどちらにお住まいですか 内に記入してください。

町 丁目

(N=1,380)

中央文化センター	17.8%	是政文化センター	7.8%
白糸台文化センター	10.9%	紅葉丘文化センター	8.4%
西府文化センター	8.6%	押立文化センター	4.3%
武蔵台文化センター	6.2%	四谷文化センター	5.0%
新町文化センター	9.9%	片町文化センター	9.5%
住吉文化センター	10.2%	無回答	1.3%

F 7 あなたは府中市にお住まいになってから何年になりますか。（1つに○）

(N=1,380)

- | | | | |
|---------------|------|----------------|-------|
| 1. 1年未満 | 3.5% | 5. 10年以上 20年未満 | 21.7% |
| 2. 1年以上 3年未満 | 5.2% | 6. 20年以上 30年未満 | 17.1% |
| 3. 3年以上 5年未満 | 6.4% | 7. 30年以上 | 36.7% |
| 4. 5年以上 10年未満 | 8.9% | 無回答 | 0.4% |

F 8 あなたのお住まいは、次のうちどれにあてはまりますか。（1つに○）

(N=1,380)

- | | | | |
|-----------------|-------|-----------------------------|------|
| 1. 持ち家の一戸建て | 47.2% | 5. 公的賃貸住宅（市営住宅、市民住宅、都営住宅など） | 4.2% |
| 2. 持ち家の集合住宅 | 25.1% | 6. 社宅・公務員住宅など | 2.1% |
| 3. 民間賃貸住宅（一戸建て） | 0.9% | 7. その他〔具体的に： 〕 | 0.4% |
| 4. 民間賃貸住宅（集合住宅） | 19.3% | 無回答 | 0.8% |

F 9 あなたのお住まいの地域には、自治会・町会等がありますか。（1つに○）

(N=1,380)

- | | | | | | | | |
|-----------|-------|-------|------|----------|-------|-----|------|
| 1. ある | 77.0% | 2. ない | 3.5% | 3. 分からない | 19.2% | 無回答 | 0.4% |
| →F 9-1へ進む | | 問1へ進む | | | | | |

F9-1 F9で「1. ある」と答えた方におたずねします。あなたは、自治会・町会等に加入していますか。（1つに○）

(n=1,062)

1. 加入している	→問1へ進む	74.4%
2. 加入していない	→F9-2へ進む	20.3%
3. 分からない	→問1へ進む	5.0%
無回答		0.3%

F9-2 F9で「2. 加入していない」と答えた方におたずねします。自治会・町会等に加入していない主な理由は何ですか。（3つまで○）

(n=216)

1. 人間関係などの関わりがわずらわしいから		18.1%
2. 地域のイベントなどの活動が大変そうだから		22.2%
3. 仕事や家事・育児・介護等で時間がないから		25.9%
4. 地域活動に興味がないから		4.2%
5. 加入することのメリットを感じないから		19.0%
6. どのような活動をしているのか分からないから		15.3%
7. 加入するきっかけがないから		35.6%
8. 加入方法が分からないから		16.2%
9. その他〔具体的に：	〕	21.3%
無回答		2.3%

日ごろのご近所づきあいについておたずねします

問1 あなたは近所づきあいを必要だと思えますか。(1つに○)

(N=1,380)

- | | | |
|----|------------------|-------|
| 1. | 必要だと思う | 40.0% |
| 2. | どちらかといえば必要だと思う | 48.4% |
| 3. | どちらかといえば必要だと思わない | 5.1% |
| 4. | 必要だと思わない | 2.1% |
| 5. | 分からない | 3.6% |
| | 無回答 | 0.7% |

問2 あなたは、近隣に住む人と、どの程度おつきあいしていますか。(1つに○)

(N=1,380)

- | | | | |
|----|--------------------------------|-------------|-------|
| 1. | 個人的なことを相談し合える人がいる | | 9.3% |
| 2. | さしさわりのないことなら、話せる人がいる | } → 問3へ進む | 33.5% |
| 3. | 道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる | | 43.6% |
| 4. | あいさつや会話は無いが、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる | } → 問2-1へ進む | 5.9% |
| 5. | 全く交流はなく、近隣に住む人を知らない | | 7.0% |
| | 無回答 | | 0.8% |

問2-1 問2で「4. あいさつや会話は無いが、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる」、「5. 全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」と答えた方におたずねします。近所づきあいを(ほぼ)しない主な理由は何ですか。(3つまで○)

(n=177)

- | | | |
|----|----------------------|-------|
| 1. | 普段つきあう機会がないから | 70.6% |
| 2. | 仕事や家事・育児等で忙しく時間がないから | 22.0% |
| 3. | 同世代の人が近くにいないから | 11.3% |
| 4. | 引っ越してきて間もないから | 12.4% |
| 5. | 気の合う人・話の合う人が近くにいないから | 5.1% |
| 6. | あまり関わりを持ちたくないから | 17.5% |
| 7. | 知り合う機会がないから | 53.7% |
| 8. | その他〔具体的に： 〕 | 3.4% |
| | 無回答 | 2.8% |

問3 あなたは、今後の近所づきあいについて、どのようにお考えですか。(1つに○)

(N=1,380)

- | | | |
|----|----------------|-------|
| 1. | 今よりも積極的につきあいたい | 10.7% |
| 2. | 現状程度のつきあいでよい | 81.4% |
| 3. | 今よりもつきあいを減らしたい | 0.7% |
| 4. | 今後もつきあいはしたくない | 1.9% |
| 5. | 分からない | 4.3% |
| | 無回答 | 1.0% |

地域における支え合いについておたずねします

- 問4 (ア) あなたは、近隣に高齢者や障害等のある方、子育てなどで困っている世帯があった場合、次のような手助けをすることができますか。(手助けできること)
- (イ) あなたは、次のような手助けをしている又はしたことがありますか。(手助けしている又はしたこと)
- (ウ) あなたは困っているときに、近隣の人に次のような手助けをしてほしいと思いますか。(手助けしてほしいこと)
- (1)～(10)の(ア)手助けできること、(イ)手助けしている又はしたこと、(ウ)手助けしてほしいことについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。

	(ア)	(イ)	(ウ)
	と手助けできること	又はしたことがあること 手助けしている	手助けしてほしいこと
(N=1,380)			
(1) 日常の見守りや声かけ	61.0%	19.1%	19.6%
(2) 話し相手になること	37.0%	14.9%	8.7%
(3) 悩みごと、心配ごとの相談にのること	20.9%	6.5%	6.6%
(4) ちょっとした家事(買い物、ごみ出しなど)	23.8%	3.8%	5.8%
(5) 掃除、洗濯、食事の用意の手伝い	7.5%	2.0%	3.5%
(6) 短時間の子どもの預かり	12.9%	4.7%	6.4%
(7) 保育園・幼稚園などの送迎	9.3%	3.0%	3.8%
(8) 外出や通院時の付き添い	9.5%	2.2%	3.0%
(9) 病気のときの看病	4.4%	1.0%	3.8%
(10) 災害時など非常時の安否確認や避難の手助け	52.3%	5.0%	34.5%
無回答	19.6%	70.9%	53.0%

地域活動やボランティア活動についておたずねします

問5 あなたは、次のような地域での活動やボランティアに取り組んでいますか。

(いくつでも○)

(N=1,380)

1. 子育て世帯や児童、青少年を支援する活動	}	3.8%
2. 高齢者を支援する活動		2.3%
3. 障害等のある方を支援する活動		1.5%
4. 交通安全や防犯など地域の安全を守る活動		3.6%
5. 非行や犯罪をした人を支援する活動		0.2%
6. 地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動	→問5-1 へ進む	5.3%
7. 国際交流に関する活動		0.9%
8. 防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動		7.3%
9. 介護予防運動など健康・保健のための活動		2.1%
10. 地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動		10.4%
11. 自分の技術や経験、学んだことを地域にいかす活動		3.3%
12. 取り組んでいるものはない →問5-2へ進む		71.4%
13. その他〔具体的に： 〕 →問5-1へ進む		0.5%
無回答		6.6%

問5-1 問5で「1. 子育て世帯や児童、青少年を支援する活動」～「11. 自分の技術や経験、学んだことを地域にいかす活動」、「13. その他」と答えた方におたずねします。あなたは、地域活動・ボランティア活動にどの程度取り組んでいますか。(1つに○)

(n=308)

1. 週3回程度取り組んでいる	}	5.2%
2. 週1回程度取り組んでいる		10.4%
3. 月1、2回程度取り組んでいる	→問6へ進む	20.8%
4. 年1、2回程度取り組んでいる		40.3%
無回答		23.4%

問5-2 問5で「12. 取り組んでいるものはない」と答えた方におたずねします。活動していない主な理由は何ですか。(3つまで○)

(n=981)

1. 興味のある活動がないから 5.4%	7. 体調がすぐれないから 11.1%
2. 活動に関する情報がないから 17.1%	8. 一緒に活動する仲間がいないから 9.1%
3. 経済的負担が大きいから 3.1%	9. 人間関係等がわずらわしいから 9.4%
4. メリットを感じないから 2.0%	10. 参加方法が分からないから 16.0%
5. きっかけがないから 31.8%	11. 特にない 9.7%
6. 仕事や勉強・家事・育児・介護等で時間がないから 52.8%	12. その他〔具体的に： 〕 4.2%
	無回答 0.4%

問6 あなたは、ボランティア活動について、どのような条件であれば、活動・参加したいと思いますか。（3つまで〇）

(N=1,380)

1. 活動情報の提供がある	15.8%	8. 身体的な負担が少ない	18.2%
2. 友人等と一緒に参加できる	9.6%	9. 活動経費が支給される	10.2%
3. 身近なところで活動できる	31.7%	10. 謝礼が出る	8.3%
4. 活動時間や曜日を選べる	33.7%	11. 家事・育児・介護への支援がある	3.3%
5. 気軽に参加できる	33.6%	12. 就労先の理解や協力が得られる	8.1%
6. 適切な指導者やリーダーがいる	11.2%	13. 特にな	16.7%
7. 特技や知識がいかせる	12.0%	14. その他〔具体的に： 〕	2.9%
		無回答	5.6%

問7 あなたが活動の拠点として利用している施設はどれですか。（いくつでも〇）

(N=1,380)

1. 文化センター	15.8%	8. 図書館	14.9%
2. 市民会館「ルミエール府中」	6.7%	9. 小学校・中学校	6.4%
3. 市民活動センター「プラッツ」	3.9%	10. 民間の施設〔具体的に： 〕	1.7%
4. ふれあい会館	0.9%	11. 個人宅	4.6%
5. 生涯学習センター	8.4%	12. 特にな	48.1%
6. 教育センター	0.4%	13. その他〔具体的に： 〕	5.6%
7. 国際交流サロン	0.3%	無回答	9.6%

問8 あなたが思う、地域における支え合いをより充実するため必要なことはどれですか。（3つまで〇）

(N=1,380)

1. 地域に関心を持ち、日ごろから近隣の人と関わりを持つよう心がけること	47.6%
2. 地域のお祭りや防災訓練など、地域で行われる行事等に参加をすること	30.7%
3. 自治会・町会等、シニアクラブ、わがまち支えあい協議会などによる支え合いの活動に参加すること	13.6%
4. 地域住民同士の見守りや声かけを行うこと	34.1%
5. 地域における交流活動を活発に行うこと	9.7%
6. 地域の人が気軽に集まる場所や、地域活動の拠点になる場所があること	29.9%
7. 特にな	14.9%
8. その他〔具体的に： 〕	3.0%
無回答	4.4%

日ごろのお悩みと相談についておたずねします

問9 あなたは、あるいはご家族は現在、日常生活においてどのような悩みや不安を感じていますか。（3つまで○）

(N=1,380)

1. 自分や家族の健康のこと	43.6%	8. 住まいに関すること	8.7%
2. 自分や家族の老後のこと	40.4%	9. 地域の治安のこと	7.0%
3. 生きがいに関すること	7.1%	10. 災害時の備えに関すること	25.7%
4. 子育てに関すること	13.6%	11. 差別や偏見、人権侵害に関すること	1.4%
5. 介護に関すること	12.3%	12. 特になし	15.4%
6. 経済的なこと	24.6%	13. その他〔具体的に： 〕	1.3%
7. 近隣との関係	2.8%	無回答	2.9%

問10 あなたは、悩みや困りごとを相談できる人がいますか。（1つに○）

(N=1,380)

1. いる →問10-1へ進む	83.3%	2. いない →問11へ進む	14.2%
		無回答	2.5%

問10-1 問10で「1. いる」と答えた方におたずねします。

どのような人・機関に相談をしていますか。（いくつでも○）

(n=1,150)

1. 家族や親族	86.8%	10. 子ども家庭支援センター	1.0%
2. 友人、知人	71.5%	11. 社会福祉協議会	0.6%
3. 近隣の人、自治会・町会等の人	4.4%	12. 地域福祉コーディネーター	0.3%
4. 民生委員・児童委員	0.6%	13. ボランティア団体・NPO法人	0.3%
5. 同じ悩みや問題を抱える人	1.7%	14. 保育所、幼稚園、学校の先生	3.0%
6. 行政の相談窓口*	1.8%	15. ケアマネジャーや福祉施設の関係者	3.8%
7. 地域包括支援センター	3.0%	16. かかりつけ医や保健師等医療関係者	8.9%
8. 地域生活支援センター	0.4%	17. その他〔具体的に： 〕	2.1%
9. 保健センター	0.8%	無回答	0.1%

* 行政の相談窓口は、市役所のほか、児童相談所、都の保健所等の窓口を示します。

問11 あなたは、地域の中で次のようなことで困っている世帯を見かけたり、相談を受けたことがありますか。（いくつでも○）

(N=1,380)

1. 子育てと親の介護に、同時に直面して困っている世帯	3.2%
2. 高齢者の親と、就労していない独身の中高年の子どもで構成されている世帯	3.3%
3. 高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯	5.0%
4. ごみが処分されていない世帯	2.9%
5. ひきこもり状態の人が、適切な支援に結び付いていない世帯	2.2%
6. 家族や地域との関わりがなく、社会的に孤立した世帯	2.3%
7. 特に見かけたことはない	73.7%
8. その他〔具体的に： 〕	2.5%
無回答	10.9%

問12 府中市に設置されている、福祉に関する相談窓口についておたずねします。

(ア) あなたがご存じの相談窓口はどれですか。(いくつでも○)

(N=1,380)

1. 市役所の相談窓口	65.1%	8. 子ども家庭支援センター「たち」 「しらとり」	26.4%
2. 民生委員・児童委員	25.0%	9. 地域子育て支援センター「はぐ」	2.4%
3. 地域包括支援センター	26.2%	10. 男女共同参画センター「フューラル」	7.2%
4. 権利擁護センターふちゅう	2.3%	11. 社会福祉協議会	15.5%
5. 子ども発達支援センター「あゆの子」	6.2%	12. 地域福祉コーディネーター	1.9%
(心身障害者福祉センター内)	6.2%	13. 市民活動センター「プラッツ」	18.8%
6. 保健センター	27.5%	14. 知っているものはない	14.6%
7. 地域生活支援センター「み～な」		無回答	2.4%
「あけぼの」「プラザ」「ふらっと」	7.5%		

(イ) 上記の相談窓口を利用するに当たっての主な課題はどれですか。(3つまで○)

(N=1,380)

1. どの相談窓口に行けばよいか分からない	28.3%	7. 相談員の言動によって不快な思いを するかもしれないと不安	7.6%
2. 相談窓口が遠い	5.3%	8. 人に打ち明けることに抵抗がある	10.3%
3. 相談窓口が開いている時間に行けない	14.1%	9. 相談しても悩みが解決するか分からない	21.6%
4. 相談の予約をすることが面倒	7.2%	10. 特にな	35.9%
5. 個人情報漏れないか不安	9.4%	11. その他〔具体的に：	1.4%
6. どのような人が相談員をしているか不安	12.8%	無回答	5.3%

問13 あなたは、公的機関に相談する際に、どのような形態であれば相談したいと思いますか。(3つまで○)

(N=1,380)

1. 来所による相談	40.7%	5. ライン等の無料通話アプリによる相談	15.9%
2. 相談員の訪問による相談	11.7%	6. 投書による相談	3.0%
3. 電話相談	30.2%	7. 特にな	24.1%
4. メールによる相談	22.5%	8. その他〔具体的に：	1.5%
		無回答	3.0%

問14 府中市には地域包括支援センターが11か所ありますが、あなたは、次の地域包括支援センターの役割や機能をご存じですか。(いくつでも○)

(N=1,380)

1. 高齢者の総合的な相談を行っている	34.3%
2. 介護予防の支援や相談を行っている	32.0%
3. 認知症に関する生活相談や財産管理の相談を行っている	15.0%
4. 成年後見制度の利用相談を行っている	8.0%
5. 高齢者虐待の早期発見や対応をしている	5.7%
6. 悪質な訪問販売・電話勧誘などの被害相談を行っている	8.0%
7. 地域のネットワークを活用し、高齢者の実態把握を行っている	9.9%
8. まったく知らなかった	54.6%
無回答	2.9%

問15 あなたは、次の権利擁護センターふちゅうの役割や機能をご存じですか。

(いくつでも○)

(N=1,380)

- | | |
|-------------------------------------------|-------|
| 1. 福祉サービスの利用や老いじたくに関する相談を受け、財産管理の支援を行っている | 8.0% |
| 2. 相続や権利侵害などの法律相談を行っている | 7.8% |
| 3. 成年後見制度の利用に関する相談と広報を行っている | 6.7% |
| 4. 成年後見人等の情報交換の場を提供している | 2.9% |
| 5. 権利擁護や支え合いの担い手を広げるために市民向けの講座を行っている | 5.3% |
| 6. まったく知らなかった | 82.0% |
| 無回答 | 3.8% |

問16 保育や子育て支援、高齢者や障害等のある方への福祉サービス、健康づくり、ボランティア活動等、府中市の福祉に関する情報についておたずねします。

(ア) あなたは、府中市の福祉に関する情報を、どこから入手していますか。(いくつでも○)

(N=1,380)

- | | |
|--------------------------------------------|-------|
| 1. 家族や知人から | 22.5% |
| 2. 行政等の相談窓口(市役所、行政事務所、社会福祉協議会、民生委員・児童委員など) | 12.0% |
| 3. 保育所、学校、医療機関、店舗など日ごろ通っている施設等の職員や配布物から | 11.5% |
| 4. 広報ふちゅうや市のパンフレットなどの印刷物 | 58.1% |
| 5. 町内の回覧板 | 24.1% |
| 6. テレビ(ケーブルテレビを含む)、ラジオ、新聞、雑誌等 | 4.1% |
| 7. 市のホームページ等のインターネットサイト | 19.0% |
| 8. フェイスブック・ツイッター等のSNS* | 2.7% |
| 9. 情報を得たことはない | 16.3% |
| 10. その他〔具体的に：〕 | 1.1% |
| 無回答 | 1.6% |

* SNS (ソーシャルネットワーキングサービス)

ネットワーク上のコミュニケーション機能を持ったサービス全般を指す。

(イ) 情報入手する際、特に困っていることはありますか。(3つまで○)

(N=1,380)

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1. ほしい情報が少ない | 12.0% |
| 2. 情報量が多すぎる(必要な情報を選びきれない) | 5.1% |
| 3. 情報の内容が分かりにくい | 16.6% |
| 4. 情報入手するための手段が少ない | 10.0% |
| 5. どこで又はどうすれば情報が入手できるのか分からない | 19.0% |
| 6. 視覚障害者や弱視者のための情報提供が不十分 | 0.4% |
| 7. 聴覚障害者のための情報提供が不十分 | 0.8% |
| 8. 外国人のための情報提供が不十分 | 1.2% |
| 9. 困ったことはない | 51.0% |
| 10. その他〔具体的に：〕 | 2.7% |
| 無回答 | 5.3% |

福祉のまちづくり*についておたずねします

問17 現在、府中市の建築物や公共交通機関、情報案内、公園や道路等について、障害等のある方や妊婦、乳幼児を連れた方、高齢者等が利用しやすいように整備されていると思いますか。(1)～(11)のそれぞれの項目について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。

(N=1,380)		整備されている	やや整備されている	あまり整備されていない	整備されていない	整備の必要を感じない	無回答
建築物	(1) 車いすの方や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路(段差をなくす、幅を広げる)	10.7%	47.7%	24.6%	7.3%	1.3%	8.3%
	(2) 公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター	21.1%	52.6%	14.3%	2.5%	1.1%	8.4%
	(3) 車いすの方、乳幼児を連れた方等誰もが使いやすいトイレ	13.7%	48.4%	22.7%	4.6%	1.1%	9.5%
道路・交通機関等	(4) 歩きやすいように、障害物(商品や看板、放置自転車、電柱等)が取り除かれた歩道や道路	6.4%	34.9%	34.0%	15.3%	1.2%	8.1%
	(5) 点字ブロックや視覚障害者用の信号機	10.1%	45.4%	28.0%	5.9%	1.3%	9.2%
	(6) 車いすやベビーカーで乗降しやすいノンステップバスやリフト付バス	13.1%	48.3%	21.3%	6.3%	1.1%	9.9%
	(7) 障害等のある方用の駐車場	11.2%	45.0%	26.3%	5.7%	1.4%	10.4%
情報案内等	(8) 大きな文字、絵、複数の言語を用いた誰もが分かりやすい案内標示	4.4%	30.0%	42.2%	10.5%	1.7%	11.2%
	(9) 手話のできる職員が配置されていたり、音声ガイドがある施設	1.7%	16.1%	46.1%	17.3%	2.8%	16.1%
	(10) 補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストラン等	1.5%	13.0%	43.9%	23.8%	2.9%	14.9%
全体	(11) (1)～(10)や公園、道路等を含むまち全体のユニバーサルデザイン*	3.8%	29.9%	38.8%	13.0%	2.2%	12.3%

*福祉のまちづくり

高齢者、障害者、子ども、外国人などを含めたすべての人がありのままに、自らの意思で暮らし、社会参加をし、自己実現を図ることができるような社会の実現に向け、ユニバーサルデザインの理念に立ったまちづくりを進めること。

*ユニバーサルデザイン

年齢、性別、国籍、個人の能力等にかかわらず、できるだけ多くの人々が利用できるよう生活環境その他の環境を作り上げること。

問18 あなたは、高齢者や障害等のある方、妊婦、乳幼児を連れた方などに、次のようなお手伝いをしたことがありますか。（いくつでも○）

(N=1,380)

1. 乗り物で席を譲った	82.2%
2. 荷物を持った	22.5%
3. 階段の上り下りや道路の横断、電車・バスの乗り降りに手を貸した	28.1%
4. 車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりするのを手伝った	30.8%
5. 道を教えた	45.7%
6. 扉を開けた	50.2%
7. 話しかけたり、声をかけたりした	24.2%
8. 車で送り迎えをする等、外出の手助けをした	4.6%
9. 何もしたことがない	7.8%
10. その他〔具体的に：	〕 1.0%
無回答	1.5%

問19 市民一人ひとりの理解と協力、いわゆる「心のバリアフリー」を実現していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで○）

(N=1,380)

1. 広報紙、テレビ等を通じて、多くの方が福祉に関する情報にふれる機会が増えること	43.8%
2. 地域の行事等により、市民が高齢者や障害等のある方と直接交流する機会が増えること	30.2%
3. 高齢者や障害等のある方などに対するボランティア活動に多くの方が参加するようになること	24.8%
4. 学校で高齢者や障害等のある方とともに学習するなど、子どもたちから自然に接する環境で過ごすこと	59.8%
5. 車いす体験をしたり、手話や介助方法等を覚えることのできる体験が活発に行われるようになること	30.4%
6. その他〔具体的に：	〕 4.3%
無回答	5.2%

問20 福祉のまちづくりを実現するために、優先的に取り組む必要があると思うことは何ですか。（3つまで○）

(N=1,380)

1. 高齢者、障害等のある方、乳幼児を連れた方が歩きやすい道路の整備	55.0%
2. 公共施設や公共交通機関のバリアフリー化・ユニバーサルデザインの推進	35.8%
3. 分かりやすく利用しやすい案内標示の設置等、情報提供の充実	29.6%
4. 憩いの場である公園・河川の整備	19.9%
5. 高齢者や障害等のある方が住みやすい住宅の整備	26.6%
6. 交通安全や防犯等、安全、安心に暮らすための体制整備	40.9%
7. 福祉のまちづくりに対する理解の促進	19.4%
8. 分からない	5.1%
9. その他〔具体的に：	〕 3.9%
無回答	1.6%

災害時の支え合いについておたずねします

問21 災害時、あなたが、特に不安や心配なことは何ですか。（3つまで〇）

(N=1,380)

1. 家族の所在、安否確認について	57.8%	8. 避難所生活でのプライバシー	29.1%
2. 家具の転倒	9.3%	9. 食糧や日用品などの生活物資の入手	40.6%
3. 家屋や外壁の強度	15.3%	10. 医療機関、診療、薬の入手	17.5%
4. 自身や家族の歩行に不安があること	6.7%	11. 精神的なストレス	22.1%
5. 避難所がはっきり分からないこと	13.0%	12. 特に不安や心配ことはない	1.7%
6. ペット（犬・猫など）の避難のこと	12.7%	13. その他〔具体的に： 〕	3.1%
7. 正確な情報の入手	36.4%	無回答	1.3%

問22 あなたが普段から災害時に備えていることはありますか。（いくつでも〇）

(N=1,380)

1. 家族で所在、安否確認方法を定める	32.3%	7. 食糧や日用品の備蓄	60.1%
2. 家具の転倒防止対策	31.4%	8. 災害時の情報入手手段の確認	14.2%
3. 家屋や外壁の耐震補強	6.4%	9. 災害時要援護者名簿*への登録	1.3%
4. 防災マップやハザードマップ等の確認	37.9%	10. 救急医療情報キット*の申込み	2.4%
5. 避難経路や避難場所の確認	24.2%	11. 特にない	14.0%
6. 地域の防災訓練への参加	8.5%	12. その他〔具体的に： 〕	0.7%
		無回答	2.1%

*災害時要援護者名簿

高齢者や障害のある方などで、災害発生時の状況把握や避難に支援を必要とする方（要援護者）を、地域の支え合いにより支援するために作成している名簿のこと。

名簿は、自治会や民生委員など地域の支援者に提供され、地域で支え合いの仕組みをつくり、災害発生時に地域の支援者の方、又はグループが要援護者の安否確認や避難を支援するために活用される。

*救急医療情報キット

救急時、災害時に必要な、「かかりつけ医療機関」、「服薬内容」、「持病」、「緊急連絡先」などの情報を記入した専用の用紙等を入れたキット（筒）のこと。

冷蔵庫の中で保管し、災害時に避難が必要な場合は支援者が冷蔵庫から取り出し、避難所に持って行く。また、救急時（119番出動）には、本人が持病などを説明することができない状態にある場合に、救急隊が冷蔵庫より取り出し、記載された情報を救急活動に役

問23 あなたが、災害に備えて地域で取り組むとよいと思うものはどのようなことですか。(いくつでも○)

(N=1,380)

1. 地域住民同士の声かけや安否確認	57.7%
2. 防災訓練の実施	30.0%
3. 地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成	43.7%
4. 地域内外の団体等との日ごろからの交流	12.7%
5. 物資の備蓄	57.8%
6. 商店や企業と災害時の協力体制をつくること	24.3%
7. 避難時に支援が必要な人を把握しておくこと	39.3%
8. 分からない	5.7%
9. その他〔具体的に：	〕 2.0%
無回答	2.0%

問24 災害時、地域で手助けが必要な方に、あなたができることは、どのようなことですか。(いくつでも○)

(N=1,380)

1. 避難所での支援活動	59.4%
2. 要援護者（高齢者、障害等のある方、乳幼児・子ども、妊産婦等）の安否確認	31.6%
3. 要援護者（高齢者、障害等のある方、乳幼児・子ども、妊産婦等）の避難誘導	29.4%
4. けが人の手当て	10.5%
5. 水や食糧の提供	14.3%
6. 協力することはむずかしい・できない	17.4%
7. その他〔具体的に：	〕 3.9%
無回答	3.3%

福祉に対する考え方についておたずねします

問25 あなたは、次のことをご存じですか。(1)～(6)のそれぞれの項目について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。

(N=1,380)	内容まで 知っている	言葉を聞いた ことがある	知らない	無回答
(1) 発達障害・学習障害*	52.0%	38.6%	6.6%	2.8%
(2) ヘルプマーク*	31.3%	30.0%	35.4%	3.3%
(3) 若年性認知症*	47.0%	41.7%	8.6%	2.8%
(4) 障害者差別解消法*	10.6%	31.2%	54.2%	4.0%
(5) 再犯防止推進法*	6.5%	40.6%	48.8%	4.1%
(6) 成年後見制度*	33.3%	41.7%	21.7%	3.3%

*発達障害・学習障害

発達障害は、脳の機能障害があり、それによって生活や学習に困難さを持つ障害のこと。
学習障害は、読み書き能力や計算力など算数機能に関する特異的な発達障害のひとつ。

*ヘルプマーク

内部障害や難病の方などへの配慮や手助けが必要なことを知らせるためのマークのこと。



*若年性認知症

18歳から64歳までに発症した認知症性疾患（アルツハイマー病、脳血管型、前頭側頭型、レビー小体型など）の総称のこと。

*障害者差別解消法

平成28年4月1日から施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」のこと。国の行政機関や地方公共団体と民間事業者に対して、障害を理由とする不当な差別的取扱いの禁止や障害者への合理的配慮の提供が規定されている。

*再犯防止推進法

平成28年12月14日に施行された「再犯の防止等の推進に関する法律」のこと。犯罪をした者等の円滑な社会復帰を促進することで、犯罪をした者等が再び犯罪をすることを防ぎ、安全で安心して暮らせる社会を実現することを目的とする。

*成年後見制度

認知症、知的障害、精神障害などによって物事を判断する能力が十分ではない方について、本人の権利を守る援助者（「成年後見人」等）を選ぶことで、本人を法的に支援する制度のこと。

問26 あなたは認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。最も近いと思うものをお答えください。(1つに〇)

(N=1,380)

- | | |
|-------------------------------------------------------------|-------|
| 1. 認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる | 6.2% |
| 2. 認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける | 36.6% |
| 3. 認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる | 38.6% |
| 4. 認知症になると、暴言、暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる | 4.0% |
| 5. 認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう | 9.0% |
| 無回答 | 5.6% |

問27 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。(1)～(8)について、あなたの考えに最も近いものに1つずつ〇をつけてください。

(N=1,380)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない	無回答
(1) 障害等のある方とない方が、地域社会の中できるとともに生きるのが当然の姿である	51.5%	32.4%	11.7%	1.8%	0.3%	2.3%
(2) 経済的困窮の問題は、本人だけでなく、社会全体の問題である	29.0%	32.8%	28.7%	5.7%	0.9%	2.8%
(3) 生活保護受給者に対する偏見や差別がある	12.2%	25.1%	36.2%	18.8%	4.9%	2.8%
(4) ひきこもりやニートは、本人や家族だけでなく、社会全体の問題である	19.8%	28.3%	34.6%	11.1%	3.4%	2.9%
(5) 児童や高齢者、障害等のある方への虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である	41.9%	39.5%	12.9%	2.2%	0.8%	2.8%
(6) DV*被害を防ぎ、被害者を支援するために、地域でのつながりが重要である	31.6%	38.9%	20.4%	4.5%	0.9%	3.7%
(7) ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である	28.0%	44.9%	19.3%	3.6%	0.9%	3.3%
(8) 地域づくりには、障害の有無に関わらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての地域住民と多様な主体が参画し、つながりながら取り組むことが重要である	38.7%	43.4%	12.5%	2.1%	0.4%	2.9%

*DV (ドメスティック・バイオレンス)

配偶者や恋人等親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力。身体的な暴力だけでなく、精神的、経済的、性的な暴力等あらゆる暴力が含まれる。

最後に府中市の福祉施策についておたずねします

問28 あなたが現在、お住まいの地域の暮らしやすさについて、どのように感じていますか。(1)～(10)のそれぞれの項目について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。

	満足している	どちらかといえば満足している	どちらでもない	どちらかといえば満足していない	満足していない	無回答
(N=1,380)						
(1) 近隣などとのつきあい	14.6%	41.7%	35.8%	4.1%	1.4%	2.4%
(2) 地域の交流	8.2%	29.9%	50.9%	5.7%	1.8%	3.5%
(3) 自治会・町会等の活動	7.7%	26.2%	53.8%	5.5%	3.6%	3.3%
(4) サークルやボランティアの活動	4.6%	14.5%	68.1%	5.2%	2.9%	4.7%
(5) 地域の防災対策	5.1%	27.0%	51.5%	9.6%	3.0%	3.8%
(6) 保健福祉サービス	5.3%	27.5%	53.9%	6.6%	2.0%	4.8%
(7) 相談できる体制	3.9%	21.1%	59.3%	8.8%	2.5%	4.4%
(8) 買い物などの便利さ	28.0%	43.2%	11.9%	9.3%	4.7%	3.0%
(9) 道路や交通機関等の使いやすさ	22.4%	45.7%	15.9%	8.8%	4.3%	2.8%
(10) 公的な手続きの便利さ	9.8%	39.1%	34.7%	10.2%	3.3%	2.9%

問29 府中市ではどのような福祉施策に優先して取り組むべきだと思いますか。あなたの考えに近いものをお答えください。（5つまで〇）

(N=1,380)

1. 相談支援体制や情報提供体制の充実	40.7%
2. 権利擁護・虐待防止の推進	17.0%
3. 日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進	55.9%
4. 経済的に困っている人の自立に向けた支援	19.3%
5. 事業者への運営指導等による福祉サービスの質の確保に向けた取組	9.7%
6. 健康づくり・介護予防の推進	39.8%
7. 地域住民同士の助け合いや支え合いの促進	22.8%
8. 地域活動団体、ボランティア団体、NPO団体等の育成・支援	13.2%
9. 市民・関連団体・行政の連携と協働	11.5%
10. 互いに理解し助け合う福祉意識の醸成	21.9%
11. 市民の誰もが社会活動等へ参加・参画するための支援	17.1%
12. 公共施設やインフラ等のバリアフリー化やユニバーサルデザインの推進	33.3%
13. その他〔具体的に： 〕	2.7%
14. 分からない	6.6%
無回答	4.0%

問30 府中市の地域福祉及び福祉のまちづくりへのご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

——ご協力ありがとうございました——

府中市福祉計画
(地域福祉・福祉のまちづくり推進)
調査報告書

令和2年●月

発行：府中市 福祉保健部 地域福祉推進課
〒183-8703 府中市宮西町2丁目24番地
TEL 042-335-4161
FAX 042-335-7802
Email:tiikifuku01@city.fuchu.tokyo.jp